

# 太田城跡

市道 3175・3181・3182・3184 号線 (JT 跡地外周)  
道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

## 第 15 集

2021

茨城県常陸太田市教育委員会



お お た じ ょ う あ と  
**太田城跡**

市道 3175・3181・3182・3184 号線 (JT 跡地外周)  
道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

**第 15 集**

2 0 2 1

茨城県常陸太田市教育委員会



## 序

常陸太田市は、平成16年12月1日の1市1町2村の合併により、茨城県内第1位の面積を誇る市となりました。市域には300か所を超える埋蔵文化財包蔵地がみられ、県内第2位の規模を誇る前方後円墳の梵天山古墳をはじめ、全長100mを越える星神社古墳と高山塚古墳、久慈郡寺の推定地とされる長者屋敷遺跡など、貴重な遺跡が数多くあります。

当市では、これらの貴重な遺跡の保護・保存を図るとともに、その性格を明らかにすることによって活用を図ることができるようにすることを目的として、市内遺跡事業に取り組み、調査を進めてまいりました。

本報告書は、それらの調査の成果を報告することを目的として刊行するもので、令和元年に実施された太田城跡の発掘調査で得ることができた成果について盛り込みました。

当市では、総合計画のなかで「地域資源に磨きをかけた観光の振興」をかかげ、その中で歴史資源の保護と活用を進めております。文化財とその周辺環境も含めた総合的な文化財保護及び活用施策の充実を図り、歴史資源に磨きをかけ、地域の活性化に結びついていくものと考えております。本報告書が、そのような歴史資源の保護・活用の一助になるとともに、この成果が少しでも多くの方々のお役に立つことができれば幸いです。

最後になりましたが、調査から報告書の刊行までご指導・ご協力を賜りました皆様へ、厚くお礼申し上げます。

令和3年3月

常陸太田市教育委員会  
教育長 石川 八千代



# 例 言

1. 本書は、茨城県常陸太田市栄町 102 番地の 1 に所在する「太田城跡」埋蔵文化財調査報告書である。
2. 発掘調査は、市道 3175・3181・3182・3184 号線（JT 跡地外周）道路改良工事に伴うもので、常陸太田市より委託を受けた（株）東京航業研究所が、常陸太田市教育委員会文化課の指導の下に実施した。
3. 今次調査の現地調査及び整理・報告書作成期間は以下の通りである。

現 地 調 査 令和元年6月10日～同年9月30日  
整 理・報 告 書 作 成 令和2年6月11日～令和3年3月23日

#### 4. 調査体制

調査主体者	常陸太田市教育委員会	教育長	石川八千代
調査指導	常陸太田市教育委員会文化課		山口憲一
事務局	常陸太田市教育委員会文化課	課長	岩間勇二
	同 文化振興係	係長	小澤光徳
	同 文化振興係	主事	川崎祐子
	同 文化振興係	主事	田所由紀
	同 文化振興係	主事	萩谷友里恵

調査・整理担当 諸星 良一 現地調査・整理作業・報告書作成

5. 発掘調査及び整理・報告書作成に際しては、下記の関係機関・各位よりご指導・ご協力を賜った。ご芳名を記して謝意を表する次第である。

茨城県教育委員会、(有)立原建設、阿久津久、宮田 毅、宮田裕紀枝、小菅将夫、早田 勉、猪狩俊哉、石川太郎、長井光彦（敬称略、順不同）

6. 本書の作成は常陸太田市教育委員会文化課の指導の下、(株)東京航業研究所が行った。執筆は、第1章 第1節を山口憲一、第1章 第2節、第2章～第4章・第6章を諸星が執筆した。火山灰分析に関しては、(株)火山灰考古学研究所に委託し、第5章に分析結果を掲載した。

7. 発掘調査および整理作業参加者は次の通りである。

#### 発掘調査

井坂桂一、上野千枝子、遠藤知成、柏 勝、金沢信好、久野周也、栗原昌子、高久照美、野口 守、檜山 博、矢崎福司、横須賀陽三、和田美帆






#### 整理作業

石原好美、稲毛あゆみ、大川亜弓、大久保文子、岡田ヒサ子、小森暁生、斉藤雅司、酒井成男、高橋 昇、田上達恵、田口陽祐、田邊文章、竹内あい、中原はつね、中山幸恵、林 洋子、平野由美子、布施比登美、松坂靖子、松山純示、村井健三、村上京子、持田つる子、柳澤美樹、大和 修、山羽 孝、横溝晴枝（敬称略、順不同）

## 凡 例

1. 本遺跡の名称・調査区の略号はOTJを使用する。
2. 遺構は、堅穴建物跡、堅穴状遺構 = SI、溝跡、堀跡 = SD、井戸 = SE、土坑 = SK、土壌 = ST、性格不明遺構 = SX、焼土遺構 = SL、ピット = PIT で示す。一部遺構が重複した場合はアルファベット小文字を付し区別した。
3. 土層注記は、土層の粒径、由来、性質によって、ローム、火山灰、シルト質土、砂質土に区分し、新版標準土色帳を色相、明度、彩度を基準にして土層を定義し、粘性、しまり、および含有物とその直径、相対的含有量について記録した。必要に応じて、遺構内の土壌を採集し、火山灰分析を実施し、遺跡の自然史と火山灰編年額のデータを収集し、遺構、遺跡の相対的年代や性格の理解に努めた。
4. 遺構図のスケールは、平面図が1/60、竈、焼土範囲は1/30である。遺物図のスケールは、1/3を原則とするが、遺物のサイズや性格に応じて変更し、その都度スケールを付した。  
挿図の表現については、以下のスクリーントーンを使用した。

### 遺構

焼土  竈構築材  竈構築材（泥岩）  竈範囲  硬化面 

### 遺物

内面黒色処理  器面赤彩  断面が黒ベタ表現の土器は須恵器である。

### 遺物分布

土壌サンプル 

5. 遺構図の北方向は座標北を示し、土層断面図、断面図の水準の標高は、海拔標高である。
6. 遺構観察表の法量計算値で、( ) 内の数値は推定値、< > 内の数値は残存値を示した。
7. 調査記録、出土遺物は常陸太田市教育委員会で保管している。



# 目 次

序／例言／凡例／目次	
第1章 本調査に至る経緯と経過	1
第1節 本調査に至る経緯	1
第2節 本調査の経過と概要	1
第2章 遺跡の位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
(1) 常陸太田市の位置	3
(2) 太田城跡の地形・地質	3
第2節 歴史的環境	5
(1) 太田城跡について	5
(2) 遺跡分布について	5
(3) 過去の調査について	7
第3章 調査方法と基本層序	15
第1節 調査方法	15
第2節 基本層序	16
第4章 遺構と遺物	17
第1節 遺構と遺物の概要	17
第2節 縄文時代	17
(1) 遺構の概要	17
(2) 竪穴建物跡	17
第3節 弥生時代	19
(1) 遺構の概要	19
(2) 竪穴建物跡	19
第4節 古墳時代	27
(1) 遺構の概要	27
(2) 竪穴建物跡	27
第5節 奈良・平安時代	137
(1) 遺構の概要	137
(2) 竪穴建物跡	137
第6節 中世	160
(1) 遺構の概要	160
(2) 堀跡	160
(3) 櫓列	167
第7節 時期不明の遺構	168
(1) 遺構の概要	168
(2) 竪穴建物跡	168
(3) 井戸	172
(4) 溝跡	176
(5) 土坑	177
(6) 性格不明遺構	183
(7) ビット	184
第8節 調査区内・遺構内出土遺物	187
(1) 遺物の概要	187

第5章 火山灰分析	207
第1節 はじめに	207
第2節 調査地点の土層層序	207
(1) SD01 覆土断面	207
(2) SD02 覆土断面	207
(3) SD03 壁面	208
(4) SI09 覆土断面	208
(5) SD03 覆土断面	208
第3節 テフラ検出分析	209
(1) 分析試料と分析方法	209
(2) 分析結果	209
第4節 屈折率測定	211
(1) 測定試料と測定方法	211
(2) 測定結果	213
第5節 考察	213
(1) テフラ粒子の由来について	213
(2) テフラの産状から推定される遺構の層位や年代	214
第6節 まとめ	214
第6章 総括	217
第1節 地形・地質・立地・火山灰分析	217
(1) 地形・地質・立地	217
(2) 火山灰分析	217
第2節 各時代の概要	218
(1) 後期旧石器時代	218
(2) 縄文時代	218
(3) 弥生時代	218
(4) 古墳時代	218
(5) 奈良・平安時代	218
(6) 中世以降	219
第3節 遺物の概要	220
(1) 古銭	220
(2) 石製品	220
(3) 土器	220
Summary	221
引用・参考文献	223

## 挿図目次

- 第1図 太田城跡位置図  
第2図 太田城跡とその周辺の地形区分図・地質概  
念図（常陸太田市史編さん委員会1984に  
加筆）  
第3図 発掘調査位置図  
第4図 太田城図  
第5図 遺跡分布図  
第6図 全体図  
第7図 基本層序柱状模式図  
第8図 26号竪穴建物跡  
第9図 26号竪穴建物跡出土遺物  
第10図 18号竪穴建物跡  
第11図 18号竪穴建物跡出土遺物（1）  
第12図 18号竪穴建物跡出土遺物（2）  
第13図 18号竪穴建物跡出土遺物（3）  
第14図 42号竪穴建物跡  
第15図 42号竪穴建物跡出土遺物  
第16図 1・2号竪穴建物跡（1）  
第17図 1・2号竪穴建物跡（2）  
第18図 1号竪穴建物跡出土遺物  
第19図 2号竪穴建物跡出土遺物  
第20図 3・5号竪穴建物跡  
第21図 3号竪穴建物跡出土遺物  
第22図 5号竪穴建物跡出土遺物（1）  
第23図 5号竪穴建物跡出土遺物（2）  
第24図 4号竪穴建物跡  
第25図 4号竪穴建物跡出土遺物（1）  
第26図 4号竪穴建物跡出土遺物（2）  
第27図 6号竪穴建物跡  
第28図 6号竪穴建物跡出土遺物  
第29図 7号竪穴建物跡  
第30図 9・10号竪穴建物跡（1）  
第31図 9・10号竪穴建物跡（2）  
第32図 9号竪穴建物跡出土遺物（1）  
第33図 9号竪穴建物跡出土遺物（2）  
第34図 10号竪穴建物跡出土遺物  
第35図 11・14号竪穴建物跡  
第36図 11号竪穴建物跡出土遺物（1）  
第37図 11号竪穴建物跡出土遺物（2）  
第38図 14号竪穴建物跡出土遺物  
第39図 12号竪穴建物跡  
第40図 12号竪穴建物跡出土遺物  
第41図 15・16号竪穴建物跡（1）  
第42図 15・16号竪穴建物跡（2）  
第43図 15号竪穴建物跡出土遺物  
第44図 16号竪穴建物跡出土遺物（1）  
第45図 16号竪穴建物跡出土遺物（2）  
第46図 19号竪穴建物跡  
第47図 19号竪穴建物跡出土遺物  
第48図 20・31号竪穴建物跡（1）  
第49図 20・31号竪穴建物跡（2）  
第50図 20・31号竪穴建物跡（3）  
第51図 20号竪穴建物跡出土遺物  
第52図 31号竪穴建物跡出土遺物  
第53図 21・22号竪穴建物跡（1）  
第54図 21号竪穴建物跡（2）  
第55図 21号竪穴建物跡出土遺物  
第56図 22号竪穴建物跡出土遺物  
第57図 23号竪穴建物跡  
第58図 23号竪穴建物跡出土遺物  
第59図 24・25号竪穴建物跡  
第60図 24号竪穴建物跡出土遺物（1）  
第61図 24号竪穴建物跡出土遺物（2）  
第62図 25号竪穴建物跡出土遺物  
第63図 27・28・29号竪穴建物跡  
第64図 28号竪穴建物跡出土遺物  
第65図 29号竪穴建物跡出土遺物  
第66図 30・35号竪穴建物跡（1）  
第67図 30・35号竪穴建物跡（2）  
第68図 32号竪穴建物跡  
第69図 33号竪穴建物跡  
第70図 33号竪穴建物跡出土遺物  
第71図 36号竪穴建物跡  
第72図 36号竪穴建物跡出土遺物  
第73図 37号竪穴建物跡  
第74図 37号竪穴建物跡出土遺物  
第75図 38号竪穴建物跡（1）  
第76図 38号竪穴建物跡（2）  
第77図 38号竪穴建物跡出土遺物  
第78図 39号竪穴建物跡（1）

- 第79图 39号竖穴建物跡(2)  
第80图 39号竖穴建物跡出土遺物  
第81图 40号竖穴建物跡  
第82图 41号竖穴建物跡  
第83图 41号竖穴建物跡出土遺物(1)  
第84图 41号竖穴建物跡出土遺物(2)  
第85图 43号竖穴建物跡  
第86图 43号竖穴建物跡出土遺物  
第87图 44号竖穴建物跡  
第88图 44号竖穴建物跡出土遺物  
第89图 45号竖穴建物跡  
第90图 45号竖穴建物跡出土遺物  
第91图 48号竖穴建物跡  
第92图 48号竖穴建物跡出土遺物  
第93图 51号竖穴建物跡  
第94图 52号竖穴建物跡  
第95图 52号竖穴建物跡出土遺物  
第96图 58号竖穴建物跡  
第97图 58号竖穴建物跡出土遺物  
第98图 59号竖穴建物跡  
第99图 61・62号竖穴建物跡(1)  
第100图 61・62号竖穴建物跡(2)  
第101图 61号竖穴建物跡出土遺物  
第102图 64・67号竖穴建物跡  
第103图 64号竖穴建物跡出土遺物  
第104图 67号竖穴建物跡出土遺物  
第105图 66号竖穴建物跡出土遺物  
第106图 70号竖穴建物跡  
第107图 70号竖穴建物跡出土遺物  
第108图 71・73・74・75・84・85号竖穴建物跡(1)  
第109图 71・73・74・75・84・85号竖穴建物跡(2)  
第110图 71号竖穴建物跡出土遺物  
第111图 73号竖穴建物跡出土遺物(1)  
第112图 73号竖穴建物跡出土遺物(2)  
第113图 84号竖穴建物跡出土遺物  
第114图 72号竖穴建物跡(1)  
第115图 72号竖穴建物跡(2)  
第116图 72号竖穴建物跡出土遺物  
第117图 76・77号竖穴建物跡(1)  
第118图 76・77号竖穴建物跡(2)  
第119图 76号竖穴建物跡出土遺物  
第120图 77号竖穴建物跡出土遺物  
第121图 78号竖穴建物跡  
第122图 78号竖穴建物跡出土遺物  
第123图 79号竖穴建物跡  
第124图 80号竖穴建物跡  
第125图 80号竖穴建物跡出土遺物(1)  
第126图 80号竖穴建物跡出土遺物(2)  
第127图 81号竖穴建物跡(1)  
第128图 81号竖穴建物跡(2)  
第129图 81号竖穴建物跡(3)  
第130图 81号竖穴建物跡出土遺物  
第131图 86号竖穴建物跡  
第132图 87号竖穴建物跡(1)  
第133图 87号竖穴建物跡(2)  
第134图 87号竖穴建物跡出土遺物  
第135图 88号竖穴建物跡(1)  
第136图 88号竖穴建物跡(2)  
第137图 88号竖穴建物跡(3)  
第138图 88号竖穴建物跡出土遺物  
第139图 89号竖穴建物跡(1)  
第140图 89号竖穴建物跡(2)  
第141图 89号竖穴建物跡出土遺物(1)  
第142图 89号竖穴建物跡出土遺物(2)  
第143图 90号竖穴建物跡(1)  
第144图 90号竖穴建物跡(2)  
第145图 90号竖穴建物跡出土遺物  
第146图 8号竖穴建物跡  
第147图 8号竖穴建物跡出土遺物  
第148图 46号竖穴建物跡  
第149图 46号竖穴建物跡カマド  
第150图 46号竖穴建物跡出土遺物(1)  
第151图 46号竖穴建物跡出土遺物(2)  
第152图 47号竖穴建物跡  
第153图 47号竖穴建物跡出土遺物  
第154图 50号竖穴建物跡  
第155图 50号竖穴建物跡カマド  
第156图 50号竖穴建物跡出土遺物(1)  
第157图 50号竖穴建物跡出土遺物(2)  
第158图 53号竖穴建物跡  
第159图 53号竖穴建物跡出土遺物  
第160图 54号竖穴建物跡  
第161图 54号竖穴建物跡カマド  
第162图 54号竖穴建物跡出土遺物  
第163图 57号竖穴建物跡  
第164图 57号竖穴建物跡出土遺物(1)

- 第 165 図 57 号竪穴建物跡出土遺物 (2)  
第 166 図 60 号竪穴建物跡 (1)  
第 167 図 60 号竪穴建物跡 (2)  
第 168 図 60 号竪穴建物跡出土遺物 (1)  
第 169 図 60 号竪穴建物跡出土遺物 (2)  
第 170 図 68 号竪穴建物跡  
第 171 図 68 号竪穴建物跡出土遺物  
第 172 図 1 号塙土遺構  
第 173 図 1 号塙土遺構出土遺物  
第 174 図 1 号堀跡  
第 175 図 2 号堀跡 (1)  
第 176 図 2 号堀跡 (2)  
第 177 図 2 号堀跡出土遺物  
第 178 図 3 号堀跡 (1)  
第 179 図 3 号堀跡 (2)  
第 180 図 3 号堀跡出土遺物  
第 181 図 4 号堀跡  
第 182 図 1 号欄列  
第 183 図 17 号竪穴建物跡  
第 184 図 49 号竪穴建物跡  
第 185 図 55・56 号竪穴建物跡  
第 186 図 55 号竪穴建物跡出土遺物  
第 187 図 65 号竪穴建物跡  
第 188 図 69 号竪穴建物跡  
第 189 図 1・2 号井戸  
第 190 図 3・4 号井戸  
第 191 図 1 号井戸出土遺物  
第 192 図 4 号井戸出土遺物  
第 193 図 5 号溝跡  
第 194 図 1～7 号土坑  
第 195 図 8～12 号土坑  
第 196 図 13～16 号土坑  
第 197 図 17～24 号土坑  
第 198 図 3 号土坑出土遺物  
第 199 図 9 号土坑出土遺物  
第 200 図 10 号土坑出土遺物  
第 201 図 11 号土坑出土遺物  
第 202 図 13 号土坑出土遺物  
第 203 図 2 号性格不明遺構  
第 204 図 2 号性格不明遺構出土遺物  
第 205 図 遺構外出土遺物 (1)  
第 206 図 遺構外出土遺物 (2)  
第 207 図 遺構外出土遺物 (3)  
第 208 図 遺構外出土遺物 (4)  
第 209 図 遺構外出土遺物 (5)  
第 210 図 遺構外出土遺物 (6)  
第 211 図 遺構外出土遺物 (7)  
第 212 図 遺構外出土遺物 (8)  
第 213 図 遺構外出土遺物 (9)  
第 214 図 SD01 覆土 (一部) の土層柱状図  
第 215 図 SD02 覆土の土層柱状図  
第 216 図 SD03 壁面 (一部) の土層柱状図  
第 217 図 SI09 覆土の土層柱状図  
第 218 図 SD03 覆土の土層柱状図

## 表目次

第1表	遺跡一覽表	第42表	67号堅穴建物跡出土遺物觀察表
第2表	26号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第43表	70号堅穴建物跡出土遺物觀察表
第3表	18号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第44表	71号堅穴建物跡出土遺物觀察表
第4表	42号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第45表	73号堅穴建物跡出土遺物觀察表
第5表	1号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第46表	84号堅穴建物跡出土遺物觀察表
第6表	2号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第47表	72号堅穴建物跡出土遺物觀察表
第7表	3号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第48表	76号堅穴建物跡出土遺物觀察表
第8表	5号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第49表	77号堅穴建物跡出土遺物觀察表
第9表	4号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第50表	78号堅穴建物跡出土遺物觀察表
第10表	6号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第51表	80号堅穴建物跡出土遺物觀察表
第11表	9号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第52表	81号堅穴建物跡出土遺物觀察表
第12表	10号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第53表	87号堅穴建物跡出土遺物觀察表
第13表	11号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第54表	88号堅穴建物跡出土遺物觀察表
第14表	14号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第55表	89号堅穴建物跡出土遺物觀察表
第15表	12号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第56表	90号堅穴建物跡出土遺物觀察表
第16表	15号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第57表	8号堅穴建物跡出土遺物觀察表
第17表	16号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第58表	46号堅穴建物跡出土遺物觀察表
第18表	19号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第59表	47号堅穴建物跡出土遺物觀察表
第19表	20号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第60表	50号堅穴建物跡出土遺物觀察表
第20表	31号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第61表	53号堅穴建物跡出土遺物觀察表
第21表	21号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第62表	54号堅穴建物跡出土遺物觀察表
第22表	22号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第63表	57号堅穴建物跡出土遺物觀察表
第23表	23号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第64表	60号堅穴建物跡出土遺物觀察表
第24表	24号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第65表	68号堅穴建物跡出土遺物觀察表
第25表	25号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第66表	1号焼土遺構出土遺物觀察表
第26表	28号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第67表	2号堀跡跡出土遺物觀察表
第27表	29号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第68表	3号堀跡出土遺物觀察表
第28表	33号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第69表	55号堅穴建物跡出土遺物觀察表
第29表	36号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第70表	1号井戸出土遺物觀察表
第30表	37号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第71表	4号井戸出土遺物觀察表
第31表	38号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第72表	3号土坑出土遺物觀察表
第32表	39号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第73表	9号土坑出土遺物觀察表
第33表	41号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第74表	10号土坑出土遺物觀察表
第34表	43号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第75表	11号土坑出土遺物觀察表
第35表	44号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第76表	13号土坑出土遺物觀察表
第36表	45号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第77表	2号性格不明遺構遺物觀察表
第37表	48号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第78表	時期不明遺構計測表・ビット
第38表	52号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第79表	遺構外出土遺物觀察表
第39表	58号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第80表	テフラ分析結果
第40表	61号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第81表	屈折率測定結果
第41表	64号堅穴建物跡出土遺物觀察表	第82表	SD03屈折率測定値

## 写真図版目次

図版 1	調査区全景 (上空から)		SI30 遺物出土状況 (西より)
	調査区 (南上空から)	図版 7	SI31 完掘 (南より)
図版 2	SI01-02 完掘 (北東より)		SI33 遺物出土状況 (南より)
	SI01 完掘 (北東より)		SI36 カマド遺物出土状況 (南より)
	SI03-05 遺物出土状況 (東より)		SI38 断面 A(西より)
	SI03 遺物出土状況 (東より)		SI32 断面 A(西より)
	SI01 遺物出土状況 (北東より)		SI35 完掘 (南より)
	SI02 完掘 (南西より)		SI37 完掘 (南より)
	SI03 遺物出土状況 (東より)		SI39・43 断面 A(東より)
	SI04 完掘 (南より)	図版 8	SI40 遺構検出 (南より)
図版 3	SI05 遺物出土状況 (南より)		SI42 完掘 (東より)
	SI06 遺物出土状況 (南より)		SI45 完掘 (南より)
	SI08 断面・P9 断面 (南より)		SI47 完掘 (東より)
	SI09 かつ 遺物出土状況 (南より)		SI41 遺物出土状況 (北より)
	SI06 遺物出土状況 (南より)		SI44 焼土検出状況 (東より)
	SI07 完掘 (南より)		SI46 遺物出土状況 (西より)
	SI09 かつ 遺物出土状況 (南より)		SI48 完掘 (西より)
	SI09 遺物出土状況 (南より)	図版 9	SI49 完掘 (東より)
図版 4	SI10 かつ 完掘 (南南東より)		SI51 完掘 (北より)
	SI11 遺物出土状況 (南西より)		SI53 完掘 (北より)
	SI14・SK07 断面 (南より)		SI54 完掘 (南より)
	SI15 遺物出土状況 (北東より)		SI50 遺物出土状況 (北より)
	SI11 遺物出土状況 (南西より)		SI52 完掘 (北より)
	SI12 遺物出土状況 (北東より)		SI54 遺物出土状況 (2)(南より)
	SI15・PIT01 遺物出土状況 (東より)		SI55 完掘 (南より)
	SI16 完掘 (南東より)	図版 10	SI56 完掘 (南より)
図版 5	SI17・SK01 完掘 (南より)		SI58 完掘 (北より)
	SI18 遺物出土状況 (南南東より)		SI60 遺物出土状況 (東より)
	SI19 カマド堀方完掘 (南より)		SI64 完掘 (西より)
	SI21 遺物出土状況 (北東より)		SI57 完掘 (南より)
	SI18 遺物出土状況 (南東より)		SI59 完掘 (東より)
	SI18 遺物出土状況 (北西より)		SI61・62・63 断面 (東より)
	SI20 完掘 (南より)		SI65 完掘 (西より)
	SI22 遺物出土状況 (南より)	図版 11	SI66 断面 A(北より)
図版 6	SI23 遺物出土状況 (南より)		SI69 断面 B(北より)
	SI24 遺物出土状況 (南南東より)		SI70 完掘 (東より)
	SI27・遺物出土状況 (南より)		SI72 完掘 (北東より)
	SI29 完掘 (南より)		SI67 断面 (南より)
	SI24・25 断面 A(東より)		SI70 遺物出土状況 (南より)
	SI26 完掘 (南より)		SI71 遺物出土状況・SE04 完掘 (西より)
	SI28 遺物出土状況 (西より)		SI73・SL01 遺物出土状況 (南東より)

- 図版 12 SI73 遺物出土状況(南東より)  
SI75・84 完掘(西より)  
SI77 完掘(西より)  
SI79 完掘(南より)  
SI74 完掘(東より)  
SI76 完掘(南より)  
SI78 完掘(南より)  
SI80 遺物出土状況(南より)  
図版 13 SI81 かた' 検出(西より)  
SI86 完掘(東より)  
SI88 かた' 検出(南より)  
SI90 かた' 検出(南より)

- 図版 15 遺物図版(1)  
図版 16 遺物図版(2)  
図版 17 遺物図版(3)  
図版 18 遺物図版(4)  
図版 19 遺物図版(5)  
図版 20 遺物図版(6)  
図版 21 遺物図版(7)  
図版 22 遺物図版(8)  
図版 23 遺物図版(9)  
図版 24 遺物図版(10)  
図版 25 遺物図版(11)  
図版 26 遺物図版(12)  
図版 27 遺物図版(13)  
図版 28 遺物図版(14)  
図版 29 遺物図版(15)  
図版 30 遺物図版(16)  
図版 31 遺物図版(17)  
図版 32 遺物図版(18)  
図版 33 遺物図版(19)

- SI85 完掘(東より)  
SI87 断面 A(西より)  
SI89 かた' 検出(南より)  
SD02 遺構検出(東より)  
図版 14 SD02 遺物検出状況(東より)  
SD03 断面(東より)  
SD05 完掘(南西より)  
SK09 遺物検出(南西より)  
SD03 断面(東より)  
SD04 完掘(各方位より)  
SE02 完掘(西より)  
SK10 遺物検出(南より)

- 図版 34 遺物図版(20)  
図版 35 遺物図版(21)  
図版 36 遺物図版(22)  
図版 37 遺物図版(23)  
図版 38 遺物図版(24)  
図版 39 遺物図版(25)  
図版 40 遺物図版(26)  
図版 41 遺物図版(27)  
図版 42 遺物図版(28)  
図版 43 遺物図版(29)  
図版 44 遺物図版(30)  
図版 45 遺物図版(31)  
図版 46 遺物図版(32)  
図版 47 遺物図版(33)  
図版 48 遺物図版(34)  
図版 49 遺物図版(35)  
図版 50 遺物図版(36)  
図版 51 遺物図版(37)



# 第1章 本調査に至る経緯と経過

## 第1節 本調査に至る経緯

常陸太田市では、平成29年9月に旧太田倉庫があった土地を日本たばこ産業株式会社より寄附を受けた。この土地に隣接する市道3175・3181・3182・3184号線は、住宅内を通る生活道路であり、近隣にある太田小学校へ通学する児童の通学路にもなっているが、一部現道幅が狭く、通行上支障をきたす状況にあったことから、現道拡幅による利便性の向上を目的とした改良工事が計画された。

当該区域は、かつて常陸佐竹氏が本拠をおいた太田城（茨城県遺跡地図番号08212129）が所在する場所であり、平成19年度と平成28年度に日本たばこ産業株式会社から依頼を受け、2度にわたる試掘調査を実施し、遺跡の存在を確認していることから、事業計画主体者である当市企画部企画課及び建設部都市計画課と、道路改良工事に伴う遺構並びに遺物包含層の取扱いについて、協議を行った結果、道路利用の安全面を鑑み、計画変更が不可能であることから、発掘調査を実施し、記録保存を行なうことで合意した。

これを受けて常陸太田市教育委員会では、栄町102番1地先の工事対象区域の内、2,800㎡以内を調査対象として発掘調査による記録保存を実施することとし、平成31年4月25日、(株)東京航業研究所と業務委託契約を締結。発掘調査を実施することとなった。

## 第2節 本調査の経過と概要

本調査は、令和元年6月10日より9月30日まで約3ヶ月間実施した。調査に先立ち調査担当者は、常陸太田市教育委員会と発掘調査に関する事前打ち合わせを実施し、調査に着手した。

6月10日、機材の搬入、および調査区北区の表土の掘削を開始した。降雨により午前で掘削を中止した。調査区北区・西区・南区の表土除去は6月20日までに終了した。

6月25日より、人力による調査区の清掃、遺構確認を北区から西区、南区の順番で実施し、ビニールシートで検出面を養生した。検出面の精査の結果、調査区南区は遺構が確認できなかったが、北区から西区で平安時代以前の竪穴建物跡などの遺構や遺物が多く確認されたため、北区の東端から反時計回りに遺構の調査を開始した。

7月3日、調査区北区端において、東西方向に広がる1号掘跡(SD01)の一部と思われる遺構が部分的に検出された。北区では、竪穴建物跡や他の遺構が多く検出されたため、順番に掘削、調査を継続し、7月17日より、北区の調査と並行して、遺構配置を確認していた西区北西の2号掘跡(SD02)の重機による掘削を開始した。同日には、隣接する常陸太田市立太田小学校の6年生の児童75名が教諭引率の元、遺跡の見学に訪れた。2号掘跡は18日まで掘削を行った後、人力による精査及び、分層、図面作成作業を実施した。

7月19日には、西区南西の3号掘跡(SD03)の検出面での遺構確認を行い、遺構配置を確認し重機による掘削の準備を行った。翌20日から、3号掘跡の重機による掘削を開始し、人力を併用しながら22日までに完掘し検出写真を撮影した。3号掘跡の調査は、27日の土層注記で終了した。

8月に入り、猛暑日が続いたが北区の遺構の調査を継続した。6日には2・3号堀跡の火山灰分析、地形、地理的分析のため、火山灰考古学研究所長の早田勉氏が来跡した。北区の調査は、竪穴建物跡の重複が著しかったため9月上旬まで時間を要した。

8月24日（土）には、現地説明会を開催した。当日は天気恵まれ200名以上の見学者が来跡し、発掘担当者たちによる出土遺物や遺構に関する説明を熱心に聞き入っていた。

調査区東区は、8月26日に重機を用いた掘削を実施し、30日に調査を終了した。東区北側では、1号堀跡の南側の掘方の一部を検出し、断面図、平面図、記録写真を作成した。また北側の南端では、これまで確認されていない東西に延びる4号堀跡（SD04）を検出したため、断面図、平面図、記録写真を作成した。

8月下旬からは、北区から順次西区の調査を実施し、堀跡以外の遺構の調査に着手した。西区はカクランの範囲が広いが、残りの調査区内で竪穴建物跡が重複して検出されたため、記録作業を実施しながら9月下旬まで掘削を行った。

9月25日にドローンによる景観撮影を実施した。9月下旬には、最後の竪穴建物跡の調査を実施しながら、埋め戻し作業、現場機材の片づけと撤去を実施した。

9月30日、ドローンによる景観撮影を実施し、重機による埋め戻し作業を終了し、プレハブ、仮設トイレの撤去を行い、現地を撤収した。

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

#### (1) 常陸太田市の位置

茨城県常陸太田市は、茨城県の北東部で県都水戸市から北に約20kmに位置している(第1図)。市制は、昭和29年7月に周辺の1町6村が合併して施行され、翌年には久慈郡世谷村、河内村が、さらに平成16年12月には久慈郡金砂郷町、水府村、里美村が編入し、現在に至っている。

常陸太田市の総面積は、371.99km<sup>2</sup>で茨城県内の自治体で最大の面積を有する南北40km、東西15kmの範囲で、現在の市役所の位置は北緯36度32分18秒、東経140度31分52秒である。市域は北部が福島県東白川郡矢祭町、北東は高萩市、東から南東は日立市、南部は那珂市、北西は久慈郡大子町、西から南西は常陸大宮市に接している。

現在の常陸太田市の人口は、47,586人(令和3年3月1日現在)である。

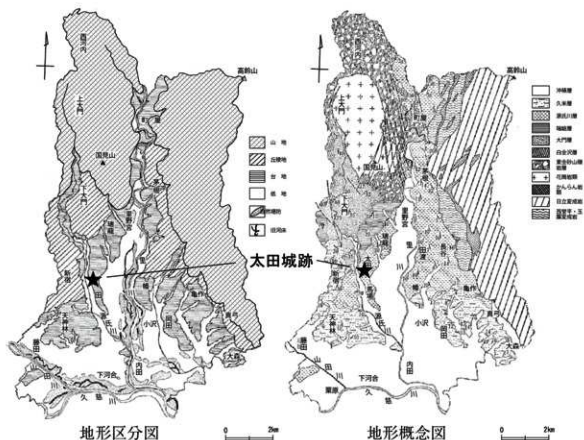
#### (2) 太田城跡の地形・地質

太田城跡(県遺跡地図番号08212129)は、南北最大長980m、東西最大幅510mに及ぶ広大な範囲であり、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世の各時代にわたる複合遺跡である。

遺跡の立地する地形の基盤層は、第三紀中新世中期の凝灰岩質頁岩、あるいは泥岩の源氏川層で下位は瑞竜層、上位は不整合に久米層が堆積している(第2図)。源氏川層の構成物は、基本的に堆積岩の泥岩で、薄青緑色凝灰岩や軽石質凝灰岩が含まれるが連続性はあまりなく、化石はあまり含まれない(常陸太田市史編さん委員会1984)。源氏川層より上位の久米層は、灰色から黄褐色の細粒砂と泥が混合した砂質泥岩や貝化石、珪藻化石からなる砂礫層である。これより上位の地層は、第四紀更新世の堆積物で、氷期と間氷期の気候変動による地形の浸食、風化の作用により堆積した地層や火山灰層などで構成されている遺跡の遺構確認面の一部では、ローム層が確認されているが、相対的に久米層より上位の地層であり、その年代的上限は不明であるが、台地の標高を考慮するとこのローム層には、約4万年前に降灰した赤城-鹿沼軽石から、始良丹沢火山灰、今市軽石などの指標火山灰が含まれていると思われるが、今回の火山灰分析以外に後期旧石器時代の調査事例同様に、火山灰層の分析事例に乏しくその詳細は不明である。後述の火山灰分析の結果から、北関東地方の榛名山や甲信地方北部から北関東地方の浅間山を供給源とする指標火山灰が同定されたため、今後の発掘調査においても当該地域の自然史の解明と遺跡と遺構の相対年代を判断するために、遺構の覆土と自然堆積層を対象とした火山灰分析が実施されることが望ましい。



第1図 太田城跡位置図



第2図 太田城跡とその周辺の地形区分図・地質概念図 (常陸太田市史編さん委員会1984に加筆)

## 第2節 歴史的環境

### (1) 太田城跡について

太田城跡は（県遺跡地図番号08212129）、阿武隈高地の国見山から続く中位砂礫段丘上で、西側は源氏川、東側は谷津川に挟まれ南北に細長く続く台地上に所在する。台地の標高は38mほどである（第3・4図）。

太田城の築城は、平安時代末期の天仁2年（1109）に藤原秀郷流の藤原通延によるものと推定されている。天承元年（1131）には、佐竹氏の3代隆義が天神林町の馬坂城から太田城に居城を移した。その後、佐竹氏は金砂山合戦（1180）や南北朝時代の戦乱、佐竹氏一族である山入与義との内乱（1407）の際には、一時的に城を明け渡したが、天正19年（1591）に20代義宣が水戸城に進出するまで、太田城を居城とした。その後、太田城は、義宣の父義重の居城となり「北城」とも呼ばれた。

佐竹義宣は、関ヶ原の合戦後の慶長7年（1602）に、豊臣秀頼の家臣で五大老の徳川家康から石高20万石で出羽国（現秋田県）に減転封の国替えを命ぜられたことにより水戸城から転居し、水戸城と共に太田城は接収された。

江戸時代になると、寶永4年（1707）に水戸藩家老中山備前守信敏が太田村内への屋敷構を命ぜられ太田城跡に屋敷を建設した（常陸太田市史編纂委員会1984）。当時この場所は、「太田御殿」とも呼ばれていたが、実際には中山備前守は、太田城跡の屋敷には居住せず鷹狩りの際の宿泊施設、休憩所として利用した。

文化元年（1804）に、中山備前守の知行替え後に、火災により屋敷が焼失した（常陸太田市史編纂委員会1984）。

天保2年（1831）三月に、九代藩主徳川齊昭により太田村と近隣村は、太田城再建のための「太田御殿並西御山田跡御普請御用人足」の動員令が発せられた。しかし、「太田御殿」の再建はすぐには開始されず、天保12年（1841）から翌年にかけて実施された。

天保8年（1837）、太田城の西側に隣接して郷校益習館が創設される。

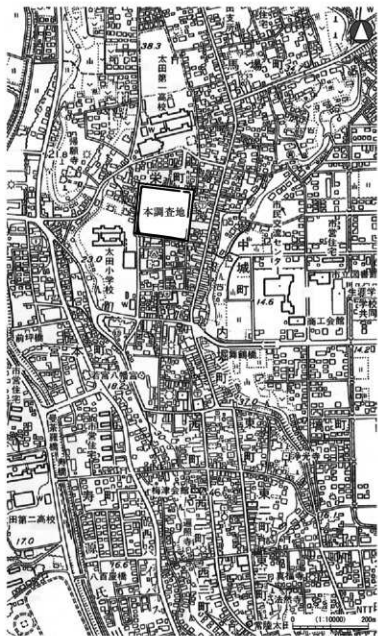
弘化2年（1844）には、付属施設である鐘樓の建設計画が進められ、同年12月までに完成して御殿内の諸施設が整備され、藩の宿泊施設として利用された（常陸太田市史編さん委員会1984）。

安政3年（1856）、郷校益習館が若八幡宮近くに移転し、太田郷校（文武館）と改称する。

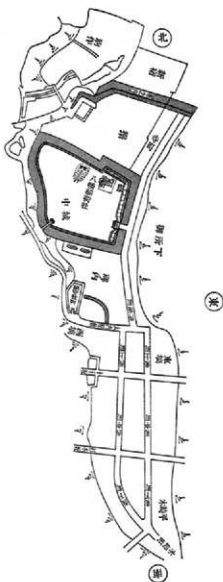
文久2年（1862）、幕末となり尊王攘夷運動が激しくなると、水戸藩の尊王攘夷派の人々の取り締まりのため「太田御殿」を本拠地として利用し活動した（常陸太田市史編さん委員会1984）。これ以後の太田城に関する記録は現状では確認されていない。

### (2) 遺跡分布について

太田城跡周辺の遺跡分布を概観すると、縄文時代から近世の各時代に属する遺跡が、太田城跡周辺の源氏川、谷津川、中江川流域の地形上に分布している（第5図、第1表）。時代別の遺跡分布の推移をみると、縄文時代から弥生時代が漸減し、古墳時代は爆発的に古墳や横穴墓が流域全体で



第3図 発掘調査位置図



出典) 弘化3年『太田村御検地戻附図』  
上原 謙  
第4図 太田城図  
(常陸太田市史編さん委員会1984)

構築されるようになり、古墳時代に太田城跡の周辺地域に他地からの権力者や社会集団が植民した可能性がある。奈良～平安時代になると、遺跡数は減少し、太田城が機能する中世には遺跡数が漸減し、館として小野館跡 (No 17)、今宮館跡 (No 14)、馬測館跡 (No 6)、幡館跡 (No 36)、城として小野崎城跡 (No 16)、馬坂城、久米城とその西城の竜貝城が構築される。

遺跡分布の河川と地形ごとのまとまりを各河川で概観すると、西側の源氏川では上流に、平安時代末の延長元年に創建されたとされる勝楽寺跡 (No 10) とその貞応2年 (1223) に創建された勝楽寺跡の子院正法院跡 (No 12)、右岸に永正12年 (1515) 創建されたと伝えられる極楽寺 (No 8) が分布する。やや下流の左岸には、古墳時代、奈良～平安時代の森後台遺跡 (No 7)、右岸には福寿台遺跡 (No 9) が分布する。

下流の右岸には、延寶5年(1677)に徳川光圀の尊母の供養のために創建されたNo.47の旧久昌寺、さらに西には水戸光圀の隠居所の西山御殿跡(No.46)が分布している。その他の右岸の遺跡は、古墳時代の陣馬・元太田山・山吹山・所化塚・三味堂・宮ヶ作横穴墓群(No.42・44・45・48・49・50)と太田山埴輪窯跡(No.43)などが集中して分布しており、さらに下流には縄文時代から奈良・平安時代までの集落遺跡である稲木遺跡(No.51)と稲木古墳群が分布している。

谷津川左岸には、中世の小野館跡(No.17)右岸には縄文時代から奈良平安時代の集落遺跡の馬場遺跡(No.3)と亀の子山古墳、中江川との合流点より下流に縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡の馬淵館跡(No.6)と古墳時代の馬場横穴(No.42)が分布する。

中江川流域は、上流から左岸には弥生時代から平安時代の元瑞龍遺跡(No.23)、古墳時代の瑞龍A・B横穴墓群(No.19・20)、縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ大集落遺跡の瑞龍遺跡(No.18)、小野崎道盛の築城とされる小野崎城(No.16)、古墳時代の白鷺古墳群と中世の今宮館跡(No.14)と古墳時代の白鷺横穴墓群(No.13)が分布しており、この地域にも古墳時代、中世の人々の生活の痕跡が多く残されている。

中江川と里川に挟まれた谷底平野には、奈良・平安時代の集落遺跡中井川遺跡(No.15)が分布している。

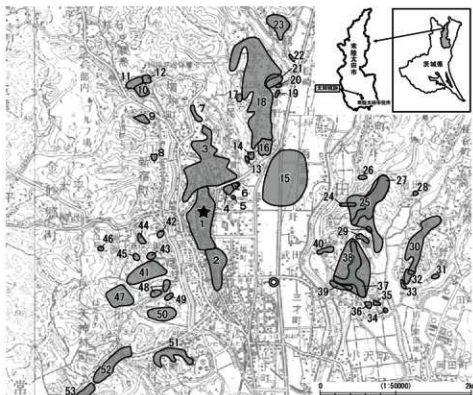
里川左岸は、上流から古墳時代の幡山北横穴墓群(No.26)、幡山古墳群・幡山西横穴墓群(No.24)、幡山東横穴墓群(No.29)、古墳時代～平安時代の幡台下遺跡(No.40)、幡台古墳群と縄文時代から中世に及ぶ集落の幡台遺跡(No.37)、古墳時代の幡バツケ横穴墓(No.39)、中世の幡館跡(No.36)、縄文時代の森東貝塚(No.35)と築崎貝塚(No.34)など古墳時代の遺跡が多く分布している。

さらに東側の茂宮川流域には、上流から右岸に縄文時代～平安時代までの集落の前田遺跡(No.28)、上流から古墳時代の高貫遺跡(No.30)、高貫古墳群(No.32)、高貫西横穴墓群(No.33)が分布し、さらに東側の高貫川右岸には高貫東横穴墓群(No.31)が分布し、古墳時代の遺跡の分布が集中している。

源氏川より西側の地域では、山田川流域に遺跡が多く分布している。上流から左岸には古墳時代の玉造横穴墓、弥生時代～平安時代の集落の中平遺跡、さらに下流には中世の竜見城と小野崎通種が築城した久米城、右岸では上流から岩手坪遺跡が古墳時代、馬ヶ尻遺跡が古墳時代～平安時代の集落で、下流の右岸には、古墳時代から平安時代の大平遺跡、奈良・平安時代の久米遺跡、縄文時代～中世の大集落遺跡である長者屋敷遺跡、古墳時代の十王下・十王台・宿町古墳がまとまって分布し、古墳時代の目久保内遺跡、中世の大里荒谷城跡、北宿古墳なども分布している。さらに、縄文時代～平安時代の集落の万空内遺跡、弥生時代～古墳時代の糠塚古墳・おひい蔵遺跡、弥生時代～平安時代の集落の前官遺跡、古墳時代の集落の宮崎前遺跡などが台地上に分布しており、遺跡の密集度が高い。やや東寄りには、天神林刑部丞正恒が築城の馬坂城が分布している。

### (3) 過去の調査について

平成19年(2007)に、土地所有者の日本たばこ産業不動産が所有地の有効活用のための開発を前提とした事業取り組みの申し出があったため、翌年に常陸太田市教育委員会により太田城の遺構



第5図 遺跡分布図

確認のための確認調査が実施された（第6図）。調査は、平成20年2月に8日間実施され、敷地内において20本のトレンチが設定され、掘削された。調査の結果、太田城の遺構が確認できたのは、合計7本のトレンチ内（9～14・18）で、北側の18トレンチと南側の9～14トレンチの合計2か所から堀跡が検出された。

北側では、調査区北側中央の18トレンチ内において、東西に延びる幅3.5m、深さ2.5mの薬研堀の堀跡が検出された。この堀跡の南側の検出面では、焼土層とピットが検出された。この堀跡について調査者担当者は、太田城の三郭と北郭を区画する堀跡であると推定している。

南側の堀跡は、9トレンチにおいて、南北方向に延びる堀跡が確認され、現地表面から深さ4.5m、10・11トレンチにおける遺構確認面での幅は9mを測る。この堀跡は、9トレンチから北に延びて、12トレンチ付近で西側に曲がり、13・14トレンチの位置する西方向に延びていることが確認された。この14トレンチの西側に、今回の発掘調査で検出された3号堀跡が位置している。この堀跡について調査者担当者は、太田城の本郭を区画する堀跡であると推定している。

平成29年（2017）に、土地所有者の日本たばこ産業から、所有地内での事業実施のための詳細な試掘調査実施の要望により、常陸太田市教育委員会により詳細な試掘調査が実施された。第二次試掘調査は、平成29年1月に3日間実施され、5本のトレンチが設定され掘削された。調査の結果、太田城の遺構が確認できたのは合計3本の北側トレンチ内（1～3）である。調査区北西のトレンチ①で遺構番号1と東よりのトレンチ②で遺構番号23において東西に延びる溝跡が検出され、これらは第一次試掘調査の18トレンチの堀跡の検出範囲を挟んで両側に位置している。これらより

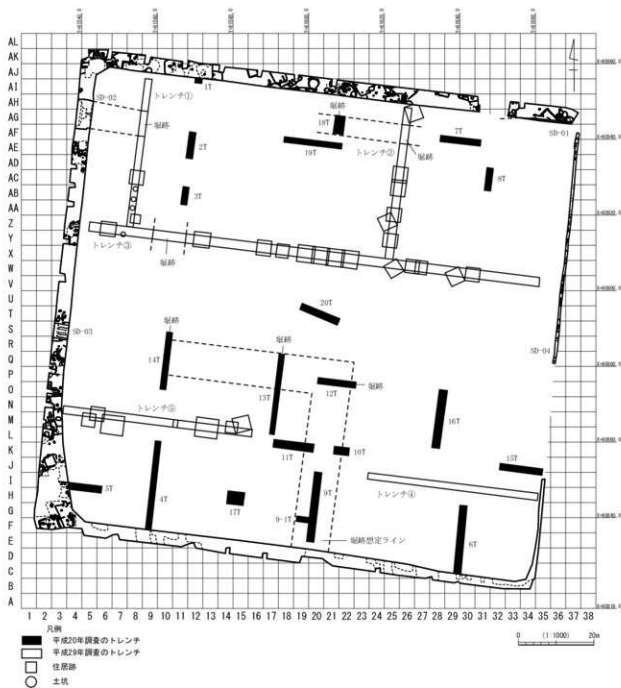


第1表 遺跡一覧表

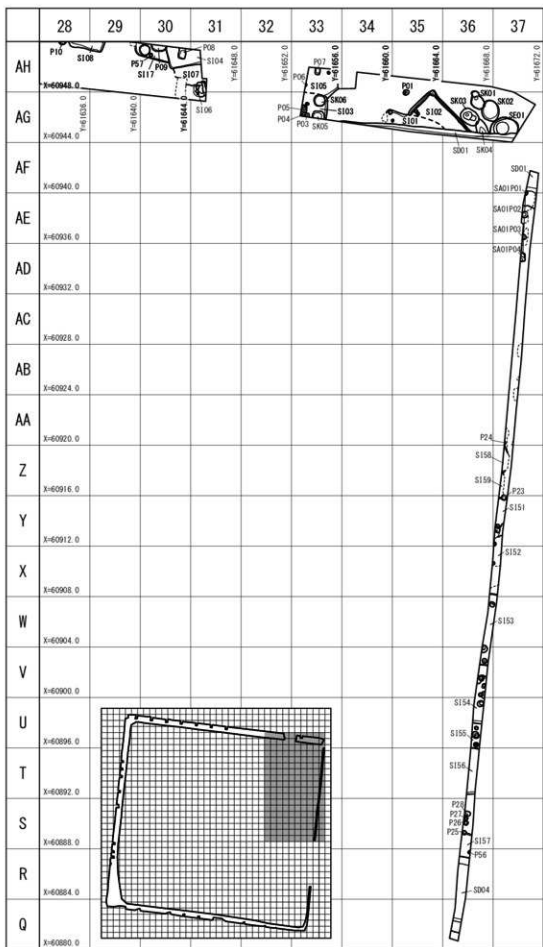
No	遺跡名	立地	時代・時期					
			縄文	弥生	古墳	奈良 平安	中世	近世
1	太田城跡	源氏川左岸・中位砂礫段丘群	○	○	○	○	○	○
2	鯉ヶ丘遺跡	源氏川左岸・中位砂礫段丘群				○	○	
3	馬場遺跡	源氏川右岸・中位砂礫段丘群	○	○	○			
4	高瀬遺跡	谷津川右岸・中位砂礫段丘群	○	○	○	○		
5	馬場横穴	谷津川右岸・中位砂礫段丘群			○			
6	馬淵館跡	谷津川右岸・中位砂礫段丘群					○	
7	森後台遺跡	源氏川左岸・中位砂礫段丘群			○	○		
8	極楽寺跡	源氏川右岸・中位砂礫段丘群					○	
9	福寿台遺跡	源氏川右岸・中位砂礫段丘群			○	○		
10	勝楽寺跡	源氏川左岸・中位砂礫段丘群					○	
11	池前遺跡	源氏川左岸・中位砂礫段丘群			○	○		
12	正法院跡	源氏川左岸・中位砂礫段丘群					○	
13	白鷺横穴墓群	谷津川・中江川合流点・中位砂礫段丘群			○			
14	今宮館跡	谷津川・中江川合流点・中位砂礫段丘群					○	
15	中井川遺跡	里川右岸・谷底平野				○		
16	小野崎城跡	中江川右岸・中位砂礫段丘群					○	
17	小野館跡	谷津川左岸・中位砂礫段丘群					○	
18	瑞龍遺跡	谷津川左岸・中位砂礫段丘群	○	○	○	○		
19	瑞龍B横穴墓群	中江川右岸・中位砂礫段丘群			○			
20	瑞龍A横穴墓群	中江川右岸・中位砂礫段丘群			○			
21	瑞龍古墳群	谷津川左岸・中位砂礫段丘群			○			
22	身隠山横穴墓群	中江川左岸・中位砂礫段丘群			○			
23	元龍龍遺跡	中江川左岸・中位砂礫段丘群		○	○	○		
24	幡山西横穴墓群	里川左岸・上位砂礫台地			○			
25	幡山古墳群	里川左岸・上位砂礫台地			○			
26	幡山北横穴墓群	里川左岸・上位砂礫台地			○			
27	幡山遺跡	里川左岸・上位砂礫台地	○	○	○			
28	前田遺跡	茂宮川右岸・崖および斜面	○					
29	幡山東横穴墓群	里川左岸・上位砂礫台地			○			
30	高貫遺跡	茂宮川左岸・上位砂礫台地	○	○	○	○		
31	高貫東横穴墓群	高貫川右岸・崖および斜面			○			
32	高貫古墳群	茂宮川左岸・上位砂礫台地			○			
33	高貫西横穴墓群	茂宮川左岸・崖および斜面			○			
34	築崎貝塚	里川左岸・中位砂礫段丘群	○					
35	森東貝塚	里川左岸・谷底平野	○					
36	幡館跡	里川左岸・上位砂礫台地					○	
37	幡台遺跡	里川左岸・上位砂礫台地	○	○	○	○		
38	幡台古墳群	里川左岸・上位砂礫台地			○			
39	幡バツケ横穴墓群	里川左岸・上位砂礫台地			○			
40	幡台下遺跡	里川左岸・上位砂礫台地			○	○		
41	山吹山横穴墓群	源氏川右岸・崖および斜面			○			
42	陣馬横穴墓群	源氏川支流右岸・中位砂礫段丘群			○			
43	元太田山崎輪郭跡	源氏川右岸・丘陵			○			
44	元太田山遺跡	源氏川右岸・丘陵	○	○	○			
45	元太田山横穴墓群	源氏川右岸・丘陵			○			
46	西山御殿跡(西山荘)	源氏川右岸・谷底平野						○
47	田久昌寺跡	源氏川右岸・丘陵						○
48	所化塚横穴墓群	源氏川右岸・崖および斜面			○			
49	三味堂横穴墓群	源氏川右岸・丘陵			○			
50	宮々作横穴墓群	源氏川右岸・丘陵			○			
51	稲木遺跡	源氏川右岸・上位砂礫台地	○	○	○	○		
52	長瀬平遺跡	源氏川右岸・上位砂礫台地	○	○	○	○		
53	押葉平遺跡	山田川砂岩・上位砂礫台地	○	○	○	○		

南側のトレンチ③でも遺構番号9の溝跡が検出されている。いずれも、部分的な遺構の検出であったため、詳細は不明である。

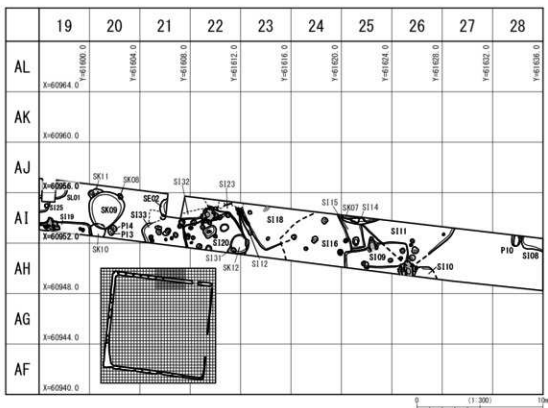
また、他の時代の遺構として、古墳時代から奈良平安時代までの住居跡等の遺構が数多く検出された。



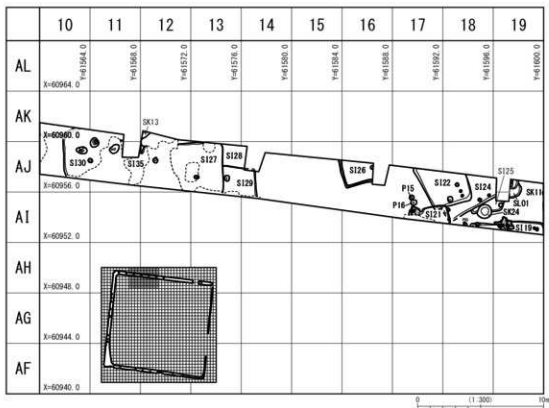
第6図 全体図



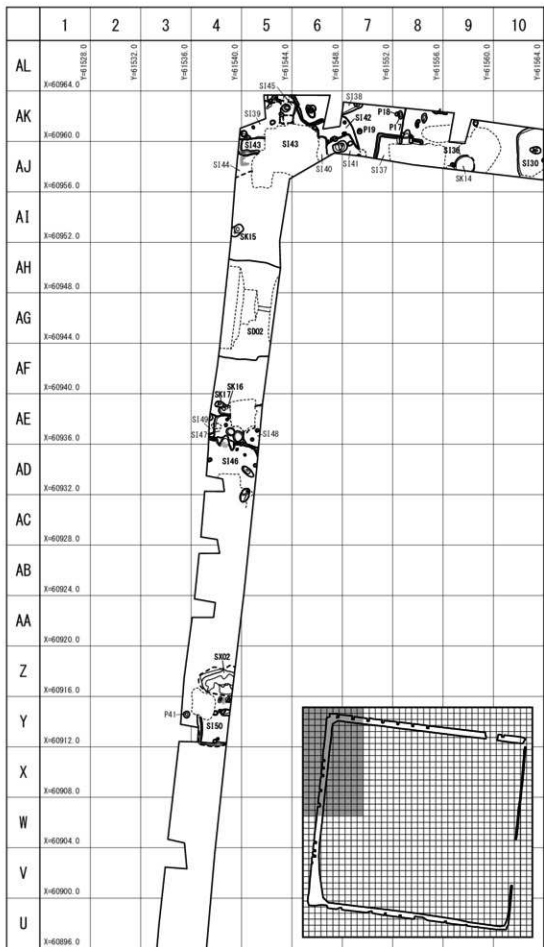
区划图①



区划图②

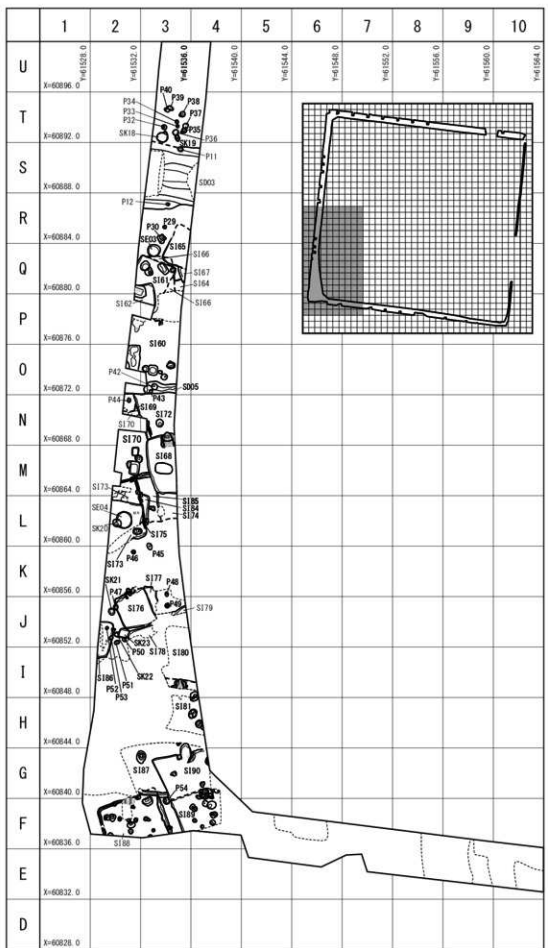


区划图③



区划图④

0 1:200 10m



区划图⑤

## 第3章 調査方法と基本層序

### 第1節 調査方法

発掘調査は、調査範囲内の表土を試掘調査で遺構が確認された深度まで掘削し除去した。重機による表土の掘削後、人力による検出面と壁面の精査を実施し、土層、遺構確認作業を実施した。

グリッドは4m間隔で設定し、調査区の南西角を基準としたX軸をアルファベットのAから、Y軸を自然数の1から順番に振り分けて区画し、X軸とY軸のアルファベットと自然数の組み合わせをグリッド名とした。グリッドの基準線は、公共座標（世界測地系）を利用して設定した。

土層確認作業を実施したのち、自然層の基本層序を観察し、記録、図化した。遺構は、遺構確認面での遺構確認作業の終了後に、遺構内の土蔵の堆積状況の形状、特徴を確認するために、ほぼ直角に交わるように十字、あるいは一文字の土層観察用のベルトを設定して覆土の掘削を実施した。また、遺構の規模が大きい場合、あるいは遺構の重複が著しい場合、土層観察と遺構の先後関係確認のためのベルトを複数設定して掘削し、土層の堆積状況と遺構の形状の特徴を観察した。カクランが著しく遺構の輪郭が不定形の場合は、遺構の堆積状況や特徴が良好に把握できる位置に任意にベルトを設定し精査を行った。遺構の精査に関しては、土層の断面図と土層注記を作成、写真を撮影し、遺物は覆土の上層から検出されたもの、カクラン層出土のもの、小形のものは一括遺物として収納したが、大形のもの、遺構の床面と床面付近、竈内からの出土した遺物は、検出状況を撮影し遺物を測量してから収納した。

測量図のスケールは、断面は遺構では1/20、竈では1/10、平面図、微細図は、遺物平面分布図では1/20、炉跡や竈の微細図や遺物平面分布図では1/10とした。

遺構の測量は、アナログ図化の図面以外に、写真測量を併用して、断面図、遺物微細図、遺構平面図を上記のスケールで作成した。作成した図面は、番号順に登録し図面台帳に記入した。

デジタル測量が間に合わない場合は、簡易的な遺り方測量を実施するために、任意の測量基準点を二点以上検出面上に設定し、遺構、遺物の測量図の作成に使用した。これらの測量で用いた測量基準点は、後に設定位置を測量して、デジタル図面に合成した。

写真記録は、一眼レフ・デジタル・カメラ（Canon EOS6D:2,020万画素）を使用した。写真撮影は、平成29年度の文化庁の指針に則り、データはRAWとJPEGのデータ保存の設定で、写真台帳に必要事項を記録し、写真タイトル撮影後、デジタル・グレー・カードを撮影してから、2カット被写体を撮影した。また、必要に応じて、1,600万画素のコンパクト・デジタル・カメラを用いて記録データを撮影、保存した。遺跡の全景、景観写真は弊社所蔵のドローンを使用して撮影した。

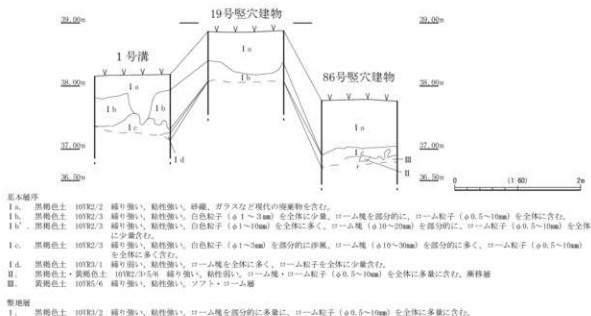
出土遺物は、遺跡略称（OTJ）、グリッド名、出土位置、遺構名、測量取り上げ番号、日付などをラベルに記入し、日付の古い順に収納番号を付した後、遺物収納台帳に記入し保管した。出土遺物は、現地調査と並行して洗浄、注記、保存処理などを行い、発掘調査終了後に、遺物収納台帳と共に、遺物収納用の点箱に収めて納品した。

## 第2節 基本層序

発掘調査区は、近代の日本たばこ産業の操業時代に顕著な土地利用が行われていたため、土地や土層の改変が顕著であり、土層の攪乱が深くまで及ぶ場所が多かった。各地点の基本層序は、遺構の調査の際に合わせて断面図と土層注記を作成した（第7図）。

I a 層は黒褐色土の現代までの表土層である。I b 層は黒褐色土で部分的にローム塊やローム粒子を含む。場所によっては、二次堆積の白色粒子を含む。I b' 層は3号堀跡のみで検出され二次堆積の白色粒子を全体に多く含む。I c 層は調査区で部分的に検出され、ローム塊やローム粒子、白色粒子を部分的に少量含む。I d 層は1号堀跡のみで検出されローム塊を全体に多く含む。II 層は漸移層で、I 層と III 層の混合層である。III 層は軟質ローム層である。白色粒子は、地域火山灰の可能性があり、2・3号堀跡を対象として、火山灰分析を目的とした土壌サンプルを採集した。

調査区の北区と西区の表土除去作業において、I a 層以下において硬化した土層が近代の掘削、攪乱を受けレベル差を持ちながら部分的に検出された。表土除去は、この面が検出された場合は、その面を遺構確認面とした。この硬化した土層を整地層とした。この整地層と基本層序の間には、必然的に不整合面が介在すると思われる。今回の発掘調査は、太田城の敷地の周辺部であるが、この整地面が厳密に中世の太田城の時代の生活面であるかどうかの判断を現時点で下すことは困難である。今後、敷地内の良好な堆積状況の調査地点において、中世の生活面と基本層序を比較検討する必要がある。



第7図 基本層序柱状模式図



## 第4章 遺構と遺物

### 第1節 遺構と遺物の概要

第1次発掘調査では、縄文時代から中世にわたる遺構、竪穴建物跡85軒、堀跡4条、溝跡1条、井戸4基、土坑24基、焼土遺構1基、柵列1基、性格不明遺構1基、ピット53基などを検出した。

遺物は、縄文時代の土器、石器、弥生時代後期の土器、石器、土製品、古墳時代から平安時代の土師器、須恵器、土製品、鉄製品、石製品、土師質土器、瓦質土器、陶磁器、銭貨などが出土した。

### 第2節 縄文時代

#### (1) 遺構の概要

縄文時代は、竪穴建物跡1軒が検出されている。

#### (2) 竪穴建物跡

##### 26号竪穴建物跡（第8・9図・第2表）

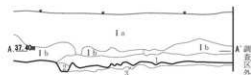
平面位置 AJ-15・16

重複関係 なし

**遺構形態** 遺構は西壁と南壁の一部が検出された。長軸2.67m以上、短軸2.44m以上、深さ0.25mを測る。床は踏み締めりがなく壁は急角度で立ち上がる。ピットは1基検出されたが主柱穴はない。覆土は黒褐色土と暗褐色土の自然堆積層である。

**遺物** 出土遺物は、縄文時代前期の土器、メノウ製の微細剥離のある剥片、片麻岩の石核+台石+凹石、土師器甕、坏、ロクロ整形で内面黒色処理の坏などである。

**時期** 出土遺物と遺構の切り合い関係から縄文時代前期と推定される。



SI26

1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、粘土（φ1～5mm）を部分的に微量に含む。
2. 暗褐色土 10YR3/3 締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
3. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、粘土（φ1～5mm）を部分的に含む。

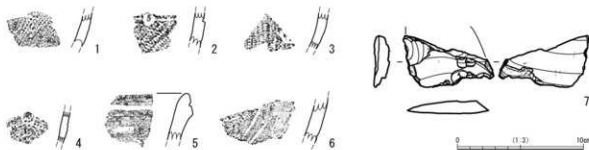
SI26-P01

1. 黄褐色土 10YR5/6 締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～40mm）を全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
2. 黒褐色土 10YR3/2 締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ5～10mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。
3. 暗褐色土 10YR3/3 締りなし、粘性なし。ロームブロック（φ5～40mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。



0 (1:40) 2m

第8図 26号竪穴建物跡



0 (1:3) 10cm

第9図 26号竪穴建物跡出土遺物

第2表 26号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	縄文土器 深鉢	口径:- 高さ:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	5未満	にふい赤褐 (5YR4/4)	口縁部外面横位ナデ、頸部外面斜位ヘラナデ・指押え、頸部内面横位ヘラナデ
2	縄文土器 深鉢	口径:- 高さ:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	5%未満	褐 (7.5YR4/6)	口縁部に沿って沈線が走る
3	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子	良好	5%未満	にふい褐 (7.5YR5/4)	R L 施文後、半截竹管状工具による押し
4	縄文土器 深鉢	口径:- 高さ:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・雲	良好	5未満	にふい褐 (7.5YR6/4)	半截竹管状工具による押し後、縄文押し
5	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・チャ・雲・石英・礫	良好	5%未満	にふい褐 (7.5YR5/4)	浅い沈線を描す
6	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	5%未満	明褐 (7.5YR5/6)	R L 施文後半截竹管状工具による円形刺突
図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
7	二次加工された剥片	メノウ	1.7	3.9	0.5	3.2	下部に細かな連続する加工が施される。

## 第3節 弥生時代

### (1) 遺構の概要

弥生時代の遺構は、調査区の北側の位置で竪穴建物跡2軒が検出されている。

### (2) 竪穴建物跡

#### 18号竪穴建物跡（第10～13図・第3表）

**平面位置** AI - 23・24、AH - 23

**重複関係** 16号竪穴建物跡より古く、12号竪穴建物跡より古い。

**遺構形態** 遺構は床面と西壁と南壁の一部を検出した。長軸4.27m以上、短軸3.63m以上、深さ0.37mを測る。床は踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。ピットは2基検出され、いずれも支柱穴である。覆土は黒褐色土を主体とした自然堆積層である。

**遺物** 出土遺物は、縄文時代前期の繊維土器、弥生時代後期の十王台式土器、土師器甕、高坏、坏、須恵器蓋、鉄滓1点（18.0g）、土製紡錘車、敲石+磨石、敲石、磨石、台石+凹石、凹石+磨石、調整剥片、アブライト、片岩製の礫、砂岩、チャート、片岩、花崗岩、桂化木、泥岩、玄武岩、片麻岩の礫片などである。

**時期** 出土遺物と遺構の切り合い関係から弥生時代後期と推定される。

#### 42号竪穴建物跡（第14～15図・第4表）

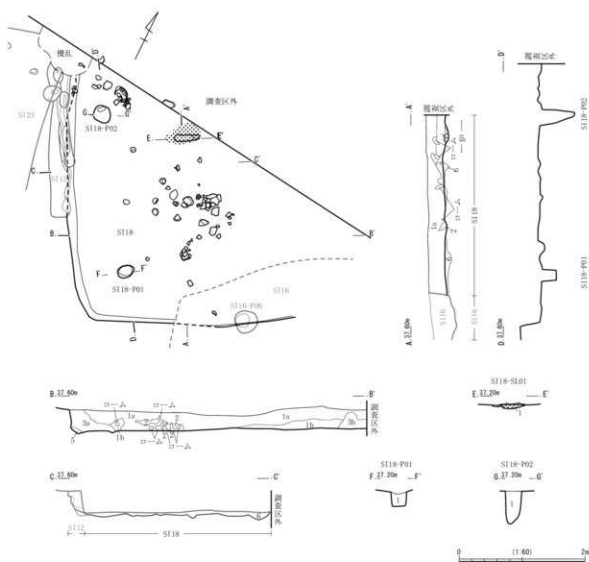
**平面位置** AJ・AK - 40・41

**重複関係** 38・40・41号竪穴建物跡より古い。

**遺構形態** 遺構は床面と東壁の一部を検出した。長軸3.98m以上、短軸2.46m以上、深さ0.19mを測る。床はほぼ平坦で、掘方は浅いが壁は急角度で立ち上がる。ピットは5基検出されたが支柱穴はない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

**遺物** 出土遺物は、弥生時代後期の十王台式土器、縄文時代前期、後期、晩期の土器、泥岩製の磨石+敲石、土師器甕、須恵器甕などである。

**時期** 出土遺物と遺構の切り合い関係から弥生時代後期と推定される。



SI18

- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。炭化物（φ1～10mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、焼土（φ1～5mm）を部分的に微量に含む。
- 1b. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。炭化物（φ3～5mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に、焼土（φ5～15mm）を部分的に少量含む。
2. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。炭化物（φ5～10mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に、焼土（φ3～5mm）を部分的に少量含む。
- 3a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
- 3b. 黒色土 10YR2/1 締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、焼土（φ1～5mm）を部分的に少量含む。
4. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～100mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
5. 褐色土 10YR4/6 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
6. 黄褐色土 10YR5/8 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI18-SI.01

1. 褐色土 10YR4/1 締りなし、粘性あり。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土（φ5～20mm）を部分的に含む。
2. 赤褐色土・黒褐色土 5YR4.6/2.2 締りなし、粘性あり。 焼土を全体に多量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

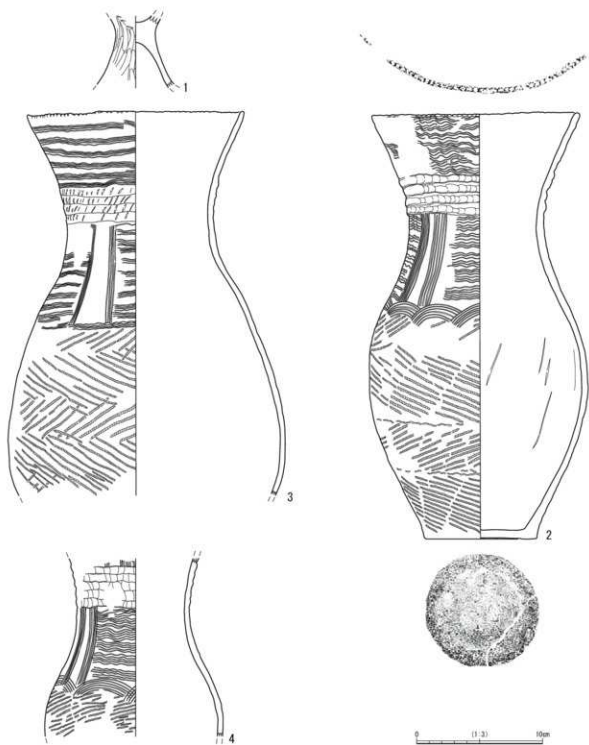
SI18-P01

1. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性強い。ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。

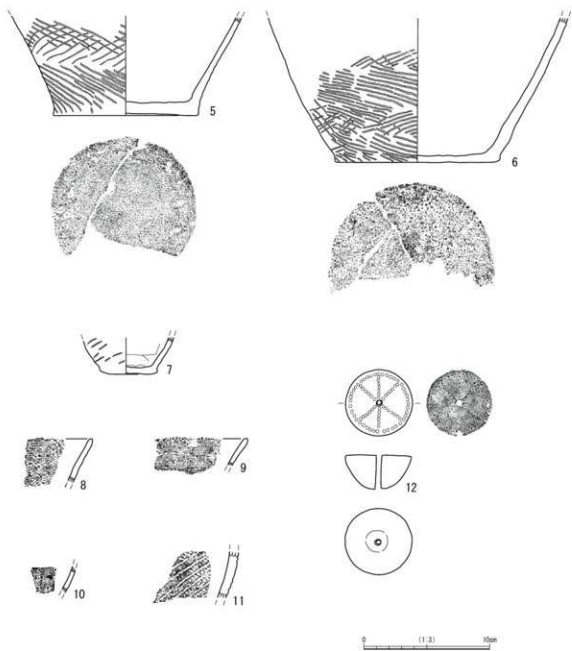
SI18-P02

1. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性あり。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

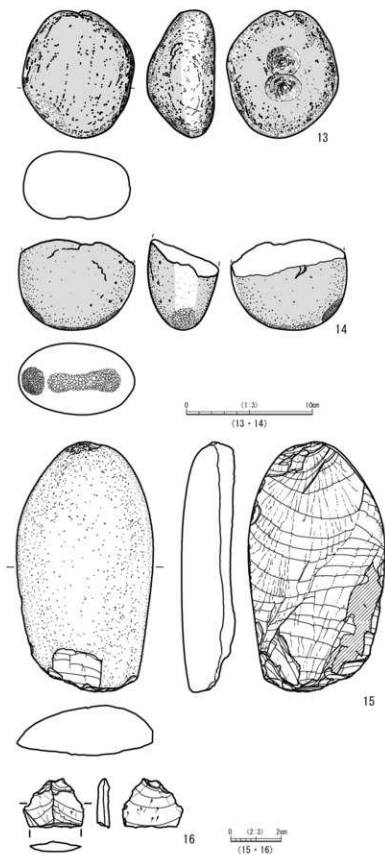
第10図 18号竪穴建物跡



第 11 圖 18 号竖穴建物踏出土遺物 (1)



第 12 圖 18 号竖穴建物跡出土遺物 (2)

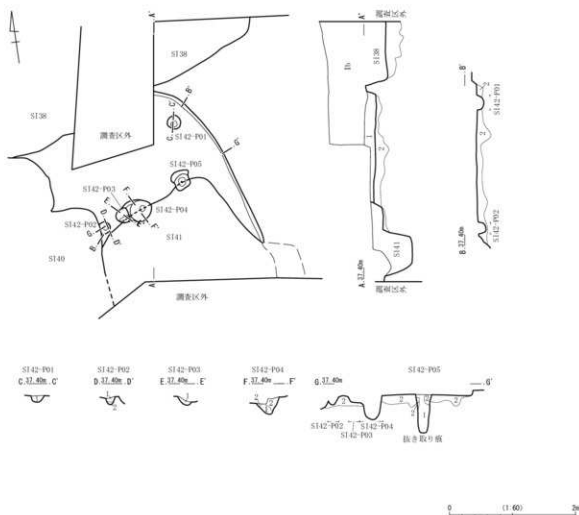


第13圖 18号堅穴建物跡出土遺物(3)

第3表 18号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	弥生土器 高坏	口径:- 器高:(5.7) 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 雲・石英・礫	良好	10%	にふい黄橙 (10YR7/3)	外面縦位ミガキ
2	弥生土器 甕	口径:16.2 器高:33.8 底径:8.8	白色粒子・石英・礫	良好	75%	にふい黄橙 (10YR7/4)	口唇部縄文、口縁部外面に6本一単位の 櫛歯状工具による波状文を反時計回りに 4段階す。胴部外面上半部押圧による隆 帯を4条巡らす。胴部外面下半部6本一 単位の櫛歯状工具による弧線文後波 状文を5段、胴部外面付加条による羽状 縄文、底部外面砂底
3	弥生土器 甕	口径:17.0 器高:(30.2) 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲	良好	35%	にふい黄橙 (10YR7/4)	口唇部キザミ、口縁部外面に4本一単位の 櫛歯状工具による波状文を時計回りに 5段階す。胴部外面上半部キザミのある 隆帯を4条巡らす。胴部外面下半部4本 一単位の櫛歯状工具による弧区画の無文 後波状文、胴部外面付加条2種による羽 状縄文
4	弥生土器 甕	口径:- 器高:(14.0) 底径:-	白色粒子・雲・石英・ 礫	良好	25%	にふい黄橙 (10YR6/3)	口縁部外面に6本一単位の櫛歯状工具に よる縦区画後横位波状文、胴部外面上 半部押圧による隆帯を5条巡らす。胴部 下半部が同一櫛歯状工具による反時計回 りの弧線文後縦区画後波状文を下から上 に6段階す。胴部外面付加条による羽状 縄文か
5	弥生土器 甕	口径:- 器高:(7.7) 底径:11.4	白色粒子・黒色粒子・ 雲・石英	良好	10%	にふい橙 (7.5YR6/4)	胴部外面付加条2種による羽状縄文、底 部外面砂底
6	弥生土器 甕	口径:- 器高:(11.4) 底径:13.0	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・石英・ 礫	良好	15%	にふい黄橙 (10YR6/4)	胴部外面付加条2種による羽状縄文、底 部外面砂底
7	弥生土器 小型甕	口径:- 器高:(2.9) 底径:4.5	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・石英	良好	20%	にふい黄橙 (10YR5/3)	胴部外面輪轆不明+L縄文
8	弥生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・石英	良好	5%未満	灰褐(7.5YR4/2)	口唇部キザミ、口縁部外面4本一単位の 櫛歯状工具による波状文
9	弥生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 雲・石英	良好	5%未満	にふい黄橙 (10YR6/3)	口唇部縄押圧、口縁部外面11本を一 単位とする櫛歯状工具による波状文
10	弥生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・雲	良好	5%未満	灰黄褐 (10YR5/2)	胴部外面輪轆不明+L縄文
11	弥生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・石英	良好	5%未満	にふい黄橙 (10YR6/4)	胴部外面付加条2種
12	土製品 紡錘車	口径:5.3 器高:2.7 孔径:0.6	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲	良好	100%	にふい黄橙 (10YR7/3)	竹管状工具による凹形刺突
図版 番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
13	巖石・凹石・磨石	砂岩	10.0	8.8	5.3	619.5	表はドーム状で裏は全体に平ら。表裏とも広い平滑 面を持つ。表中央には連なる凹みあり。
14	磨石・巖石	砂岩	7.2	9.2	5.6	473.1	上部を大きく欠損。表裏面に平滑面。下部に鋭打痕 あり。
15	肉櫛削片	凝灰岩	10.0	5.5	1.9	148.0	上下の中央部に同時に加撃。打点やノズルはその後の 調整でなくなる。
16	調整削片	砂岩	1.9	2.4	0.5	2.0	下部を欠損。上部より表裏面に調整を施される。





#### SI42

1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。白色粒子（ $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ ）を部分的に微量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に含む。

2. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。

#### SI42-P1

1. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。

#### SI42-P2

1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に微量、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を部分的に微量に含む。

2. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。

#### SI42-P3

1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。

2. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多く含む。

#### SI42-P4

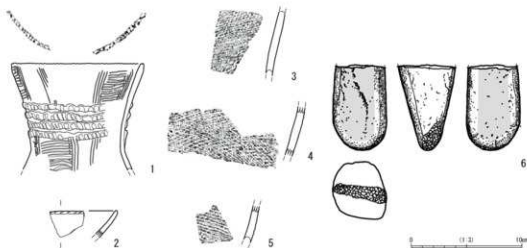
1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。炭化物（ $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ）を部分的に少量、ロームブロック（ $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に少量含む。

#### SI42-P5

1. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を含む。

2. 暗褐色土 10YR3/4 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。

第14図 42号堅穴建物跡



第15図 42号竪穴建物跡出土遺物

第4表 42号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	弥生土器 甕	口径：11.8 器高：9.6 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 雲・石英・礫	良好	5%	にぶい褐色 (7.5YR6/3)	頸部押圧隆帯4条、4本1単位の櫛歯 状工具による縦区画と横位線、更新部 刻み
2	弥生土器 高環	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・雲・石英	良好	5%未満	灰白(10YR8/2)	口唇部縄文
3	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・石英・礫	良好	5%未満	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	付加縄2種による羽状縄文
4	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 雲・石英	良好	5%未満	にぶい褐色 (7.5YR7/4)	付加縄2種による羽状縄文
5	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	灰黄褐色 (10YR5/2)	付加縄2種
図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
6	砥石 磨石または砥石	泥岩	<7.7>	4.8	<5.2>	232.9	下端部4敲打痕あり。表面中央は平滑面で、その まわりは面取りが行われた様になっており、滑らか。 そのため砥石の可能性も言んだ。

## 第4節 古墳時代

### (1) 遺構の概要

古墳時代の遺構は、竪穴建物跡 65 軒が検出されている。

### (2) 竪穴建物跡

#### 1号竪穴建物跡 (第16～18図・第5表)

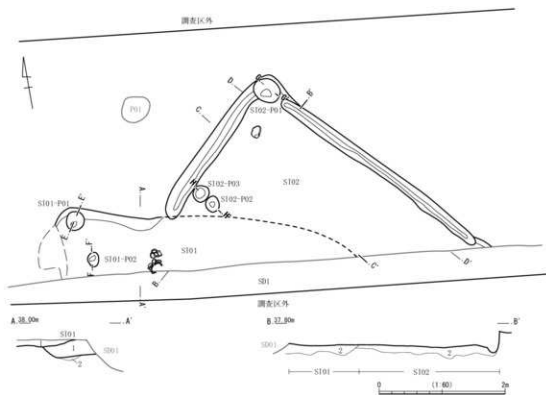
**平面位置** AG-34～36

**重複関係** 1号堀跡より古く、2号竪穴建物跡より新しい。

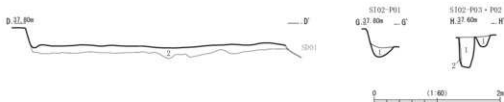
**遺構形態** 遺構はプランの南側が1号溝跡に切られているが平面形は隅丸方形と推定される。長軸 4.77 m 以上、短軸 1.13 m 以上、深さ 0.23 m を測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されず、ピットは床面から3基検出されたが主柱穴ではない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

**遺物** 出土遺物は、有段口縁を含む土師器甕、須恵器甕、弥生時代後期の十王台式土器、瀬戸美濃の陶器、チャート、泥岩、片岩の礫片などである。

**時期** 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期と推定される。



第16図 1・2号竪穴建物跡(1)



S101

1. 黒褐色土 10TR3/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 30\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に少量、シルト質土を部分的に多量に、焼土（ $\phi 1\sim 10\text{mm}$ ）部分的に少量含む。

2. 黄褐色土 10TR5/6 締り強い、粘性あり。ロームブロック、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。

S101-P02

1. 黒褐色土 10TR3/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\text{mm}$ ）を部分的に微量、ローム粒子（ $\phi 1\sim 3\text{mm}$ ）を部分的に微量含む。

S102

1. 黒褐色土 10TR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。

2. 黄褐色土 10TR5/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。

S102-P01

1. 黒褐色土 10TR2/2 締りなし、粘性なし。ロームブロック、ローム粒子を含む。

S102-P02

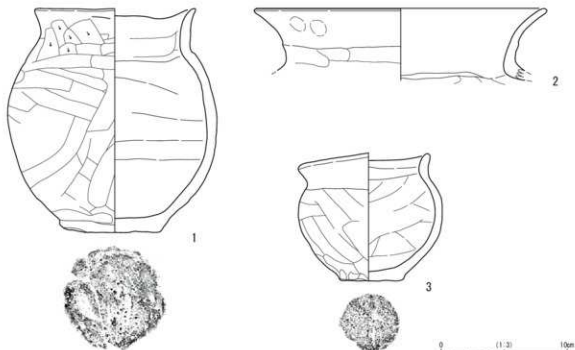
1. 黒褐色土 10TR3/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\text{mm}$ ）を部分的に微量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を部分的に微量含む。

S102-P03

1. 黒褐色土 10TR2/3 締りあり、粘性あり。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を全体に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に微量を含む。

2. 濃い・黄褐色土 10TR4/3 締り強い、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 15\sim 30\text{mm}$ ）を全体に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。

第17図 1・2号竪穴建物跡(2)



第18図 1号竪穴建物跡出土遺物

第5表 1号竪穴建物跡出土物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径：12.6 器高：17.8 底径：7.4	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・チャ・礫	良好	90%	赤褐(2.5YR4/6)	口縁部外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、 内面ヘラナデ・ナデ、底部木葉痕
2	土師器 甕	口径：(23.0) 器高：(5.7) 底径：-	白色粒子色粒子・黒 色粒子・石英・礫	良好	5%未満	橙(5YR7/6)	口縁部内外面横位ナデ・指頭痕、頸部 外面横位ヘラケズリ、頸部内面ヘラナ デ・ナデ
3	土師器 小型甕	口径：10.0 器高：10.2 底径：4.6	白色粒子色粒子・黒 色粒子・礫	良好	85%	明赤褐(5YR5/6)	口縁部外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、 内面ヘラナデ・ナデ、底部木葉痕

## 2号竪穴建物跡(第16・17・19図・第6表)

平面位置 AH-35・AG-35・36

重複関係 1号堀跡、1号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構はプランの南側を1号堀跡と1号竪穴建物跡に切られているが、平面形は隅丸方形と推定される。長軸4.67m以上、短軸2.79m以上、深さm0.27を測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されず、ピットは2基検出されたが主柱穴ではない。覆土は、黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕、甌、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、須恵器甕、蓋、壺、縄文時代前期の土器、弥生時代後期の十王台式土器、常滑焼の甕、砂岩、泥岩の礫片などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



第19図 2号竪穴建物跡出土遺物

第6表 2号竪穴建物跡出土物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径：- 器高：(2.1) 底径：(8.6)	白色粒子・赤色粒子 色粒子・石英	良好	5未満	にぶい橙 (7.5YR7/4)	外面ヘラケズリ、内面ナデ

## 3号竪穴建物跡(第20・21図・第7表)

平面位置 AG・AH-33

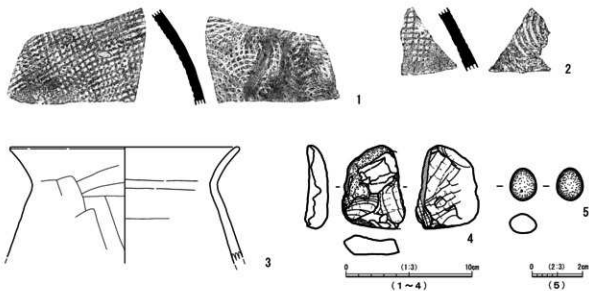
重複関係 6号土坑、5号ピットより古く、5号竪穴建物跡、5号土坑、3・4号ピットより新しい。

遺構形態 遺構は床面と東壁の一部を検出した。長軸2.06m以上、短軸1.95m以上、深さ0.13mを測る。床面はほぼ平坦で踏み締まりがあり、掘り方は浅いが壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されず、ピットは1基検出されたが主柱穴ではない。覆土は褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕、坏、須恵器甕、土師質土器小皿、砂岩製二次加工石器、石英製磨石、石英の礫、泥岩、粘板岩の礫片などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

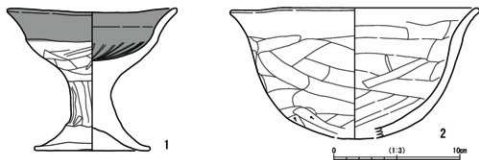




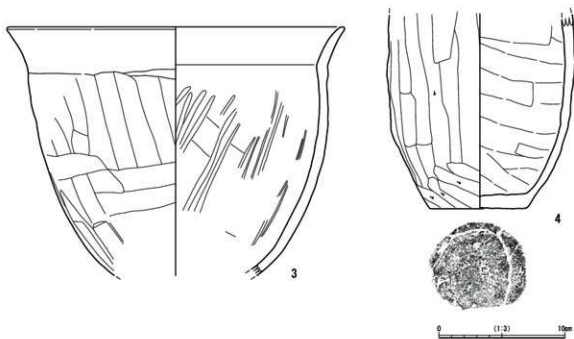
第21図 3号堅穴建物跡出土遺物

第7表 3号堅穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 礫	良好	5%未満	灰(N6/O)	外面格子状タタキ、内面同心円状当て 具痕、自然釉かかる
2	須恵器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・石英・礫	良好	5%未満	灰(N4/O)	外面格子状タタキ、内面同心円状当て 具痕
3	土師器 甕	口径:(18.0) 器高:(9.3) 底径:-	白色粒子色粒子・黒 色粒子・チャ・礫	良好	5%未満	橙(7.5YR6/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズ リ、内面ヘラナデ・ナデ
図版 番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
4	二次加工石器	砂岩	<5.0>	5.0	1.6	51.4	表面は自然面が多く、右側縁は折損、裏面は中央に 主要断面で周辺部から二次加工が施されている。
5	磨石	石英	1.3	1.1	0.8	1.4	表面は非常に平滑。



第22図 5号堅穴建物跡出土遺物(1)



第 23 図 5号堅穴建物跡出土遺物(2)

第 8 表 5号堅穴建物跡出土遺物観察表

図版 番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 高坏	口径：13.2 器高：11.2 底径：9.0	白色粒子・チャ・雲・ 石英・礫	良好	70%	橙(7.5YR6/6)	环部外面上位横位ナデ・下位ヘラナデ・ ナデ。环部内面ミガキ・ナデ。脚部外 面縦位ヘラナデ。腹部内外面横位ナデ。 环部外面上位～内面赤彩
2	土師器 鉢	口径：19.4 器高：110.4 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ チャ・石英礫	良好	70%	橙(7.5YR6/6)	口縁部内外面横位ナデ。外面ヘラケズ リ。内面ヘラナデ・ナデ
3	土師器 瓶	口径：26.6 器高：20.0 底径：-	白色粒子・赤色粒子 色粒子・雲・石英・ 礫	良好	60%	橙(7.5YR6/6)	口縁部内外面横位ナデ。外面縦位・横 位ヘラケズリ。内面ヘラナデ・ナデ
4	土師器 甕	口径：- 器高：15.5 底径：7.6	白色粒子・石英・礫	良好	15%	明赤褐(5YR5/6)	外面縦位ヘラケズリ。内面ヘラナデ・ ナデ

#### 4号堅穴建物跡(第24～26図・第9表)

平面位置 A H - 30・31

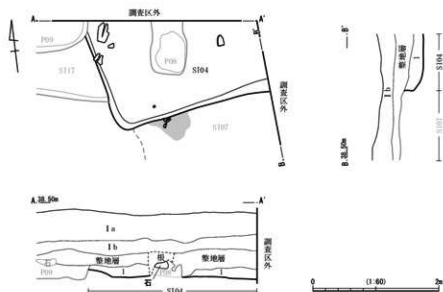
重複関係 8・9号ピットより古く、7・17号堅穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は床面の一部、西壁と南壁の一部が検出された。長軸 2.69 m 以上、短軸 1.72 m 以上、深さ 0.26 m を測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈、ピットは検出されていない。覆土は黄褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕、甕、坏(内面黒色処理、赤彩)、須恵器甕、高台付坏、ロクロ整形の坏、縄文時代前期の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、石英製の楔形石器、凝灰岩製の器種不明の石器、チャート製の石鏃未製品、片麻岩の磨石、砂岩、片岩製の礫片などである。

時期 古墳時代後期

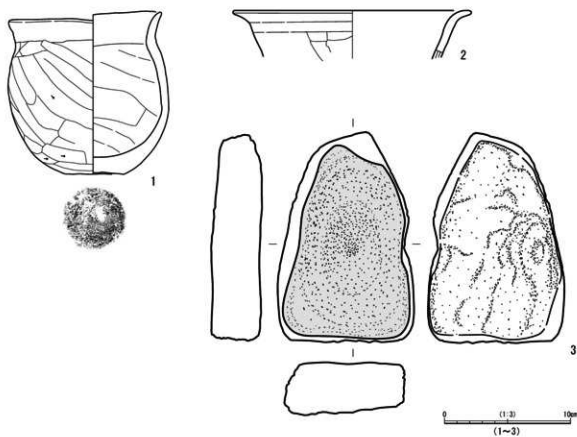




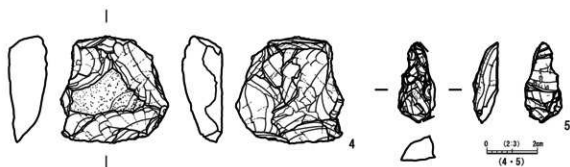
S104

1. 黄褐色土 10YR5/8 締り強い、粘性なし。炭化物 (φ5~20mm) を部分的に少量、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量に含む。

第24図 4号竪穴建物跡



第25図 4号竪穴建物跡出土遺物(1)



第26図 4号竪穴建物跡出土遺物(2)

第9表 4号竪穴建物跡出土遺物観察表

図取番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径：11.8 器高：12.9 底径：4.8	白色粒子・黒色粒子・ 礫	良好	99%	赤褐 (5YR4/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面横位・縦 位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
2	土師器 甕	口径：(18.6) 器高：3.9 底径：-	白色粒子・石英・礫	良好	5%未満	橙 (5YR6/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ケズ リ、内面横位ナデ

図取 番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
3.	石皿	片麻岩	21.2	10.8	4.0	1325.5	ほぼ自然面を使用。表面は全体に平滑で、中央部が やや凹凸。裏面はほぼ自然面のみ。
4	楔形石器	石英	4.4	4.3	1.5	29.5	表裏面とも上下より調整が行われ、断面は上下部分 が尖る。
5	石鏡未製品	チャート	3.2	15.0	1.0	3.9	肉厚の素材で調整時に右側が大きく欠損する。

### 6号竪穴建物跡(第27・28図・第10表)

平面位置 AG・AH-30・31

重複関係 7号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は竈周辺部のみが検出された。長軸1.69m以上、短軸1.60m以上、深さ0.21mを測る。床は踏み締まりがある。竈は北壁付近より検出され、推定の壁寄り内側に位置している。竈内からは赤彩の塊が検出されている。土坑、ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕(単口縁)、壺(単口縁)、赤彩の塊、縄文時代前期、中期の土器、弥生時代後期の十王台式土器などである。

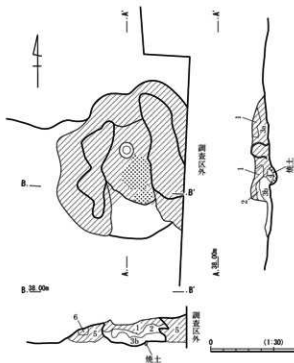
時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期末と推定される。



S106

1. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性なし。炭化物（φ5～10mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、焼土（φ1～10mm）を部分的に微量に含む。

0 (1:40) 2m



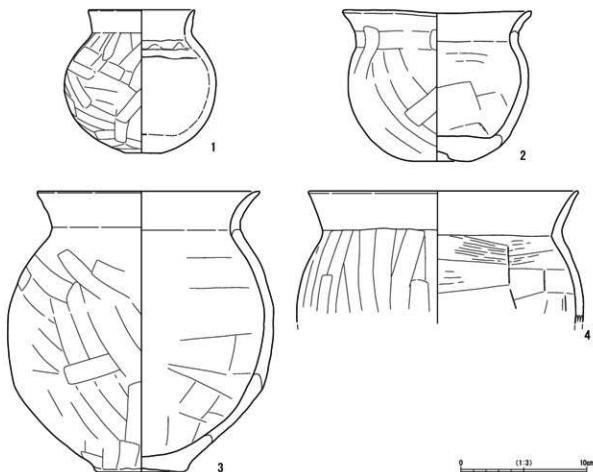
B. 3.00m

0 (1:200) 2m

S106-カマド

1. 埴粉色土 10YR3/4 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多く、焼土（φ1～5mm）を部分的に含む。
2. 明赤褐色土 5YR5/6 締り強い、粘性あり。焼土を全体に多量に含む。
- 3a. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性あり。シルトを部分的に多く、焼土（φ1～5mm）を部分的に微量に含む。
- 3b. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に少量、焼土（φ1～5mm）を部分的に多く含む。
4. 褐色土 7.5YR4/6 締り強い、粘性あり。焼土を全体に多量に含む。
5. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。シルトを部分的に多く、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に多く、焼土（φ1～30mm）を部分的に多く含む。
6. にぶい黄褐色土 10YR7/4 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量に含む。

第27図 6号竪穴建物跡



第28図 6号竪穴建物跡出土遺物

第10表 6号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 小型壺	口径：8.2 器高：11.4 底径：2.7	白色粒子・石英・礫	良好	95%	赤褐 (2.5YR4/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
2	土師器 壺	口径：14.8 器高：12.0 底径：4.6	白色粒子・雲・石英・礫	良好	90%	赤褐 (2.5YR4/8)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
3	土師器 壺	口径：(17.4) 器高：22.3 底径：(6.8)	白色粒子・石英	良好	45%	赤褐 (2.5YR4/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
4	土師器 壺	口径：(21.2) 器高：(10.6) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲・石英・礫	良好	15%	にぶい赤褐 (5YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

### 7号竪穴建物跡 (第29図)

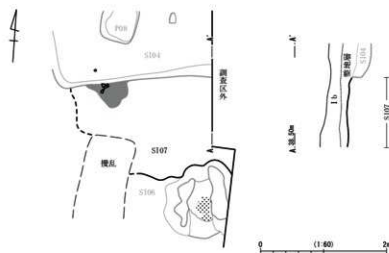
平面位置 AH - 30・31

重複関係 4・6号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は床面のみが検出された。長軸2.60 m以上、短軸1.63 m以上を測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがある。竈、ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕、須恵器甕、縄文時代前期の興津式、須恵器甕などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期と推定される。



第29図 7号竪穴建物跡

### 9号竪穴建物跡 (第30～33図・第11表)

平面位置 AI・AH - 25・26

重複関係 10号竪穴建物跡より古く、11・16号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は床面と北壁、東壁と西壁の一部を検出した。長軸5.08 m以上、短軸2.52 m以上、深さ0.29 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は北竈で両袖が検出されている。シルト質土を母材とし泥岩の大きな板材を構築材として天盤と支柱に使用している。燃焼部は焼成を強く受けて赤化している。覆土内からは廃棄された土師器が多量に検出されている。ピットは5基検出され、ピット1・2が支柱穴の可能性ある。覆土は暗褐色土と灰黄褐色土などの自然堆積層である。

遺物 出土遺物は床面直上で多くが検出されている。土師器甕(刷毛調整、単口縁、常陸型)、高坏(掘り方埋土内)、坏、須恵器甕、蓋、土師質土器こね鉢、14世紀の常滑焼甕、泥岩製の支脚、砂岩、花崗岩、片岩製の敲石、片麻岩、アブライト製の磨石、砂岩製礫、砂岩、片岩、花崗岩、泥岩の礫片などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

10号竪穴建物跡 (第30・31・34図・第12表)

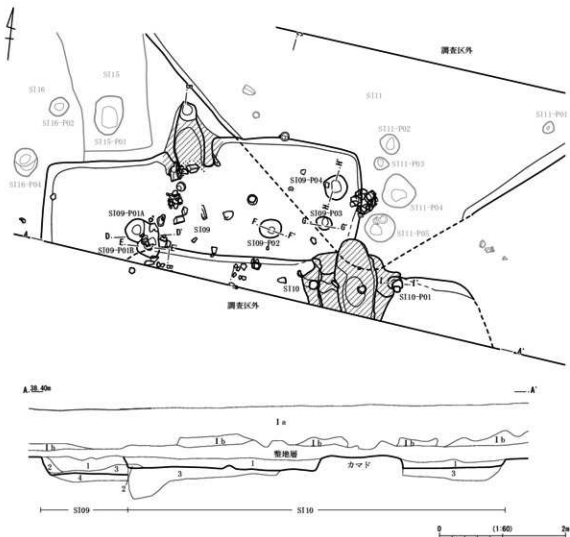
平面位置 AH-25・26

重複関係 9・11号竪穴建物跡より新しい。

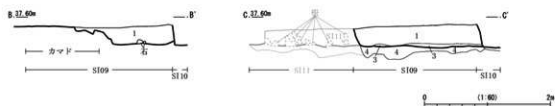
**遺構形態** 遺構は床面と北壁、西壁と東壁の一部を検出した。長軸5.81m以上、短軸1.73m以上、深さ0.22mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は北竈で両袖が検出され、シルト質土を母材とし泥岩の大きな板材を構築材として使用している。燃烧部は形成されておらず焼土も発達していない。ピットは検出されていない。覆土は暗褐色土と黒褐色土などの自然堆積層である。

**遺物** 出土遺物は、土師器甕(単口縁、常陸型、刷毛調整)、須恵器坏蓋模倣の坏、埴、須恵器甕、縄文時代前期の興津式土器、弥生時代後期の十王台式土器、片麻岩製の磨石、石英製の楔形石器、流紋岩製の剥片、泥岩の竈構築材、砂岩、石英製の礫、砂岩、チャート、片岩、泥岩、石英の礫片などである。

**時期** 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



第30図 9・10号竪穴建物跡(1)



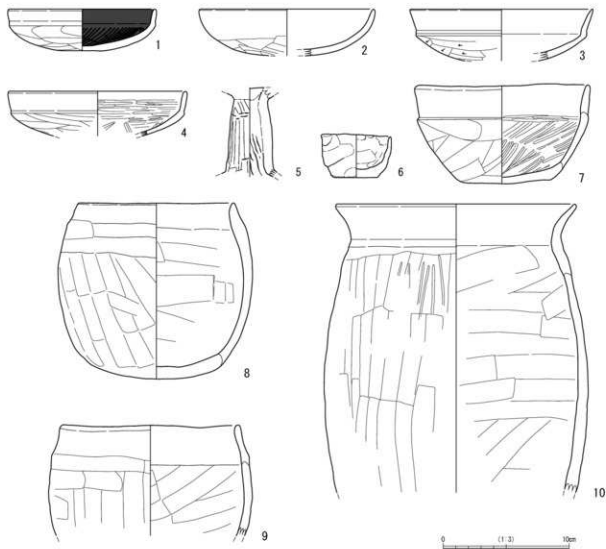
S109

1. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性あり。ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量、ロームブロックを部分的に少量含む。
2. 灰黄褐色土 10YR4/2 締り強い、粘性あり。ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く、ロームブロックを部分的に微量を含む。
3. にぶい黄褐色土 10YR4/3 締り強い、粘性あり。ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く、ロームブロックを全体に少量含む。
4. 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量を含む。

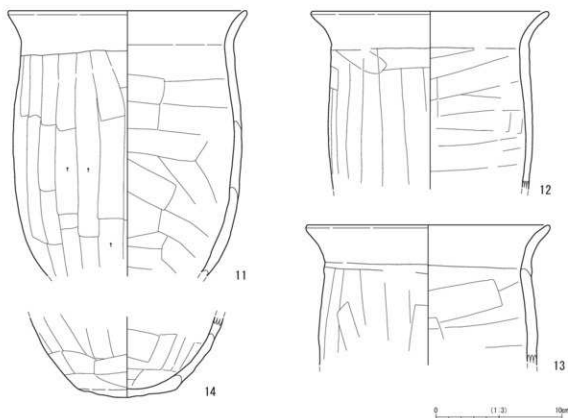
S110

1. 黒褐色土 10YR2/2 締りなし、粘性あり。ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を微量に含む。
2. 灰黄褐色土 10YR5/2 締りあり、粘性あり。粘土を部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量を含む。
3. 暗褐色土 10YR3/4 締りあり、粘性あり。ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。

第31図 9・10号堅穴建物跡(2)



第32図 9号堅穴建物跡出土遺物(1)



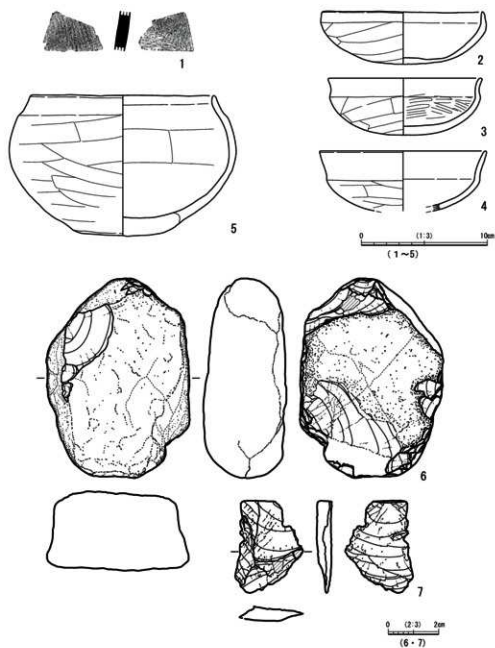
第33図 9号竪穴建物跡出土遺物(2)

第11表 9号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 坏	口径:(11.6) 器高:3.4 底径:-	白色粒子・雲・石英	良好	15%	褐色(7.5YR4/1)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ・黒色処理
2	土師器 坏	口径:(13.8) 器高:3.7 底径:-	白色粒子・黒色粒子・雲	良好	20%	にぶい黄褐色(10YR7/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ
3	土師器 坏	口径:(14.4) 器高:(4.1) 底径:-	白色粒子・長・雲・石英・礫	良好	10%	にぶい褐色(7.5YR6/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ
4	土師器 坏	口径:(15.0) 器高:(3.8) 底径:-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲	良好	5%	にぶい褐色(7.5YR6/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ・ナデ
5	土師器 高坏	口径:- 器高:(7.8) 底径:-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲	良好	10%	にぶい褐色(7.5YR6/3)	外面縦位ヘラケズリ・ナデ、内面ヘラナデ
6	土師器 ミニチュア	口径:5.8 器高:3.7 底径:3.6	白色粒子・石英・礫	良好	80%	褐色(7.5YR6/6)	内外面指押え・ナデ
7	土師器 鉢	口径:13.6 器高:7.8 底径:6.8	白色粒子・雲・石英	良好	90%	にぶい赤褐色(5YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ、内外面煤付着
8	土師器 甗	口径:12.2 器高:14.0 底径:-	白色粒子・黒色粒子・石英・礫	良好	95%	褐色(7.5YR6/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面上位横位ヘラケズリ・下位斜位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
9	土師器 甗	口径:(14.0) 器高:(8.8) 底径:-	白色粒子・石英・礫	良好	5%	にぶい赤褐色(5YR4/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面横位・縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
10	土師器 甗	口径:(18.8) 器高:(22.9) 底径:-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英	良好	10%	暗赤褐色(5YR3/2)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ



図版 番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
11	土師器 甕	口径：(18.8) 器高：(21.1) 底径：-	白色粒子・石英・礫	良好	15%	にぶい褐 (7.5YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラ ケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
12	土師器 甕	口径：(18.8) 器高：(14.2) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・長・石英・ 礫	良好	10%	橙 (5YR6/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラ ケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
13	土師器 甕	口径：(19.0) 器高：(11.2) 底径：-	白色粒子・長・雲・ 石英・礫	良好	10%	橙 (5YR6/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラ ケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
14	土師器 甕	口径：- 器高：(6.4) 底径：7.6	白色粒子・雲・石英	良好	5%	にぶい赤褐 (5YR5/4)	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ



第34図 10号堅穴建物跡出土遺物

第12表 10号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	灰(N5/0)	外面平行線タタキ、内面同心円状当て 具痕
2	土師器 坏	口径:12.6 器高:4.2 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・長・チャ・ 角・雲・針	良好	50%	橙(5YR6/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、 内面ナデ
3	土師器 坏	口径:(12.0) 器高:(4.5) 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英・礫	良好	50%	にぶい橙 (7.5YR7/4)	口縁部外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、 内面ミガキ・ナデ
4	土師器 坏	口径:(4.5) 器高:(4.8) 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英・礫	良好	5%未満	橙(7.5YR7/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、 内面ナデ
5	土師器 鉢	口径:14.4 器高:11.2 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・石英・ 礫	良好	30%	にぶい橙 (7.5YR5/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面横位・斜 位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
6	敲石	石英	8.0	5.7	3.1	200.8	下端部に敲打痕。面が平らになっている。
7	剥片	流紋岩	3.7	2.6	0.5	4.9	打点・打面をもつ敲長剥片。

11号竪穴建物跡(第35～37図・第13表)

平面位置 AH・AI-25～27

重複関係 9・10・14号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は床面、西壁と南壁の一部が検出された。主軸は北西～南東方向に傾く。長軸5.80m以上、短軸4.84m以上、深さ0.34mを測る。床はほぼ平坦で踏み締めりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。ピットは5基検出され、4号ピットが主柱穴であると思われる。2号ピットと5号ピット覆土内から土師器甕が検出されている。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕(単口縁、刷毛調整平底)、坏、須恵器坏蓋模倣の坏、赤彩の高坏、内面赤彩の碗、須恵器甕、凝灰岩、泥岩、粘板岩製の砥石、片麻岩製の敲石、砂岩、石英、花崗岩、片岩、石灰岩製の礫片などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

14号竪穴建物跡(第35・38図・第14表)

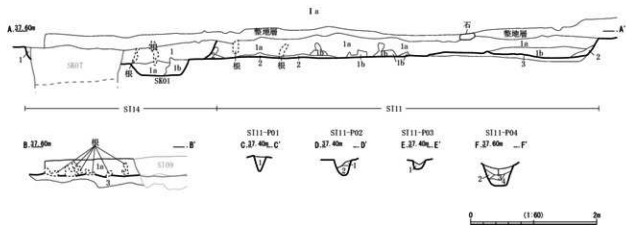
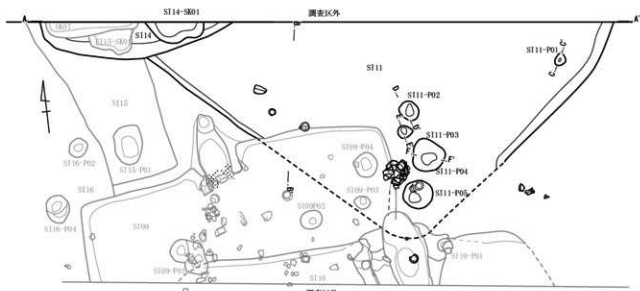
平面位置 AI-24・25

重複関係 7号土坑より古く、12・15号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は床面、西壁と南壁の一部を検出した。長軸3.07m以上、短軸0.59m以上、深さ0.27mを測る。床はほぼ平坦で踏み締めりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈、ピットは検出されていないが、床面から土坑が2基検出されている。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕、須恵器坏蓋模倣の坏、砂岩、片岩製の礫片などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



#### SI11

- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を部分的に多く含む。  
 1b. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を部分的に含む。  
 2. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。  
 3. 褐色土 10YR4/6 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。

#### SI11-P01

1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10\sim 15\text{mm}$ ) を部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。

#### SI11-P02

1. 暗褐色土 10YR3/3 締りあり、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 5\sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。  
 2. に近い黄褐色土 10YR4/3 締りなし、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10\sim 30\text{mm}$ ) を全体に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。

#### SI11-P03

1. に近い黄褐色土 10YR4/3 締りなし、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 10\sim 15\text{mm}$ ) を全体に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。

#### SI11-P04

1. 黒褐色土 10YR3/2 締りあり、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 5\sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。  
 2. 褐色土 10YR4/4 締りなし、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。  
 3. 黒褐色土 10YR2/2 締りなし、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 5\sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。  
 4. に近い黄褐色土 10YR4/3 締りあり、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 10\sim 15\text{mm}$ ) を全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。

#### SI11-P05

1. 黒褐色土 10YR3/2 締りあり、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10\sim 15\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。

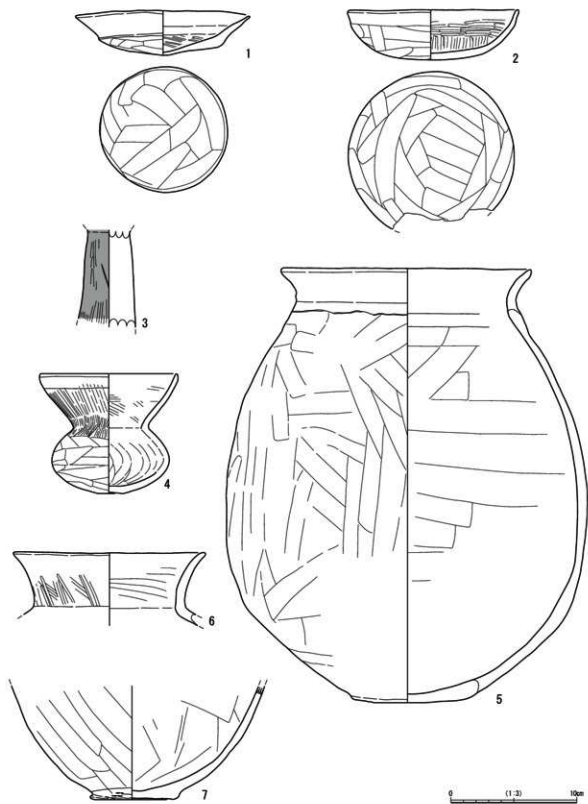
#### SI14

1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。

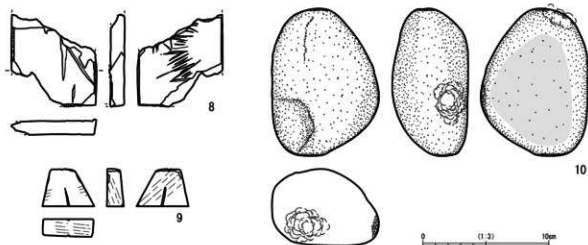
#### SI14-SK01

- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。  
 1b. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。

第35図 11・14号堅穴建物跡



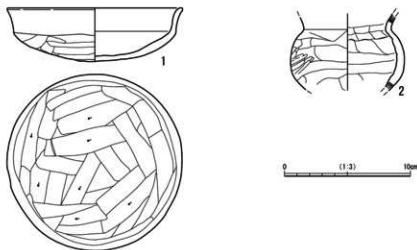
第 36 图 11 号竖穴建物跡出土遺物 (1)



第37図 11号竪穴建物跡出土遺物(2)

第13表 11号竪穴建物跡出土遺物観察表

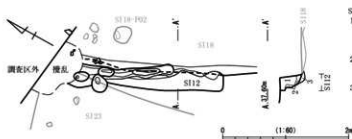
図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 環	口径: 13.6 器高: 3.6 底径: -	白色粒子・雲・石英	良好	100%	にぶい黄緑 (10YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ・ナデ
2	土師器 環	口径: 13.2 器高: 4.0 底径: -	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・礫	良好	95%	橙 (7.5YR6/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ・ナデ
3	土師器 高環	口径: - 器高: (7.7) 底径: -	白色粒子・石英	良好	20%	にぶい赤褐 (2.5YR4/4)	外面縦位ミガキ・赤彩
4	土師器 埴	口径: 10.8 器高: 9.5 底径: 1.8	白色粒子・赤色粒子・ 雲・石英・礫	良好	99%	にぶい黄緑 (10YR6/3)	口縁部外面横位ナデ、頸部外面ハケ、 胴部外面ヘラナデ・ナデ、口縁部内面 ミガキ、胴部内面ナデ
5	土師器 甕	口径: 19.6 器高: 34.4 底径: 8.6	白色粒子・石英・礫	良好	90%	橙 (7.5YR6/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、 内面ヘラナデ・ナデ
6	土師器 甕	口径: (15.0) 器高: (5.8) 底径: -	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・石英	良好	5%	明赤褐 (5YR5/6)	口縁部外面横位ナデ、頸部外面縦位ミ ガキ、内面横位ナデ
7	土師器 甕	口径: - 器高: (9.1) 底径: 6.2	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・石英・ 礫	良好	5%	にぶい黄緑 (10YR5/3)	外面斜位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ ナデ
図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
8	硯か	凝灰岩	<7.2>	<6.8>	1.2	67.9	長方形。大きく欠損。表は硬の丘部でふち。一部は 残るか他はほとんど欠損しているもの、痕跡が残 る。その後削みが入る。砥石として使用か。
9	砥石	凝灰岩	<2.9>	4.1	1.4	23.4	上部欠損。上部面以外は非常に平滑。上端部には幅 0.1cmの溝。裏面とも幅0.15cmの溝が入る。
10	磨石・砥石	片麻岩	11.6	8.6	6.0	814.4	自然礫を使用し、上下端・右側先端部が敲打により やや平坦になっている。裏面中央は平滑になってお り、磨石として使用された面。



第38図 14号竪穴建物跡出土遺物

第14表 14号竪穴建物跡出土遺物観察表

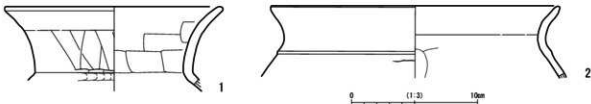
図取番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 環	口径：13.8 器高：4.3 底径：-	白色粒子・雲・石英・礫	良好	100%	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ
2	土師器 用	口径：- 器高：(6.1) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲	良好	20%	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	外面ミガキ・ヘラナデ、内面ヘラナデ・ナデ



第39図 12号竪穴建物跡

SI12

1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり、ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く含む。
2. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量に含む。
3. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量に含む。



第40図 12号竪穴建物跡出土遺物

第15表 12号竪穴建物跡出土遺物観察表

図取番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径：(17.4) 器高：(6.8) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・礫	良好	5% 未満	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	口縁部外面横位ナデ、頸部外面斜位ヘラナデ・指押え。頸部内面横位ヘラナデ
2	土師器 甕	口径：(23.0) 器高：(5.8) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・チャ・石英	良好	5% 未満	褐色 (7.5YR6/6)	口縁部内外面横位ナデ、頸部内面指押え

#### 12号竪穴建物跡 (第39・40図・第15表)

平面位置 AI-22・23

重複関係 18号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は18号竪穴建物跡に切られて西壁付近が検出された。長軸2.47m以上、短軸0.45m以上、深さ0.4mを測る。床は検出されていないが、壁は急角度で立ち上がる。壁沿いに周溝が検出されている。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、縄文時代前期の繊維土器、興津式土器、土師器甕、高坏、埴、瓦質土器、砂岩、チャート、片麻岩、泥岩、アブライトの礫片などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代と推定される。

#### 15号竪穴建物跡 (第41～43図・第16表)

平面位置 AI-24・25・AH-25

重複関係 14・16号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は、床面、南壁と東壁の一部が検出された。長軸2.92m以上、短軸1.64m以上、深さ0.17mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されなかったが北東側の床面で検出された土師器内に焼土が検出されたことから火を焚いた可能性がある。ピットは床面南東から主柱穴が1基検出されている。覆土は褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕(単口縁、刷毛調整)、焼成粘土塊、須恵器坏蓋模倣の坏、埴、縄文時代前期の繊維土器、興津式土器、凝灰岩製の石鏃、泥岩、花崗岩製の礫片などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

#### 16号竪穴建物跡 (第41・42・44・45図・第17表)

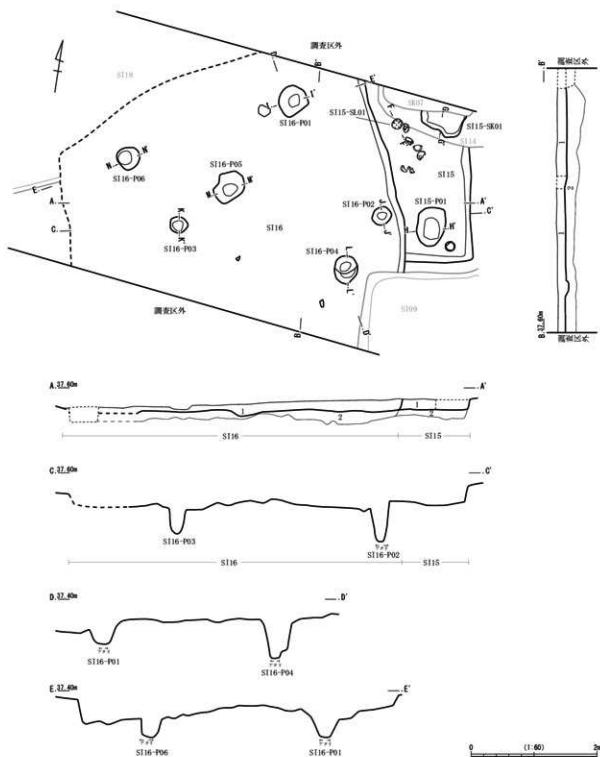
平面位置 AH・AI-23～25

重複関係 9号竪穴建物跡より古く、15・18号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は、床面と東壁の一部が検出され、長軸5.75以上m、短軸4.11以上m、深さ0.27mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、掘り方は浅いが壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。ピットは6基検出され、内3基(1・4・6号ピット)が主柱穴であると思われる。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕(単口縁、刷毛調整)、須恵器坏蓋模倣の坏、高坏、焼成粘土塊、須恵器甕、壺、縄文時代前期の諸磯式、興津式土器、弥生時代後期の十王台式土器、鉄製品、チャート製の微細剥離された剥片、頁岩製の石鏃未製品、砂岩製の敲石、石皿+敲石+磨石、凝灰岩製の砥石、砂岩製礫、砂岩、泥岩、凝灰岩、片岩、石英の礫片などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



SI15

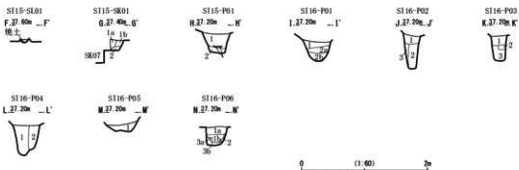
1. 褐色土 10TR4/4 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
2. 褐色土 10TR4/6 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。

SI16

1. 黒褐色土 10TR2/3 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10\sim 100\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く、植土 ( $\phi 3\sim 15\text{mm}$ ) を部分的に少量含む。
2. 黄褐色土 10TR5/6 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量、炭化物 ( $\phi 3\sim 15\text{mm}$ ) を部分的に少量含む。

第41図 15・16号竪穴建物跡(1)





#### SI15-SI01

1. 明赤褐色土・黒褐色土 DYS5/6+10YR2/2 締り強い、粘性なし。焼土を全体に多量に含む。

#### SI15-SK01

- 1a. にごい黄褐色土 10YR3/3 締りあり、粘性なし。粘土（ $\sim 60\mu\text{m}$ ）を部分的に多量、ロームブロック（ $\phi 5\sim 10\text{mm}$ ）を部分的に微量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ）を全体に微量に含む。
- 1b. 暗褐色土 10YR3/3 締りあり、粘性なし。ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ）を部分的に微量、ロームブロック（ $\phi 10\sim 15\text{mm}$ ）を部分的に微量、焼土（ $\phi 1\sim 3\text{mm}$ ）を含む。粘土を含む。
2. 褐色土 10YR4/4 締り強い、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を全体に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ）を全体に多く含む。

#### SI15-P01

1. 黒褐色土 10YR2/2 締りなし、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に微量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ）を全体に微量に含む。
2. 褐色土 10YR4/6 締り強い、粘性あり。ロームブロック（ $\phi 10\sim 30\text{mm}$ ）を全体に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ）を全体に多量に含む。

#### SI16-P01

- 1a. にごい黄褐色土 10YR3/3 締りあり、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 50\text{mm}$ ）を部分的に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ）を全体に微量に含む。
- 2a. 暗褐色土 10YR3/2 締りなし、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に微量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ）を全体に微量に含む。
- 2b. 暗褐色土 10YR3/3 締りあり、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 30\text{mm}$ ）を部分的に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ）を全体に少量含む。

#### SI16-P02

1. 褐色土 10YR4/4 締り強い、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を全体に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ）を全体に多く含む。
2. 暗褐色土 10YR3/2 締りなし、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ）を全体に微量に含む。
3. にごい黄褐色土 10YR3/3 締りあり、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ）を全体に多く含む。

#### SI16-P03

1. 暗褐色土 10YR3/2 締りなし、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に微量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ）を全体に少量含む。
2. 暗褐色土 10YR3/2 締りなし、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ）を全体に微量に含む。
3. 暗褐色土 10YR3/4 締りあり、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を全体に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ）を全体に少量含む。

#### SI16-P04

1. 暗褐色土 10YR3/2 締りなし、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ）を全体に微量に含む。
2. 灰黄褐色土 10YR4/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を全体に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ）を全体に多く含む。

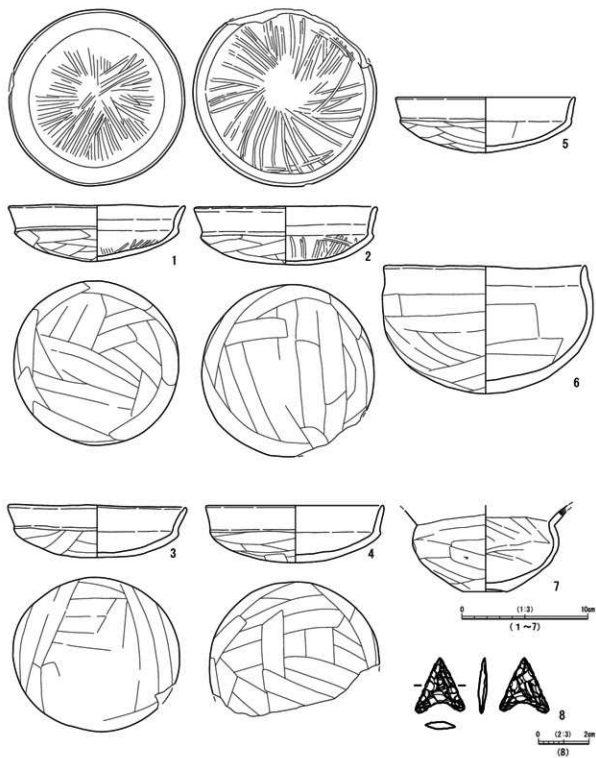
#### SI16-P05

1. 暗褐色土 10YR3/3 締りなし、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ）を全体に微量含む。

#### SI16-P06

- 1a. 暗褐色土 10YR3/2 締りあり、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に微量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ）を全体に少量含む。
- 1b. 暗褐色土 10YR3/1 締りなし、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に微量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ）を全体に微量に含む。
2. 暗褐色土 10YR3/4 締りあり、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を全体に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ）を全体に多く含む。
- 3a. 灰黄褐色土 10YR4/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を全体に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ）を全体に多く含む。
- 3b. にごい黄褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を全体に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ）を全体に少量含む。

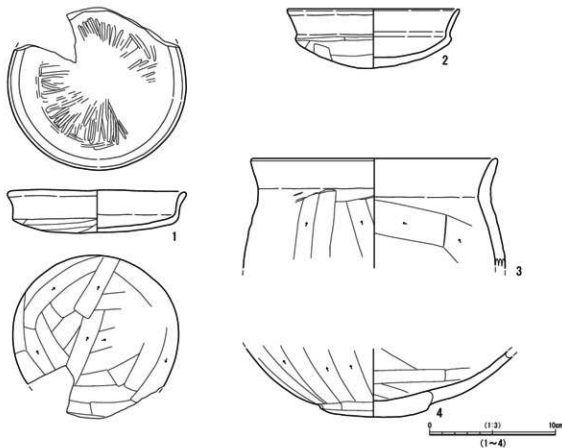
第42図 15・16号竪穴建物跡（2）



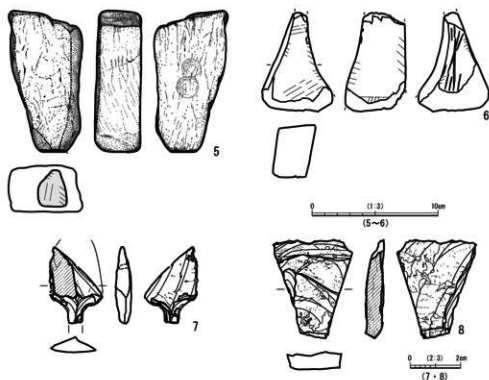
第43图 15号竖穴建物跡出土遺物

第16表 15号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 杯	口径：13.8 器高：4.5 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英・礫	良好	99%	にぶい赤褐 (5YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面放射状ミガキ
2	土師器 杯	口径：14.2 器高：4.6 底径：-	白色粒子・赤色粒子・ 礫	良好	90%	灰褐 (7.5YR4/2)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面放射状端文
3	土師器 杯	口径：14.0 器高：4.2 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英・礫	良好	99%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ
4	土師器 杯	口径：13.8 器高：4.5 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 雲・石英・礫	良好	55%	橙 (7.5YR6/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ
5	土師器 杯	口径：(14.0) 器高：4.4 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・礫	良好	55%	にぶい褐 (7.5YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
6	土師器 鉢	口径：15.8 器高：10.2 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 雲・石英・礫	良好	70%	明赤褐 (5YR5/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面上位横位ヘラケズリ・下位斜位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
7	土師器 埴	口径：- 器高：(6.9) 底径：3.4	白色粒子・黒色粒子・ 礫	良好	30%	橙 (7.5YR6/6)	外面横位・斜位ハケ、内面ヘラナデ・ナデ
図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
8	石鏃	凝灰岩	1.8	1.7	0.3	0.8	凹基無茎で無辺は直線状。非常に細かい調整が施される。



第44図 16号竪穴建物跡出土遺物(1)



第45図 16号竪穴建物跡出土遺物(2)

第17表 16号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 坏	口径:14.0 器高:3.4 底径:-	白色粒子・雲・石英・礫	良好	90%	にぶい濁 (7.5YR5/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ・ナデ
2	土師器 坏	口径:13.6 器高:4.8 底径:-	白色粒子・赤色粒子・石英・礫	良好	30%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ
3	土師器 甕	口径:(19.2) 器高:(8.7) 底径:-	白色粒子・黒色粒子・チャ・石英・礫	良好	5%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
4	土師器 甕	口径:- 器高:(5.3) 底径:8.2	白色粒子・赤色粒子・石英・礫	良好	5%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
5	凹石・敲石・磨石	砂岩	11.2	5.8	3.6	469.8	基本自然石の形を利用。下部端部は平らで薄ら。角は丸みあり。敲打痕はみることができなかったが、磨いているからか。裏面中央に浅いが二つ並んだ凹みあり。
6	砥石	凝灰岩	<7.7>	<5.6>	<4.8>	186.4	上下部欠損。下部は風化でもろくなっている。全体に使われており、裏面はV字状の形みが複数みられる。古代か。
7	石鏝未製品	頁岩	<3.2>	1.8	0.6	2.8	凸基有茎の未製品で茎部から基部にかけての成形後、上部欠損。風化著しい。
8	微細剥離された剥片	チャート	4.2	2.9	0.7	8.7	側縁部は節理面。上部に微細な剥離が施されている。

19号竪穴建物跡 (第46・47図・第18表)

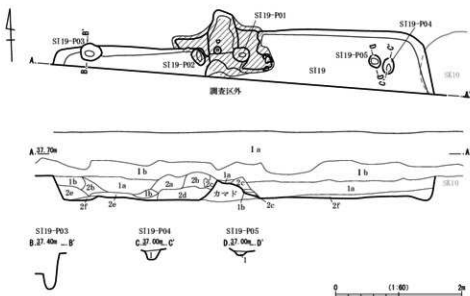
平面位置 AI-18~20

重複関係 10号土坑より新しい。

**遺構形態** 遺構は床面の一部と北壁、西壁と東壁の一部が検出された。長軸6.05 m以上、短軸1.33 m以上、深さ0.39 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は北竈で両袖が検出されたが、シルト質土を母材として、部分的に泥岩製の構架材を使用している。竈の床面は煙出し口に向かい階段状で、覆土は焼土で充填されている。床面に焼成を受けた痕跡は確認できない。ピットは5基確認されているが支柱穴はない。覆土は黒褐色土を主体とした自然堆積層である。

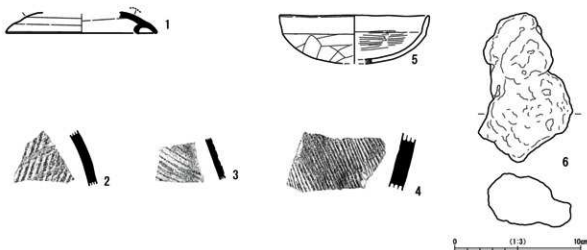
**遺物** 出土遺物は、土師器甕(単口縁、常陸型)、焼成粘土塊、須恵器坏蓋模倣の坏、埴、須恵器甕、壺、坏、瀬戸焼の碗、砂岩、片岩製の礫片などである。

**時期** 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



SI19	1a. 暗褐色土	10YR2/4	締りあり、粘性あり。ロームブロック(φ10~20mm)を全体に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量、粘土(φ1~3mm)を部分的に微量に含む。
	1b. 黒褐色土	10YR2/3	締りあり、粘性なし。ロームブロック(φ10~20mm)を全体に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を部分的に微量に含む。
	2a. 黒褐色土	10YR3/2	締りあり、粘性なし。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に微量に含む。
	2b. 黒褐色土	10YR3/2	締りあり、粘性なし。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
	2c. 灰黄褐色土	10YR4/2	締り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に微量、粘土(φ10~20mm)を全体に多く、粘土(φ1~3mm)を全体に少量含む。
	2d. 灰黄褐色土	10YR4/2	締りあり、粘性なし。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に微量に含む。
	2e. 焼灰土	10YR4/1	締り強い、粘性なし。粘土(φ30~50mm)を全体に多量に含む。
	2f. 褐色土	10YR4/4	締りあり、粘性なし。ロームブロック(φ10~20mm)を全体に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
SI19-P04	1. 褐色土	10YR4/4	締り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~20mm)を全体に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
SI19-P05	1. 褐色土	10YR4/4	締り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~20mm)を全体に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。

第46図 19号竪穴建物跡



第 47 図 19号竪穴建物跡出土遺物

第 18 表 19号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種類・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器蓋	口径:- 器高:(1.8) 底径:(12.0)	白色粒子	良好	5%未満	灰(7.5Y5/1)	内外面ロクゴナテ、頂部回転ヘラケズリ、返しを持つ
2	須恵器襖	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子	良好	5%未満	灰(5Y6/1)	外面平行線状タタキ、内面ナデ
3	須恵器襖	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子	良好	5%未満	濁灰(10YR6/1)	外面平行線状タタキ、内面ナデ
4	須恵器襖	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・石英	良好	5%未満	灰(N5/0)	外面平行線状タタキ、内面ナデ
5	土師器坏	口径:(11.6) 器高:(3.9) 底径:-	白色粒子・赤色粒子・石英	良好	10%	にぶい黄橙(10YR7/4)	口縁部外面傾位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ・ナデ
6	土製品 焼成粘土塊	長さ:11.8 幅:7.4 厚さ:4.2	白色粒子・赤色粒子・雲・礫	良好	100%	にぶい黄橙(10YR7/3)	凹凸があり摩滅が激しい

20号竪穴建物跡 (第48～51図・第19表)

平面位置 AH・AI-21～23

重複関係 23・31～33号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は床面と北壁、西壁と東壁の一部が検出された。平面形は隅丸方形を呈し、主軸はやや北北西に傾く。長軸4.66m以上、短軸4.45m、深さ0.27mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は北竈でやや東よりに位置している。竈の構築材はシルト質土を母材とし、部分的に泥岩の構築材を天盤に使用している。竈内の床面に燃焼部は形成されていないが、竈内の天井では部分的に焼土が堆積し焼成を受けている。北東床面に楕円形の土坑が1基検出されているが、ピットは検出されていない。31号竪穴建物跡と遺構の主軸・壁溝の位置が一致するため、31号竪穴建物跡の建て替えと考えられる。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕(単口縁、刷毛調整)、須恵器坏蓋模倣の坏、高坏、須恵器甕、蓋、坏、チャート製の小形磨石、片麻岩製の敲石+磨石、片岩製の敲石+磨石、凝灰岩製の砥石、泥岩

製の竈構築材、砂岩、アブライト、砂岩製の礫、片岩、泥岩、花崗岩、石英製の礫片などである。  
 時期 古墳時代後期と推定される。

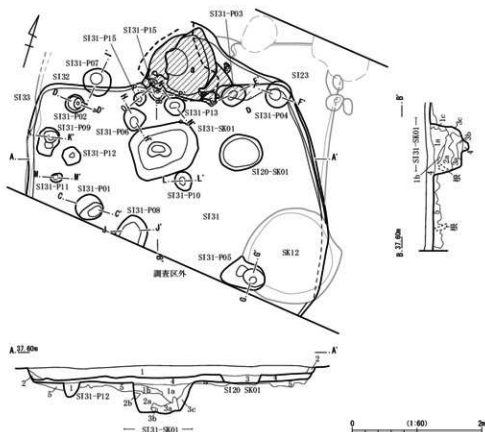
### 31号竪穴建物跡 (第48～50・52図・第20表)

平面位置 AH・A Iー21～23

重複関係 20号竪穴建物跡、12号土坑より古く、32・33号竪穴建物跡より新しい。

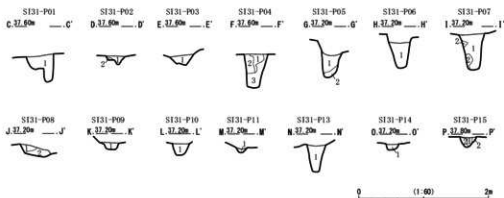
遺構形態 遺構は床面の一部と北壁、西壁と東壁の一部が検出した。長軸4.66m以上、短軸4.45m、深さ0.19mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は掘り方が浅いが急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。土坑は中央北壁寄りの床面から隅丸長方形の形状で1基検出される。ピットは15基検出されたが主柱穴はない。本住居の建替えと推定される20号竪穴建物跡の構築により、覆土は確認されていない。

遺物 出土遺物は、土師器甕(単口縁、ハケ目、赤彩)、器台、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、甗、須恵器蓋、高坏、縄文時代前期、中期、後期の土器片、チャート製の二次加工石器、砂岩、片麻岩、片岩製の礫片などである。



- S120・31
1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。炭化物(φ1～20mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10～50mm)を部分的に多く、ローム粒子(φ0.5～10mm)を全体に多く、覆土(φ1～15mm)を含む。
  2. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子(φ0.5～10mm)を全体に多く含む。
  3. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロック(φ10～50mm)を部分的に多く、ローム粒子(φ0.5～10mm)を部分的に微量を含む。
  4. 褐色土 10YR4/6 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5～10mm)を全体に多量を含む。
  5. 褐色土 10YR4/4 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5～10mm)を全体に少量含む。

第48図 20・31号竪穴建物跡(1)



SI31-S01

- 1a. 黒褐色土 10W2/2 締り強い、粘性なし。炭化物 ( $\phi 3 \sim 5$ mm) を部分的に微量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20$ mm) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多く、粘土 ( $\phi 10 \sim 20$ mm) を部分的に少量含む。
- 1b. 暗褐色土 10W3/4 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量に含む。
- 1c. 濃い黄褐色土 10W4/3 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20$ mm) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多く、粘土 ( $\phi 10 \sim 20$ mm) を部分的に少量含む。
- 2a. 濃い黄褐色土 10W4/3 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量に含む。
- 2b. 褐色土 10W4/4 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量に含む。
- 3a. 黒褐色土 10W3/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20$ mm) を全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量、粘土 ( $\phi 10 \sim 30$ mm) を部分的に少量含む。
- 3b. 黒褐色土 10W3/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20$ mm) を全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多く含む。
- 3c. 暗褐色土 10W3/4 締り強い、粘性なし。炭化物 ( $\phi 1 \sim 5$ mm) を部分的に微量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20$ mm) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量に含む。
4. 褐色土 10W4/4 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量に含む。
5. 黒褐色土 10W3/2 締り強い、粘性なし。炭化物 ( $\phi 1 \sim 5$ mm) を部分的に微量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量、粘土 ( $\phi 1 \sim 10$ mm) を部分的に微量に含む。

SI31-P01

1. 黒褐色土 10W2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20$ mm) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に、粘土 ( $\phi 1 \sim 2$ mm) を部分的に微量、白色粒子 ( $\phi 1 \sim 2$ mm) を全体に微量に含む。

SI31-P02

1. 黒褐色土 10W2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20$ mm) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に少量含む。
2. 暗褐色土 10W3/4 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量に含む。

SI31-P03

1. 黒褐色土 10W2/2 締り強い、粘性なし。炭化物 ( $\phi 3 \sim 5$ mm) を部分的に微量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 30$ mm) を、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10$ mm) を、粘土 ( $\phi 3 \sim 10$ mm) を部分的に微量に含む。

SI31-P04

1. 黒褐色土 10W2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20$ mm) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多く、粘土 ( $\phi 1 \sim 5$ mm) を全体に少量、シルトを部分的に多量に含む。
2. 黒褐色土 10W2/3 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量に含む。
3. 褐色土 10W4/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量に含む。

SI31-P05

1. 黒褐色土 10W2/3 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 30$ mm) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に少量含む。
2. 褐色土 10W4/4 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量に含む。

SI31-P06

1. 黄褐色土 10W5/6 締りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量に含む。

SI31-P07

1. 黒褐色土 10W2/2 締り強い、粘性なし。粘土を部分的に、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量に含む。
2. 黒褐色土 10W2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20$ mm) を全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多く含む。

SI31-P08

1. 暗褐色土 10W3/3 締り強い、粘性あり。粘土を全体に多量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量に含む。
2. 褐色土 10W4/4 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量に含む。

SI31-P09

1. 黒褐色土 10W2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 50$ mm) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量、粘土 ( $\phi 1 \sim 5$ mm) を含む。

第 49 図 20・31 号竖穴建物跡 (2)



SI31-P10

1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ) を部分的に、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。

SI31-P11

1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。炭化物 ( $\phi 1\sim 5\text{mm}$ ) を部分的に少量、ロームブロック ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く、焼土 ( $\phi 1\sim 5\text{mm}$ ) を部分的に少量含む。

SI31-P12

1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。

SI31-P13

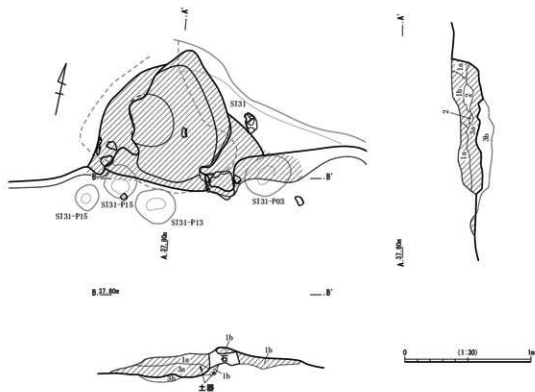
1. 褐色土 10YR4/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。

SI31-P14

1. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。

SI31-P15

1. 色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。



SI20-カマド

1a. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、ロームブロック ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量、焼土 ( $\phi 1\sim 15\text{mm}$ ) を全体に少量含む。

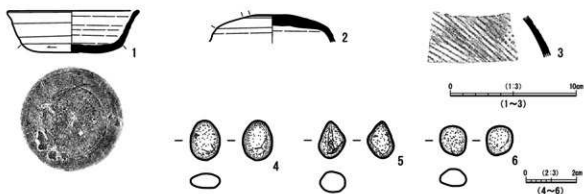
1b. 暗褐色土 10YR3/4 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、焼土を全体に多量、ロームブロック ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。

2. 明赤褐色土 5YR5/6 締り強い、粘性なし。焼土を全体に多量含む。

3a. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多く、ロームブロック ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く、焼土 ( $\sim \phi 30\text{mm}$ ) を全体に多く含む。

3b. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。シルトを全体に少量、ロームブロック ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ) を部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く、焼土 ( $\phi 1\sim 5\text{mm}$ ) を部分的に少量含む。

第50図 20・31号竪穴建物跡(3)



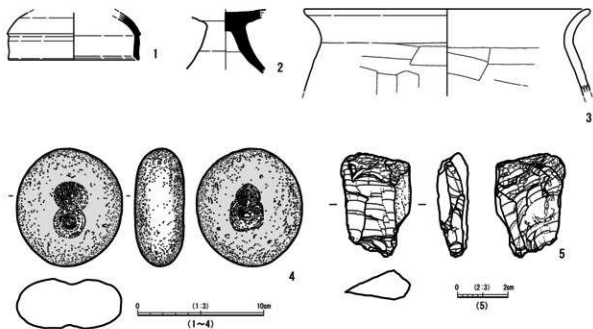
第51図 20号竪穴建物跡出土遺物

第19表 20号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 坏	口径: 10.2 器高: 3.3 底径: 5.7	白色粒子・黒色粒子・礫	良好	70%	褐灰 (7.5YR5/1)	内外面ロクロナデ、底部外面回転ヘラケズリ
2	須恵器 蓋	頂径: 4.2 器高: (2.1) 底径: -	白色粒子・礫	良好	5% 未満	黄灰 (2.5Y6/1)	内外面ロクロナデ、頂部回転ヘラケズリ
3	須恵器 鉢	口径: - 器高: - 底径: -	白色粒子・石英・礫	良好	5% 未満	灰 (N5/0)	外面平行線状タタキ、内面ナデ

図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
4	磨石	チャート	1.3	1.1	1.0	1.2	楕円形で、全体に平滑で光沢あり。
5	磨石	チャート	1.5	1.0	0.8	1.6	楕円形で、全体に平滑で光沢あり。
6	磨石	チャート	1.6	1.2	0.6	1.7	楕円形で、全体に平滑で光沢あり。



第52図 31号竪穴建物跡出土遺物

第20表 31号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器蓋	口径:- 器高:(3.7) 底径:胴径(10.2)	白色粒子・黒色粒子	良好	5%未調	灰(N5/O)	内外面ナデ、外面上部回転ヘラケズリ
2	須恵器高坏	口径:- 器高:(4.8) 底径:-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	20%	灰(N6/O)	内外面ロクロナデ
3	土師器甕	口径:(22.4) 器高:(7.0) 底径:-	白色粒子・黒色粒子・雲・石英・礫	良好	5%	にぶい黄褐色(10YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面上位横位ヘラケズリ・下位横位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
4	磨石・凹石	安山岩	9.2	8.4	3.9	439.7	円形の石で、表裏に平滑面が広がり、中央タテ方向に二つの凹が重なり合っている。
5	両極刺鎌石器	チャート	4.3	2.9	1.2	13.3	両極技法により上下方向からの調整が施される。

21号竪穴建物跡 (第53～55図・第21表)

平面位置 AH-17・18

重複関係 22・24号竪穴建物跡より新しい

**遺構形態** 遺構は部分的に床面と北壁、東壁の一部が検出された。長軸3.05m以上、短軸2.19m以上、深さ0.37mを測る。床はほぼ平坦で、壁は急角度で立ち上がる。竈は北竈で、両袖が検出された。シルト質土を母材として、部分的に泥岩の構架材を使用している。内部の使用面は焼成を受けてない。竈内の覆土からは炭化米 16.92g (乾燥重量) が出土した。ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土、暗褐色土などの自然堆積層である。

**遺物** 出土遺物は、土師器甕(単口縁)、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、須恵器甕、蓋、坏の破片、縄文時代前期、中期の土器片、メノウ製の火打石、凝灰岩製の磨製石器、多孔質安山岩製の凹石+磨石+敲石、砂岩、花崗岩、泥岩、片麻岩、アブライト製の礫片などである。

**時期** 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

22号竪穴建物跡 (第53・56図・第22表)

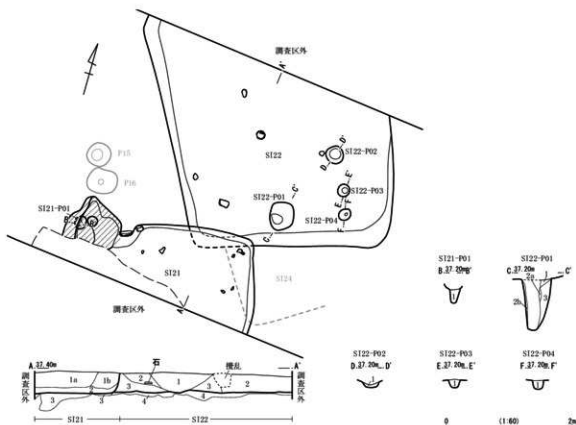
平面位置 AI・AJ-17・18

重複関係 21号竪穴建物跡より古く、24号竪穴建物跡より新しい。

**遺構形態** 遺構は部分的に床面と西壁と南壁、東壁の一部が検出された。長軸4.43m以上、短軸3.49m以上、深さ0.33mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。ピットは4基検出されているが、主柱穴はない。覆土は黒褐色土を主体とした自然堆積層である。

**遺物** 出土遺物は、土師器甕(単口縁)、須恵器坏蓋模倣の坏、須恵器坏の破片、縄文時代前期、中期の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、片麻岩製の敲石、砂岩、片麻岩製の礫、砂岩、泥岩、石英、凝灰岩の礫片などである。

**時期** 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



#### SI21

- 1a. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性あり、ロームブロック ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に微量に含む。  
 1b. 暗褐色土 10YR3/4 締り強い、粘性あり、ロームブロック ( $\phi 30\sim 50\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。  
 2. 灰黄褐色土 10YR4/2 締りあり、粘性なし、ロームブロック ( $\phi \sim 60\text{mm}$ ) を部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に微量に含む。  
 3. に近い黄褐色土 10YR4/3 締り強い、粘性あり、ロームブロック ( $\phi 10\sim 15\text{mm}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量、焼土 ( $\phi 5\sim 6\text{mm}$ ) を部分に微量に含む。

#### SI21-P01

1. 黒色土 10YR2/1 締りあり、粘性なし、ロームブロック ( $\phi 5\sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に微量に含む。

#### SI22

1. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性あり、ロームブロックを全体に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に微量、焼土 ( $\phi 1\sim 3\text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。  
 2. 黒褐色土 10YR3/1 締りあり、粘性あり、ロームブロック ( $\phi 10\text{mm}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に微量、焼土 ( $\phi 1\sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。  
 3. 暗褐色土 10YR3/4 締りあり、粘性あり、ロームブロック ( $\phi 5\sim 15\text{mm}$ ) を全体に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。  
 4. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性あり、ロームブロック ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ) を全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。  
 1. 暗褐色土 10YR3/4 締りあり、粘性なし、ロームブロック ( $\phi 7\sim 10\text{mm}$ ) を部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。  
 2a. 褐色土 10YR4/4 締り強い、粘性なし、ロームブロック ( $\phi 10\text{mm}$ ) を全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。  
 2b. 褐色土 10YR4/4 締り強い、粘性なし、ロームブロック ( $\phi 5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。  
 3. 黄褐色土 10YR5/6 締りあり、粘性なし、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を含む。

#### SI22-P02

1. 黒褐色土 10YR2/3 締りあり、粘性なし、ロームブロック ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ) を全体に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に微量に含む。

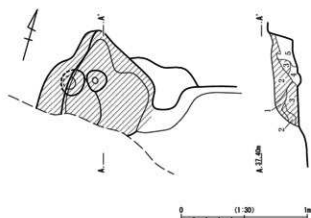
#### SI22-P03

1. 黒褐色土 10YR3/1 締り強い、粘性なし、ロームブロック ( $\phi 10\sim 15\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に微量に含む。

#### SI22-P04

1. に近い黄褐色土 10YR4/3 締り強い、粘性なし、ロームブロック ( $\phi 10\sim 15\text{mm}$ ) を部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。

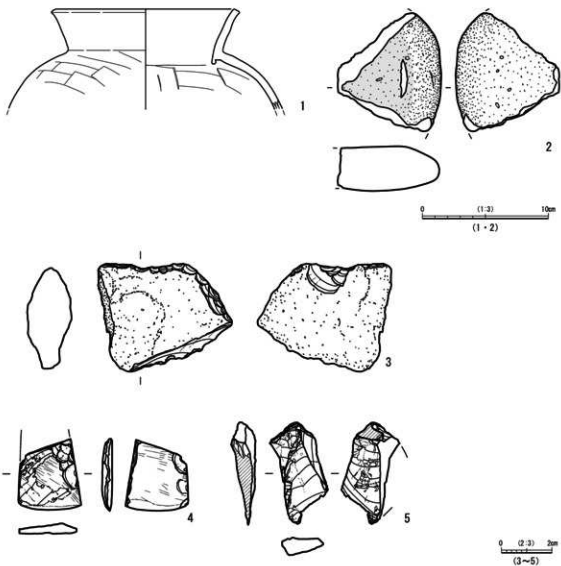
第53図 21・22号竪穴建物跡(1)



SI21-カマド

1. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多く、炭化物(φ1~3mm)を全体に少量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、焼土(φ1~10mm)を部分的に少量含む。
2. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし。焼土(φ1~10mm)、ローム粒子(φ0.5~10mm)、シルト(φ1~10mm)を全体に含む。
3. 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多く、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に、焼土(φ2~50mm)を全体に多く含む。
4. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。シルトを部分的に少量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量、焼土を含む。
5. 褐色土 10YR4/4 締り強い、粘性あり。白色粒子(φ1~2mm)、炭化物(φ1~5mm)を部分的に少量、ロームブロック、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量、焼土(φ1~5mm)を部分的に微量に含む。

第54図 21号竪穴建物跡(2)



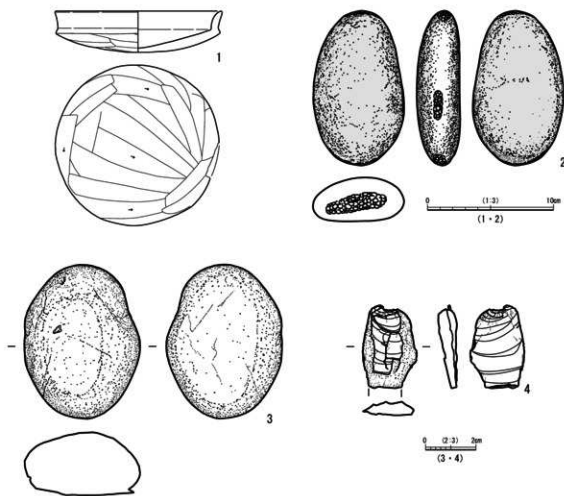
第55図 21号竪穴建物跡出土遺物

第21表 21号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径：(14.0) 器高：(8.1) 底径：	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面斜位ヘラ ケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
2	石皿	多孔質安山岩	9.3	8.3	3.5	307.8	大きく欠損。円形か？表面はなだらかで中央部は浅い皿状で平滑。
3	火打石	メノウ	4.3	5.4	2.0	41.4	上・右側・縁辺部に連続する細かな剥離が連なる。下部は折断面にやや連続する剥離が連なる。表・裏では交互というわけでない。全体に被熱し、鈍くにごり、ややもろい。
4	磨製石器	凝灰岩	3.2	2.7	0.4	3.8	上部欠損。もとの形のものから剥落した部分で、再研磨したもの。非常に薄手。
5	刺片	チャート	<4.0>	<1.8>	0.9	4.9	打点は表面上部の調整により消失。



第56図 22号竪穴建物跡出土遺物

第22表 22号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 杯	口径：13.0 器高：3.3 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・塵	良好	99%	赤褐(2.5YR4/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ
図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
2	磨石・敲石	片麻岩	12.1	7.2	3.5	482.6	上下・下端部に敲打痕、右側縁の一部にも敲打痕あり。表・裏面とも広い平滑面あり。そのあとに敲打が行われている。
3	磨石	石英	6.1	4.7	2.3	94.2	全体に滑らか。
4	刺片	チャート	3.4	2.2	0.7	4.5	下部を欠損。打点をもった縦長刺片。赤色チャート。

23号竪穴建物跡（第57・58図・第23表）

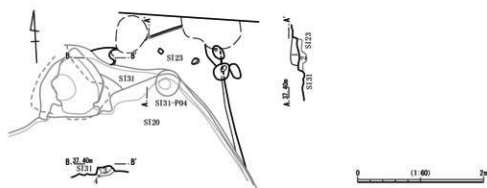
平面位置 AI-22・23

重複関係 20号竪穴建物跡より古く、12号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は床面の一部と北壁、東壁の一部が検出された。長軸2.42m以上、短軸1.96m以上、深さ0.14mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は北竈で右袖の構築材の一部が検出されている。ピットは検出されていない。覆土は暗褐色土を主体とした自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕、須恵器杯蓋模倣の杯、須恵器甕、砂岩製の凹石＋敲石＋磨石、チャート製の磨石などである。

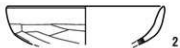
時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



SI23

1. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし。シルトを部分的に多く、ロームブロック(φ10~30mm)を部分的に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、焼土を部分的に多く含む。
2. 暗褐色土 10YR3/4 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
3. 暗黄褐色土 10YR7/6 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、焼土(φ1~5mm)を部分的に少量含む。
4. 暗褐色土 10YR3/4 締り強い、粘性なし。焼土(φ1~10mm)を全体に少量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。

第57図 23号竪穴建物跡



第 58 図 23 号竪穴建物跡出土遺物

第 23 表 23 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5% 未満	灰 (N6/O)	外面平行線状タタキ、内面ナデ
2	土師器 坏	口径:(12.2) 器高:(3.0) 底径:-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・礫	良好	20%	橙 (7.5YR7/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ

#### 24 号竪穴建物跡 (第 59～61 図・第 24 表)

平面位置 AJ-18・19、AI-17～19

重複関係 21・22 号竪穴建物跡より古く、25 号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は床面の一部と南壁の一部が検出された。長軸 4.85 m 以上、短軸 2.73 m 以上、深さ 0.27 m を測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。ピットは 4 基検出されたが、主柱穴はない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕（単口縁、ハケ目）、手づくね土器、須恵器坏蓋模倣の坏、鉢、須恵器甕の破片、ロクロ整形の土師器坏破片、縄文時代前期、中期の土器片、弥生時代中期の龍門寺式、後期の十王台式の土器片、砂岩製の凹石 + 敲石 + 磨石、チャート製の磨石、片岩製の敲石、砂岩製の凹石、砂岩、凝灰岩製の礫、砂岩、片麻岩、片岩、橄欖岩、石英などの礫片などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

#### 25 号竪穴建物跡 (第 59・62 図・第 25 表)

平面位置 AI-18・19

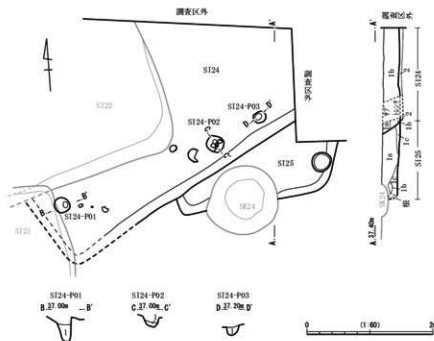
重複関係 24 号竪穴建物跡、24 号土坑より古い。

遺構形態 遺構は床面の一部と南壁、西壁と東壁の一部が検出された。長軸 2.68 m 以上、短軸 1.17 m 以上、深さ 0.28 m を測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。ピットは 1 基検出されたが、主柱穴ではない。覆土は黒褐色土を主体とした自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕（単口縁、ハケ目調整、有段口縁）、須恵器坏蓋模倣の坏、須恵器甕、坏の破片、ロクロ整形の土師器坏の破片、縄文時代前期、中期の土器片、片岩製の礫片などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期末から後期初頭と推定される。





SI24

- 1a. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に少量含む。  
 1b. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 70\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に含む。  
 2. 褐色土 10YR4/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。

SI24-P01

1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多く含む。

SI24-P02

1. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。

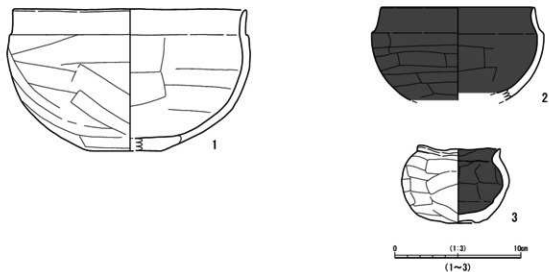
SI24-P03

1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。

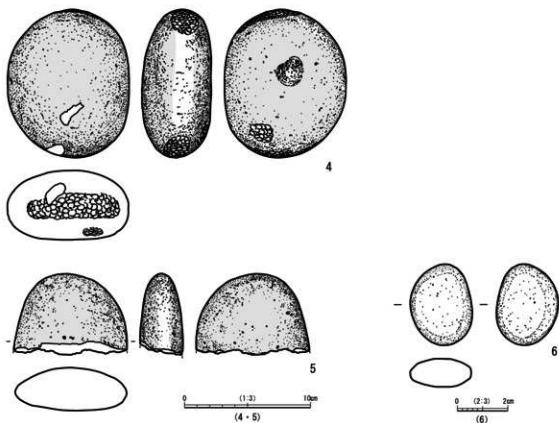
SI25

- 1a. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多く、焼土（ $\phi 3\sim 5\text{mm}$ ）を部分的に少量含む。  
 1b. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多く含む。  
 1c. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 50\text{mm}$ ）を全体に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。

第59図 24・25号堅穴建物跡



第60図 24号堅穴建物跡出土遺物（1）



第61図 24号竪穴建物跡出土遺物(2)

第24表 24号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 鉢	口径: 18.4 器高: 11.3 底径: 5.6	白色粒子・雲・石英・礫	良好	45%	赤褐 (2.5YR4/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面斜位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
2	土師器 鉢	口径: (12.0) 器高: (7.4) 底径: -	白色粒子・赤色粒子・雲・石英	良好	10%	暗赤褐 (5YR3/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面横位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
3	土師器 ミニチュア	口径: 6.2 器高: 6.2 底径: 2.2	白色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	90%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	内外面ヘラナデ・ナデ、内面全体に煤付着
図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
4	磨石・砥石・凹石	砂岩	11.6	9.7	5.5	924.0	表は丸みを持ち、表はやや平坦。広い平滑面を持つ。上・下端部は砥打痕あり。裏面下方に磨り面の中に砥打痕、中央に浅いくぼみあり。
5	磨石	砂岩	<6.4>	<9.0>	<3.4>	259.4	扁平な磨石で、大きく欠損している。平滑面は表裏に大きく広がり、かなりよく使用されている。
6	磨石	チャート	3.3	2.4	1.1	12.9	楕円形で全体に滑らか。側縁部に面状に研磨痕が複数みられる。



第62図 25号竪穴建物跡出土遺物

第25表 25号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 杯	口径:- 器高:(1.6) 底径:(7.2)	白色粒子・霰	良好	5%未満	灰(SV6/I)	内外面ロクロナデ、底部外面回転ヘラケズリ

### 27 竪穴建物跡 (第63図)

平面位置 AJ-12・13

重複関係 28・29号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は床面の一部と北壁と東壁の一部が検出された。長軸4.03m以上、短軸3.55m以上、深さ0.22mを測る。床はほぼ平坦で、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。ピットは1基検出されているが、主柱穴はない。覆土は暗褐色土、黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕(ハケ目、赤彩)、坏、赤彩の埴、須恵器甕の破片、ロク口整形内面黒色処理の土師器坏、高台付坏、縄文時代前期、中期の土器片、弥生時代中期の龍門寺式、後期の十王台式の土器片、片岩製の凹石+台石、砂岩製の敲石、砂岩製の礫片などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

### 28号竪穴建物跡 (第63・64図・第26表)

平面位置 AJ-13・14

重複関係 27・29号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は床面の一部が検出された。長軸2.07m以上、短軸1.76m以上、深さ0.14mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがある。竈は検出されていない。ピットは1基検出されているが、主柱穴ではない。覆土は暗褐色土と灰黄褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕(単口縁、平底、有段口縁平底)の破片、砂岩製の台石+敲石、アブライトの礫片などである。

時期 古墳時代中期と推定される。

### 29号竪穴建物跡 (第63・65図・第27表)

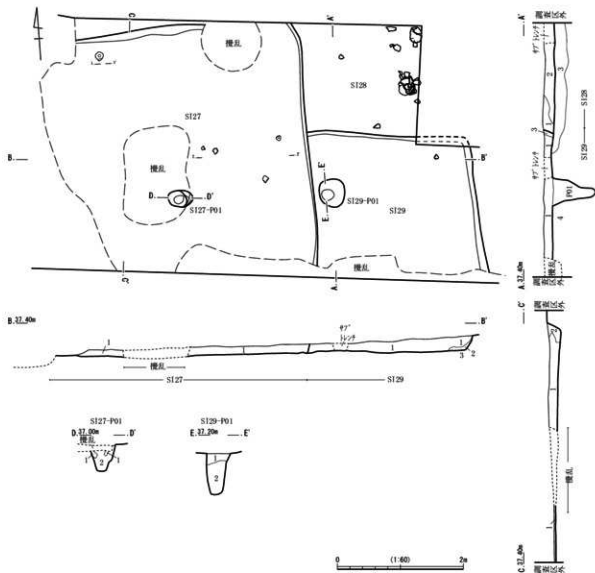
平面位置 AJ-13・14

重複関係 27号竪穴建物跡より古く、28号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は床面の一部と北面、東壁の一部が検出された。長軸2.89m以上、短軸2.25m以上、深さ0.28mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、掘り方は浅いが壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。ピットは1基、掘方から検出されたが、主柱穴ではない。覆土は黒褐色土とにぶい黄褐色土などの自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕、坏、赤彩の埴、縄文時代後期の土器片などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期と推定される。



#### SI27

1. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし、ロームブロック ( $\phi 10\sim 50\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
2. 黒褐色土 10YR3/2 締りあり、粘性なし、ロームブロック ( $\phi 10\sim 15\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量を含む。

#### SI-27-P-01

1. 黒褐色土 10YR3/3 締りなし、粘性なし、ロームブロック ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量を含む。
2. にんじ黄褐色土 10YR4/3 締りなし、粘性なし、ロームブロック ( $\phi 10\sim 50\text{mm}$ ) を全体に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。

#### SI28

1. 暗褐色土 10YR3/3 締りあり、粘性なし、ロームブロック ( $\phi 7\sim 10\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
2. 灰黄褐色土 10YR4/2 締り強い、粘性なし、ロームブロック ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ) を全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。
3. にんじ黄褐色土 10YR4/3 締り強い、粘性なし、ロームブロックを部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。

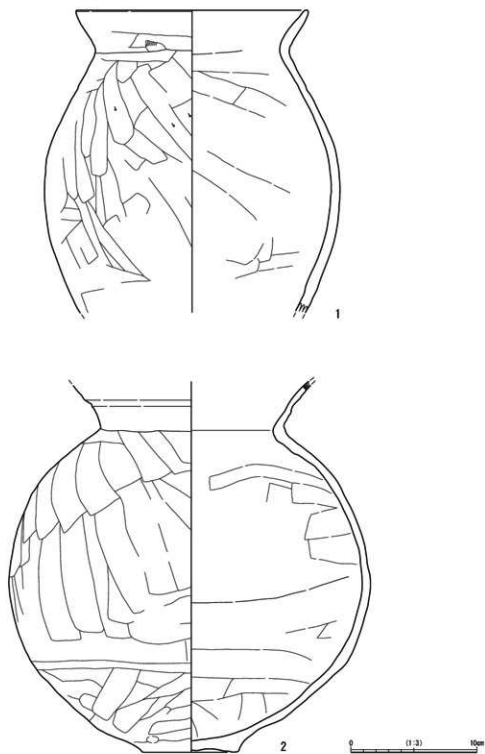
#### SI29

1. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし、ロームブロック ( $\phi 10\sim 40\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量を含む。
2. にんじ黄褐色土 10YR4/3 締り強い、粘性なし、ロームブロック ( $\phi 10\sim 15\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。
3. にんじ黄褐色土 10YR4/4 締り強い、粘性なし、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量を含む。

#### SI29-P01

1. 暗褐色土 10YR4/1 締りあり、粘性なし、ロームブロック ( $\phi 15\sim 30\text{mm}$ ) を全体に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量を含む。
2. にんじ黄褐色土 10YR4/4 締りなし、粘性なし、ロームブロック ( $\phi 10\sim 15\text{mm}$ ) を全体に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量を含む。

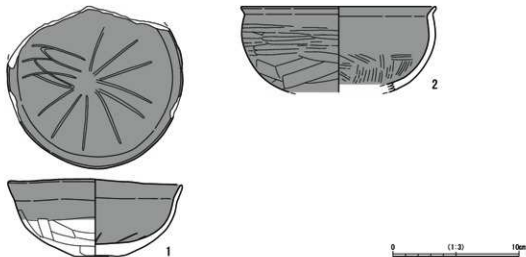
第63図 27・28・29号堅穴建物跡



第 64 图 28 号窑穴建物跡出土遺物

第26表 28号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径：(18.2) 器高：(24.0) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 雲・針・石英・礫	良好	30%	にふい赤褐 (5YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
2	土師器 甕	口径：(29.2) 器高：7.6 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・礫	良好	95%	にふい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位・斜位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ



第65図 29号竪穴建物跡出土遺物

第27表 29号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 椀	口径：13.6 器高：6.2 底径：3.2	白色粒子・雲・石英・ 礫	良好	75%	赤褐 (2.5YR4/8)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面放射状彫文・ナデ、口縁部外面一内面赤彩
2	土師器 椀	口径：(15.2) 器高：(6.8) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	10%	明赤褐 (2.5YR3/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面上位横位ミガキ、外面下位ヘラケズリ、内面ミガキ・ナデ、全面赤彩

### 30号竪穴建物跡 (第66・67図)

平面位置 AJ・AK - 10・11

重複関係 35号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は床面の一部と北壁と西壁の一部が検出された。長軸2.16m以上、短軸2.15m以上、深さ0.42mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていないが、2号ピット内から炉が1基検出されている。この炉が居住時に機能していたかは不明である。ピットは3基検出され、支柱穴は北西の1号ピットが該当するものと推定される。覆土は暗褐色土と黒褐色土などの自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕(単口縁、赤彩、ハケ目)、須恵器坏蓋模倣の坏、土製の輪の羽口破片、泥岩製の竈構築材、縄文時代前期、中期、後期の土器片、弥生時代中期、後期の十王台式の土器片、砂岩、泥岩、片麻岩、玄武岩製の礫片などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

### 35号竪穴建物跡（第66・67図）

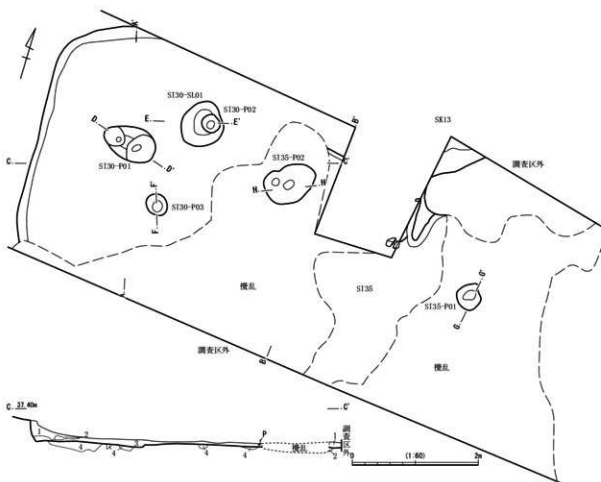
平面位置 AJ-11・12

重複関係 30号竪穴建物跡より新しい。

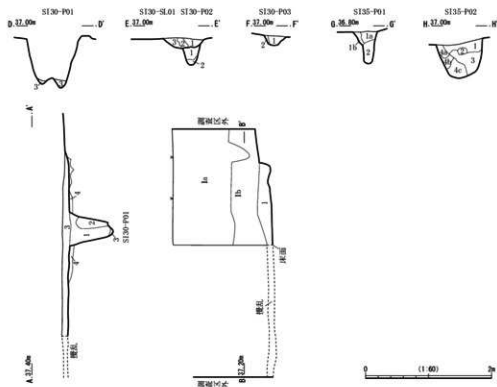
遺構形態 遺構は床面の一部と北壁の一部が検出された。長軸4.65m以上、短軸4.41m以上、深さ0.30mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は右袖の一部が部分的に検出されている。竈の構築材はシルト質土を母材とし、泥岩の構築材を部分的に使用した石組みの竈である。焚口の上位には泥岩の構築材を天盤として短軸方向に利用している。竈の使用面は赤化、硬化していない。ピットは2基検出され、主柱穴は北東の1号ピットが該当するものと推定される。覆土は掘り方が浅く黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕（単口縁、有段口縁）、縄文時代前期の土器片、弥生時代中期、後期の十王台式の土器片、泥岩製の竈構築材などである。

時期 古墳時代後期と推定される。



第66図 30・35号竪穴建物跡（1）



- S130**
1. 埴間色土 10YR3/3 締り強い、粘性あり、ロームブロック(φ10~15mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
  2. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性あり、ロームブロック(φ10mm~)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を部分的に微量を含む。
  3. 濃い黄褐色土 10YR4/4 締り強い、粘性あり、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。
  4. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性なし、ロームブロック(φ10~15mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に微量を含む。
- S130-SL01**
1. 埴間色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、粘土を全体に多く含む。
  2. 褐色土 10YR4/6 締り強い、粘性なし、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。
  3. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性なし、ロームブロックを全体に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。
- S130-P01**
1. 埴間色土 10YR4/1 締りあり、粘性なし、ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
  2. 灰黄褐色土 10YR4/2 締り強い、粘性なし、ロームブロック(φ10~60mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
  3. 褐色土 10YR4/6 締り強い、粘性なし、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。
- S130-P02**
1. 褐色土 10YR4/4 締りあり、粘性なし、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。
  2. 埴間色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量、粘土(φ1~10mm)を部分的に少量、シルト(φ1~5mm)を部分的に少量含む。
- S130-P03**
1. 黒褐色土 10YR3/2 締りあり、粘性なし、ロームブロック(φ10~15mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を部分的に少量含む。
  2. 埴間色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし、ロームブロック(φ5~10mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
- S135**
1. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性あり、ロームブロック(φ10~50mm)を全体に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量、シルト(φ2~30mm)を部分的に多く含む。
  2. 明黄褐色土 10YR6/6 締り強い、粘性あり、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。
- S135-P01**
- 1a. 埴間色土 10YR3/2 締り強い、粘性なし、ロームブロック(φ5~10mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量、粘土(φ3~5mm)を部分的に微量を含む。
  - 1b. 埴間色土 10YR3/4 締り強い、粘性なし、ロームブロック(φ10~20mm)を全体に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
  2. 埴間色土 10YR3/3 締りあり、粘性なし、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
- S135-P02**
1. 埴間色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし、ロームブロック(φ5~30mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に微量、粘土(φ3~5mm)を部分的に微量を含む。
  2. 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性なし、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。
  3. 灰黄褐色土 10YR4/2 締りなし、粘性なし、ロームブロック(φ5~10mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
  - 4a. 埴間色土 10YR3/4 締り強い、粘性なし、ロームブロック(φ5~30mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に微量、粘土(φ5~20mm)を部分的に少量含む。
  - 4b. 黒褐色土 10YR3/2 締りあり、粘性なし、ロームブロック(φ5~10mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に微量を含む。
  - 4c. 濃い黄褐色土 10YR4/3 締りあり、粘性なし、ロームブロック(φ10~100mm)を全体に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。

第 67 図 30・35号竪穴建物跡(2)



### 32号竪穴建物跡 (第68図)

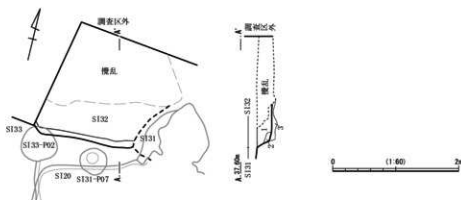
平面位置 AI-21・22

重複関係 20号竪穴建物跡より古く、31・33号竪穴建物より新しい。

遺構形態 遺構は床面の一部と西壁の一部が検出された。長軸2.04m以上、短軸1.85m以上、深さ0.23mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は掘り方は浅いが急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕(単口縁)、埴(赤彩)、須恵器杯、ロクロ整形の土師器杯の破片、陶器のすり鉢破片、縄文時代前期、弥生時代後期の十王台式の土器片、花崗岩、アブライト製の敲石、泥岩製の竈構築材2点、片麻岩、片岩製の礫片などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



S132

1. 黒褐色土 10TR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、機土(φ1~30mm)を全体に含む。
2. 黒褐色土 10TR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
3. 褐色土 10TR4/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。

第68図 32号竪穴建物跡

### 33号竪穴建物跡 (第69・70図・第28表)

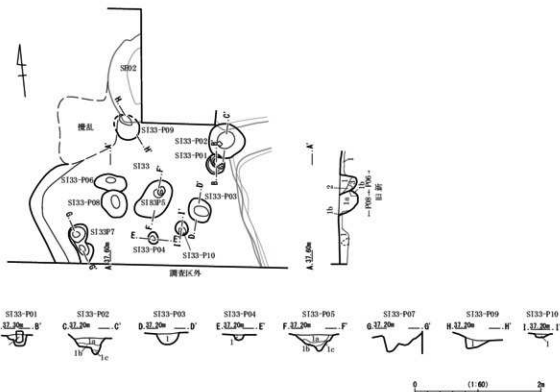
平面位置 AH・AI-21

重複関係 20・31・32号竪穴建物跡・2号井戸より古い。

遺構形態 遺構は床面の一部が検出された。長軸3.56m以上、短軸3.15m以上を測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、掘り方は浅い。竈は検出されていない。ピットは10基検出されているが、支柱穴は不明である。覆土は黒褐色土と暗褐色土の自然堆積層である。

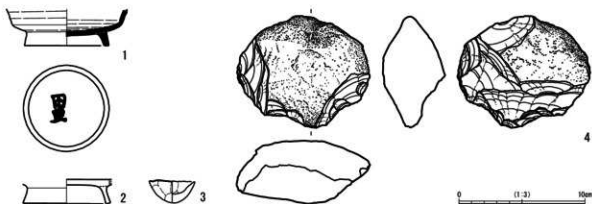
遺物 出土遺物は、土師器甕(単口縁のハケ目、単口縁、赤彩)、須恵器杯蓋模倣の杯、ミニチュア土器、鉢、須恵器甕、蓋、高台付杯、ロクロ整形の土師器杯、高台付杯の破片、土師質土器の小皿、陶器の埴、縄文時代前期、中期、後期の破片、片麻岩製の敲石、片岩製の礫、砂岩、片岩、片麻岩、石英製の礫片などである。

時期 古墳時代中期末と推定される。



- SI33  
1. 褐色土 10YR4/4 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
- SI33-P01  
1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
- SI33-P02  
1a. 褐色土 10YR4/6 締り強い、粘性なし。炭化物 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。  
1b. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし。粘土 ( $\phi 5 \sim 30\mu\text{m}$ ) を部分的に少量、ロームブロックを全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。  
1c. 褐色土 10YR4/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
- SI33-P03  
1. 褐色土 10YR4/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
- SI33-P04  
1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。炭化物 ( $\phi 5 \sim 15\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。
- SI33-P05  
1a. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロックを部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量、シルト ( $\phi 3 \sim 30\mu\text{m}$ ) を部分的に含む。  
1b. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 50\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。  
1c. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
- SI33-P06  
1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を全体に少量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。  
2. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性なし。白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を全体に少量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 50\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。  
3. 褐色土 10YR4/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
- SI33-P08  
1a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 50\text{mm}$ ) を全体に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量、白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を全体に少量含む。  
1b. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
- SI33-P09  
1. 暗褐色土 10YR3/4 締り強い、粘性なし。白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を全体に少量、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
- SI33-P10  
1. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。

第 69 図 33 号屋穴建物跡



第70図 33号竪穴建物跡出土遺物

第28表 33号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 高台付杯	口径:- 器高:(1.9) 底径:6.6	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・針・石英・ 礫	良好	20%	暗灰黄 (2.5Y5/2)	内外面ロクロナデ、高台部貼り付け、 底部外面墨書あり
2	土師器 高台付杯	口径:- 器高:(3.0) 底径:(6.8)	白色粒子・黒色粒子・ 雲	良好	10%	橙 (7.5YR6/6)	内外面ロクロナデ、高台部貼り付け、 内面黒色処理・細かなミガキ
3	土師器 ミニチュア	口径:3.6 器高:1.8 底径:-	白色粒子・雲・石英・ 礫	良好	99%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	内外面指押え・ナデ
図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
4	礎石	片麻岩	8.7	10.5	4.9	458.7	表裏面とも自然面を残す。表より裏面の方の調整が 新しい。連続する剝離調整が行われている。

### 36号竪穴建物跡 (第71・72図・第29表)

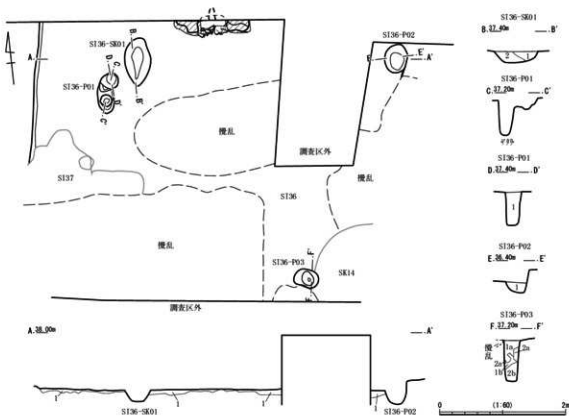
平面位置 AJ・AK-8・9

重複関係 37号竪穴建物跡、14号土坑より古い。

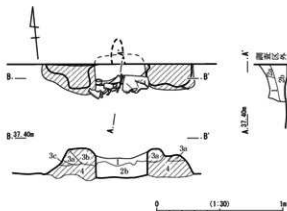
遺構形態 遺構は床面の一部、西壁と西壁の一部が検出され、長軸6.04m以上、短軸4.60m以上を測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、掘り方は浅いが壁は急角度で立ち上がる。竈は北壁ほぼ中央で部分的に検出されている。竈の構築材はシルト質土を母材とし、部分的に泥岩の構築材を使用した石組で構成されている。土坑は竈の南西側で1基検出されている。ピットは3基検出されているが、主柱穴はない。覆土は明赤褐色土、暗褐色土などの自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕、縄文時代前期の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、砂岩製の敲石、泥岩製の竈構築材、アブライト、片岩製の礫片などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

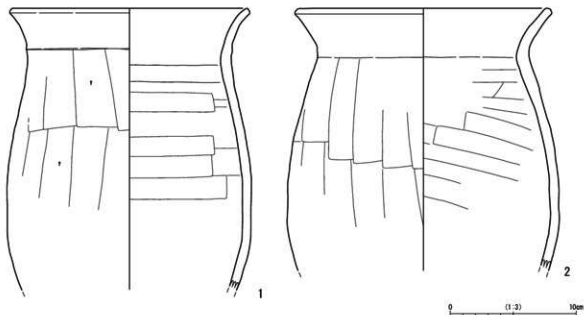


- SI36  
1. 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
- SI36-SK01  
1. 黒褐色土 10YR3/2 締りなし、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 40\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に微量に含む。  
2. 灰黄褐色土 10YR4/2 締りあり、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 60\text{mm}$ ) を全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量、礫 ( $\phi 30 \sim 50\text{mm}$ ) を部分的に少量含む。
- SI36-P01  
1. 緑褐色土 10YR3/3 締りなし、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 70\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に微量に含む。
- SI36-P02  
1. 黒褐色土 10YR3/2 締りなし、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 70\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に微量に含む。
- SI36-P03  
1a. 黒褐色土 10YR2/3 締りなし、粘性強い、白色粒子 ( $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。  
1b. 黒褐色土 10YR2/3 締りなし、粘性強い。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。  
2a. 褐色土 10YR4/6 締りあり、粘性強い。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。  
2b. 褐色土 10YR4/4 締りなし、粘性強い。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。



- SI36-カマド  
1. 明赤褐色土 5YR5/6 締り強い、粘性なし。白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を部分的に少量、焼土を全体に多量、シルトを部分的に少量含む。  
2a. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を全体に多く、焼土 ( $\phi 1 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に少量含む。  
2b. 緑褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。  
3a. 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性強い。シルトを全体に多量、焼土を部分的に多量、白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を部分的に少量含む。  
3b. 明赤褐色土 5YR5/6 締り強い、粘性強い。焼土を全体に多量、シルトを全体に多量に含む。  
3c. 緑褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性強い。シルトを全体に多く含む。  
4. 黒色土 10YR2/1 締り強い、粘性強い。シルトを部分的に多量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。

第71図 36号竪穴建物跡



第72図 36号竪穴建物跡出土遺物

第29表 36号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 長胴甕	口径：(18.6) 器高：(22.4) 底径：-	白色粒子・雲・石英・礫	良好	45%	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
2	土師器 長胴甕	口径：(19.8) 器高：(21.0) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲・石英・礫	良好	25%	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

### 37号竪穴建物跡 (第73・74図・第30表)

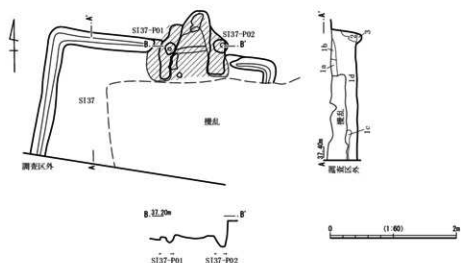
平面位置 AJ・AK-7・8

重複関係 36号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は床面の一部と西壁の一部、北壁が検出された。長軸5.18m以上、短軸2.91m以上、深さ0.39mを測る。床はほぼ平坦で踏み縮まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は北壁中央から東よりに位置し、良好な遺存状況で検出された。竈構築材はシルト質土を母材として構築されている。ピットは竈袖下から2基検出された。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

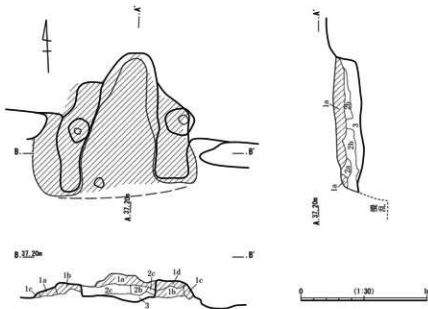
遺物 出土遺物は、土師器甕（常陸型、単口縁、複合口縁）、須恵器坏蓋模倣の坏、甌、須恵器甕の破片、土師質土器の坏、縄文時代前期の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、チャート製の磨石、石英製の礫、泥岩、片麻岩、片岩製の礫片などである。

時期 古墳時代後期から奈良時代と推定される。



SI37

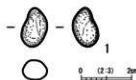
- 1a. 黒褐色土 101R2/3 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 50\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に、シルト ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量、白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
- 1b. 黒褐色土 101R2/3 締り強い、粘性なし。ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に、白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
- 1c. 黒褐色土 101R2/3 締り強い、粘性なし。白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を部分的に少量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
- 1d. 黒褐色土 101R2/3 締り強い、粘性なし。白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を部分的に少量、炭化物 ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 100\text{mm}$ ) を全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量、焼土 ( $\phi 1 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に少量含む。
2. 黒褐色土 101R2/3 締り強い、粘性なし。焼土 ( $\phi 10 \sim 30\text{mm}$ ) を部分的に少量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 30\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。
3. 暗褐色土 101R2/3 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。



SI37-KAD

- 1a. にぶい黄褐色土 101R4/3 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、焼土 ( $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。
- 1b. 褐色土 101R4/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
- 1c. 明褐色土 7.51R5/6 締り強い、粘性なし。焼土を全体に多量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に多量に含む。
- 1d. にぶい黄褐色土 101R4/3 締り強い、粘性なし。シルトを全体に中量、焼土 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を部分的に中量含む。
- 2a. 暗褐色土 101R3/3 締り強い、粘性なし。焼土 ( $\phi 1 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、シルトを全体に多量に含む。
- 2b. 黒褐色土 101R2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 70\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く、焼土 ( $\phi 1 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、炭化物 ( $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。
- 2c. 黒褐色土 101R2/2 締り強い、粘性なし。焼土を全体に多く、シルト ( $\phi 1 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
- 2d. 黒褐色土 101R2/2 締り強い、粘性なし。シルトを部分的に多く、焼土 ( $\phi 3 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量、ロームブロック ( $\phi 10\text{mm}$ ) を部分的に多量に含む。
3. 黒褐色土 101R2/2 締り強い、粘性なし。シルトを全体に、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 30\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に含む。

第73図 37号堅穴建物跡



第74図 37号竪穴建物跡出土土遺物

第30表 37号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
1	磨石	チャート	1.1	1.0	0.7	1.3	楕円形で、全体に平滑で光沢あり。

### 38号竪穴建物跡 (第75～77図・第31表)

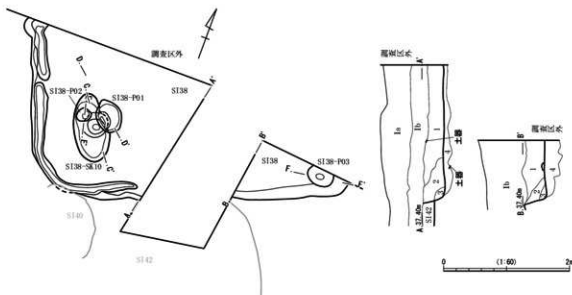
平面位置 AK-7～9

重複関係 40号竪穴建物跡より古く、42・45号竪穴建物跡より新しい。

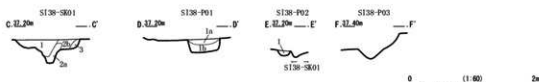
遺構形態 遺構は床面の一部と西壁、南壁の一部が検出された。長軸3.56m以上、短軸3.27m以上、深さ0.42mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。周溝は西壁と南壁際の一部で検出された。竈は検出されていない。ピットは3基検出された。覆土は黒褐色土を主体とし、褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕(単口縁、ハケ目、薄手)、須恵器坏蓋模倣の坏、須恵器甕、ロクロ整形の土師器坏の破片、縄文時代前期、中期の土器片、弥生時代後期十王台式の土器片、砂岩、アブライト、片岩製の礫片、近現代の陶磁器、ガラス電球などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



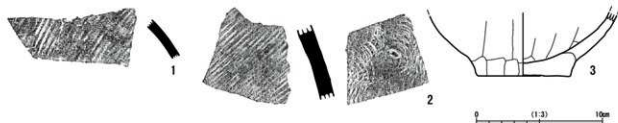
第75図 38号竪穴建物跡(1)



- SI38
1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を全体に少量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
  2. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を全体に少量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に含む。
  3. 褐色土 10YR4/6 締り強い、粘性なし。白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を部分的に少量、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
  4. 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
- SI38-SK01
1. 黒褐色土 10YR2/3 締りなし、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 40\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 5\text{mm}$ ) を全体に少量に含む。
  - 2a. 暗褐色土 10YR3/3 締りあり、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 30\text{mm}$ ) を全体に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
  - 2b. 暗褐色土 10YR3/4 締りあり、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 15\text{mm}$ ) を全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。
  3. に近い黄褐色土 10YR4/3 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 15\text{mm}$ ) を全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。

- SI38-P01
- 1a. 暗褐色土 10YR3/3 締りあり、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10\text{mm} \sim$ ) を全体に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
  - 1b. 暗褐色土 10YR3/4 締りあり、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 30\text{mm}$ ) を全体に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。
- SI38-P02
1. 黒褐色土 10YR2/3 締りなし、粘性なし。ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に少量含む。

第76図 38号竪穴建物跡(2)



第77図 38号竪穴建物跡出土遺物

第31表 38号竪穴建物跡出土遺物観察表

図取番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・石英・礫	良好	5%未満	灰 (N5/O)	外面平行線タキ後横位ナデ、内面ナデ
2	須恵器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・礫	良好	5%未満	灰 (N5/O)	外面平行線タキ、内面同心円状当て具痕
3	土師器 甕	口径:- 器高: <5.0> 底径: 7.4	白色粒子・黒色粒子・雲・石英・礫	良好	10%	にに近い赤褐 (5YR4/4)	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ



39号竪穴建物跡 (第78～80図・第32表)

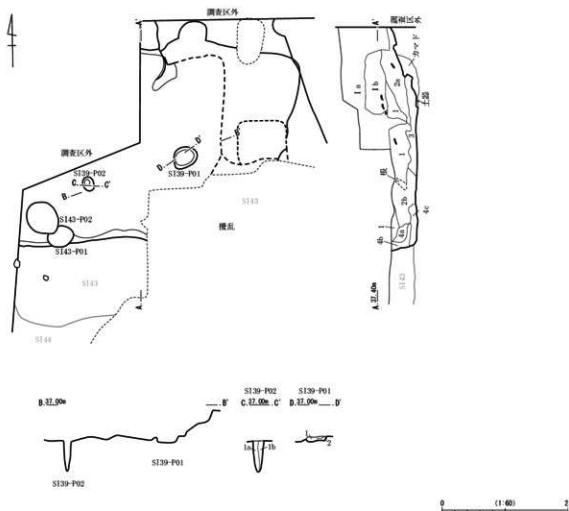
平面位置 AK-4・5

重複関係 43～45号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は床面と北壁と南壁の一部が検出された。長軸3.56m以上、短軸3.27m以上、深さ0.42mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は北壁から検出されている。竈構築材はシルト質土を母材とし、両袖が部分的に検出されている。ピットは2基検出された。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕(常陸型、単口縁ハケ目、ハケ目)、須恵器坏蓋模倣の坏、高坏(赤彩、脚部透かし有)、甌、碗、須恵器甕、蓋の破片、縄文時代前期の土器片、弥生時代中期の龍門寺式、後期の十王台式の土器片、砂岩製の磨石、泥岩製の竈構築材か、支脚破片、砂岩、片岩製の礫、砂岩、片岩、アブライト、片麻岩、泥岩、玄武岩製の礫片などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



第78図 39号竪穴建物跡(1)

SI39

1. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を全体に少量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 50\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に、粘土 ( $\phi 1 \sim 20\mu$ ) を部分的に少量含む。
- 2a. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を全体に、炭化物 ( $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を全体に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く、粘土 ( $\phi 1 \sim 10\mu$ ) を部分的に微量、シルト ( $\phi 5 \sim 20\mu$ ) を部分的に微量に含む。
- 2b. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。炭化物 ( $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ) を部分的に少量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 50\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く、粘土 ( $\phi 1 \sim 10\mu$ ) を部分的に少量、白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。

SI39-P01

1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
2. 黄褐色土 10YR5/6 締りあり、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。

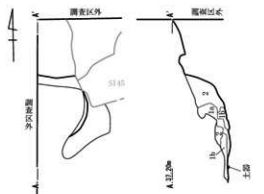
3. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。シルトを部分的に多量、白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を部分的に少量、炭化物 ( $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ) を部分的に少量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 30\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く、粘土 ( $\phi 1 \sim 10\mu$ ) を部分的に少量含む。
- 4a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。炭化物 ( $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く、粘土 ( $\phi 1 \sim 3\mu$ ) を部分的に微量に含む。
- 4b. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を部分的に微量、炭化物 ( $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に含む。
- 4c. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。シルト ( $\phi 1 \sim 10\mu$ ) を部分的に少量、炭化物 ( $\phi 1 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に多量に含む。

SI39-P02

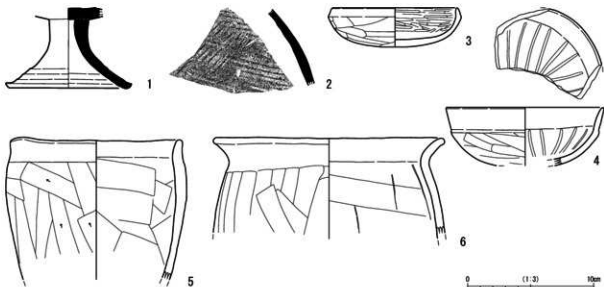
1. 褐色土 10YR4/6 締りあり、粘性強い。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量、シルト ( $\phi 0.5 \sim 10\mu$ ) を部分的に多く含む。
2. 褐色土 10YR4/6 締りあり、粘性強い。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。

SI39-カマド

- 1a. 球褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量、粘土 ( $\phi 1 \sim 10\mu$ ) を全体に多量に含む。
- 1b. 球褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし。シルト ( $\phi 1 \sim 10\mu$ ) を部分的に少量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量、粘土 ( $\phi 1 \sim 10\mu$ ) を部分的に含む。
2. に近い黄褐色土 10YR5/4 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、粘土を部分的に多量に含む。



第79図 39号竪穴建物跡(2)



第80図 39号竪穴建物跡出土遺物

第32表 39号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	須恵器 高坏	口径:- 器高:(6.3) 底径:9.9	白色粒子・黒色粒子・ 石英・礫	良好	45%	灰(7.5Y6/1)	内外面口クロナデ
2	須恵器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・雲・石英	良好	5%未満	褐灰(10YR6/1)	外面平行線タキ後横位ナデ、内面横位ナデ
3	土師器 坏	口径:(9.8) 器高:3.1 底径:-	白色粒子・赤色粒子・ 雲	良好	30%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ・ナデ
4	土師器 坏	口径:(12.4) 器高:(4.6) 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 雲・石英	良好	5%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面放射状刻文
5	土師器 甕	口径:(13.0) 器高:(11.3) 底径:-	白色粒子・赤色粒子・ 石英・礫	良好	5%未満	にぶい黄褐 (10YR5/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位・斜位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
6	土師器 甕	口径:(18.0) 器高:(8.0) 底径:-	白色粒子・赤色粒子・ 石英・礫	良好	5%	灰褐(7.5YR4/2)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位・斜位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

#### 40号竪穴建物跡(第81図)

平面位置 AJ・AK-8

重複関係 38・41・42号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は北壁と東壁の一部が検出された。長軸5.91m、短軸3.28m以上、深さ0.45mを測る。床はほぼ平坦で、壁は急角度で立ち上がる。竈は北竈で部分的に検出されている。遺構築材はシルト質土を母材としている。ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕、器種不明の土器片、須恵器甕、弥生時代後期の十王台式の土器片などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

#### 41号竪穴建物跡(第82～84図・第33表)

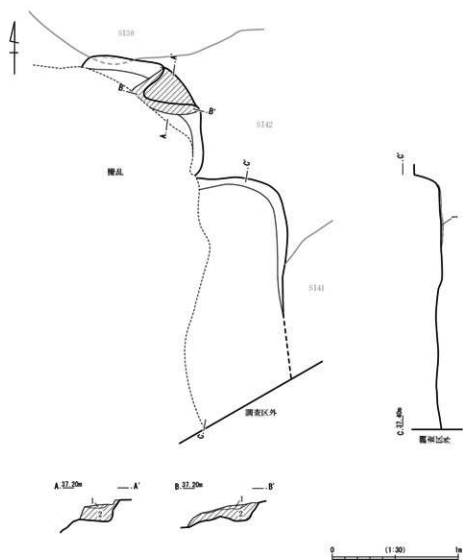
平面位置 AJ・AK-8・9

重複関係 40号竪穴建物跡より古く、42号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は床面の一部と北壁、東壁の一部が検出された。長軸2.10m以上、短軸1.98m以上、深さ0.40mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。土坑が北東角の床面から1基検出され、覆土から土師器甕、甌、坏の破片が検出されている。ピットは2基検出されたが、主柱穴ではない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕、甌、須恵器坏蓋模倣の坏、縄文時代前期の土器片、弥生時代中期の龍門寺式、後期の十王台式の土器片、石英製の二次加工された礫片、砂岩、石英、片岩、石灰岩、アブライト、片麻岩などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



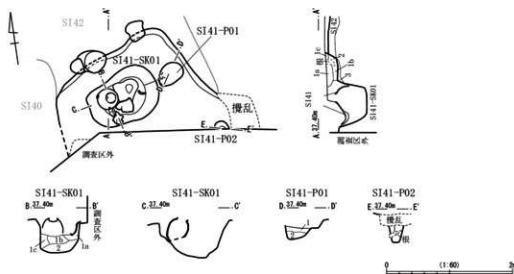
S140-カマド

1. 濃い黄褐色土 10YR5/4 織り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、焼土を全体に多く、炭化物 ( $\phi$  1~5mm) を部分的に多量に含む。
2. 暗褐色土 10YR3/3 織り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi$  0.5~10mm) を全体に多量、焼土 ( $\phi$  1~10mm) を全体に多く含む。

S140

1. 褐色土 10YR4/4 織り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi$  0.5~10mm) を全体に多量に含む。

第81図 40号竪穴建物跡



SI41

- 1a. 黒褐色土 10TK2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に少量含む。  
 1b. 黒褐色土 10TK2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に、白色粒子（ $\phi 1\sim 3\text{mm}$ ）を部分的に微量に含む。  
 1c. 黒褐色土 10TK2/2 締り強い、粘性なし。白色粒子（ $\phi 1\sim 3\text{mm}$ ）を部分的に微量、ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に微量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多く、炭化物（ $\phi 1\sim 5\text{mm}$ ）を部分的に微量、焼土（ $\phi 1\sim 5\text{mm}$ ）を部分的に微量に含む。  
 2. 黒褐色土 10TK2/3 締り強い、粘性なし。白色粒子（ $\phi 1\sim 3\text{mm}$ ）を部分的に微量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。  
 3. 黄褐色土 10TK5/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。

SI41-P01

1. 黒褐色土 10TK3/2 締り強い、粘性なし。白色粒子（ $\phi 1\sim 3\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に少量含む。  
 2. 黒褐色土 10TK1/1 締り強い、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多く含む。

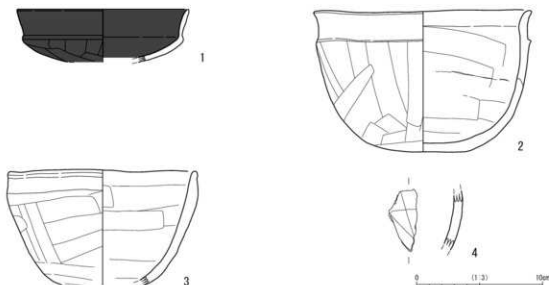
SI41-P02

1. 黒褐色土 10TK3/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を全体に、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多く含む。

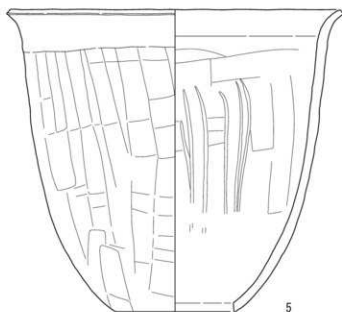
SI41-SK01

- 1a. 黒褐色土 10TK2/2 締り強い、粘性なし。白色粒子（ $\phi 1\sim 3\text{mm}$ ）を全体に微量、ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に微量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に少量、焼土（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少量、炭化物（ $\phi 5\sim 15\text{mm}$ ）を部分的に少量含む。  
 1b. 黒褐色土 10TK2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に少量含む。  
 1c. 黒褐色土 10TK2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多く、白色粒子（ $\phi 1\sim 3\text{mm}$ ）を部分的に微量含む。  
 2. 黒褐色土 10TK2/2 締り強い、粘性強い。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に少量含む。

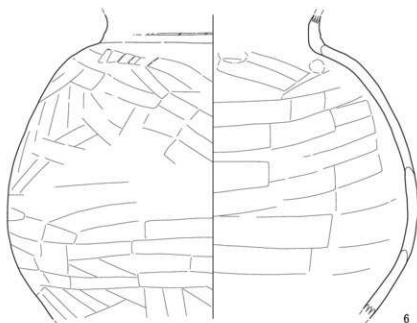
第 82 図 41 号竪穴建物跡



第 83 図 41 号竪穴建物跡出土遺物 (1)



5



6



7



第 84 図 41 号竪穴建物跡出土遺物 (2)

第 33 表 41 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版 番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 杯	口径:(13.4) 器高:(4.2) 底径:-	白色粒子・雲・礫	良好	10%	黒(7.5YR2/1)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ、全面黒色処理
2	土師器 鉢	口径:17.2 器高:11.3 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 雲・石英	良好	70%	赤(10R4/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位・斜位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
3	土師器 鉢	口径:(14.8) 器高:(9.2) 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・石英・ 礫	良好	15%	暗赤褐(5YR3/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位・縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
4	土師器 鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 雲・石英	良好	5%未満	にぶい赤褐 (5YR4/3)	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
5	土師器 甗	口径：26.2 器高：24.0 底径：9.0	白色粒子・黒色粒子・ 雲・石英	良好	70%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラ ケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
6	土師器 甗	口径：- 器高：(24.3) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・石英	良好	70%	にぶい黄橙 (10YR7/4)	頸部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、 内面ヘラナデ・ナデ・指頭痕
図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
7	剃片	メノウ	3.4	3.3	0.9	7.5	やや厚手の縦長剃片。節理が多く剥離面は複雑。

#### 43号竪穴建物跡 (第85・86図・第34表)

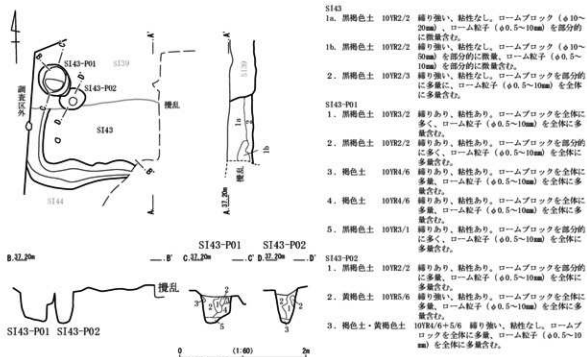
平面位置 AJ-4・5、AK-4~6

重複関係 39号竪穴建物跡より古く、44号竪穴建物跡より新しい。

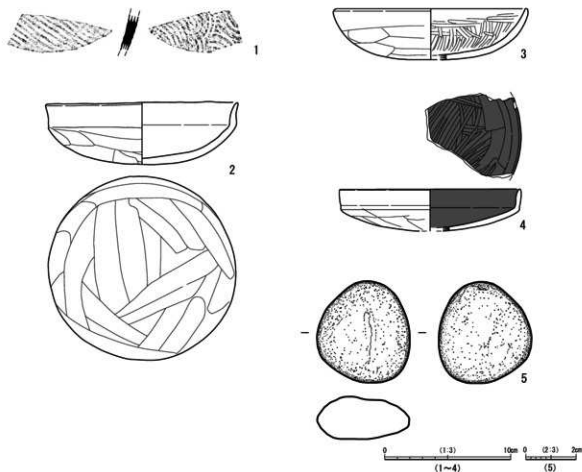
**遺構形態** 遺構は床面の一部と北壁、東壁、南壁の一部が検出された。長軸 2.05 m 以上、短軸 1.6 m 以上、深さ 0.27 m を測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、西壁と南壁の一部から周溝が検出されている。壁は急角度で立ち上がる。北東の覆土内からシルト質土が楕円状でまとまって発見されたが、機能は不明である。ピットは2基検出されたが、支柱穴は検出されていない。覆土は黒褐色土上の自然堆積層である。

**遺物** 出土遺物は、土師器甕(単口縁、ハケ目調整)、手づくね土器、須恵器坏蓋模倣の坏、甗、須恵器甕の破片、縄文時代前期、後期の土器片、片岩製の器種不明の石器、砂岩の礫、泥岩、片岩製の礫片、骨片1点(0.3 g)などである。

**時期** 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



第85図 43号竪穴建物跡



第86図 43号竪穴建物跡出土遺物

第34表 43号竪穴建物跡出土遺物観察表

図取番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 甕	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・赤色粒子・ 雲・石英	良好	5%未講	黒褐(2.5Y3/1)	外面平行印き痕、内面同心円状当て具 痕
2	土師器 坏	口径：15.0 器高：4.9 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・石英・ 礫	良好	99%	にぶい・橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズ リ、内面ナデ
3	土師器 坏	口径：(15.0) 器高：4.1 底径：-	白色粒子・赤色粒子・ 雲・石英・礫	良好	20%	にぶい・赤褐 (5YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズ リ、内面ミガキ
4	土師器 坏	口径：(14.2) 器高：(3.4) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲	良好	10%	黒褐(10YR3/1)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズ リ、内面ミガキ・ヘラナデ・黒色処理
図取 番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
5	磨石	石英	4.1	3.7	1.7	32.8	扁平で楕円形、全体に平滑で光沢あり。



44号竪穴建物跡 (第87・88図・第35表)

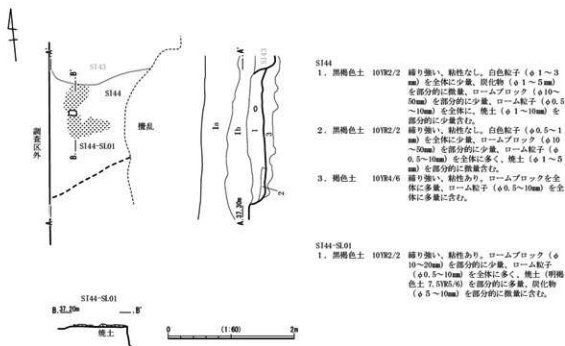
平面位置 AJ-4・5

重複関係 43号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は床面の一部が検出されたのみである。長軸2.05m以上、短軸1.60m以上、深さ0.27m以上を測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがある。床面から地床層が1基検出され不整形な焼土のまとまりが検出された。ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕(単口縁、ハケ目調整)、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、弥生時代後期の十王台式の土器片などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



第87図 44号竪穴建物跡



第88図 44号竪穴建物跡出土遺物

第35表 44号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1.	土師器 坏	口径:(12.4) 器高:(3.4) 底径:-	白色粒子・雲	良好	5%未満	にぶい褐 (7.5YR5/3)	口縁部内外面傾位ナデ、外面ハケズリ、内面ナデ

45号竪穴建物跡 (第89・90図・第36表)

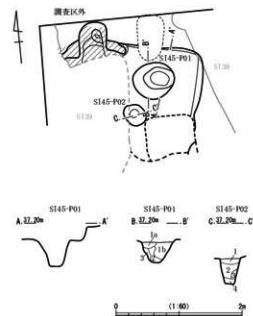
平面位置 AK-5・6

重複関係 38・39号竪穴建物跡より古い。

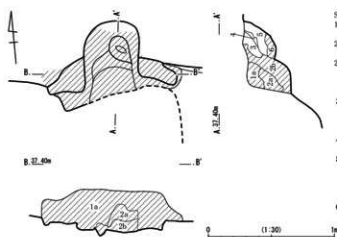
遺構形態 遺構は床面、北壁と東壁の一部が検出された。長軸2.24m以上、短軸2.21m以上、深さ0.22mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は北壁に設けられ、両袖と煙道部が部分的に検出された。竈構築材はシルト質土である。ピットは2基検出され、北東の床面で検出された1号ピットが主柱穴である。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕(ハケ目調整)、須恵器坏蓋模倣の坏、縄文時代前期、中期の土器片、片岩製の礫片などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期末から後期初頭と推定される。



- ST45
1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
  2. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。シルトを部分的に、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
  3. 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
- ST45-P01
- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
  - 1b. 褐色土 10YR4/4 締り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
2. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
  3. 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
- ST45-P02
1. 褐色土 10YR4/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
  2. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に多く含む。ローム粒子(φ0.5~10mm)を含む。
  3. 黒色土 10YR2/1 締り強い、粘性あり。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
  4. 褐色土 10YR4/6 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。



- ST45-カマド
- 1a. 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量に含む。
  - 2a. 暗褐色土 10YR3/4 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、焼土(φ0.5~20mm)を部分的に含む。
  - 2b. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多く、ロームブロック(φ10~30mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
3. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を部分的に少量、シルトを部分的に少量含む。
  4. 明褐色土 7.5YR5/6 締り強い、粘性なし。焼土を全体に多量、ロームブロックを部分的に多く含む。
  5. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、焼土(φ0.5~20mm)を部分的に多く、炭化物(φ1~5mm)を部分的に微量に含む。
  6. 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性なし。シルトを全体に、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。

第89図 45号竪穴建物跡



第90図 45号堅穴建物跡出土遺物

第36表 45号堅穴建物跡出土遺物観察表

図取番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 坏	口径：(14.8) 器高：(3.2) 底径：-	白色粒子・赤色粒子・ 雲・石英	良好	10%	にぶい褐 (7.5YR5/4)	口縁部外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、 内面ミガキ・ナデ

48号堅穴建物跡 (第91・92図・第37表)

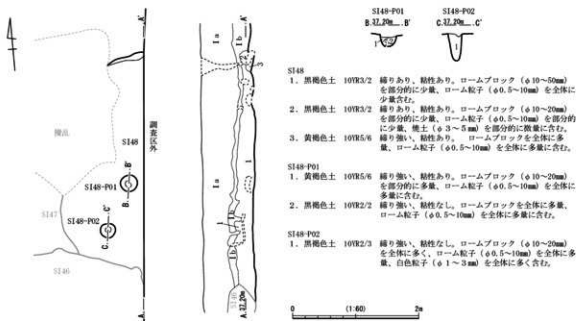
平面位置 AD・AE-5

重複関係 46・47号堅穴建物跡より古い。

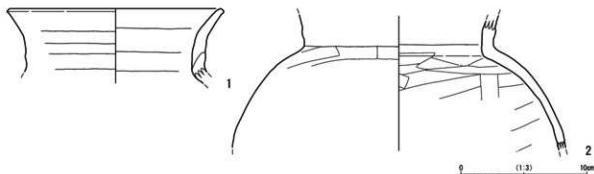
**遺構形態** 遺構は床面と北壁の一部が検出された。長軸3.68m以上、短軸1.33m以上、深さ0.34mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は緩やかに立ち上がる。竈は検出されていない。ピットは2基検出されているが、支柱穴はない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

**遺物** 出土遺物は、土師器甕(単口縁、有段口縁、ハケ目調整)、高坏(赤彩あり)、須恵器坏蓋模倣の坏、須恵器甕、坏の破片、縄文時代前期の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、泥岩製の竈構茶材、泥岩製の礫、片岩製の礫片、15世紀の瀬戸焼の陶器のおろし皿などである。

**時期** 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期末から後期初頭と推定される。



第91図 48号堅穴建物跡



第92図 48号堅穴建物跡出土遺物

第37表 48号堅穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径:(16.8) 器高:(6.0) 底径:-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	5%	にぶい闇 (7.5YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ
2	土師器 甕	口径:- 器高:(10.7) 底径:-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	10%	にぶい闇 (7.5YR5/4)	頸部内外面横位ナデ、外面横位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

### 51号堅穴建物跡 (第93図)

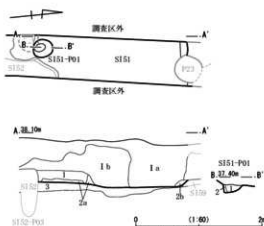
平面位置 Y-37

重複関係 52号堅穴建物跡、23号ピットより古く、59号堅穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は床面と北壁の一部が検出された。長軸2.42m以上、短軸0.80m以上、深さ0.29mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。ピットは1基検出されたが主柱穴はない。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物はない。

時期 遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



- S151
- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 締りなし、粘性なし。ローム粒子 (φ1~5mm) を部分的に微量に含む。
- 1b. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性なし。ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に微量、ローム粒子 (φ1~5mm) を部分的に少量含む。
1. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし。炭化物 (φ5mm-) を部分的に微量、ロームブロックを部分的に微量、ローム粒子 (φ1~5mm) を全体に少量、焼土 (φ3~5mm) を部分的に微量に含む。
- 2a. 暗褐色土 10YR3/4 締りあり、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子 (φ1~5mm) を全体に少量、焼土 (φ3~5mm) を部分的に微量に含む。
- 2b. 暗褐色土 10YR3/4 締りあり、粘性なし。ロームブロックを部分的に微量、ローム粒子 (φ1~5mm) を全体に少量含む。
3. にぶい黄褐色土 10YR5/3 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子 (φ1~5mm) を全体に多量に含む。

- S151-P01
1. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。ロームブロック (φ10mm-) を部分的に微量、ローム粒子 (φ1~5mm) を全体に微量に含む。
2. 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性なし。ロームブロック (φ10~20mm) を全体に多く、ローム粒子 (φ1~5mm) を全体に多量に含む。

第93図 51号堅穴建物跡

52号竪穴建物跡 (第94・95図・第38表)

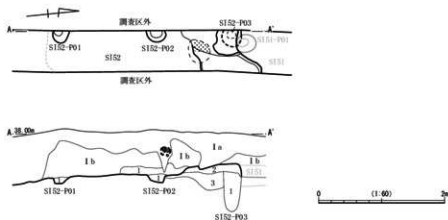
平面位置 X-36・37、Y-37

重複関係 51号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は床面の一部と北壁の一部が検出された。長軸2.6m以上、短軸0.65m以上、深さ0.28mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、竈は左袖と焚口から煙道が検出されている。竈構茶材はシルト質土である。ピットは2基検出されているが主柱穴はない。覆土は暗褐色土、灰黄褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕(単口縁)、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、ロクロ整形の坏、弥生時代後期の十王台式の土器片、砂岩製の礫、砂岩製の礫片などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



SI52

1. 暗褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。ローム粒子(φ1~3mm)を全体に微量、焼土(φ5~7mm)を部分的に微量に含む。
2. 灰黄褐色土 10YR4/2 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に微量、ローム粒子(φ1~5mm)を部分的に微量、焼土(φ5~10mm)を部分的に微量、粘土(φ5~10mm)を部分的に微量に含む。
3. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。焼土(φ5~20mm)を部分的に少量、粘土(φ5~30mm)を全体に多量に含む。

SI52-P01

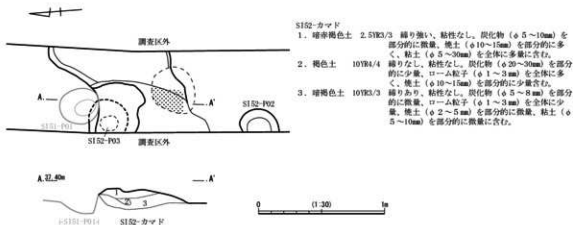
1. 暗褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。ローム粒子(φ1~3mm)を全体に微量に含む。

SI52-P02

1. 暗褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。ローム粒子(φ1~3mm)を全体に微量に含む。

SI52-P03

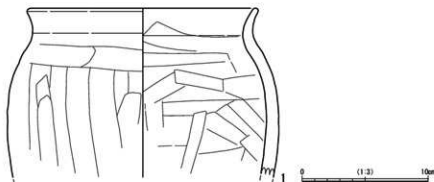
1. 暗褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。ローム粒子(φ1~3mm)を全体に微量に含む。



SI52-カマド

1. 球非褐色土 2.5YR2/3 締り強い、粘性なし。炭化物(φ5~10mm)を部分的に微量、焼土(φ10~15mm)を部分的に多く、粘土(φ5~30mm)を全体に多量に含む。
2. 褐色土 10YR4/4 締りなし、粘性なし。炭化物(φ20~30mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ1~2mm)を全体に多く、焼土(φ10~15mm)を部分的に少量含む。
3. 球褐色土 10YR3/3 締りあり、粘性なし。炭化物(φ5~8mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ1~3mm)を全体に少量、焼土(φ2~5mm)を部分的に微量、粘土(φ5~10mm)を部分的に微量に含む。

第94図 52号竪穴建物跡



第95図 52号竪穴建物跡出土遺物

第38表 52号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径：(17.8) 器高：(13.5) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	10%	明赤褐色 (5YR5/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面上位横位ヘラケズリ・下位縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ、常陸型甕

### 58号竪穴建物跡 (第96・97図・第39表)

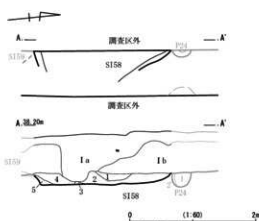
平面位置 Z-37

重複関係 59号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は、床面の一部と南壁の一部が検出され、長軸2.16m以上、短軸0.52m以上、深さ0.22mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈、ビツは検出されていない。覆土は黒褐色土、暗褐色土、灰黄褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕、坏、鉢、鉢、須恵器坏破片、弥生時代後期の十王台式の土器片、アブライト製の敲石などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



S158	1a. 黒褐色土	10YR2/2	締りなし、粘性なし。ローム粒子 (φ1~5mm) を部分的に微量に含む。
	1b. 黒褐色土	10YR3/2	締りあり、粘性なし。ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に微量、ローム粒子 (φ1~5mm) を部分的に少量含む。
	2. 灰黄褐色土	10YR4/2	締りあり、粘性なし。ローム粒子 (φ1~10mm) を全体に多量に含む。
	3a. 暗褐色土	10YR3/4	締りなし、粘性なし。炭化物 (φ5~10mm) を部分的に微量、ロームブロック (φ5~10mm) を部分的に微量、ローム粒子 (φ1~3mm) を全体に微量、粘土 (φ1~5mm) を部分的に微量含む。
	3b. 暗褐色土	10YR3/3	締りあり、粘性なし。ロームブロック (φ10~30mm) を全体に少量、ローム粒子 (φ1~3mm) を全体に微量含む。
	4. 黒褐色土	10YR2/3	締りあり、粘性なし。ロームブロック (φ5~50mm) を全体に少量、ローム粒子 (φ1~3mm) を全体に少量含む。
	5. 褐色土	10YR4/4	締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子 (φ1~5mm) を全体に多量に含む。

第96図 58号竪穴建物跡



第97図 58号堅穴建物跡出土遺物

第39表 58号堅穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 椀	口径：15.2 器高：7.6 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 雲・石英・雜	良好	95%	にぶい赤褐 (5YR4/4)	口縁部内外面横位ナデ、内外面ミガキ、 内面赤彩・燦付着

### 59号堅穴建物跡 (第98図)

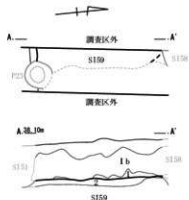
平面位置 Y・Z-37

重複関係 58号堅穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は長軸1.97m以上、短軸0.24m以上、深さ0.17mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがある。壁は南壁の一部が検出した。竈、ピットは検出されなかった。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物なし。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



S159

1. 暗褐色土 10YR3/4 織りあり、粘性なし。ロームブロックを部分的に少量、ローム粒子(φ1~3mm)を部分的に多く、焼土(φ1~5mm)を部分的に少量、シルト(φ5~15mm)を部分的に少量含む。
2. 褐色土 10YR4/6 織り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子(φ1~5mm)を全体に多量に含む。

第98図 59号堅穴建物跡

### 61号堅穴建物跡 (第99~101図・第40表)

平面位置 Q-2・3

重複関係 62・63号堅穴建物跡より古い、66・67号堅穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は床面の一部、北壁、西壁と東壁の一部が検出された。長軸4.06m以上、短軸3.10m以上、深さ0.25mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、掘り方は浅いが壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。北壁中央よりやや東よりの床面で隅丸長方形の土坑が1基検出されている。ピットは3基検出され、北西の2・3号ピットが支柱穴である。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

**遺物** 出土遺物は、土師器甕（常陸型）、須恵器坏蓋模倣の坏、須恵器坏の破片、弥生時代中期の龍門寺式、後期の十王台式の土器片、砂岩、片岩製の礫などである。

**時期** 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

### 62号竪穴建物跡（第99・100図）

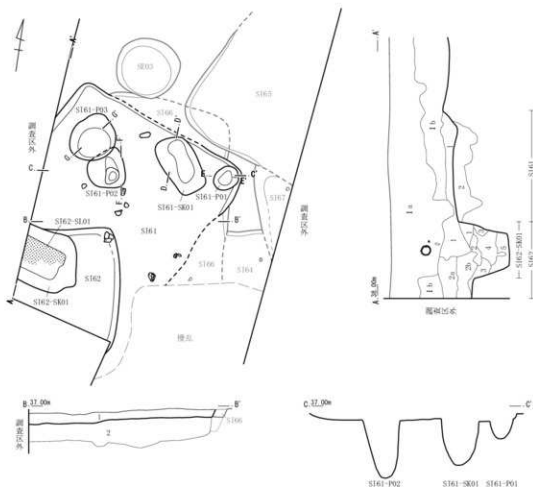
**平面位置** P・Q-2・3

**重複関係** 60・61号竪穴建物跡より新しい。

**遺構形態** 遺構は床面の一部、北壁と東壁の一部が検出された。長軸2.06m以上、短軸1.52m以上、深さ0.21mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。西壁付近で土坑が1基検出され、覆土下層から炉跡が検出されている。ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

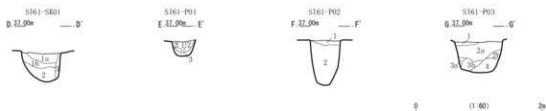
**遺物** 出土遺物は、縄文時代中期の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、土師器甕（有段口縁、単口縁、ハケ目調整）、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、埴（ハケ目調整）などである。

**時期** 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期末から後期初頭と推定される。



第99図 61・62号竪穴建物跡（1）





S161

1. 黒褐色土 10TR2/2 締り強い、粘性あり、白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を全体に少量、炭化物 ( $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 100\text{mm}$ ) を全体に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く、焼土 ( $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に少量、シルトを部分的に少量含む。
2. 黒褐色土 10TR2/2 締り強い、粘性あり、シルトを部分的に少量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。

S161-S01

- 1a. 暗褐色土 10TR3/3 締り強い、粘性あり、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 50\text{mm}$ ) を全体に、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。
- 1b. 暗褐色土 10TR3/3 締り強い、粘性あり、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。
2. 黄褐色土 10TR5/6 締り強い、粘性あり、ロームブロックを部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
3. 濃い黄褐色土 10TR5/4 締り強い、粘性あり、ロームブロックを部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。

S161-P01

1. 黒褐色土 10TR2/2 締り強い、粘性あり、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
2. 黒褐色土 10TR2/2 締り強い、粘性あり、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。
3. 黄褐色土 10TR5/6 締り強い、粘性あり、ロームブロックを全体に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。

S161-P02

1. 黒褐色土 10TR3/2 締り強い、粘性あり、炭化物 ( $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
2. 黒褐色土 10TR2/2 締り強い、粘性あり、炭化物 ( $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に少量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 100\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。

S161-P03

1. 黒褐色土 10TR2/2 締り強い、粘性なし、粘土を全体に少量、シルトを全体に少量、炭化物 ( $\phi 3 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
- 2a. 黒褐色土 10TR2/2 締り強い、粘性なし、炭化物 ( $\phi 3 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に少量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 50\text{mm}$ ) を全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
- 2b. 黒褐色土 10TR2/2 締り強い、粘性なし、シルトを部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
- 3a. 黒褐色土 10TR2/2 締り強い、粘性なし、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 15\text{mm}$ ) を全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
- 3b. 褐色土 10TR4/4 締り強い、粘性なし、ロームブロックを全体に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
4. 黄褐色土 10TR5/6 締り強い、粘性なし、ロームブロックを全体に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。

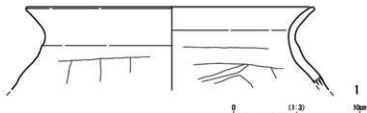
S162

1. 黒褐色土 10TR2/2 締り強い、粘性あり、シルトを部分的に少量、炭化物 ( $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 30\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
- 2a. 黒褐色土 10TR2/2 締り強い、粘性あり、シルトを全体に多く、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 50\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
- 2b. 黒褐色土 10TR2/2 締り強い、粘性あり、シルトを部分的に少量、炭化物 ( $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ) を含む。
3. 黒褐色土 10TR2/2 締り強い、粘性あり、シルトを部分的に少量、炭化物 ( $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ) を含む。
4. 黒褐色土 10TR2/2 締り強い、粘性あり、シルトを部分的に少量、炭化物 ( $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ) を含む。
5. 黒褐色土 10TR2/2 締り強い、粘性あり、シルトを部分的に少量、炭化物 ( $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ) を含む。

S162-S01

1. 褐色土 10TR4/4 締り強い、粘性あり、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
2. 黒褐色土 10TR2/2 締り強い、粘性あり、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く、焼土 ( $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
3. 褐色土 10TR6/8 締り強い、粘性あり、焼土を全体に少量含む。
4. 暗褐色土 10TR3/3 締り強い、粘性あり、炭化物 ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
5. 黒褐色土 10TR2/2 締り強い、粘性あり、焼土を部分的に多く、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に多く含む。

## 第100図 61・62号竪穴建物跡 (2)



## 第101図 61号竪穴建物跡出土遺物

第104表 61号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径: (22.6) 器高: (6.7) 底径: -	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英	良好	5%	5YR6/4	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

64号竪穴建物跡 (第102・103図・第41表)

平面位置 Q-3

重複関係 66・67号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は床面の一部と北壁の一部が僅かに検出され、長軸0.98m以上、短軸0.81m以上、深さ0.29mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈、ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器は須恵器坏蓋模倣の坏、弥生時代後期の十王台式の土器片、泥岩製の支脚などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

67号竪穴建物跡 (第102・104図・第42表)

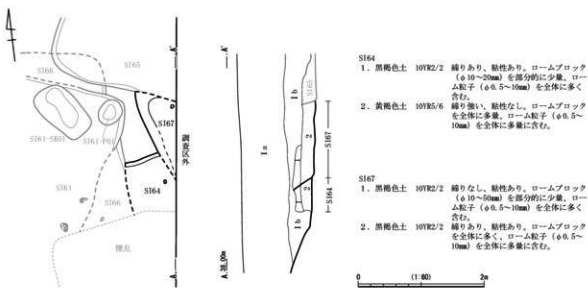
平面位置 Q-3

重複関係 65号竪穴建物跡より古く、64号竪穴建物跡より新しい。

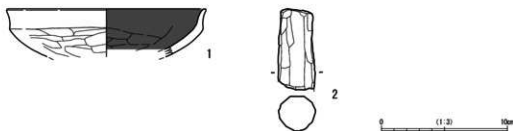
遺構形態 遺構は床面の一部、西壁の一部が検出された。長軸1.20m以上、短軸0.84m以上、深さ0.35mを測る。床はほぼ平坦で、壁は急角度で立ち上がる。竈、ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕(単口縁、ハケ目調整)、器台(赤彩、ヘラミガキ、脚部に円孔あり)、須恵器坏蓋模倣の坏、須恵器甕の破片、ロクロ成形の高台付坏、土師質土器の小皿、皿、砂岩、片岩、片麻岩、珪化木の礫片などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



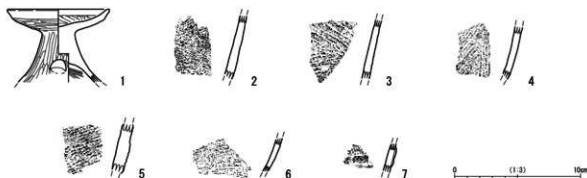
第102図 64・67号竪穴建物跡



第103図 64号竪穴建物跡出土遺物

第41表 64号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 杯	口径：(15.6) 器高：(3.8) 底径：-	白色粒子・赤色粒子・ 雲・針・石英	良好	10%	褐灰(7.5YR4/1)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラ ケズリ、内面ナデ、内面黒色処理
2	石製品 支脚	長さ：6.6 幅：3.0 厚み：2.7	礫	良好	20%	浅黄橙 (10YR5/3)	泥岩またはホルンフェルス、外面ケズ リ仕上げ



第104図 67号竪穴建物跡出土遺物

第42表 67号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 器台	口径：8.0 器高：(5.8) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 雲・針・石英・礫	良好	90%	褐(7.5YR4/6)	口縁部内外面横位ナデ、台部外面横位 ミガキ、台部内面ミガキ、脚部外面縦 位ミガキ、脚部内面ハケ後ナデ、焼成 前穿孔1箇所残
2	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・赤色粒子・ 雲・石英	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/4)	付加織による羽状織文
3	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・赤色粒子・ 雲・石英・礫	良好	5%未満	にぶい黄褐 (10YR5/3)	付加織による羽状織文
4	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 雲・石英	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR6/3)	付加織による羽状織文
5	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・赤色粒子・ 雲・石英・礫	良好	5%未満	黄褐(10YR5/6)	軸線不明+Lを強す
6	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 雲	良好	5%未満	灰黄褐 (10YR5/2)	胴部上半部5本一単位の櫛歯状工具に よる波状文後縦区画を強す、胴部下半 部付加織を強す
7	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・赤色粒子・ 雲・礫	良好	5%未満	灰黄褐 (10YR5/2)	微隙帯貼り付け後5本一単位の櫛歯状 工具による縦区画

### 66号竪穴建物跡 (第105図)

平面位置 Q-3

重複関係 61号竪穴建物跡、3号井戸より古く、64号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は床面の一部と北壁の一部が検出された。長軸2.65m以上、短軸2.44m以上を測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈、ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、外面に刻線のある須恵器蓋である。

時期 遺構の切り合い関係から古墳後期と推定される。



第105図 66号竪穴建物跡出土遺物

### 70号竪穴建物跡 (第106・107図・第43表)

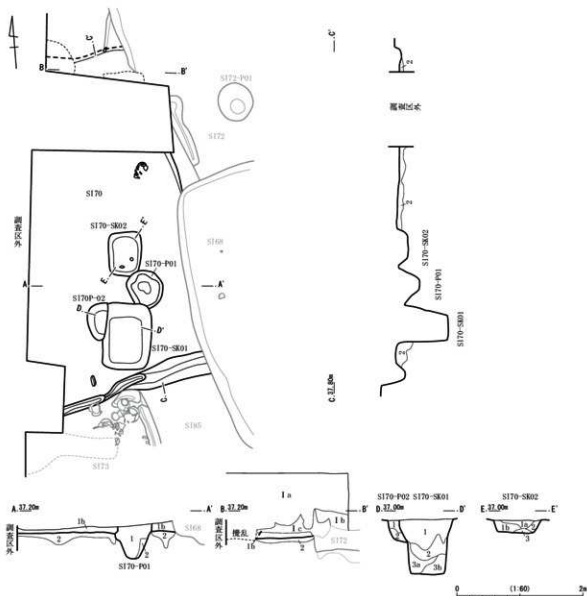
平面位置 M・N-2・3

重複関係 68・72号竪穴建物跡より古く、69・73号竪穴建物跡新しい。

遺構形態 遺構は床面の一部、北壁と南壁の一部が検出された。長軸5.84m以上、短軸3.11m以上、深さ0.31mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。南壁際に周溝が検出されている。竈は検出されていない。床面南側で隅丸長方形の土坑が2基検出されている。ピットは2基が検出され、1号ピットは支柱穴の可能性ある。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕(常陸型、単口縁、ハケ目調整)、器台(脚部に円孔あり)、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、須恵器甕、ロクロ整形の坏(内面黒色処理)、高台付坏、弥生時代後期の十玉台式の土器片、アブライト製の敲石、砂岩、片岩製の礫、砂岩、片岩、泥岩の礫片などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



S170

1b. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性あり。白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3 \text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に多量、埴土を部分的に多量に含む。

2. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に多量に含む。

S170-SK01

1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。炭化物 ( $\phi 3 \sim 5 \text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 50 \text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に多量、埴土 ( $\phi 5 \sim 10 \text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。

2. 褐色土 10YR4/6 締りなし、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に多量に含む。

3a. 黒褐色土 10YR2/2 締りなし、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 50 \text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に多く含む。

3b. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に多量に含む。

S170-SK02

1a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20 \text{mm}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に少量含む。

1b. 黒褐色土 10YR2/2 締りなし、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を部分的に少量含む。

2. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に多く含む。

3. 黒褐色土 10YR2/2 締りなし、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20 \text{mm}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に少量含む。

S170-P01

1. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性あり。白色粒子 ( $\phi 1 \sim 2 \text{mm}$ ) を全体に、ロームブロックを全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に多量、埴土 ( $\phi 5 \sim 10 \text{mm}$ ) を部分的に微量、炭化物 ( $\phi 1 \sim 10 \text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。

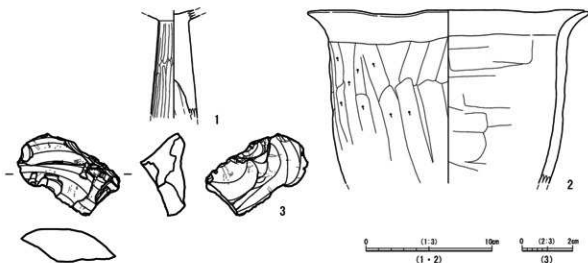
2. 黄褐色土 10YR5/6 締りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に多量に含む。

S170-P02

1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に少量含む。

2. 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に多量に含む。

第106図 70号竪穴建物跡



第107図 70号竪穴建物跡出土遺物

第43表 70号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 高坏	口径:- 器高:(8.6) 底径:-	白色粒子・黑色粒子・ 赤色粒子・雲・石英	良好	10%	灰黄褐 (10YR4/2)	外面縦位ミガキ、内部ヘラナデ
2	土師器 甕	口径:(22.0) 器高:(13.9) 底径:-	白色粒子・黑色粒子・ 赤色粒子・雲・石英・ 礫	良好	15%	にぶい黄褐 (10YR5/3)	口縁部外面横位ナデ、外面縦位ヘラケ ズリ、内面ヘラナデ・ナデ
図版 番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
3	二次加工石割	メノウ	2.2	4.2	1.7	13.9	右側辺下部から下部右側にかけて二次加工が施される。

71号竪穴建物跡 (第108～110図・第44表)

平面位置 K-2・L-2・3

重複関係 4号井戸、20号土坑より古く、73～75、84・85号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は床面の一部、北壁と東壁の一部が検出された。長軸3.94m以上、短軸2.63m以上、深さ0.43mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。竈、ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕（ハケ目調整、有段口縁、常陸型）、高坏、須恵器坏身模倣の坏、甌、碗（内面黒色処理）、鉢、須恵器甕、ロクロ整形の坏（内面黒色処理あり）、土師質土器の鍋、小皿、弥生時代後期の十王台式の土器片、片岩、アブライト製の敲石、メノウ製の火打石、チャート、片岩製の礫片、常滑焼の甕、瀬戸焼の鉢などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

73号竪穴建物跡 (第108・109・111・112図・第45表)

平面位置 L-2・3、M-2

**重複関係** 70・71号竪穴建物跡より古く、75・84・85号竪穴建物跡より新しい。

**遺構形態** 遺構は床面の一部、東壁、71号竪穴建物跡を挟んで南壁の一部が検出された。長軸4.75m以上、短軸2.37m以上、深さ0.18mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。東壁際からは周溝が検出される。竈は検出されていないが北側の床面から炉跡が検出されている。ピットは2基検出され、南東側の攪乱層下位の掘方から検出された1号ピットが主柱穴の可能性がある。覆土は黒褐色土を主体とし、褐色土の自然堆積層である。

**遺物** 出土遺物は床面北東角において出土しており、土師器甕（単口縁＋ハケ目）、台付甕、高坏（ハケ目調整、脚部に円孔）、埴（赤色、ハケ目調整、ミガキ）、埴、須恵器甕、蓋、坏、ロクロ成形の高台付坏、土師質土器の小皿、縄文時代中期阿玉台式の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、片岩製の砥石、瓦質の香炉破片、泥岩製の礫片などである。

**時期** 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代前期中葉～後葉と推定される。

#### 74号竪穴建物跡（第108・109図）

**平面位置** L・M-3

**重複関係** 68号竪穴建物跡より古く、85号竪穴建物跡より新しい。

**遺構形態** 遺構は床面の一部、西壁の一部が検出された。長軸2.39m以上、短軸1.58m以上を測る。床はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。竈、ピットは検出されていない。覆土は後世の攪乱により削平されている。

**遺物** 出土遺物はない。

**時期** 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代前と推定される。

#### 75号竪穴建物跡（第108・109図）

**平面位置** L-3、M-2・3

**重複関係** 71・73号竪穴建物跡より古い、84・85号竪穴建物跡より新しい。

**遺構形態** 遺構は僅かに北東角と東壁の一部が検出された。長軸2.55m以上、短軸0.36m以上、深さ0.30mを測る。壁は急角度で立ち上がる。竈、ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

**遺物** 出土遺物はない。

**時期** 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代前期と推定される。

#### 84号竪穴建物跡（第108・109・113図・第46表）

**平面位置** L・M-3

**重複関係** 71・73・75号竪穴建物跡より古い、85号竪穴建物跡より新しい。

**遺構形態** 遺構は南北に細長く、床面の一部、東壁、北壁、南壁の一部が検出された。長軸2.44m以上、短軸0.57m以上、深さ0.28mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。ピットは南東隅の床面から1基検出されているが、主柱穴で

はない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

**遺物** 出土遺物は、土師器甕（常陸型、ハケ目調整）、土師質土器の小皿などである。

**時期** 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代前期と推定される。

### 85号竪穴建物跡（第108・109図）

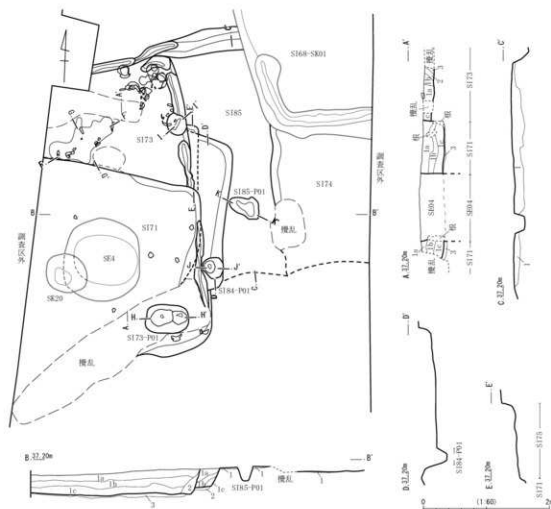
**平面位置** L-3、M-2・3

**重複関係** 68・70・71・73～75・84号竪穴建物跡より古い。

**遺構形態** 遺構は床面の一部が検出された。長軸4.00m以上、短軸1.74m以上を測る。床はほぼ平坦で、竈は検出されていない。南側の床面から1号ピットが検出されている。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

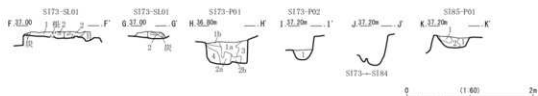
**遺物** 出土遺物は、土師器甕などである。

**時期** 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代前期と推定される。



第108図 71・73・74・75・84・85号竪穴建物跡（1）





- S171
- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし、白色粒子(φ1~3mm)を全体に多く、炭化物(φ5~10mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~30mm)を全体に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、焼土(φ3~10mm)を部分的に少量含む。
- 1b. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし、白色粒子を部分的に、炭化物(φ5~20mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~30mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、焼土(φ5~20mm)を部分的に少量含む。
- 1c. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし、白色粒子(φ1~3mm)を全体に、炭化物(φ5~10mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、焼土(φ3~10mm)を部分的に少量含む。
2. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし、白色粒子(φ1~3mm)を全体に、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、焼土(φ3~10mm)を部分的に少量含む。
3. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし、炭化物(φ1~10mm)を部分的に少量、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、焼土(φ5~10mm)を部分的に少量、白色粒子(φ1~3mm)を全体に多く含む。
- S173
- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり、ロームブロック(φ10~30mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、焼土(φ1~3mm)を部分的に少量含む。
- 1b. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり、ロームブロック(φ10~30mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量、焼土(φ3~5mm)を部分的に少量含む。
- 1c. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり、ロームブロック(φ10~30mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
2. 褐色土 10YR4/6 締り強い、粘性あり、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。
3. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。
- S173-S101
1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に、炭化物を部分的に多く、焼土を部分的に多量を含む。
2. 褐色土 7.5YR4/6 締り強い、粘性なし、焼土を全体に多量を含む。
- S173-P01
- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性あり、炭化物(φ5~15mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
- 1b. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性あり、炭化物(φ3~5mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。
- 2a. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性あり、ロームブロック(φ10~30mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
- 2b. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性あり、ロームブロック(φ10~30mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。
3. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性あり、ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
4. 明褐色土 10YR6/6 締りあり、粘性あり、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。
- S173-P02
1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。
- S174
1. 明黄褐色土 10YR6/8 締りあり、粘性なし、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。
- S175
1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。
- S184
- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり、ロームブロック(φ10~30mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量、炭化物(φ1~10mm)を部分的に多く含む。
- 1b. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。
- 1c. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり、炭化物を全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量、焼土(φ10~20mm)を部分的に少量含む。
- S185
1. 暗褐色土 10YR3/3 締りあり、粘性あり、白色粒子(φ1~3mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
- S185-P01
1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を部分的に少量含む。
2. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。

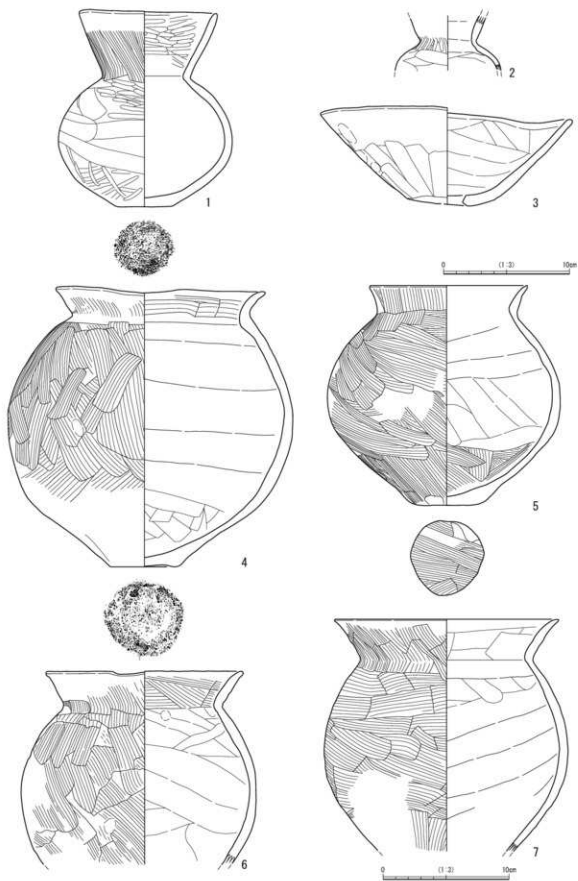
第109図 71・73・74・75・84・85号竪穴建物跡(2)



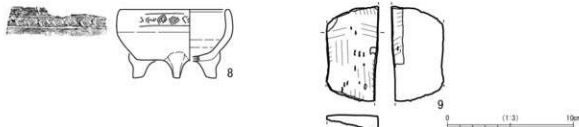
第110図 71号竪穴建物跡出土遺物

第14表 71号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器械	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器鉢	口径:(7.4) 器高:4.7 底径:(2.0)	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・針・チャ・石炭・糠	良好	30%	にぶい橙(7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラナデ、内面ヘラナデ・ナデ



第 III 图 73 号竖穴建物跡出土物 (1)



第112図 73号竪穴建物跡出土遺物（2）

第45表 73号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 埴	口径：10.8 器高：15.6 底径：4.4	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・針・石英・ 礫	良好	100%	にぶい赤褐 (5YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ、頸部縦位ハケ 後ナデ、外面ヘラナデ・ミガキ、内面 ナデ
2	土師器 甕	口径：- 器高：(4.4) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・針・石英・ 礫	良好	25%	赤褐 (5YR4/6)	頸部外面縦位ハケ、胴部横位・斜位ヘ ラナデ、内面ヘラナデ・ナデ
3	土師器 甕	口径：19.8 器高：8.0 底径：5.0	白色粒子・黒色粒子・ 針・石英	良好	95%	にぶい黄橙 (10YR7/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラ ナデ、内面ヘラナデ・ナデ
4	土師器 甕	口径：16.4 器高：22.1 底径：5.2	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・礫	良好	90%	にぶい赤褐 (5YR5/4)	口縁部外面縦位ハケ後横位ナデ、外面 縦位・斜位ハケ、口縁部内面横位ハケ 後横位ナデ、内面ヘラナデ・ナデ
5	土師器 甕	口径：12.4 器高：17.4 底径：4.2	白色粒子・赤色粒子・ 石英・礫	良好	95%	にぶい黄橙 (10YR6/4)	口縁部外面縦位ハケ、外面縦位・斜位 ハケ、口縁部内面横位ハケ、内面ヘラ ナデ・ナデ、底部ハケ
6	土師器 甕	口径：(15.4) 器高：(15.4) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 雲・礫	良好	45%	にぶい橙 (7.5YR7/4)	口縁部外面斜位ハケ後横位ナデ、外面 縦位・斜位ハケ、口縁部内面横位ハケ 後横位ナデ、内面ナデ
7	土師器 甕	口径：(17.6) 器高：(18.3) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 針・石英・礫	良好	25%	にぶい黄橙 (10YR7/3)	口縁部外面縦位ハケ、外面縦位・斜位 ハケ、口縁部内面横位ハケ、内面ヘラ ナデ・ナデ
8	陶磁器 瓦質香炉	口径：(8.4) 器高：5.5 底径：(5.8)	黒色粒子・赤色粒子・ 石英	良好	30%	灰 (N4/0)	口縁部に沿って帯状に沈線および雷文、 三足
図版 番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
9	砥石	凝灰岩	<7.5>	<4.2>	<1.2>	49.4	上下部欠損。裏面も大きく欠損。砥石の部分は平滑 で磨痕も確認できる。



第113図 84号竪穴建物跡出土遺物

第46表 84号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径：(13.2) 器高：(9.6) 底径：-	白色粒子・赤色粒子・ 石英・礫	良好	5%	にぶい赤褐 (5YR4/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位・斜 位ヘラケズリ、内面ナデ

72号竪穴建物跡 (第114～116図・第47表)

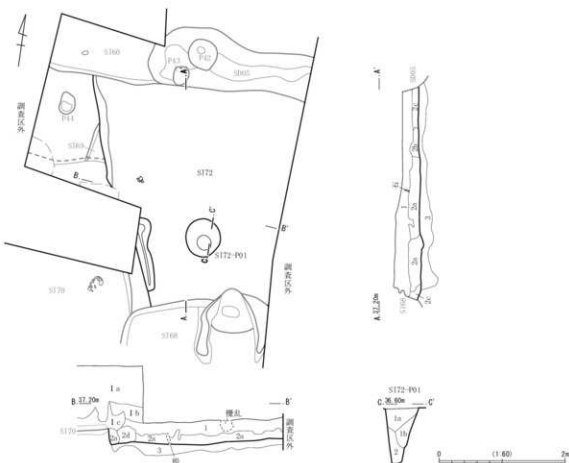
平面位置 N-2・3、M-3

重複関係 60・68号竪穴建物跡、5号溝跡より古く、69・70号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は床面の一部、西壁の一部が検出された。長軸3.79m以上、短軸3.24m以上、深さ0.45mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。西壁南よりの壁際に周溝が部分的に検出された。竈は検出されていない。ピットは南西側の床面で主柱穴の可能性のある1号ピットが検出されている。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕(単口縁+ハケ目調整、単口縁)、高坏(赤彩)、須恵器坏蓋模倣の坏、ロクロ整形の高台付坏、弥生時代中期の龍門寺式、後期の十王台式の土器片などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



第114図 72号竪穴建物跡(1)

## S172

1. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性あり。白色粒子 ( $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ ) を全体に少量、炭化物 ( $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く、粘土 ( $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量を含む。
- 2a. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性あり。炭化物 ( $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量、粘土 ( $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量を含む。
- 2b. 黄褐色土・黒褐色土 10YR5/6~2/2 締りあり、粘性あり。炭化物 ( $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量を含む。
- 2c. 黄褐色土 10YR5/6 締りあり、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量を含む。
- 2d. 赤褐色土 5YR4/6 締りあり、粘性あり。粘土を部分的に多量、炭化物 ( $\phi 2 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に多く、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。
3. 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性強い。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量を含む。

## S172-3R01

1. 明褐色土 7.5YR5/6 締りあり、粘性なし。粘土を全体に多量、シルトを全体に多量を含む。
2. 明赤褐色土 5YR5/6 締りあり、粘性なし。粘土を全体に多量、炭化物を部分的に多量含む。

## S172-P01

- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に微量、ローム粒子を全体に多く含む。
- 1b. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性強い。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量を含む。
2. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性強い。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を全体に、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量を含む。

## 第115図 72号堅穴建物跡(2)



第116図 72号堅穴建物跡出土遺物

第47表 72号堅穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 高坏	口径:- 器高:(5.8) 底径:8.8	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・針・塵	良好	45%	に濃い赤褐 (5YR4/4)	外面縦穴ミガキ、坏内面ナデ、外面・ 坏内面赤彩、器面剥落

## 76号堅穴建物跡(第117~119図・第48表)

平面位置 J・K-2・3

重複関係 77・78号堅穴建物跡より新しい。

**遺構形態** 遺構はほぼ完全な形状で検出された。平面形状は隅丸長方形で、長軸3.26m以上、短軸2.66m以上、深さ0.32mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は北壁のほぼ中央に位置し、竈中央部と左右の構築材が不定形に残されている。竈構築材はシルト質土で、焚口は赤化、硬化していない。竈の左側の北壁下はテラス状となっている。土坑、ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

**遺物** 出土遺物は、土師器甕(常陸型、ハケ目調整、有段口縁)、器台(小形、赤色)、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、埴、鉢(内面黒色処理)、須恵器甕、蓋、坏、高台付坏、ロク口整形の坏、16世紀の瀬戸焼の皿の破片、鉄滓1点(11.9g)、片岩製の鋸歯緑石器、泥岩製の竈構築材、砂岩、片岩製の礫などである。

**時期** 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

77号竪穴建物跡 (第117・118・120図・第49表)

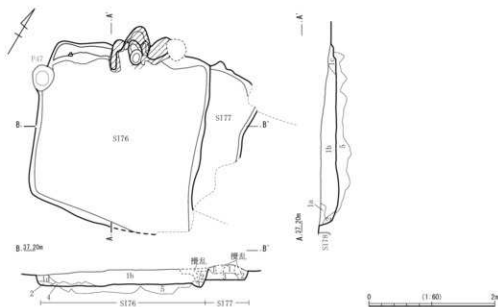
平面位置 J・K-3

重複関係 76号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は床面の一部、北壁の一部、東壁の一部が南北に細長く検出され、長軸2.40 m以上、短軸0.84 m以上、深さ0.24 mを測る。床はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。竈、ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕(ハケ目調整)、高坏、土師質土器の小皿、瓦質の香炉破片、瓦質の鍋の破片、縄文時代前期、中期の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、鉄滓1点(11.4 g)、石英の礫片などである。

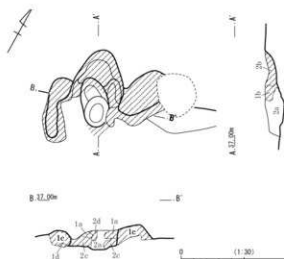
時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代前期と推定される。



- S176
- 1a 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を部分的に微量、シルト(φ1~2mm)を部分的に微量を含む。
  - 1b 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。白色粒子(φ1~2mm)を全体に少量、炭化物(φ3~5mm)を部分的に微量、ロームブロック(φ10~100mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、機土(φ3~5mm)を部分的に微量を含む。
  - 1c 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。シルトを部分的に多量、ロームブロック(φ10~30mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
  - 1d 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
  - 2 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
  - 3 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
  - 4 黒褐色土 10YR2/2 締りなし、粘性なし。ロームブロック(φ10~30mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
  - 5 黒褐色土・明黄褐色土 10YR3/2+6/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。

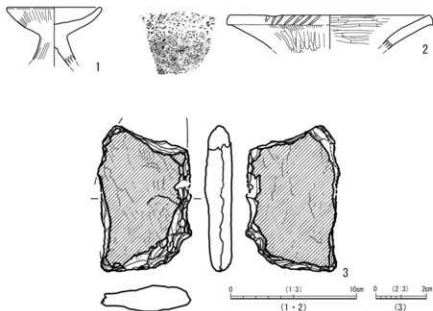
- S177
- 1 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~90mm)を部分的に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量、機土(φ1~5mm)を部分的に少量含む。
  - 2 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。炭化物(φ5~10mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
  - 3 黒褐色土・明黄褐色土 10YR2/2+6/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子を全体に多く含む。

第117図 76・77号竪穴建物跡(1)



第118図 76・77号竪穴建物跡(2)

- SF76-カマド
- 1a 赤褐色土 5YR4/6 粘り強い、粘性なし。シルトを全体に多く、焼土を全体に多量に含む。
- 1b 赤褐色土 5YR4/6 粘り強い、粘性なし。焼土を全体に多量、シルトを部分的に多く含む。
- 2a 黒褐色土 10YR2/2 粘り強い、粘性なし。シルトを部分的に、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量、焼土(φ1~30mm)を部分的に含む。
- 2b 黒褐色土 10YR2/2 粘り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量、焼土(φ1~30mm)を部分的に少量含む。
- 2c 黒褐色土 10YR2/2 粘り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に含む。
- 2d 黒褐色土 10YR2/2 粘り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、焼土(φ1~30mm)を部分的に多量、シルトを全体に多量に含む。



第119図 76号竪穴建物跡出土遺物

第48表 76号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 高坏	口径:(7.4) 器高:(4.7) 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 雲・石英・礫	良好	40%	赤褐色(5YR4/6)	外面ミガキ、坏部内面ナデ
2	土師器 壺	口径:(16.0) 器高:(2.9) 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 長	良好	5%未満	にぶい橙 (7.5YR6/4)	口唇部外面キザミ、外面縦位ミガキ、 内面横位ミガキ、内面保付着
図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
3	割断緑石器	片岩	<5.8>	3.7	1.0	32.6	右側辺から下部にかけてやや粗めの調整が行われ割断状になっている。



第120図 77号竪穴建物跡出土遺物

第49表 77号竪穴建物跡出土遺物観察表

図取番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径:(13.0) 器高:(5.9) 底径:-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・針・石英・礫	良好	5%	にぶい褐 (7.5YR5/4)	口縁部内外面ハケ後横位ナデ、外面ハケ後ナデ、内面ヘラナデ・ナデ

### 78号竪穴建物跡 (第121・122図・第50表)

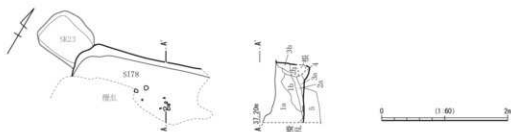
平面位置 J-2・3

重複関係 76号竪穴建物跡より古く、23号土坑より新しい。

遺構形態 遺構は緩やか北西角から北壁の一部が検出された。長軸2.04m以上、短軸1.07m以上、深さ0.53mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈、ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土を主体とし、暗褐色土と褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕（ハケ目調整、単口縁、常陸型）、高坏、須恵器灯蓋模倣の坏、砂岩製の台石+敲石などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

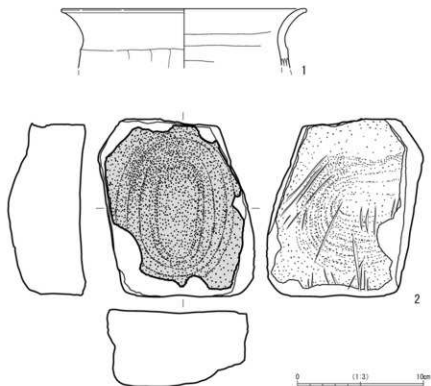


S178

- 1a 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、炭化物(φ3~15mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に、焼土(φ3~10mm)を部分的に少量、白色粒子(φ1~3mm)を全体に含む。
- 1b 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量、焼土(φ1~10mm)を部分的に微量に含む。
- 2a 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。シルトを部分的に少量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に微量に含む。
- 2b 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ローム粒子(φ0.5~10mm)を部分的に多く含む。
- 3a 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性なし。シルトを部分的に微量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、焼土(φ3~10mm)を部分的に微量に含む。
- 3b 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。白色粒子(φ1~3mm)を全体に微量、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量、焼土(φ1~10mm)を部分的に少量含む。
- 4 褐色土 10YR4/6 締り強い、粘性なし。シルトを部分的に少量、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
- 5 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。

第121図 78号竪穴建物跡





第122図 78号竪穴建物跡出土遺物

第50表 78号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径：(19.2) 器高：(4.8) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・チャ・ 石英・礫	良好	5%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラ ケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
図版 番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
2	石皿	砂岩	14.0	12.0	6.0	1409.1	表面中央部は浅い皿状になっており、平落。裏面は 中央部が盛り上がり、縦方向の線刻が多くみ られる。

### 79号竪穴建物跡 (第123図)

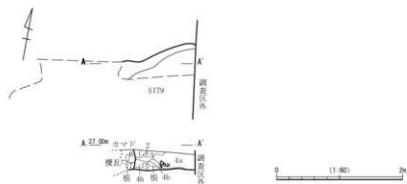
平面位置 J-3

重複関係 なし

**遺構形態** 遺構は床面の一部、北壁の一部が検出された。長軸 1.20 m 以上、短軸 0.57 m 以上、深さ 0.34 m を測る。床はほぼ平坦で踏み縮まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は攪乱を顕著に受けており、構築材の一部が僅かに検出された。ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土、褐色土の自然堆積層である。南側の 80 号竪穴建物跡と同一の遺構の可能性がある。

**遺物** 出土遺物は、土師器甕（常陸型、ハケ目調整）、須恵器坏蓋模倣の坏、石英製の剥片などである。

**時期** 出土遺物の特徴から古墳時代後期と推定される。



5179

1. 黄褐色土 10TR5/6 細り強い、粘性あり、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量に含む。
2. 褐色土 10TR4/4 細り強い、粘性あり、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量に含む。
3. 黒褐色土 10TR2/2 細り強い、粘性あり、焼土を部分的に多量、ロームブロック (φ10~70mm) を部分的に、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く含む。
- 4a. 黒褐色土 10TR2/2 細り強い、粘性あり、ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量、焼土 (φ2~5mm) を部分的に少量に含む。
- 4b. 黒褐色土 10TR2/2 細り強い、粘性あり、焼土 (φ3~10mm) を部分的に少量、ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量に含む。
5. 暗褐色土 10TR3/3 細り強い、粘性あり、炭化物 (φ2~10mm) を部分的に少量、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量、焼土 (φ5~20mm) を部分的に少量含む。
6. 暗褐色土 7.5TR3/4 細り強い、粘性あり、焼土を全体に多量、シルトを全体に多量に含む。
7. にぶい黄褐色土 10TR5/4 細り強い、粘性あり、シルトを全体に多量、焼土を部分的に多量、ロームブロックを部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量に含む。

第123図 79号竪穴建物跡

#### 80号竪穴建物跡 (第124~126図・第51表)

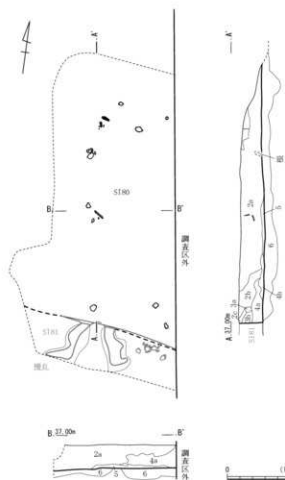
平面位置 I・J-3・4

重複関係 81号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は床面の一部、南壁の一部が検出された。長軸4.65m以上、短軸1.95m以上、深さ0.42mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈、ビツは、検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

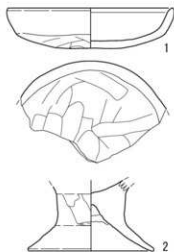
遺物 出土遺物は、土師器甕 (常陸型、単口縁、ハケ目調整)、器台 (赤色、脚部円孔あり)、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、甌、須恵器甕、ロクロ成形の坏 (内面黒色処理あり)、高台付坏、片岩製の二次加工石器、泥岩製の竈構築材、種別不明の骨片 (2点・合計44.8g) アブライト製の礫、砂岩、片岩製の礫片などである。

時期 出土遺物の特徴から古墳時代後期と推定される。

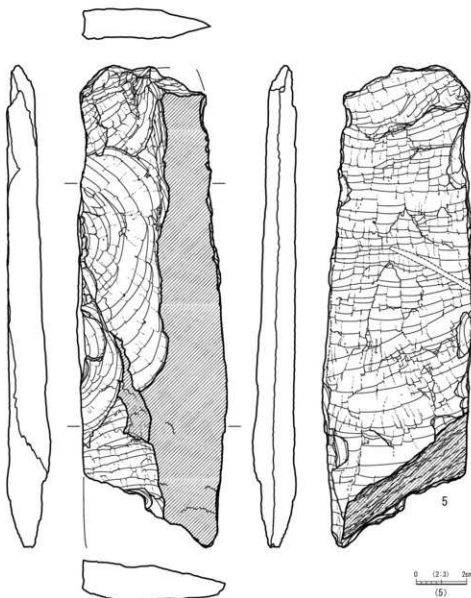


第124図 80号竪穴建物跡

- S180
1. 黒褐色土 10VR2/2 締り強い、粘性なし。シルトを部分的に、炭化物(φ3~10mm)を部分的に微量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に含む。
  - 2a. 黒褐色土 10VR2/2 締り強い、粘性なし。炭化物を部分的に少量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に少量含む。
  - 2b. 黒褐色土 10VR2/3 締り強い、粘性なし。シルトを部分的に多量、炭化物(φ3~10mm)を部分的に微量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量、焼土(φ3~5mm)を部分的に微量に含む。
  - 3c. 黒褐色土 10VR2/2 締り強い、粘性なし。焼土(φ1~5mm)を部分的に微量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
  - 3a. 黒褐色土 10VR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~10mm)を全体に多量に含む。
  - 3b. 黒褐色土 10VR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量、焼土(φ3~10mm)を部分的に少量含む。
  - 4a. 黒褐色土 10VR2/2 締り強い、粘性なし。シルトを全体に少量、炭化物(φ3~10mm)を部分的に微量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量、焼土(φ5~10mm)を部分的に少量含む。
  - 4b. 黒褐色土 10VR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量、焼土(φ1~3mm)を部分的に微量に含む。
  5. 黒褐色土 10VR3/2 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量含む。
  6. 黒褐色土・褐色土 10VR2/2+4/6 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量、炭化物を部分的に多量、焼土(φ5~10mm)を部分的に少量含む。



第125図 80号竪穴建物跡出土遺物(1)



第126図 80号竪穴建物跡出土遺物(2)

第51表 80号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 坏	口径:(13.0) 器高:(3.0) 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・チャ・ 石英	良好	30%	にふい・黄橙 (10YR6/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ、外面煤付着
2	土師器 高坏	口径:- 器高:(5.6) 底径:(9.8)	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・針・ 石英	良好	10%	にふい・橙 (7.5YR6/4)	脚部外面縦位ヘラナデ、裾部内外面横位ナデ、煤付着(破損後)
3	土師器 鉢	口径:- 器高:(4.4) 底径:(6.6)	白色粒子・黒色粒子・ 雲・石英・礫	良好	5%	にふい・赤褐 (5YR5/4)	外面ヘラナデ・指頭痕、内面ヘラナデ・ナデ
4	土師器 鉢	口径:- 器高:(4.8) 底径:(5.6)	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・石英・ 礫	良好	5%	橙(5YR6/6)	外面ナデ、内面ヘラナデ・ナデ、底部副代痕?
図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
5	二次加工石器	片岩	<19.6>	5.9	1.5	213.4	左側辺部に薄手の加工が繰り返し施される。

81号竪穴建物跡 (第127～130図・第52表)

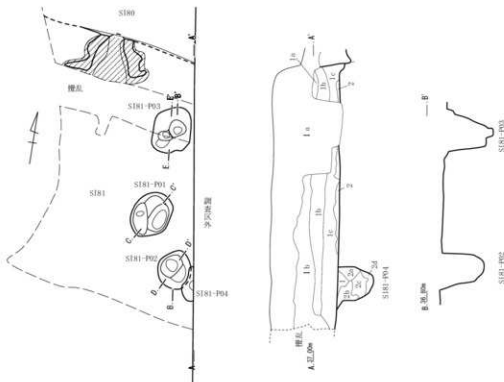
平面位置 H・I-3・4

重複関係 80・90号竪穴建物跡より古い。

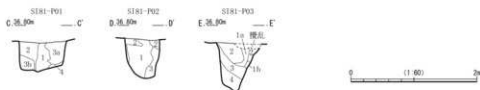
**遺構形態** 遺構は床面の一部が検出され、長軸4.5m以上、短軸2.97m以上、深さ0.49mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがある。竈は北竈でありあまり破壊されておらず、燃焼部を中心に左右の構築材が検出されている。竈構築材はシルト質土である。焚口の底面は赤化、硬化していないが、内部には焼土を主体とした土層の堆積が認められる。このカマドは煙道が遺構外にあまり延びていない形状である。ピットは4基検出され、重複を含めて3基の支柱穴が検出されている。覆土黒褐色土の自然堆積層である。

**遺物** 出土遺物は、土師器甕（単口縁、S字状口縁+ハケ目調整、ハケ目調整、単口縁）、器台（脚部円孔あり）、高坏（赤彩あり）、坏、須恵器坏蓋模倣の坏、甌、碗、ロクロ成形の坏、アブライト製の二次加工石器、縄文時代中期の加曾利E式土器の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、砂岩製磔、礫片などである。

**時期** 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



第127図 81号竪穴建物跡(1)



- SI81
- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に少量、焼土（ $\phi 3\sim 5\text{mm}$ ）を部分的に微量、白色粒子（ $\phi 1\sim 3\text{mm}$ ）を部分的に微量に含む。
  - 1b. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少量、炭化物（ $\phi 3\sim 5\text{mm}$ ）を部分的に微量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に、焼土（ $\phi 1\sim 5\text{mm}$ ）を部分的に少量含む。
  - 1c. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。炭化物（ $\phi 2\sim 10\text{mm}$ ）を部分的に微量、ロームブロック（ $\phi 10\sim 50\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に少量、焼土（ $\phi 1\sim 5\text{mm}$ ）を部分的に少量含む。
  2. 明黄褐色土・黒褐色土 10YR6/6+2/2 締り強い、粘性なし。炭化物（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少量、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量、焼土を部分的に多く含む。

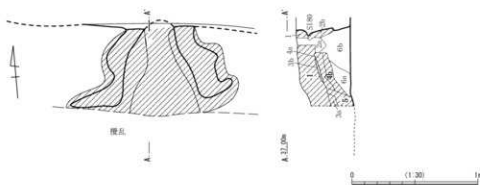
- SI81-P01
1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロック（ $\phi 10\sim 100\text{mm}$ ）を部分的に多量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。
  2. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。
  - 3a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロック（ $\phi 10\sim 100\text{mm}$ ）を全体に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。
  - 3b. 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。
  4. 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。

- SI81-P02
1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロック（ $\phi 10\sim 50\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に少量、焼土（ $\phi 3\sim 10\text{mm}$ ）を部分的に少量含む。
  2. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量、焼土（ $\phi 3\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少量含む。
  3. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロック（ $\phi 10\sim 50\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に少量含む。

- SI81-P03
- 1a. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 30\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多く含む。
  - 1b. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。炭化物（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少量、ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多く含む。
  2. 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。
  3. 黒褐色土・黄褐色土 10YR2/3+5/6 締り強い、粘性なし。炭化物（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に微量、ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。
  4. 黄褐色土・黒褐色土 10YR5/6+2/3 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。

- SI81-P04
1. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 30\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に含む。
  - 2a. 黒褐色土・黄褐色土 10YR2/3+5/6 締り強い、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 50\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を含む。
  - 2b. 黒褐色土・黄褐色土 10YR2/3+2/3 締り強い、粘性なし。炭化物（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に微量、ロームブロック（ $\phi 10\sim 150\text{mm}$ ）を部分的に多量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。
  - 2c. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 30\text{mm}$ ）を全体に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量、焼土（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を部分的に微量に含む。
  - 2d. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量、焼土（ $\phi 5\sim 10\text{mm}$ ）を部分的に微量含む。

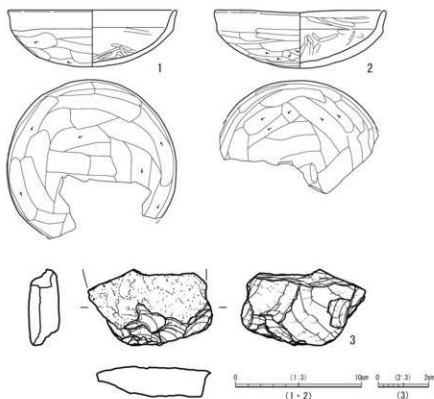
第128図 81号堅穴建物跡(2)



SI-81 カマド

1. 二色い黄褐色土 101K/4 締り強い、粘性あり、シルトを全体に多量、炭化物(φ3~10mm)を部分的に少量、焼土を部分的に多く含む。
- 2a. 黒褐色土 101K3/2 締り強い、粘性あり、シルトを全体に少量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に、焼土(φ5~10mm)を部分的に少量含む。
- 2b. 黒褐色土 101K2/2 焼土を全体に多く、ロームブロック(φ10~20mm)を全体に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
- 3a. 明褐色土 7.51R5/6 締り強い、粘性なし、焼土を全体に多量、シルトを全体に多量、炭化物を部分的に多く含む。
- 3b. 明褐色土 7.51R5/8 締り強い、粘性あり、焼土を全体に多量、炭化物を部分的に多く含む。
- 4a. 黒褐色土 101K2/2 締り強い、粘性あり、シルトを全体に多量、炭化物(φ3~5mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、焼土(φ3~20mm)を全体に少量含む。
- 4b. 黒褐色土 101K3/2 締り強い、粘性あり、シルトを全体に多く、ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、焼土(φ3~5mm)を部分的に少量含む。
5. 黒褐色土 101K2/2 締り強い、粘性なし、シルトを全体に多く、炭化物(φ5~10mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~30mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に、焼土を全体に多く含む。
- 6a. 黒褐色土 101K3/2 締り強い、粘性あり、シルトを全体に少量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量、焼土(φ5~10mm)を部分的に少量含む。
- 6b. 黒褐色土 101K2/2 締り強い、粘性あり、シルトを部分的に少量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量、焼土(φ3~10mm)を部分的に少量含む。

第129図 81号竪穴建物跡(3)



第130図 81号竪穴建物跡出土遺物

第52表 81号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 坏	口径:13.2 器高:4.5 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・石英	良好	99%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ・ヘラナデ、口縁部外面～内面黒色処理の痕跡
2	土師器 坏	口径:(13.4) 器高:4.6 底径:-	白色粒子・赤色粒子・ 雲・針・石英・礫	良好	30%	橙(7.5YR6/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ・ナデ、内面焼付着
図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
3	打製石斧	アブライト	<2.8>	5.0	1.2	21.6	上部を大きく欠損。刃部は丁寧に調整が無される。

86号竪穴建物跡 (第131図)

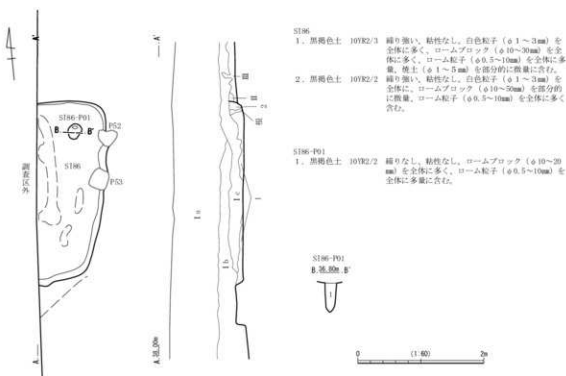
平面位置 I・J-2

重複関係 ビット-52・53より古く、85号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は床面の一部、東壁、北壁と南壁の一部が検出された。長軸2.92m以上、短軸1.11m以上、深さ0.14mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は緩やかに立ち上がる。竈は検出されていない。ビットは小規模であるが支柱穴と推定される2号ビットが北東角の床面から検出されている。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕(常陸型、ハケ目調整)、高坏、坏(内面黒色処理あり)、須恵器甕、ロクロ整形の坏、砂岩、片岩製の礫片などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



第131図 86号竪穴建物跡



87号竪穴建物跡 (第132～134図・第53表)

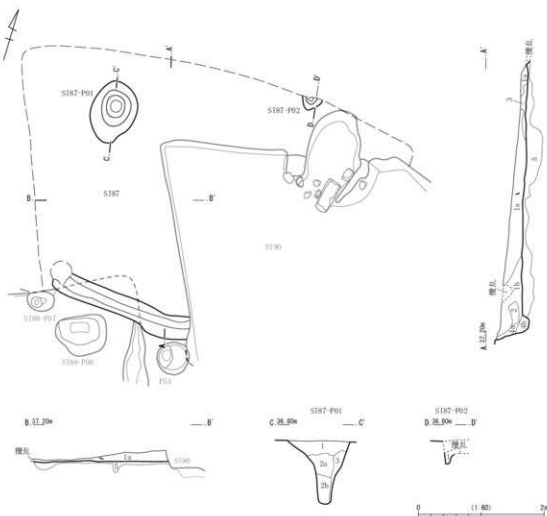
平面位置 G-2・3、H-2～4

重複関係 88・90号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は床面の一部、南壁の一部が検出された。長軸4.35m以上、短軸3.55m以上、深さ0.26mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。南壁際からは周溝が検出されている。竈は検出されていないが、ピットは2基検出され、北西の1号ピットが支柱穴の可能性もある。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕(常陸型、単口縁、ハケ目調整、S字状口縁)、壺、器台、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、埴、須恵器坏、土師質土器の小皿、縄文時代前期の黒浜式、後期の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、砂岩製の敲石+磨石、砂岩、片岩、石英製の礫片などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期と推定される。



第132図 87号竪穴建物跡(1)

S187

- 1a. 黒褐色土 10TR2/2 編り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 100\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量、機土 ( $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ) を部分的に少量、白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を部分的に少量含む。  
 1b. 黒褐色土 10TR2/2 編り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く、機土 ( $\phi 1 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に少量、白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を部分的に少量含む。  
 2. 黒褐色土 10TR2/2 編り強い、粘性なし。白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を部分的に少量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。  
 3. 黒褐色土・黄褐色土 10TR2/2+5/6 編り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 100\text{mm}$ ) を部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。  
 4a. 黒褐色土 10TR2/2 編り強い、粘性なし。白色粒子 ( $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ) を部分的に少量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。  
 4b. 黒褐色土 10TR2/2 編り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 50\text{mm}$ ) を部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量、機土 ( $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ) を部分的に少量含む。  
 5. 黄褐色土・黒褐色土 10TR5.6+2/2 編り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。

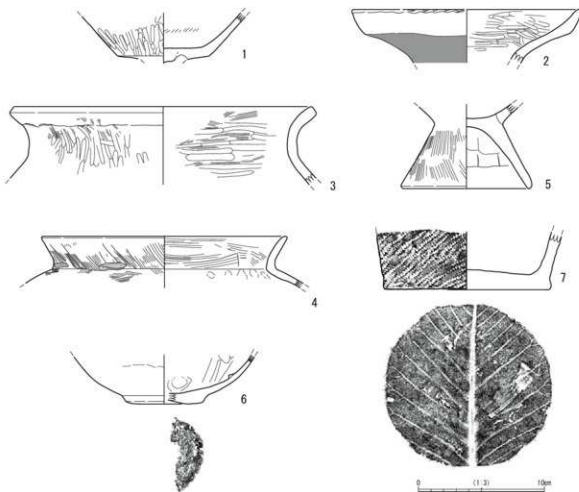
S187-P01

1. 黒褐色土 10TR2/2 編り強い、粘性あり。シルトを部分的に少量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 50\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に含む。  
 2a. 褐色土 10TR4/4 編り強い、粘性強い。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。  
 2b. 褐色土 10TR4/4 編り強い、粘性強い。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。  
 3. 黄褐色土 10TR5/6 編り強い、粘性強い。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。

S187-P02

1. 黒褐色土 10TR2/2 編り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。

第133図 87号竪穴建物跡(2)



第134図 87号竪穴建物跡出土遺物

第53表 87号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 高坏	口径:- 器高:<4.0> 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・針・ 石英	良好	15%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	内外面ミガキ・ナデ、外面腐付着
2	土師器 甕	口径:(18.0) 器高:<4.2> 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・針・ 石英・礫	良好	5%	にぶい赤褐 (2.5YR5/4)	口唇部刻み、口縁部外面横位ナデ、頸部外面ミガキ・赤彩、内面ミガキ、
3	土師器 甕	口径:(23.6) 器高:<6.2> 底径:-	白色粒子・赤色粒子・ チャ・雲・針・石英・ 礫	良好	5%	にぶい黄橙 (10YR6/3)	口縁部外面横位ナデ、頸部外面ミガキ・ナデ、内面横位ミガキ・ナデ
4	土師器 甕	口径:(19.4) 器高:<4.2> 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 雲・針・石英・礫	良好	5%	にぶい褐 (7.5YR5/4)	口縁部外面斜位ハケ後横位ナデ、外面ハケ後ナデ、口縁部内面横位ハケ後横位ナデ、内面ナデ・指頭痕
5	土師器 台付き甕	口径:10.0 器高:<6.7> 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・針・石英・ 礫	良好	40%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	外面縦位・斜位ハケ、内面ヘラナデ・ナデ、裾部内外面横位ナデ
6	土師器 甕	口径:- 器高:<3.9> 底径:(5.8)	白色粒子・黒色粒子・ 雲・針・石英・礫	良好	5%	にぶい黄橙 (10YR7/3)	外面ナデ、内面ヘラナデ・ナデ、焼成後穿孔1箇所残、底部木葉痕、内面・底部腐付着
7	弥生土器 甕	口径:- 器高:<4.6> 底径:13.0	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・石英・ 礫	良好	15%	褐灰(10YR5/1)	外面縦文LR、内面ナデ、底部木葉痕

88号竪穴建物跡(第135～138図・第54表)

平面位置 F・G-2・3

重複関係 85・87号竪穴建物跡より新しい。

**遺構形態** 遺構は床面、北壁、西壁、東壁の一部が検出された。長軸5.19m、短軸4.05m、深さ0.44mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は北竈で北壁のほぼ中央に位置して検出された。竈構築材はシルト質土で、右袖に部分的に泥岩の構築材を使用している。焚口の底面は赤化、硬化しており被熱を受けている。ピットは12基検出され、支柱穴は、北西で2基(13・14号ピット)、北東で1基(8号ピット)の3基が検出されている。覆土は黒褐色土と褐色土の自然堆積層である。

**遺物** 出土遺物は、土師器甕(常陸型、単口縁)、器台(脚部に円孔あり)、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、甌、埴、須恵器甕、蓋、ロクロ整形の坏(内面黒色処理あり)、土師質土器の小皿縄文時代中期の阿玉台式の土器片、弥生時代中期の龍門寺式、後期の十王台式の土器片、瀬戸焼の皿、泥岩製の支脚、竈構築材、砂岩、片岩、泥岩、凝灰岩製の礫片などである。

**時期** 出土遺物の特徴から古墳時代後期と推定される。

89号竪穴建物跡(第139～142図・第55表)

平面位置 F・G-3・4

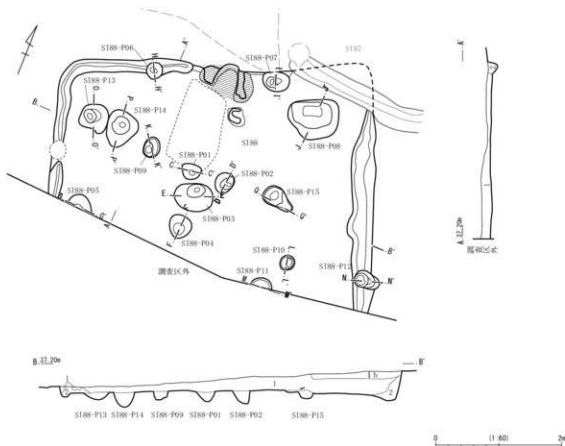
重複関係 90号竪穴建物跡より新しい。

**遺構形態** 遺構は床面の一部と西壁の一部が検出された。長軸4.43m以上、短軸4.28m以上、深さ0.50mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は北竈で規模が大きく幅が約1mほどで、形状が保存されたまま検出されている。竈構築材はシルト質土で、泥岩の構築材を部分的に使用している。天盤の左右に一カ所ずつ掛け口と思われる埋没したピットが

検出されている。焚口の底面は赤化、硬化しており被熱を受けている。ピットは6基検出されているが、主柱穴はない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

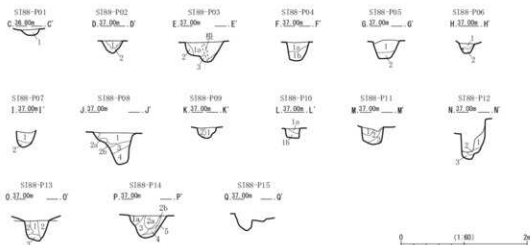
**遺物** 出土遺物は、土師器甕（常陸型、ハケ目調整、単口縁）、壺、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、甌、埴（小形）、須恵器甕、蓋、埴瓶、坏身、ロクロ整形の坏、高台付坏、土師質土器の小皿、片口鉢、甕、砂岩製の敲石+磨石、アブライト製の敲石、砂岩製の台石、片岩製の二次加工石器、玉髓製の礫、砂岩、片岩、ホルンフェルス、泥岩、頁岩製の礫片などである。

**時期** 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



- STR
1. 黒褐色土 10W2/2 締り強い、粘性なし。炭化物（ $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ）を部分的に微量、白色粒子（ $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ）を全体に多く、ロームブロック（ $\phi 10 \sim 100\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量、機土（ $\phi 1 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多く含む。
  2. 褐色土 10W4/4 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量、シルトを全体に多く、機土（ $\phi 1 \sim 15\text{mm}$ ）を部分的に少量、白色粒子（ $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ）を部分的に含む。

第135図 88号堅穴建物跡(1)



- S188-P01  
1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし、白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に含む。
- S188-P02  
1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし、白色粒子 ( $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。  
2. 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
- S188-P03  
1a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし、白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量、堆土 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。  
1b. 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。  
2. 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
- S188-P04  
1a. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし、白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を全体に、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 50\text{mm}$ ) を部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く、堆土 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。  
1b. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
- S188-P05  
1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり、炭化物 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を部分的に少量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に、堆土 ( $\phi 1 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に少量、白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を全体に少量含む。  
2. 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
- S188-P06  
1. 暗褐色土 10YR3/3 締りあり、粘性あり、白色粒子 ( $\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$ ) を全体に、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。  
2. 黄褐色土 10YR5/6 締りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
- S188-P07  
1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 50\text{mm}$ ) を部分的に、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く、堆土 ( $\phi 3 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。  
2. 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
- S188-P08  
1. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 50\text{mm}$ ) を全体に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に、堆土 ( $\phi 1 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。  
2a. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 50\text{mm}$ ) を部分的に、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。  
2b. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 50\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。  
3. 黄褐色土 10YR5/6 締りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。  
4. 黒褐色土 10YR3/2 締りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
- S188-P09  
1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 30\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。  
2. 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
- S188-P10  
1a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。  
1b. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 50\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。
- S188-P11  
1. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 30\text{mm}$ ) を全体に、炭化物 ( $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。  
2. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。シルト ( $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。  
3. 黄褐色土・黒褐色土 10YR5/6+2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
- S188-P12  
1. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。  
2. 黄褐色土 10YR5/6 締りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。  
3. 黒褐色土 10YR3/2 締りなし、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 50\text{mm}$ ) を部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。

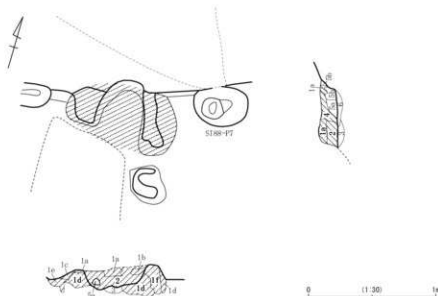
第136図 88号堅穴建物跡(2)

SI88-F13

1. 黒褐色土・黄褐色土 10YR2/2+5/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
2. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
3. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。

SI88-F14

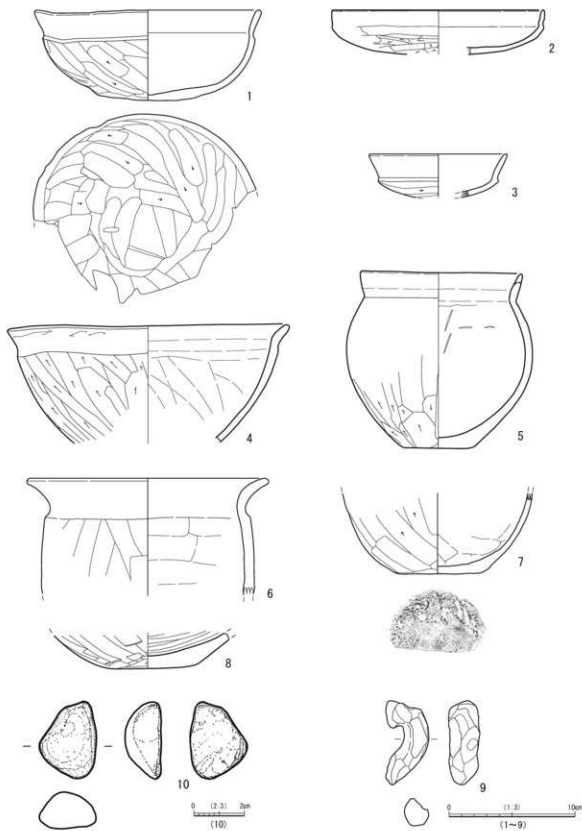
1. 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
- 2a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ) を全体に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を部分的に少量含む。
- 2b. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
3. 褐色土 10YR4/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
4. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10\sim 30\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
5. 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。



SI-88 カマド

- 1a. 赤い黄褐色土 10YR7/4 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、焼土を部分的に多量、炭化物 ( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ ) を部分的に少量含む。
- 1b. 赤い黄褐色土 10YR5/4 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、焼土を全体に多量に含む。
- 1c. 暗褐色土 10YR3/4 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、炭化物 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を部分的に少量、ロームブロック ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く、焼土 ( $\phi 3\sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量含む。
- 1d. 褐色土 10YR4/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量、シルトを全体に多く、焼土 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を部分的に少量含む。
- 1e. 褐色土 10YR4/4 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多く、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
- 1f. 褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量に含む。
2. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし。焼土を全体に多量、炭化物 ( $\phi 1\sim 3\text{mm}$ ) を部分的に少量、ロームブロック ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
3. 明黄褐色土 5YR5/6 締り強い、粘性なし。焼土を全体に多量に含む。
4. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、炭化物 ( $\phi 1\sim 3\text{mm}$ ) を部分的に少量、ロームブロック ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に、焼土 ( $\phi 1\sim 10\text{mm}$ ) を部分的に少量含む。
- 5a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。シルトを部分的に少量、炭化物を部分的に多量、ロームブロック ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を含む。焼土 ( $\phi 1\sim 10\text{mm}$ ) を部分的に少量含む。
- 5b. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量、シルトを部分的に少量含む。

第137図 88号竪穴建物跡(3)

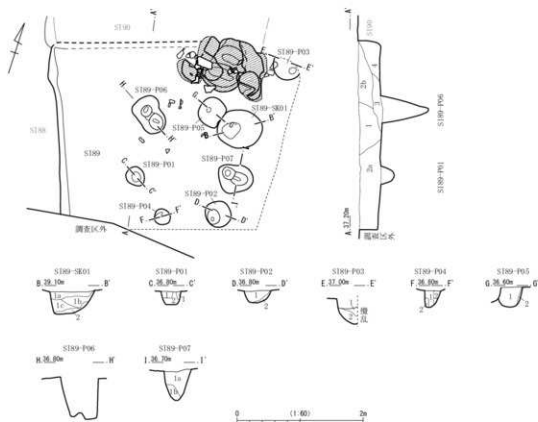


第 138 图 88 号竖穴建物跡出土遺物

第54表 88号竪穴建物跡出土遺物観察表

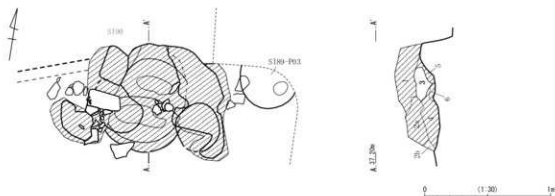
図版 番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 鉢	口径：(17.8) 器高：7.1 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英	良好	60%	橙 (5YR6/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ、外面煤付着
2	土師器 坏	口径：(16.8) 器高：(4.9) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 雲	良好	30%	にぶい黄橙 (10YR6/3)	口縁部内外面横位ナデ、底部外面ヘラケズリ、内面横位ナデ
3	土師器 坏	口径：(10.8) 器高：(3.4) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・石英	良好	10%	にぶい褐 (7.5YR5/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ、内外面煤付着
4	土師器 鉢	口径：22.2 器高：(9.1) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 雲・石英	良好	20%	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面煤位および斜位ケズリ、内面横位ナデ
5	土師器 甕	口径：12.9 器高：13.9 底径：5.1	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・チャ・石 英	良好	80%	赤褐 (5YR4/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ケズリ後横位ナデ、内面横位ナデ
6	土師器 甕	口径：(18.8) 器高：(9.1) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・石英・ 礫	良好	5%	明赤褐 (2.5YR5/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
7	土師器 鉢	口径：- 器高：(6.4) 底径：6.4	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・石英・ 礫	良好	20%	明赤褐 (5YR5/6)	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ、内面煤付着
8	土師器 甕	口径：- 器高：(3.0) 底径：7.2	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未講	黄橙 (10YR6/3)	外面縦位ケズリ、内面横位ナデ
9	土師器 散	口径：長さ(6.7) 器高：幅3.4 底径：厚さ2.5	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・石英・ 礫	良好	5%未講	灰褐 (7.5YR4/2)	ナデ、外面煤付着、把手
図版 番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
10	磨石	チャート	3.1	2.3	1.5	13.1	三角形状を呈し、やや肉厚、全体に平滑で光沢をもつ。





- ST89
1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。炭化物(φ5~10mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、堆土(φ1~10mm)を全体に少量、白色粒子(φ1~3mm)を部分的に少量含む。
  2. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。炭化物(φ3~15mm)を全体に少量、ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、堆土(φ1~10mm)を部分的に少量、白色粒子(φ1~3mm)を部分的に少量含む。
  3. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。白色粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、堆土(φ3~10mm)を部分的に少量含む。
  4. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。白色粒子(φ1~3mm)を部分的に少量、炭化物(φ3~10mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、堆土(φ1~5mm)を部分的に少量含む。
- ST89-SK01
- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。炭化物(φ5~10mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、堆土(φ1~5mm)を部分的に少量含む。
  - 1b. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。シルトを部分的に少量、炭化物(φ5~30mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、堆土(φ1~5mm)を部分的に少量含む。
  - 1c. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。炭化物(φ5~10mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、堆土(φ3~10mm)を部分的に少量含む。
  2. 黒褐色土・黄褐色土 10YR2/2+5/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
- ST89-P01
1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
  2. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
- ST89-P02
1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
  2. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
- ST89-P03
1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~30mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
  2. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
- ST89-P04
1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。白色粒子(φ1~3mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
  2. 黄褐色土・黒褐色土 10YR5/6+2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
- ST89-P05
1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~100mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
  2. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
- ST89-P07
- 1a. 黒褐色土 10YR2/3 締りなし、粘性あり。ロームブロック(φ10~30mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
  - 1b. 黒褐色土 10YR2/3 締りなし、粘性あり。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。

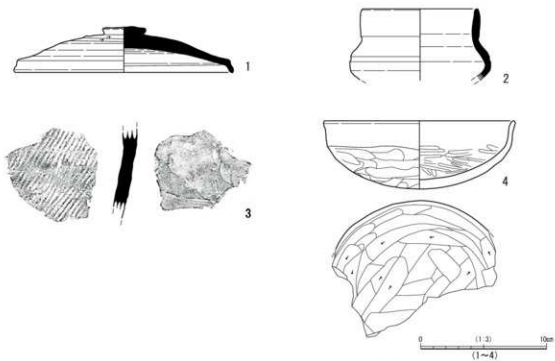
第139図 89号竪穴建物跡(1)



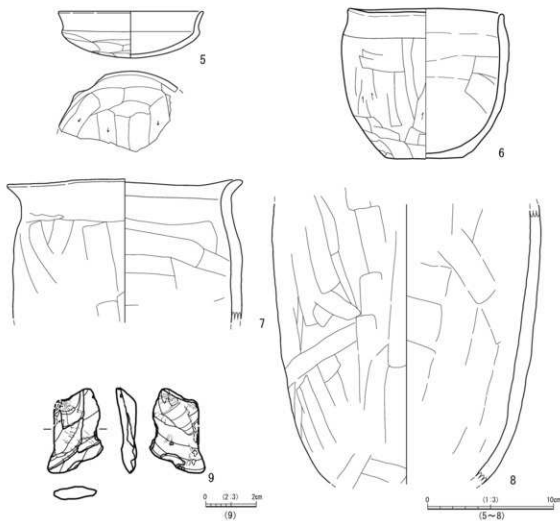
S109 カマド

1. に近い黄褐色土 10YR5/4 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、炭化物 ( $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ) を部分的に少量、焼土を部分的に含む。
- 2a. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、焼土 ( $\phi 5 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量含む。
- 2b. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。シルトを部分的に少量、焼土 ( $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に少量含む。
3. 赤褐色土 5YR4/6 締り強い、粘性なし。焼土を全体に多量、シルトを部分的に多く含む。
4. 赤褐色土 5YR5/6 締り強い、粘性なし。焼土を全体に多量、シルトを全体に多く、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。
5. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、焼土 ( $\phi 3 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に少量含む。
6. に近い黄褐色土 10YR7/4 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、焼土を部分的に多く含む。

第140図 89号竪穴建物跡(2)



第141図 89号竪穴建物跡出土遺物(1)



第142図 89号竪穴建物跡出土遺物(2)

第55表 89号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種類・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 蓋	口径: 3.4 器高: 3.7 底径: (17.2)	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・チャ・針・ 石英・礫	良好	55%	灰(5Y6/1)	内外面ナデ、外面上部回転ヘラケズリ
2	須恵器 短径壺	口径: (9.0) 器高: (5.7) 底径: -	白色粒子・赤色粒子・ 雲・チャ・石英・礫	良好	10%	灰(5Y6/1)	内外面ナデ
3	須恵器 壺	口径: - 器高: - 底径: -	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・針・石英・ 礫	良好	5%未満	黄灰(2.5Y6/1)	外面平行叩き痕、内面ヘラナデ・ナデ
4	土師器 杯	口径: (15.0) 器高: 5.5 底径: -	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・石英・ 礫	良好	35%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ
5	土師器 杯	口径: (11.4) 器高: 3.7 底径: -	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・石英・ 礫	良好	30%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ
6	土師器 狭	口径: - 器高: - 底径: -	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・石英・ 礫	良好	95%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ケズリ後下部横位ケズリ、内面横位ナデ
7	土師器 狭	口径: (18.2) 器高: (11.4) 底径: -	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英・礫	良好	25%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

図版 番号	種別・器種	法量 (m)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
8	土師器 甕	口径:- 器高:<22.2> 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・石英・ 礫	良好	25%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ ナデ
図版 番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
9	剥片	頁岩	3.7	2.7	0.5	3.5	打点・打面をもつ縦長剥片。

#### 90号竪穴建物跡（第143～145図・第56表）

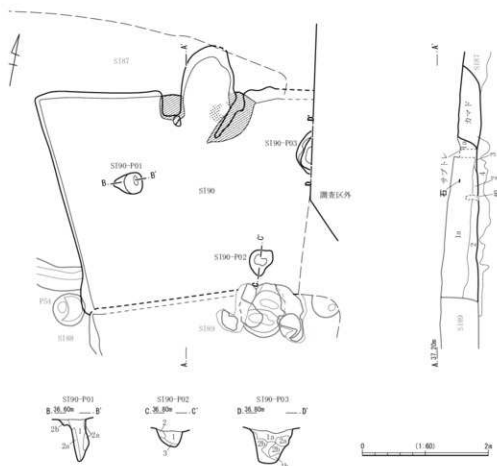
平面位置 F-3、G-3・4

**重複関係** 89号竪穴建物跡、54号ピットより古く、87号竪穴建物跡より新しい。

**遺構形態** 遺構は床面の一部、北壁と西壁の一部が検出された。長軸4.43m以上、短軸4.28m以上、深さ0.50mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は北竈であるが幅が1m以上と規模が大きい。意図的に破壊されて潰れており、竈構築材の泥岩の天板が外されて焚口の床面に放置されて検出されている。竈構築材はシルト質土で、泥岩の構築材を部分的に使用しており、頑丈な構造を持っていたものと推定される。ピットは5基検出されているが、支柱穴はない。覆土は黒褐色土を主体とし、褐色土を含む自然堆積層である。

**遺物** 出土遺物は、土師器甕（ハケ目調整、単口縁、常陸型、台付）、壺（折返し口縁、装飾あり）、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、甌、埴、須恵器甕、壺、蓋、坏、高台付、土師質土器の小皿、折返し口縁の甕、弥生時代後期の十王台式の土器片、土製の支脚？、石英製の剥片、片岩製の磨石、片岩製の挟状耳飾り、泥岩製の竈構築材、泥岩製の支脚、砂岩、泥岩製の礫、砂岩、片岩、片麻岩、石英、泥岩製の礫片などである。

**時期** 古墳時代後期と推定される。



#### S100

- 1a. 黒褐色土 101R2/2 締り強い、粘性なし。白色粒子 ( $\phi 1 \sim 5 \text{mm}$ ) を部分的に少量、炭化物 ( $\phi 1 \sim 10 \text{mm}$ ) を部分的に少量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 30 \text{mm}$ ) を部分的に少量。ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に多く、焼土 ( $\phi 3 \sim 15 \text{mm}$ ) を部分的に少量含む。
- 1b. 黒褐色土 101R3/2 締り強い、粘性なし。白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3 \text{mm}$ ) を全体に多く、炭化物 ( $\phi 2 \sim 15 \text{mm}$ ) を全体に多く、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20 \text{mm}$ ) を部分的に少量。ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に多く、焼土 ( $\phi 1 \sim 10 \text{mm}$ ) を部分的に少量含む。
2. 黒褐色土 101R2/2 締り強い、粘性なし。炭化物 ( $\phi 5 \sim 10 \text{mm}$ ) を部分的に微量。ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に多く、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 80 \text{mm}$ ) を部分的に少量。焼土 ( $\phi 5 \sim 10 \text{mm}$ ) を部分的に少量含む。
3. 褐色土 101R4/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量。ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に多量。焼土 ( $\phi 5 \sim 10 \text{mm}$ ) を部分的に微量を含む。
4. 黒褐色土 101R2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量。ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10$ ) を全体に多量を含む。

#### S100-P01

1. 黒褐色土 101R2/2 締り強い、粘性なし。炭化物 ( $\phi 10 \sim 20 \text{mm}$ ) を部分的に少量。ロームブロック ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に多く含む。
- 2a. 黒褐色土 101R2/2 締りあり、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 30 \text{mm}$ ) を部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に多く含む。
- 2b. 黒褐色土・黄褐色土 101R2/2+5/6 締りあり、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量。ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に多量を含む。

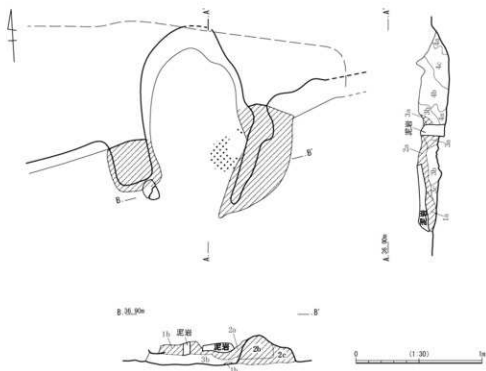
#### S100-P02

1. 黒褐色土 101R2/2 締り強い、粘性なし。シルトを部分的に少量。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 50 \text{mm}$ ) を部分的に少量。ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に多量。焼土 ( $\phi 3 \sim 15 \text{mm}$ ) を部分的に少量含む。
2. 黒褐色土 101R2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20 \text{mm}$ ) を部分的に少量。ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に多量。焼土 ( $\phi 5 \sim 15 \text{mm}$ ) を部分的に少量。シルトを部分的に少量含む。
3. 黒褐色土・黄褐色土 101R2/2+5/6 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量。ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に多量を含む。

#### S100-P03

- 1a. 黒褐色土 101R2/2 締り強い、粘性なし。白色粒子 ( $\phi 1 \sim 2 \text{mm}$ ) を全体に少量。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 60 \text{mm}$ ) を全体に多量。ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に多く含む。
- 1b. 黒褐色土 101R2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 30 \text{mm}$ ) を全体に多く。ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に多量を含む。
- 2a. 黄褐色土・黒褐色土 101R5/6+2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 60 \text{mm}$ ) を全体に多く。ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に多量を含む。
- 2b. 黄褐色土・黒褐色土 101R5/6+2/3 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量。ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に多量を含む。

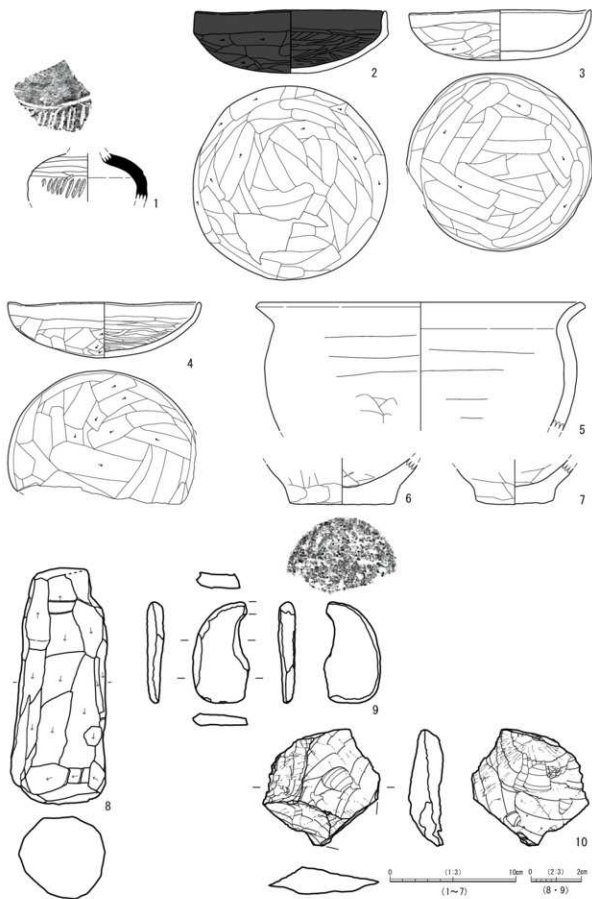
第143図 90号竪穴建物跡(1)



SI90-カマド

- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし、シルトを全体に多量に含む。  
 1b. に近い黄褐色土 10YR5/4 締り強い、粘性なし、シルトを全体に多量に含む。  
 2a. 暗褐色土 10YR3/3 締り、粘性。焼土を全体に多く、シルトを全体に多量、ロームブロック（φ10~20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5~10mm）を全体に多く含む。  
 2b. 灰黄褐色土 10YR5/2 締り強い、粘性あり、シルトを全体に多量、炭化物（φ5~10mm）を部分的に少量、焼土（φ1~20mm）を部分的に少量含む。  
 2c. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性あり、シルトを全体に多量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5~10mm）を全体に多く、焼土（φ1~20mm）を部分的に少量含む。  
 3a. 褐色土 10YR4/4 締り強い、粘性なし、焼土を全体に多量、シルトを全体に多量に含む。  
 3b. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし、焼土を全体に多く、ロームブロック（φ10~20mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5~10mm）を全体に多く含む。  
 3c. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし、焼土（φ1~10mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10~20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5~10mm）を全体に少量含む。  
 4a. 黒褐色土・黄褐色土 10YR2/2+5R 締り強い、粘性なし、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5~10mm）を全体に多量に含む。  
 4b. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし、シルトを部分的に少量、ロームブロック（φ10~20mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5~10mm）を全体に多く、焼土（φ5~10mm）を部分的に少量含む。  
 4c. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし、シルトを部分的に多く、ロームブロック（φ10~20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5~10mm）を全体に少量、焼土（φ5~10mm）を部分的に少量含む。

第144図 90号竪穴建物跡(2)



第145图 90号竖穴建物跡出土遺物

第56表 90号竪穴建物跡出土遺物観察表

図取番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 はそう	口径：- 器高：<3.8> 底径：-	白色粒子・赤色粒子・ 礫	良好	5%未満	灰 (N4/0)	内外面口ロナデ後横位沈線で帯状に 区画し、柳葉状工具による斜位の刺突
2	土師器 坏	口径：15 器高：4.9 底径：-	白色粒子・石英・礫	良好	95%	黒褐 (7.5YR3/1)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズ リ、内面ミガキ、全面黒色処理
3	土師器 坏	口径：14.4 器高：4.4 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・針・ 石英・礫	良好	95%	橙 (7.5YR6/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズ リ、内面ナデ
4	土師器 坏	口径：15 器高：4.5 底径：-	白色粒子・雲・石英・ 礫	良好	60%	にぶい、黒 (7.5YR5/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズ リ、内面ミガキ、内外面黒付着
5	土師器 直	口径：(25.6) 器高：<10.3> 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・石英・ 礫	良好	5%	にぶい、橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面上位横位 ナデ・下位ヘラケズリ、内面横位ナデ
6	土師器 裏	口径：- 器高：<3.7> 底径：8.0	白色粒子・赤色粒子・ 雲・石英・礫	良好	5%	にぶい、黒 (7.5YR5/4)	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
7	土師器 裏	口径：- 器高：<3.5> 底径：6.0	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・石英・ 礫	良好	5%	赤褐 (5YR4/6)	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
図取 番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
8	支脚	泥岩	<18.7>	<7.6>	<7.8>	611.2	一部は欠損や風化しているものの、ケズリの単位が わかる。面取り成形。
9	挾状耳飾	片岩	4.2	2.3	0.6	6.3	右側欠損。楕円形型で中央孔は楕円形。全体に板状。
10	剥片	石英	4.3	4.7	1.1	22.2	打点・打面のある剥片。



## 第5節 奈良・平安時代

### (1) 遺構の概要

奈良時代の遺構は、竪穴建物跡が1軒検出され、平安時代の遺構は、竪穴建物跡8軒、焼土遺構1基が検出されている。遺構の平面分布は、調査区北区では少なく、西区で平安時代の竪穴建物跡がまとめて検出されている。

### (2) 竪穴建物跡

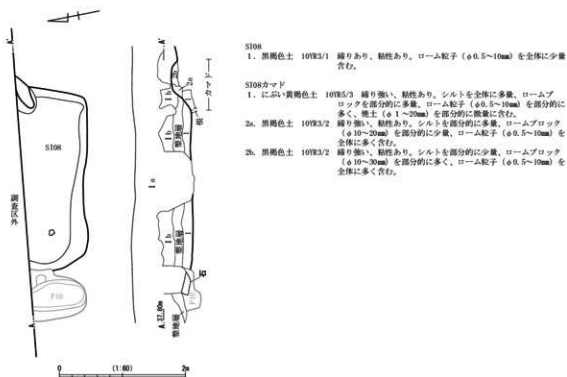
#### 8号竪穴建物跡 (第146・147図・第57表)

平面位置 AH・AI - 28・29

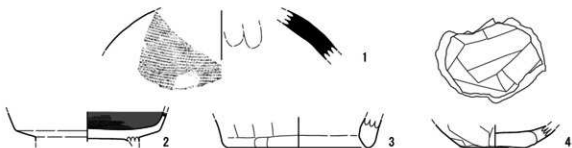
重複関係 ピット-10より古い。

遺構形態 遺構は床面の一部、南壁と東西の壁の一部が検出された。平面形は隅丸方形でP10に切られている。長軸3.07 m以上、短軸1.15 m以上、深さ0.19 mを測る。竈は東竈で、片袖と煙道部が検出されている。竈構築材はシルト質土である。ピットは検出されなかった。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕、飯、ロクロ整形内面黒色処理の高盤、高台付坏、須恵器坏蓋模



第146図 8号竪穴建物跡



第147図 8号竪穴建物跡出土遺物

第57表 8号竪穴建物跡出土遺物観察表

図取番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 壺	口径:- 器高:(3.9) 底径:-	赤色粒子・石英・礫	良好	5%未満	褐灰(10YR5/1)	外面横位ハケ、内面指押ス・ナデ
2	土師器 高盤	口径:- 器高:(2.2) 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 角・石英	良好	10%	にぶい黄橙 (10YR7/3)	外面横位ナデ、内面ミガキ・黒色処理、 高台欠損
3	土師器 瓶	口径:- 器高:(2.3) 底径:(11.2)	白色粒子・石英・礫	良好	5%未満	にぶい橙 (7.5YR6/4)	外面ヘラケズリ、内面ナデ
4	土師器 壺	口径:- 器高:(1.8) 底径:(5.0)	白色粒子・赤色粒子 色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい赤褐 (5YR5/4)	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

做の坏、須恵器甕、壺、器面に「×」の刻印のある坏、縄文時代前期の土器片、泥岩、片岩製の礫片、近現代の磁器破片などである。

時 期 出土遺物の特徴から奈良時代と推定される。

#### 46号竪穴建物跡(第148～151図・第58表)

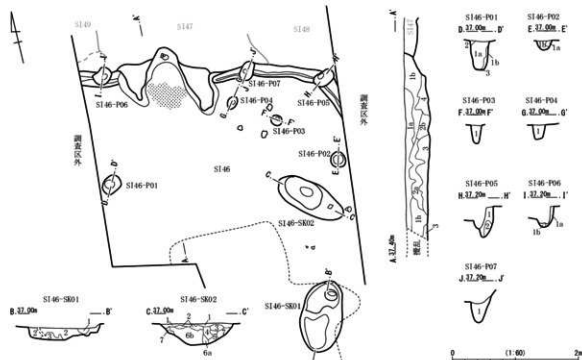
平面位置 AC～AE-4～6

重複関係 47～49号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は床面の一部、北壁と東壁の一部が検出された。長軸4.54m以上、短軸3.7m以上、深さ0.41mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、北壁から東壁の際で周溝が検出されている。壁は急角度で立ち上がる。竈は北竈で、両袖と煙道部が検出されている。竈構築材はシルト質土で、焚口の床面には赤化、硬化した焼土範囲が残存している。土坑は2基検出され、ピットは12基検出されたが、主柱穴は不明である。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

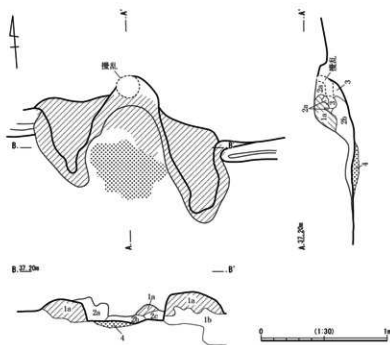
遺 物 出土遺物は、土師器甕(常陸型、ハケ目、有段口縁)、器台(ハケ目調整)、高坏、須恵器坏蓋模做の坏、赤彩の坏、甌、埴、須恵器甕、蓋、坏の破片、ロクロ整形内面黒色処理の坏(墨書あり)、高台付坏、土師質土器の小皿、片麻岩製の敲石、縄文時代中期、後期の土器片、片麻岩製の敲石、片岩製の磨石、片麻岩製の凹石+敲石+磨石、泥岩製の砥石、泥岩製の礫、片岩、泥岩、石英製の礫片などである。

時 期 出土遺物と遺構の切り合い関係から平安時代と推定される。



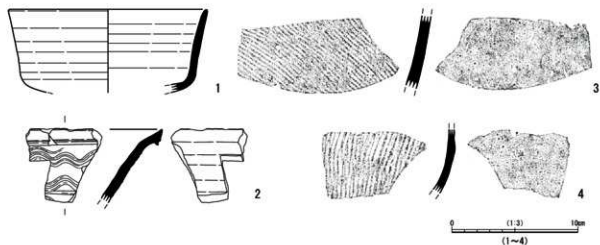
- SI46
- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 粘り強い、粘性なし。白色粘土(φ1~3mm)を全体に少量、炭化物(φ1~5mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量、焼土(φ1~10mm)を部分的に少量含む。
- 1b. 黒褐色土 10YR2/2 粘り強い、粘性なし。白色粘土(φ1~3mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ1~5mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量、焼土(φ1~10mm)を部分的に少量含む。
- 2a. 黒褐色土 10YR2/2 粘り強い、粘性なし。白色粘土(φ1~3mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量、焼土(φ1~10mm)を部分的に少量含む。
- 2b. 黒褐色土 10YR2/2 粘り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、炭化物(φ5~10mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量、焼土(φ1~10mm)を部分的に少量含む。
3. 黒褐色土 10YR2/2 粘り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、炭化物(φ3~5mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を部分的に少量、焼土(φ1~20mm)を部分的に少量含む。
4. 黒褐色土 10YR2/3 粘り強い、粘性なし。シルトを部分的に、焼土を全体に多量、炭化物(φ5~10mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に含む。
- SI46-S01
1. 黒褐色土 10YR2/2 粘り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量を含む。
2. 黒褐色土 10YR2/2 粘り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。
3. 褐色土 10YR4/4 粘り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
- SI46-S02
1. 黒褐色土 10YR2/2 粘り強い、粘性なし。炭化物(φ5~15mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量、シルト(φ5~30mm)を部分的に少量含む。
2. 褐色土 10YR4/6 粘り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
3. 黒褐色土 10YR2/2 粘り強い、粘性あり。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
4. 黒褐色土 10YR2/2 粘り強い、粘性あり。シルトを部分的に少量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
5. 褐色土 10YR4/6 粘り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
- SI46-P01
- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 粘り強い、粘性なし。焼土(φ1~3mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
- 1b. 黒褐色土 10YR2/2 粘り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量、焼土(φ5~15mm)を部分的に少量含む。
- SI46-P02
- 1a. 黒褐色土 10YR2/3 粘り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~30mm)を部分的に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
- 1b. 黒褐色土 10YR2/3 粘り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
- SI46-P03
1. 黒褐色土 10YR2/2 粘り強い、粘性あり。炭化物(φ3~10mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量、焼土(φ3~10mm)を部分的に少量含む。
- SI46-P05
1. 黒褐色土 10YR2/2 粘り強い、粘性あり。ロームブロック(φ10~30mm)を部分的に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
2. 褐色土 10YR4/6 粘り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
- SI46-P06
- 1a. 暗褐色土 10YR3/3 粘り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
- 1b. 明黄褐色土 10YR6/6 粘り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
- SI46-P07
1. 黒褐色土 10YR2/2 粘り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~30mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
- 2a. 暗褐色土 10YR3/3 粘り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
- 2b. 暗褐色土 10YR3/3 粘り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
7. 黒褐色土 10YR2/2 粘り強い、粘性なし。シルトを部分的に多量、ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。

第148図 46号竪穴建物跡

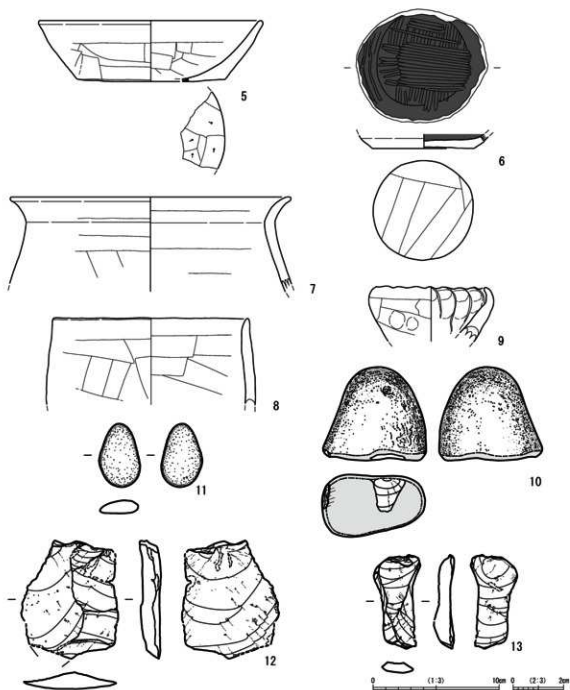


- SI46 カマド
- |          |          |   |
|----------|----------|---|
| 1a. 褐色土  | 10YR4/4  | 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、焼土（ $\phi 1\sim 10\text{mm}$ ）を部分的に少量含む。  |
| 1b. 褐色土  | 7.5YR4/3 | 締り強い、粘性なし。シルトを含む。焼土を全体に多量に含む。   |
| 2a. 黒褐色土 | 10YR2/2  | 締り強い、粘性なし。ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を含む。焼土（ $\phi 1\sim 10\text{mm}$ ）を部分的に少量に含む。  |
| 2b. 黒褐色土 | 10YR2/3  | 締り強い、粘性なし。炭化物（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少量、ロームブロック（ $\phi 10\sim 60\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多く、焼土（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。 |
| 2c. 黒褐色土 | 10YR2/3  | 締り強い、粘性なし。炭化物（ $\phi 1\sim 10\text{mm}$ ）を部分的に少量、ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多く、焼土（ $\phi 1\sim 10\text{mm}$ ）を部分的に含む。     |
| 3. 暗褐色土  | 10YR3/3  | 締り強い、粘性なし。ロームブロックを含む。ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。  |
| 4. 暗赤褐色土 | 5YR3/6   | 締り強い、粘性あり。焼土を全体に多量に含む。  |

第149図 46号竪穴建物跡カマド



第150図 46号竪穴建物跡出土土物（1）



第151图 46号竖穴建物跡出土遺物(2)

第58表 46号竖穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 杯	口径:(15.8) 器高:(6.6) 底径:-	白色粒子・赤色粒子・ 石英	良好	10%	黄灰(2.5Y6/1)	内外面ロクロナデ
2	須恵器 甕	口径:- 器高:(5.8) 底径:-	白色粒子・赤色粒子・ 石英・礫	良好	5%未満	黄灰(2.5Y6/1)	外面噴位波状文2条残

図版 番号	種別・器種	法量 (m)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
3	須恵器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・礫	良好	5%未満	黄灰 (2.5Y4/1)	外面平行取き痕、内面ヘラナデ・ナデ
4	須恵器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・石英・礫	良好	5%未満	灰 (N4/0)	外面平行取き痕、内面ヘラナデ・ナデ
5	土師器 坏	口径:(17.6) 器高:4.9 底径:(11.6)	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・石英・ 礫	良好	10%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ、底部ヘラケズリ
6	土師器 内黒坏	口径:- 器高:(11.1) 底径:8.0	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・針・ 石英・礫	良好	5%	にぶい黄褐 (10YR5/3)	外面ヘラケズリ、内面ミガキ・ナデ、黒色処理、底部ヘラケズリ
7	土師器 甕	口径:(22.0) 器高:(7.6) 底径:-	白色粒子・石英・礫	良好	5%	明赤褐 (5YR5/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
8	土師器 甕	口径:(15.2) 器高:(6.9) 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英・礫	良好	10%	にぶい褐 (7.5YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面横位・縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
9	土師器 ミニチュア	口径:(8.6) 器高:(4.4) 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・礫	良好	10%	にぶい赤褐 (5YR5/4)	外面ヘラナデ・指頭痕、内面指押え
図版 番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
10	スタンプ型石器	砂岩	7.4	8.2	5.5	486.1	下端面は一部を除き使用により平滑になっている。また、下端面から側面にかけても使用により丸く滑らかになっている。
11	磨石	砂岩	2.1	1.6	0.5	3.0	扁平で楕円形の形状。
12	剥片	黒色頁岩	<4.7>	3.8	0.7	13.8	打点・打面の残る縦長剥片。下部欠損。
13	剥片	黒色頁岩	3.7	1.9	4.4	3.4	打点・打面の残る縦長剥片で打面は自然面。

#### 47号竪穴建物跡 (第152～153図・第59表)

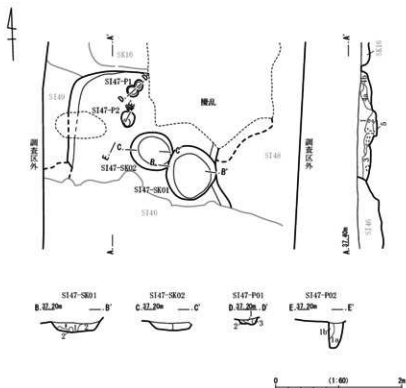
平面位置 AE - 45

重複関係 46号竪穴建物跡より古く、49号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は床面の一部と北壁と西壁の一部が検出された。長軸2.59m以上、短軸2.16m以上、深さ0.31mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。土坑は2基検出され、ピットは2基検出されたが主柱穴はない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕、縄文時代前期、中期の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、頁岩製の石鏃、泥岩製の竈構築材、片麻岩製の礫、泥岩製の礫片などである。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から平安時代と推定される。



#### SI47

1. 黒褐色土 10YR2/2 細り強い、粘性なし。白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を全体に少量、炭化物 ( $\phi 1 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に少量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 50\text{mm}$ ) を部分的に、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に、焼土 ( $\phi 1 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に少量、シルトを部分的に少量含む。
2. 黒褐色土 10YR3/2 細り強い、粘性なし。白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を部分的に微量、シルト ( $\phi 1 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に少量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。
3. 黒褐色土 10YR3/2 細り強い、粘性なし。白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を全体に少量、シルトを全体に、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 100\text{mm}$ ) を部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量、焼土 ( $\phi 1 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に少量含む。
- 4a. 黒褐色土 10YR3/2 細り強い、粘性なし。白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を全体に少量、焼土 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を全体に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。
- 4b. 暗褐色土 10YR3/3 細り強い、粘性なし。白色粒子 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を部分的に、焼土 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を全体に少量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
5. 暗褐色土 10YR3/3 細り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。

#### SI47-SK01

1. 黒褐色土 10YR2/2 細り強い、粘性なし。炭化物 ( $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に少量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 70\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く、焼土 ( $\phi 5 \sim 15\text{mm}$ ) を部分的に、シルト ( $\phi 3 \sim 50\text{mm}$ ) を部分的に少量含む。

#### SI47-SK02

1. 黒褐色土 10YR2/2 細り強い、粘性なし。炭化物 ( $\phi 3 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に少量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量、焼土 ( $\phi 3 \sim 15\text{mm}$ ) を部分的に少量、シルト ( $\phi 3 \sim 50\text{mm}$ ) を部分的に少量含む。

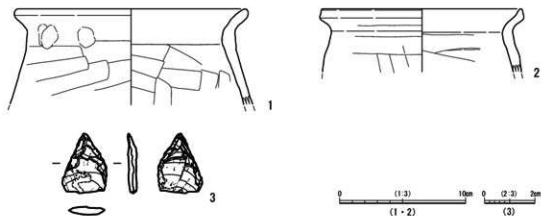
#### SI47-P01

1. 褐色土 10YR4/6 細り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
2. 褐色土 10YR4/6 細り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
3. 黒褐色土 10YR2/2 細り強い、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。

#### SI47-P02

- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 細りあり、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量、炭化物 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。
- 1b. 黒褐色土 10YR2/2 細りあり、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。

第152図 47号竪穴建物跡



第153図 47号竪穴建物跡出土遺物

第59表 47号竪穴建物跡出土遺物観察表

図取番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径：(18.0) 器高：(7.6) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 雲・石英・礫	良好	5%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ指頭痕、外面横 位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
2	土師器 甕	口径：(15.8) 器高：(5.0) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 雲・石英・礫	良好	5%未満	明赤褐 (5YR5/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面横位ヘラ ケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
図取番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
3	石鏝未製品	頁岩	2.4	1.7	0.3	1.3	打点・打面を基部とし先端部から調整。左側面の欠 損で終了。

### 50号竪穴建物跡 (第154～157図・第60表)

平面位置 Y・Z-4

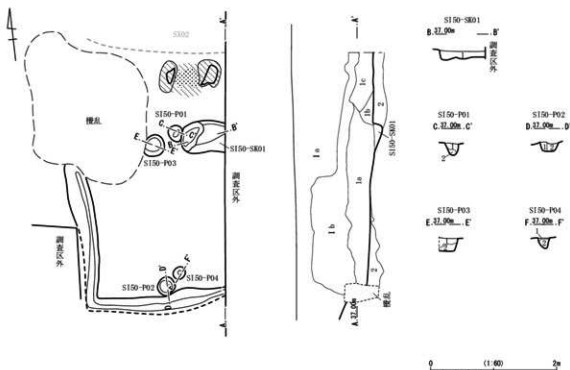
重複関係 2号性格不明遺構より古い。

遺構形態 遺構は、床面、西壁の一部が検出され、長軸4.04 m以上、短軸2.70 m以上、深さ0.44 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、西壁と南壁の際では周溝が検出されている。壁は急角度で立ち上がる。竈は北竈で両袖が部分的に検出されている。竈構築材はシルト質土で構成され、部分的に泥岩の構築材が使用される。焚口の床面は赤化、硬化している。竈の覆土内から土師器、須恵器、焼成粘土塊などが検出されている。土坑は竈の南側から1基検出され、ピットは4基検出されているが、主柱穴はない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕(単口縁平底)、須恵器坏蓋模倣の坏、内面黒色処理の甌、須恵器甕、坏、土師質土器の小皿、縄文時代中期、後期の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、片岩・珪質頁岩製の二次加工石器、泥岩製の竈構築材、砂岩製の礫、砂岩、アブライト、片麻岩製の礫片などである。

時期 出土遺物の特徴から平安時代と推定される。





#### S150

- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。炭化物(φ5~15mm)を部分的に微量、ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、堆土(φ3~10mm)を部分的に微量に含む。
- 1b. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、堆土(φ3~15mm)を部分的に微量に含む。
- 1c. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。シルトを部分的に多量、炭化物(φ3~10mm)を部分的に微量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、堆土(φ3~5mm)を部分的に少量含む。
2. 褐色土 10YR4/6 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。

#### S150-SK01

1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。

#### S150-P01

1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
2. 褐色土 10YR4/4 締りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。

#### S150-P02

1. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性あり。ロームブロック(φ10~50mm)を全体に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
2. 褐色土 10YR4/4 締りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。

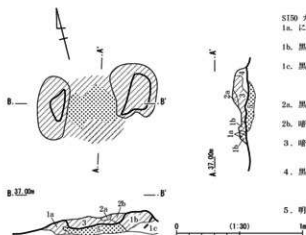
#### S150-P03

1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量、堆土(φ5~10mm)を部分的に微量に含む。
2. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性あり。ロームブロック(φ10~50mm)を全体に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。

#### S150-P04

1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
2. 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。

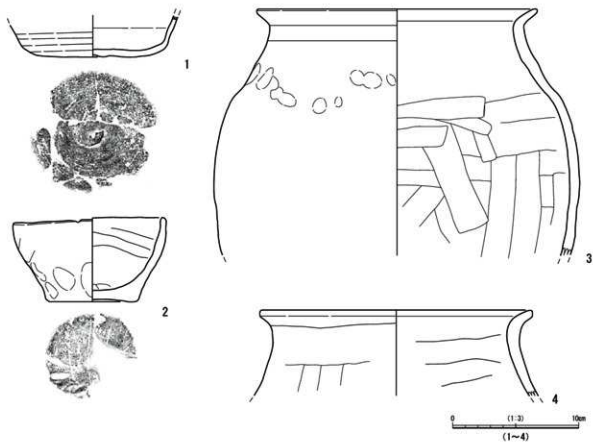
第154図 50号竪穴建物跡



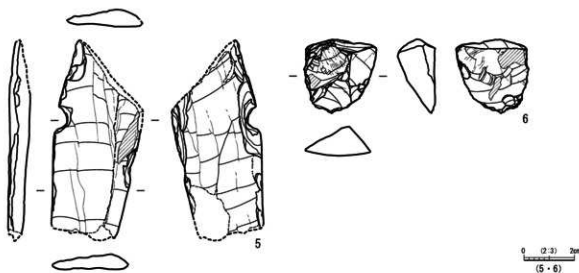
S150 カマド

- 1a. 濃い黄褐色土 10YR6/4 締り強い、粘性あり。シルトを全体に多量、炭化物(φ3~5mm)を部分的に少量に含む。
- 1b. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。シルトを全体に多く、焼土を部分的に多く含む。
- 1c. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~30mm)を部分的に、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、炭化物(φ5~10mm)を部分的に少量、焼土(φ5~10mm)を部分的に少量含む。
- 2a. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性あり。シルトを部分的に多量、焼土を全体に多く含む。
- 2b. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性あり。焼土(φ3~10mm)を全体に多く、シルトを全体に多く含む。
3. 暗褐色土 10YR3/4 締り強い、粘性あり。シルトを全体に多量、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、焼土を部分的に多く含む。
4. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。炭化物(φ5~10mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量、焼土を全体に多量に含む。
5. 明赤褐色土 5YR5/6 締り強い、粘性あり。焼土を全体に多量に含む。

第155図 50号堅穴建物跡カマド



第156図 50号堅穴建物跡出土遺物(1)



第157図 50号竪穴建物跡出土遺物(2)

第60表 50号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 杯	口径:- 器高:(3.3) 底径:9.0	白色粒子・黒色粒子・ チャ・雲・石英	良好	55%	明赤褐(5YR5/6)	内外面ナデ、底部回転ヘラケズリ、須 恵器横線
2	土師器 鉢	口径:11.8 器高:6.6 底径:6.8	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・チャ・石英・ 礫	良好	95%	にふい赤褐 (5YR5/4)	外面ヘラケズリ・指頭痕、内面ヘラナデ・ ナデ、底部木葉痕
3	土師器 甕	口径:(22.0) 器高:(19.6) 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 雲・石英・礫	良好	20%	明褐(7.5YR5/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面器面剥落・ 指頭痕、内面ヘラナデ・ナデ
4	土師器 甕	口径:(22.0) 器高:(6.9) 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英・礫	良好	5%	明赤褐(5YR5/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズ リ、内面ヘラナデ・ナデ
図版 番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
5	二次加工石器	片岩	8.0	3.1	0.8	21.0	上・下部欠損。左右側面に二次加工が施されている。
6	二次加工石器	柱状頁岩	3.0	2.8	1.2	9.1	左右側面、下部に細かな二次加工が施されている。

53号竪穴建物跡(第158・159図・第61表)

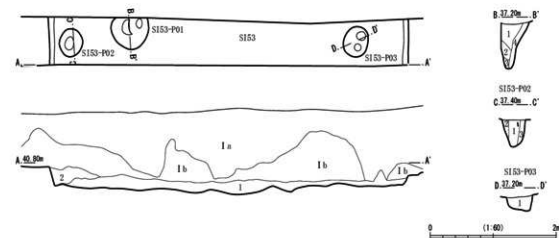
平面位置 V-56・W-36・37

重複関係 なし

遺構形態 遺構は床面の一部、北壁と南壁の一部が検出された。長軸5.72m以上、短軸0.67m以上、深さ0.39mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがある。北壁は緩やかに、南壁は急角度に立ち上がる。竈は検出されていない。ピットは3基検出され、南側の1号ピットが支柱穴の可能性がある。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

**遺物** 出土遺物は、土師器甕（常陸型、ハケ目）、坏、ロクロ成形の坏、高台付坏（第弥生時代後期の十王台式の土器片、砂岩製の磨石、砂岩製の碟、泥岩、アブライト、片岩、石英斑岩製の礫片などである。

**時期** 出土遺物の特徴から平安時代と推定される。



**SIS3**

1. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ1~3mm）を全体に少量含む。
2. 暗褐色土 10YR3/4 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に少量、ローム粒子（φ1~3mm）を全体に少量、焼土（φ10~30mm）を部分的に微量に含む。
3. 褐色土 10YR4/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ1~10mm）を全体に多く含む。

**SIS3-P01**

- 1a. 黒褐色土 10YR3/2 締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10~20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ1~3mm）を全体に微量に含む。
2. にぶい黄褐色土 10YR4/3 締りあり、粘性あり。ロームブロック（φ20~50mm）を全体に少量、ローム粒子（φ1~5mm）を全体に多く含む。
- 1b. 黒褐色土 10YR2/3 締りなし、粘性あり。ロームブロック（φ10mm~）を部分的に少量、ローム粒子（φ1~3mm）を全体に微量に含む。
3. にぶい黄褐色土 10YR4/3 締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ5~10mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ1~3mm）を全体に少量含む。

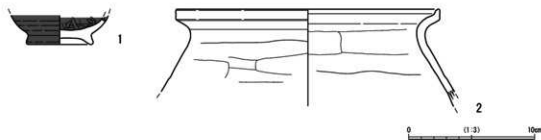
**SIS3-P02**

1. 黒褐色土 10YR3/2 締りなし、粘性あり。ロームブロック（φ10mm~）を部分的に微量、ローム粒子（φ1~3mm）を全体に少量含む。
2. 褐色土 10YR4/4 締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10~15mm）を全体に多く、ローム粒子（φ1~3mm）を全体に多く含む。
3. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10~15mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ1~3mm）を全体に少量含む。

**SIS3-P03**

1. 暗褐色土 10YR3/4 締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10~30mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ1~5mm）を全体に微量に含む。

第158図 53号堅穴建物跡



第159図 53号堅穴建物跡出土遺物

第61表 53号堅穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	注量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 高台付坏	口径:- 器高:(2.3) 底径:5.0	白色粒子・針・雲	良好	5%	黒(N2/O)	外面ナデ、内面ミガキ・ナデ、全面黒色処理、高台欠損
2	土師器 甕	口径:(20.6) 器高:(7.8) 底径:-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	5%	にぶい赤褐 (5YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面横位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

54号竪穴建物跡 (第160～162図・第62表)

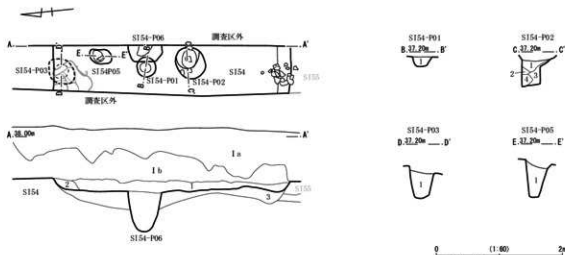
平面位置 U・V-36

重複関係 55号竪穴建物跡より新しい。

**遺構形態** 遺構は床面の一部、北壁と南壁の一部が検出された、長軸3.77m以上、短軸0.80m以上、深さ0.23mを測る。床はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。竈は、北竈で右袖の一部が検出されている。竈構築材はシルト質土で、使用面は被熱による赤化、硬化を受けていない。ピットは5基検出されているが主柱穴はない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

**遺物** 出土遺物は、土師器甕(常陸型、単口縁)、須恵器坏蓋模倣の坏、ロクロ整形の坏、内面黒色処理の鉢、須恵器蓋、坏、鉢、高台付坏、古銭破片、鉄製品、土師質土器の小皿、縄文時代前期の土器片、凝灰岩製の砥石、片岩製の礫片などである。

**時期** 出土遺物と遺構の切り合い関係から平安時代と推定される。



S154

- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 埴りなし、粘性なし、ローム粒子(φ1~5mm)を部分的に微量に含む。  
 1b. 黒褐色土 10YR3/2 埴りあり、粘性なし、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ1~5mm)を部分的に少量含む。  
 1. 黒褐色土 10YR2/2 埴り強い、粘性なし、炭化物(φ5~10mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ1~3mm)を全体に微量、焼土(φ5~10mm)を部分的に微量に含む。  
 2. 黒褐色土 10YR2/3 埴り強い、粘性なし、炭化物(φ5~8mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ1~3mm)を全体に少量、焼土(φ5~10mm)を部分的に少量含む。  
 3. 黒褐色土 10YR3/2 埴りあり、粘性なし、ロームブロックを全体に少量、ローム粒子(φ1~3mm)を全体に微量に含む。

S154-P01

1. 黒褐色土 10YR3/2 埴り強い、粘性あり、ロームブロックを部分的に少量、ローム粒子を部分的に微量に含む。

S154-P02

1. 黒褐色土 10YR3/2 埴り強い、粘性なし、炭化物(φ3~10mm)を部分的に微量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ1~5mm)を全体に微量、焼土(φ1~5mm)を部分的に微量に含む。  
 2a. にがい黄褐色土 10YR4/3 埴りあり、粘性なし、ロームブロック(φ10~40mm)を全体に少量、ローム粒子(φ1~5mm)を全体に多く含む。  
 2b. 褐色土 10YR4/4 埴りあり、粘性なし、ロームブロック(φ15~60mm)を全体に多く、ローム粒子(φ1~5mm)を全体に多く含む。  
 3. 暗褐色土 10YR3/3 埴りあり、粘性なし、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ1~5mm)を全体に少量含む。

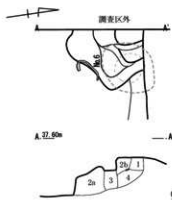
S154-P03

1. 黒褐色土 10YR3/2 埴りあり、粘性なし、ロームブロックを部分的に微量、ローム粒子(φ1~5mm)を全体に少量含む。

S154-P05

1. 黒褐色土 10YR2/2 埴りあり、粘性なし、ロームブロックを部分的に少量、ローム粒子(φ1~3mm)を全体に微量、焼土(φ5~10mm)を全体に微量に含む。

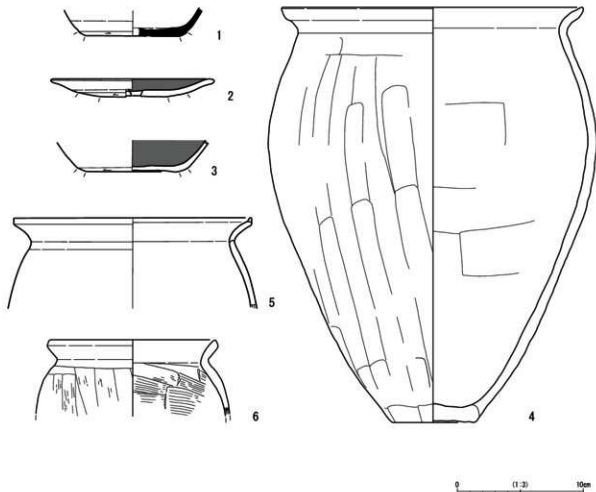
第160図 54号竪穴建物跡



S154 カマド

1. 黒褐色土 101R2/3 締りあり、粘性なし。 ローム粒子 (φ1~5mm) を全体に微量に含む。
- 2a. 灰黄褐色土 101R6/2 締り強い、粘性なし。 ロームブロック (φ1~5mm) を全体に微量、粘土 (φ5~8mm) を部分的に微量、粘土 (φ1~20mm) を全体に多量に含む。
- 2b. 灰黄褐色土 101R4/2 締り強い、粘性なし。 ローム粒子 (φ1~5mm) を全体に少量、粘土 (φ5~20mm) を全体に多量に含む。
- 2c. 灰黄褐色土 101R5/2 締り強い、粘性なし。 ローム粒子 (φ1~5mm) を全体に微量、粘土 (φ10~20mm) を全体に多く含む。
3. 黒褐色土 101R3/2 締り強い、粘性なし。 炭化物 (φ5~20mm) を部分的に微量、ローム粒子 (φ1~5mm) を全体に微量、ロームブロックを部分的に微量に含む。
4. 暗褐色土 101R3/3 締り強い、粘性なし。 炭化物 (φ5~10mm) を全体に微量、ローム粒子 (φ5~20mm) を全体に少量含む。

第161図 54号竪穴建物跡カマド



第162図 54号竪穴建物跡出土遺物

第 62 表 54 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 杯	口径：- 器高：(2.1) 底径：(7.5)	白色粒子・石英	良好	5%	灰 (N5/0)	内外面口クロナデ、底部外面回転ヘラケズリ
2	土師器 皿	口径：- 器高：(1.2) 底径：(5.4)	白色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	30%	にぶい褐 (7.5YR5/4)	内外面口クロナデ、体部下端および底部外面回転ヘラケズリ、内面黒色処理・細かなミガキ、底部穿孔あり
3	土師器 杯	口径：(20.5) 器高：(7.2) 底径：-	白色粒子・赤色粒子・雲・石英	良好	20%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	内外面口クロナデ、体部下端および底部外面回転ヘラケズリ、内面黒色処理・細かなミガキ
4	土師器 甕	口径：(23.8) 器高：33.1 底径：6.6	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・礫	良好	30%	黒褐 (10YR3/2)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
5	土師器 甕	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲・石英・礫	良好	5%	橙 (5YR6/8)	口縁部内外面横位ナデ、外面斜位ナデ、内面横位ナデ、常陸型甕
6	土師器 甕	口径：(13.2) 器高：(6.1) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲・石英・礫	良好	5%	暗赤褐 (5YR3/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ハケ状痕が残るヘラナデ・ナデ

57 号竪穴建物跡 (第 163 ~ 165 図・第 63 表)

平面位置 Q・R-36

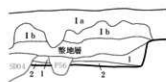
重複関係 4号堀跡、25号ピットより古い。

遺構形態 遺構の平面形は隅丸方形で、25号ピットに切られる。長軸1.94m以上、短軸0.83m以上、



- S157
1. 暗褐色土 10YR3/2 網りあり、粘性なし。ロームブロックを部分的に微量、ローム粒子 (φ1~5mm) を全体に少量含む。
  2. 灰黄褐色土 10YR4/2 網り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に少量、ローム粒子 (φ1~3mm) を全体に多く含む。

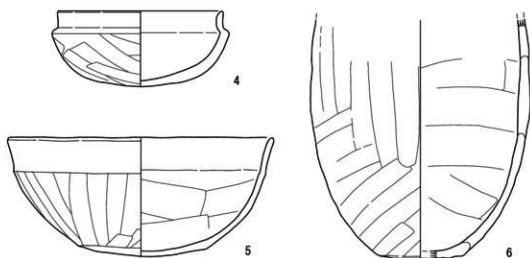
A 38.50m — A'



第 163 図 57 号竪穴建物跡



第 164 図 57 号竪穴建物跡出土遺物 (1)



第165図 57号竪穴建物跡出土遺物(2)

第63表 57号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 高台付杯	口径:(13.2) 器高:5.7 底径:(8.2)	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英・礫	良好	25%	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	外面ナデ、内面ミガキ・黒色処理
2	土師器 皿	口径:(13.4) 器高:2.0 底径:(6.4)	白色粒子・赤色粒子・ 雲	良好	20%	灰黄褐色 (10YR5/2)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ・黒色処理
3	土師器 皿	口径:(12.8) 器高:1.8 底径:(5.6)	白色粒子・赤色粒子・ 雲・チャ	良好	30%	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ・黒色処理
4	土師器 杯	口径:(12.8) 器高:6.0 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英	良好	40%	褐色(7.5YR4/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ
5	土師器 鉢	口径:20.8 器高:9.5 底径:-	白色粒子・赤色粒子・ 雲・石英・礫	良好	55%	にぶい褐色 (7.5YR5/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
6	土師器 甕	口径:- 器高:<19.0 底径:4.4	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・長・石英・ 礫	良好	10%	灰褐色(7.5YR4/2)	外面上位縦位ヘラケズリ・下位斜位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

深さ0.35 mを測る。床はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。竈、支柱穴は検出されていない。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

**遺物** 出土遺物は、土師器甕(常陸型、単口縁)、鉢(内面黒色処理と非黒色処理)、皿(内面黒色処理)ロク口整形内面黒色処理の高台付杯、底部穿孔の皿、砂岩製の砥石などである。

**時期** 出土遺物の特徴から平安時代と推定される。

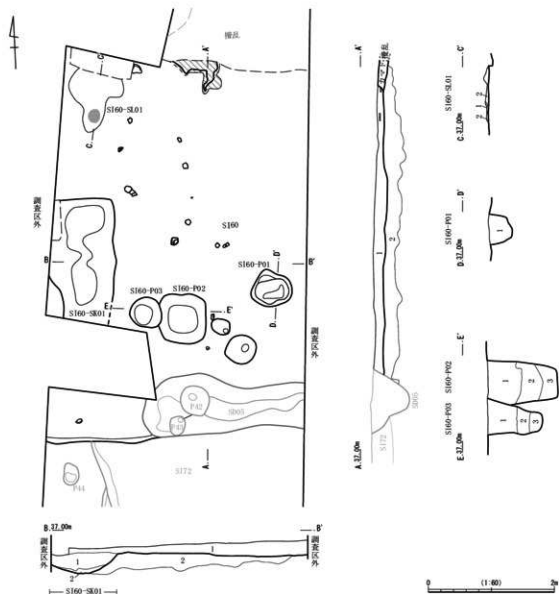


60号竪穴建物跡 (第166～169図・第64表)

平面位置 O・P-2・3

重複関係 5号溝より古く、72号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は床面の一部と南壁の一部が検出された。長軸5.44 m以上、短軸4.16 m以上、深さ0.24 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は北竈で形状は右軸を中心に不定形で部分的に残されている。竈構築材はシルト質土である。北西側の床面では



第166図 60号竪穴建物跡(1)

SI60

1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。炭化物(φ5~10mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~30mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量、焼土(φ2~5mm)を部分的に少量含む。
2. 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。

SI60-SI01

1. 明黄褐色土 10YR6/8 締り強い、粘性あり。シルトを全体に多量、焼土を全体に多量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
2. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。炭化物を部分的に多く、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、焼土を部分的に多く含む。

SI60-SI01

1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。炭化物(φ3~5mm)を部分的に微量、ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、焼土(φ3~5mm)を部分的に微量含む。
2. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。

SI60-P01

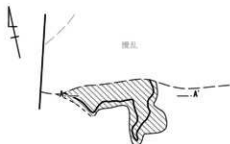
1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。

SI60-P02

1. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性あり。ロームブロック(φ10~150mm)を部分的に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
2. 黒褐色土 10YR2/2 締りなし、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
3. 黒褐色土 10YR2/2 締りなし、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。

SI60-P03

1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロック(φ10~150mm)を全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
2. 黒色土 10Y2/1 締り強い、粘性あり。ロームブロック(φ10~30mm)を部分的に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
3. 明黄褐色土 10YR6/6 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。

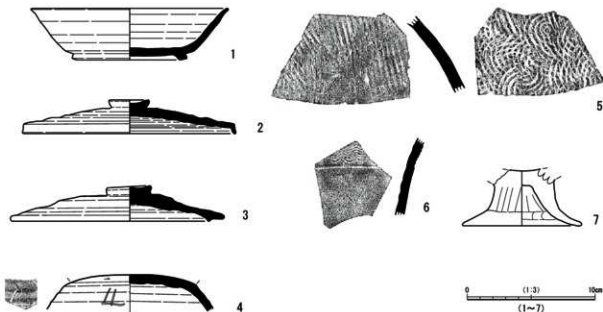


SI-60 カマド

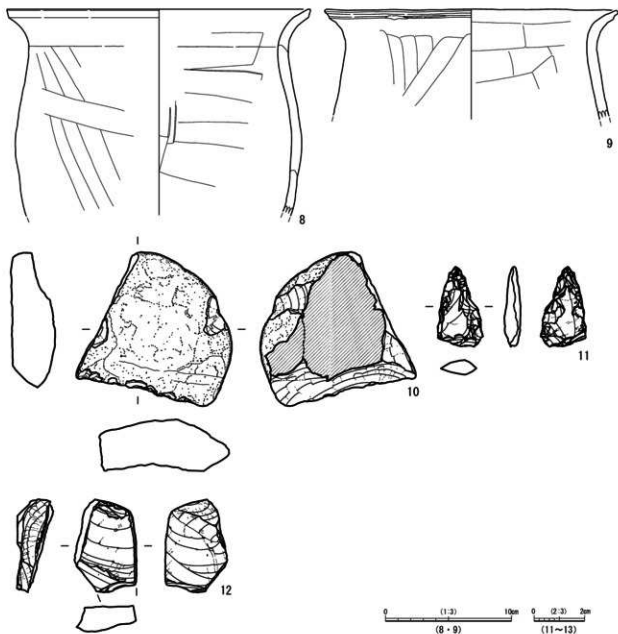
1. 暗褐色土 10YR3/4 締り強い、粘性あり。シルトを全体に多量、炭化物(φ5~10mm)を部分的に微量、焼土(φ3~10mm)を全体に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
2. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性あり。炭化物(φ3~10mm)を全体に少量、焼土(φ1~10mm)を全体に少量含む。
3. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。シルトを全体に多く、炭化物(φ3~5mm)を部分的に微量、焼土(φ3~10mm)を全体に少量含む。



第167図 60号竪穴建物跡(2)



第168図 60号竪穴建物跡出土遺物(1)



第169図 60号堅穴建物跡出土遺物(2)

第64表 60号堅穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 高台付坏	口径：(15.2) 器高：4.0 底径：8.6	白色粒子・黒色粒子	良好	10%	褐灰(10YR4/1)	内外面ナデ
2	須恵器 蓋	幅み径：3.2 器高：2.6 総径：16.4	白色粒子・黒色粒子・ 雲・石英	良好	60%	褐灰(10YR5/1)	内外面ロクロナデ、頂部回転ヘラケズリ後鍍み貼り付け
3	須恵器 蓋	幅み径：3.4 器高：2.8 総径：15.2	白色粒子・赤色粒子・ 雲・石英	良好	70%	にぶい黄橙 (10YR6/3)	内外面ロクロナデ、頂部回転ヘラケズリ後鍍み貼り付け、幅みが中心よりややずれる
4	須恵器 蓋	頂径：6.0 器高：(2.7) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ チャ・石英	良好	40%	黄灰(2.5Y6/1)	内外面ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、底部内面ヘラ書きあり

図版番号	種別・器種	法量 (mm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
5	須恵器 甕	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 雲・石英	良好	5% 未講	灰白 (2.5Y7/1)	外面平行線々タキ、内面同心円状当て 具痕
6	須恵器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5% 未講	灰 (N6/0)	内外面ロクロナデ、外面6本一単位の 櫛歯状工具による波状紋
7	土師器 高坏	口径：- 器高：(4.3) 底径：9.0	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・長	良好	40%	にぶい黄緑 (10YR6/3)	外面縦位ヘラナデ、裏部内外面横位ナ デ、内面ヘラナデ・ナデ
8	土師器 甕	口径：(24.0) 器高：(16.3) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・礫	良好	10%	褐 (7.5YR4/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面斜位ヘ ラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
9	土師器 甕	口径：(23.0) 器高：(8.7) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 雲・石英・礫	良好	10%	にぶい褐 (7.5YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位・斜 位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
10	楔形石器	石英	6.6	6.2	1.8	80.3	表面はほぼ自然面で下部に所々削離面がある。断面 は下部に向かうに従い尖る。
11	石鏡未製品	チャート	3.3	1.8	0.6	3.4	胴身の円基無基か？全体に調整が施されている。
12	二次加工石函	砂岩	<3.8>	<2.4>	1.1	12.2	下部欠損。自然面を打面にした割片で、左側面に 連続する加工が施されている。

不定形な炉跡が形成されている。西側中央の床面で隅丸長方形の土坑が1基検出されている。ピットは3基検出され、掘方が深いものであるが配置が不規則である。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

**遺物** 出土遺物は、土師器甕（常陸型、単口縁、ハケ目調整、有段口縁）、台付甕、器台、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、甌（把手あり、なし）、鉢（内面黒色処理）、須恵器甕壺、蓋、坏、高台付坏、縄文時代前期の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、鉄製品3点（総重量27.5g・釘1点、その他不明）、砂岩製剥片、砂岩製磨石、チャート製石鏃、石英製の楔形石器、砂岩、片麻岩、礫岩の礫、砂岩、頁岩、アブライト、泥岩、片岩製の礫片などである。

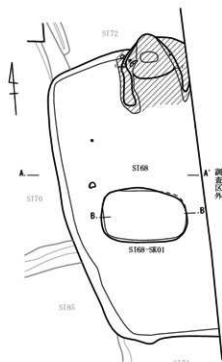
**時期** 出土遺物と遺構の切り合い関係から奈良時代と推定される。

#### 68号竪穴建物跡（第170・171図・第65表）

**平面位置** M・N-3

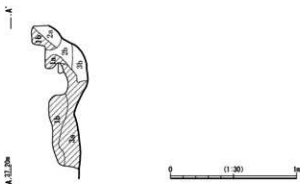
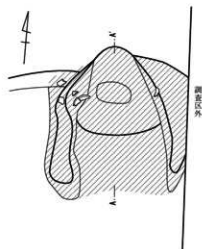
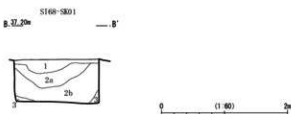
**重複関係** 70・72・74・85号竪穴建物跡より新しい。

**遺構形態** 遺構は床面の一部、西壁と北壁、南壁の一部が検出された。長軸1.94以上m、短軸1.11m以上、深さ0.22mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は北壁で左袖、右袖の一部で構成され不定形な形状である。竈構築材はシルト質土で、構築材の一部に泥岩を使用している。南西寄りの床面で隅丸長方形の土坑が1基検出されている。ピットは検出



- S168
- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。炭化物 ( $\phi 5\sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロック ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に、焼土 ( $\phi 3\sim 5\text{mm}$ ) を部分的に少量含む。
  - 1b. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。白色粒子 ( $\phi 1\sim 3\text{mm}$ ) を部分的に少量、炭化物 ( $\phi 3\sim 5\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロック ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に微量、焼土 ( $\phi 3\sim 5\text{mm}$ ) を部分的に少量含む。
  - 2a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。白色粒子 ( $\phi 3\sim 5\text{mm}$ ) を部分的に少量、ロームブロック ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く、焼土を含む。
  - 2b. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性あり。白色粒子 ( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ ) を部分的に少量、炭化物 ( $\phi 5\sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロック ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量、焼土 ( $\phi 3\sim 5\text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。
  3. 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
  4. 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量、焼土 ( $\phi 3\sim 5\text{mm}$ ) を部分的に少量含む。

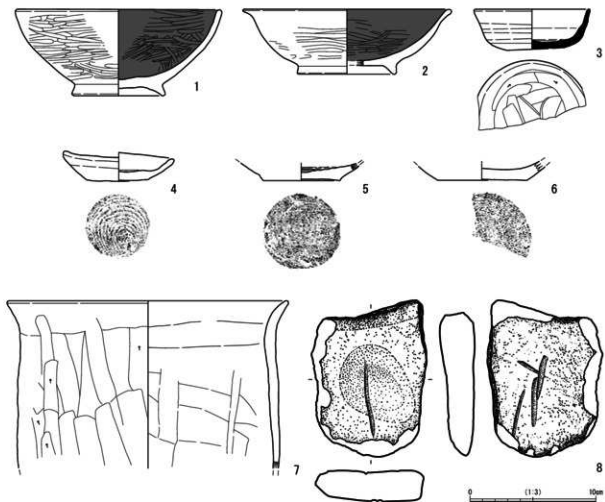
- S168-SK01
1. 暗褐色土 10YR3/3 締りなし、粘性強い。炭化物 ( $\phi 5\sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロック ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ) を部分的に、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く、焼土 ( $\phi 1\sim 5\text{mm}$ ) を部分的に含む。
  - 2a. 黒褐色土 10YR2/2 締りなし、粘性強い。シルトを部分的に少量、ロームブロック ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く、焼土 ( $\phi 1\sim 3\text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。
  - 2b. 黒褐色土 10YR2/2 締りなし、粘性強い。ロームブロック ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量、焼土 ( $\phi 3\sim 5\text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。
  3. 褐色土 10YR4/1 締りなし、粘性強い。シルトを全体に多量に含む。



S168 カマド

- 1a. 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、焼土 ( $\phi 5\sim 10\text{mm}$ ) を部分的に多く含む。
- 1b. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、焼土 ( $\phi 3\sim 10\text{mm}$ ) を全体に、炭化物 ( $\phi 3\sim 5\text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。
- 2a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量、焼土 ( $\phi 1\sim 3\text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。
- 2b. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。シルトを部分的に微量、炭化物 ( $\phi 5\sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロック ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量、焼土 ( $\phi 3\sim 5\text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。
- 3a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、炭化物 ( $\phi 3\sim 5\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロック ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く、焼土 ( $\phi 3\sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量含む。
- 3b. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。シルトを部分的に少量、ロームブロック ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。

第170図 68号竪穴建物跡



第171図 68号竪穴建物跡出土遺物

第65表 68号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 高台付杯	口径：(16.0) 器高：6.8 底径：7.0	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・石英	良好	20%	橙 (7.5YR6/6)	外面横位ミガキ、内面横位・斜位ミガキ・ 黒色処理
2	土師器 高台付杯	口径：(16.4) 器高：5.1 底径：(7.6)	白色粒子・黒色粒子・ 雲・石英・礫	良好	25%	にぶい橙 (5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面横位ミガ キ、内面横位・斜位ミガキ・黒色処理
3	土師器 杯	口径：(9.0) 器高：3.3 底径：4.4	白色粒子・黒色粒子	良好	50%	灰 (N5/0)	口縁部内外面横位ナデ、底部ヘラケズ リ
4	土師器 杯	口径：8.6 器高：2.4 底径：4.8	白色粒子・赤色粒子・ 雲・礫	良好	95%	にぶい橙 (7.5YR5/3)	内外面ナデ・煤付着
5	土師器 杯	口径：- 器高：(1.4) 底径：6.0	白色粒子・黒色粒子・ 雲・針・石英・礫	良好	15%	にぶい橙 (5YR6/4)	内外面ナデ
6	土師器 杯	口径：- 器高：(1.5) 底径：(7.0)	白色粒子・黒色粒子・ 雲・礫	良好	10%	にぶい橙 (5YR6/4)	内外面ナデ
7	土師器 甕	口径：(22.2) 器高：(13.2) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・石英	良好	10%	濁 (7.5YR4/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラ ケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
8	砥石(荒砥)	砂岩	<12.3>	<9.2>	2.8	414.7	表中央に大きく浅い凹あり。中央に溝が入る裏面は全体に平坦で、タテ方向に溝が数本きざまれる。縁辺部はぼうぼうと欠損している。

されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

**遺物** 出土遺物は、土師器甕（ハケ目調整）、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、鉢、須恵器、甕、蓋、坏、土師質土器の鉢、坏、小皿、弥生時代後期の十王台式の土器片、泥岩製の支脚、竈構築材、陶器のすり鉢、鉢の破片、砂岩製の碟、砂岩、橄欖岩、斑レイ岩、片岩製の碟片などである。

**時期** 出土遺物と遺構の切り合い関係から平安時代と推定される。

### 1号焼土遺構(第172・173図・第66表)

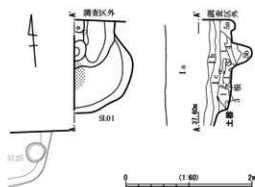
**平面位置** A I・A J - 19

**重複関係** なし

**遺構形態** 遺構の平面形は楕円形で、長軸1.49 m以上、短軸0.96 m以上、深さ0.54 mを測る。中央南寄りに赤化、硬化した焼土範囲が残存している。

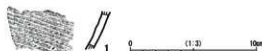
**遺物** 覆土からは弥生土器の壺の破片が出土した他、炭化した雑穀と思われる炭化物粒が検出された。

**時期** 遺構の切り合い関係から平安時代と推定される。



- S101
1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。炭化物を全体に多く、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、焼土を全体に多く含む。
  2. 暗赤褐色土 5YR3/4 締り強い、粘性あり。焼土を全体に多量に含む。
  3. 黒色土 10YR1.7/1 締りなし、粘性なし。炭化物(φ1~2mm)を全体に多量に含む。
  4. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。炭化物を部分的に多量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、焼土を部分的に多く含む。
  5. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性あり。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、炭化物を部分的に多量に含む。
  6. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。

第172図 1号焼土遺構



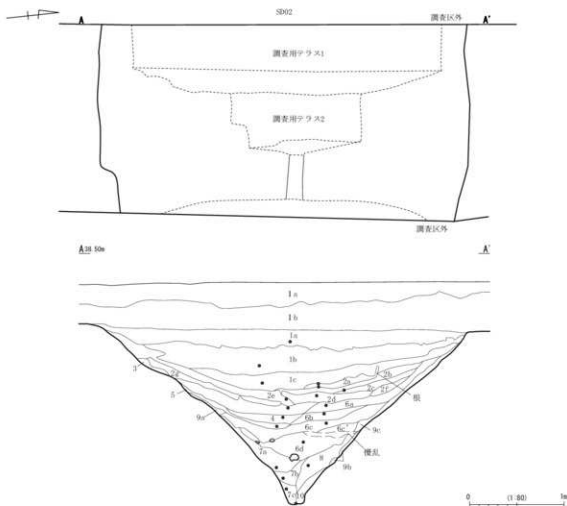
第173図 1号焼土遺構出土遺物

第66表 1号焼土遺構出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	弥生土器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR6/3)	附加染2種







第175図 2号堀跡(1)

外で検出された。サイズは長軸 12.15 m、推定短軸 4.31 m で検出面から 0.58 m の覆土まで掘削した。検出面はⅡ～Ⅲ層上である。覆土は、黒褐色土と暗褐色土のローム層を含むシルト質土である。

**遺物** 出土遺物は、縄文時代前期の土器片、土師器甕、高坏、甌、須恵器甕などであり、遺構の形成、機能の年代に直接関係する遺物は検出されていない。

**時期** 遺構の年代を直接推定する遺物は存在しないが、1号井戸より新しく、土師器、須恵器の混在から、平安時代以降と推定される。

#### 2号堀跡(第175～177図、第67表)

**平面位置** AF～AH-4・5

**重複関係** なし

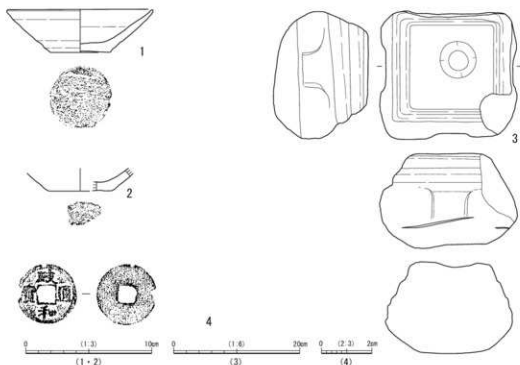
**遺構形態** 遺構は、平成29年の第二次調査のトレンチ①で検出された東西に横走する堀跡である。堀跡は薬研堀でサイズは長軸 4.07 m、短軸 7.73 m、深さ 3.69 m、底面幅は 0.29～0.35 m を測る。1号堀跡と接続する可能性があるが、他の遺構配置を考慮すると、遺構外において堀跡の配置が途

- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 粘り強い、粘性強い、炭化物 (φ5~10mm)・礫 (φ5~20mm) を部分的に、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量、ローム塊 (φ10mm)・堆土 (φ5~20mm) を部分的に微量含む。
- 1b. 暗褐色土 10YR3/3 粘り強い、粘性強い、炭化物 (φ5~20mm)・礫 (φ5~70mm) を部分的に少量、ローム塊 (φ10~50mm)・堆土 (φ5~10mm) を部分的に微量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く含む。
- 1c. 暗褐色土 10YR3/3 粘り強い、粘性強い、炭化物 (φ5~10mm)・ローム塊 (φ10~20mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量、堆土 (φ3~10mm)・礫 (φ5~10mm) を部分的に微量含む。
- 2a. 暗褐色土 10YR3/3 粘り強い、粘性強い、ローム塊 (φ10~20mm)・堆土 (φ5~20mm)・礫 (φ20~50mm) を部分的に微量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く含む。
- 2b. 暗褐色土 10YR3/3 粘り強い、粘性強い、ローム塊 (φ10~100mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量含む。
- 2c. 暗褐色土 10YR3/2 粘り強い、粘性強い、炭化物 (φ5~10mm) を全体に微量、ローム塊 (φ10~30mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に含む。
- 2d. 黒褐色土 10YR2/2 粘り強い、粘性強い、炭化物 (φ10~20mm)・堆土 (φ3~5mm) を部分的に微量、ローム塊 (φ10~30mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量含む。
- 2e. 黒褐色土 10YR2/2 粘り強い、粘性強い、炭化物 (φ10~20mm) を部分的に微量、ローム塊 (φ10~30mm) を全体に多く、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量含む。
- 2f. 黒褐色土 10YR2/2 粘り強い、粘性強い、ローム塊 (φ10~50mm)・礫 (φ5~20mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm)・白色粒子 (φ1~5mm) を全体に含む。
- 2g. 暗褐色土 10YR3/3 粘り強い、粘性強い、ローム塊 (φ10~20mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量、堆土 (φ3~5mm)・礫 (φ10~50mm) を部分的に微量、白色粒子 (φ1~3mm) を全体に少量含む。
3. 暗褐色土 10YR3/3 粘り強い、粘性強い、炭化物 (φ5~10mm)・ローム塊 (φ10~20mm)・堆土 (φ2~5mm)・礫 (φ10~30mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量、白色粒子 (φ1~3mm) を全体に含む。
4. 暗褐色土 10YR3/3 粘り強い、粘性強い、炭化物 (φ3~10mm)・ローム塊 (φ10~30mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量、白色粒子 (φ1~3mm) を全体に少量含む。
5. 暗褐色土 10YR3/3 粘り強い、粘性強い、炭化物 (φ5~10mm) を部分的に少量、ローム塊 (φ10~150mm) を部分的に含む、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量、白色粒子 (φ1~3mm) を全体に少量含む。
- 6a. 暗褐色土 10YR3/3 粘り強い、粘性強い、ローム塊 (φ10~20mm)・礫 (φ5~20mm)・堆土 (φ5~10mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く、白色粒子 (φ1~5mm) を全体に含む。
- 6b. 暗褐色土 10YR3/3 粘り強い、粘性強い、炭化物 (φ1~15mm)・ローム塊 (φ10~20mm)・堆土 (φ3~5mm) を部分的に微量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く、白色粒子 (φ1~5mm) を全体に含む。
- 6c. 黒褐色土 10YR2/3 粘り強い、粘性強い、炭化物 (φ5~20mm)・ローム塊 (φ10~20mm)・堆土 (φ3~5mm) を部分的に微量、礫 (φ5~10mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm)・白色粒子 (φ1~5mm) を全体に多く含む。
- 6c'. 黒褐色土 10YR2/3 粘り強い、粘性強い、白色粒子 (φ1~3mm) を全体に多く、炭化物 (φ5~10mm)・ローム塊 (φ10~20mm) を部分的に微量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量、ローム塊 (φ10~20mm) を部分的に微量含む。
- 6d. 黒褐色土 10YR2/3 粘り強い、粘性強い、白色粒子 (φ1~3mm)・礫 (φ10~200mm) を全体に多く、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量、堆土 (φ1~5mm) を部分的に微量含む。
- 7a. 暗褐色土 10YR3/3 粘り強い、粘性強い、白色粒子 (φ1~5mm)・ローム粒子 (φ0.5~10mm)・礫 (φ10~200mm) を全体に含む、ローム塊 (φ10~20mm) を部分的に少量、白色粒子 (φ1~3mm) を全体に少量含む。
- 7b. 暗褐色土 10YR3/3 粘り強い、粘性強い、白色粒子 (φ1~3mm)・ローム塊 (φ10~20mm)・礫 (φ10~50mm) を部分的に少量、炭化物 (φ5~10mm) を部分的に微量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く含む。
- 7c. 暗褐色土 10YR3/3 粘り強い、粘性強い、白色粒子 (φ1~5mm)・ローム塊 (φ10~20mm)・礫 (φ10~50mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く含む。
8. にじみ黄褐色土 10YR4/3 粘り強い、粘性強い、炭化物 (φ10~30mm)・ローム塊 (φ10~20mm)・礫 (φ10~50mm)・白色粒子 (φ1~3mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く含む。
- 9a. 暗褐色土 10YR3/3 粘り強い、粘性強い、白色粒子 (φ0.5~5mm)・ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く、ローム塊 (φ10~100mm)・礫 (φ10~50mm) を部分的に少量含む。
- 9b. にじみ黄褐色土 10YR4/3 粘り強い、粘性強い、ローム塊を部分的に多く、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量、シルトを全体に多く含む。
- 9c. 暗褐色土 10YR3/3 粘り強い、粘性強い、白色粒子 (φ1~3mm)・ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く、礫 (φ5~20mm) を部分的に少量、ローム塊を部分的に多量含む。
10. にじみ黄褐色土 10YR4/3 粘りや強い、粘性強い、砂を全体に多量、シルトを全体に多く含む。

#### 第176図 2号堀跡 (2)

中で変化したり、分岐したりする可能性がある。遺構の形態は、横断面を見ると堀跡の上場と下場の幅の比率は22~26倍であり、勾配がかなり高い。覆土は、1~5層まではレンズ状の黒褐色土と暗褐色土の堆積であるが6~7層は礫やローム層を多く含み人為的な埋め戻しの可能性がある。8~10層は斜面の自然堆積である。覆土は火山灰分析を実施するための土壌サンプルを採集した。

**遺物** 出土遺物は、上位の擾乱層では縄文時代前期の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、土師器甕、高杯、坏、甌、須恵器甕、ロクロ整形の高台付坏、土師質土器の小皿破片、甕、北壁の9c層から北宋の正和年間に鑄造された正和通宝(隸書・1111年初鑄)が出土し、6d層下部から風化した砂岩製の宝篋印塔の笠石が正位で出土している。宝篋印塔笠石は、上段は三段、下部は台形で、隅飾突起は一弧輪郭形で外反する。上面の窪みは3mmの深さである。現状で帰属時期は不明であるが、16世紀頃の所産であろうか。土師質土器の小皿は、器形が残存するもの特徴は、ロクロ成形で、口径に対して底形が大きく、器形は直線的に立ち上がり、器壁が厚い。底部は回転糸切後、板目底。帰属年代は16世紀中~17世紀前ごろである。他に陶器の蓋、炆器の甕、磁器の碗、酒杯、砂岩製の台石、泥岩製の竈構築材、砂岩、片麻岩製の礫、砂岩、泥岩、アブライト製の礫片などである。



第177図 2号堀跡出土遺物

第67表 2号堀跡跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師質 かわらけ	口径:(11.7) 底径:4.8 器高:(3.4)	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・金雲母	良好	40%	にぶい橙色(5 Y R 6/4)	ロクロ整形。底部回転糸切り後、板状 圧痕。内面見込みに指ナデ
2	土師質 かわらけ	口径:- 底径:(5.0) 器高:(1.8)	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・金雲母	良好	5%未満	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	ロクロ整形。底部回転糸切り後、板状 圧痕
4	銅製品 銭	全長:2.40 孔径:0.66 厚み:0.20 重量:2.2g	-	-	-	-	政和通宝の録書。北宋 1111年初鑄
図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
3	宝篋印塔	片岩	21.8	19.8	15.2	84.6	砂岩。上段三段、下段台形。圓脚突起は弧輪部形で 外反。上面の窪み3mm。風化が著しく、部分的に欠損 する

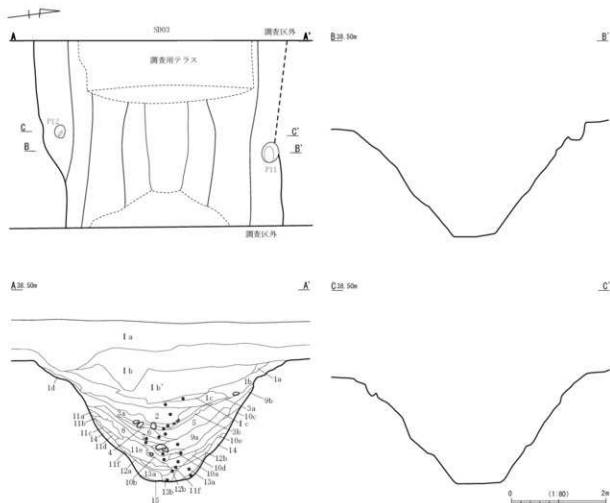
**時期** 覆土内の宝篋印塔と土師質土器の小皿は二次堆積の所産であり直接遺構の形成年代に関係がないものと思われる。2号堀跡の形状の特徴から、戦国期から織豊期の佐竹氏の勢力拡大の時期と推定される。

### 3号堀跡 (第178～180図、第68表)

平面位置 R・S-3・4

重複関係 11・12号ピットより古い。

**遺構形態** 堀跡は薬研堀でサイズは長軸3.95m、短軸5.34m、深さ2.56m、底面幅は0.61～0.91mを測り、2号堀跡よりサイズは小さい。4号堀跡と接続する可能性があるが、第二次試掘調査の結果から、他の遺構配置を考慮すると、敷地内の中央付近で南に分岐する可能性がある。遺構の形態は、横断面を見ると、検出面から約0.5mまで壁の勾配が緩やかで、0.5～2mの間は上位より勾配が急となる。2m以下ではさらに勾配が急になり底面に至っており、堀跡の断面形状に角度の変化が見られる。覆土はI a～I b層まで人為的に厚く堆積しているが、I a～2層まではレンズ状に堆積する。3a～10b層までは礫を多く含み2号堀跡と同様な黒褐色土を主体とした土層が堆積し、人為的な埋め戻しが行われた可能性がある。11a層以下はローム層を多く含むようになり、自然堆積の可能性がある。



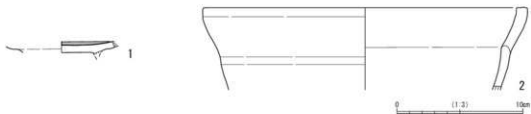
S303

- 1a. 黒褐色土 10R2/2 織り強い、粘性強い。白色粒子 ( $\phi 1\sim 3\mu\text{m}$ ) を全体に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) を全体に微量、機土 ( $\phi 1\sim 5\mu\text{m}$ ) を部分的に微量、礫 ( $\phi 10\sim 150\mu\text{m}$ ) を部分的に少量含む。
- 1b. 黒褐色土 10R2/2 織り強い、粘性強い。礫 ( $\phi 10\sim 150\mu\text{m}$ ) を部分的に少量、炭化物 ( $\phi 5\sim 15\mu\text{m}$ ) ・ローム塊 ( $\phi 10\sim 20\mu\text{m}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) ・白色粒子 ( $\phi 1\sim 3\mu\text{m}$ ) を全体に少量含む。
- 1c. 黒褐色土 10R2/2 織り強い、粘性強い。白色粒子 ( $\phi 1\sim 3\mu\text{m}$ ) を全体に多く、炭化物 ( $\phi 1\sim 15\mu\text{m}$ ) ・ローム塊 ( $\phi 10\sim 20\mu\text{m}$ ) ・礫 ( $\phi 10\sim 50\mu\text{m}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) を全体に多く含む。
- 1d. 黒褐色土 10R2/2 織り強い、粘性強い。ローム塊 ( $\phi 10\sim 20\mu\text{m}$ ) ・機土 ( $\phi 1\sim 3\mu\text{m}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) を全体に多く、白色粒子 ( $\phi 1\sim 3\mu\text{m}$ ) を全体に含む。
2. 黒褐色土 10R2/2 織り強い、粘性強い。ローム塊 ( $\phi 10\sim 50\mu\text{m}$ ) を全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) を全体に多量、礫 ( $\phi 10\sim 100\mu\text{m}$ ) を含む。白色粒子 ( $\phi 1\sim 5\mu\text{m}$ ) を全体に含む。炭化物 ( $\phi 3\sim 10\mu\text{m}$ ) を部分的に微量含む。
- 3a. 黒褐色土 10R2/2 織り強い、粘性強い。礫 ( $\phi 10\sim 100\mu\text{m}$ ) を部分的に多く、炭化物 ( $\phi 5\sim 10\mu\text{m}$ ) ・ローム塊 ( $\phi 10\sim 20\mu\text{m}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) を全体に多量含む。
- 3b. 黒褐色土 10R2/2 織り強い、粘性強い。礫 ( $\phi 10\sim 100\mu\text{m}$ ) を部分的に多く、ローム塊を部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) を全体に少量含む。
4. 黒褐色土 10R2/2 織り強い、粘性強い。礫を全体に多量、礫 ( $\phi 10\sim 150\mu\text{m}$ ) を部分的に含む。ローム塊 ( $\phi 10\sim 20\mu\text{m}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) を全体に多く含む。
5. 黒褐色土 10R2/2 織り強い、粘性強い。炭化物 ( $\phi 1\sim 15\mu\text{m}$ ) ・礫 ( $\phi 10\sim 20\mu\text{m}$ ) を部分的に少量、ローム塊 ( $\phi 10\sim 20\mu\text{m}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) を全体に多く、機土 ( $\phi 1\sim 10\mu\text{m}$ ) ・白色粒子 ( $\phi 1\sim 3\mu\text{m}$ ) を全体に少量含む。
6. 黒褐色土 10R2/2 織り強い、粘性強い。礫・ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) を全体に多量、白色粒子 ( $\phi 1\sim 2\mu\text{m}$ ) を全体に多く、炭化物 ( $\phi 10\sim 20\mu\text{m}$ ) ・ローム塊 ( $\phi 10\sim 20\mu\text{m}$ ) ・機土 ( $\phi 1\sim 3\mu\text{m}$ ) を部分的に微量含む。
7. 黒褐色土 10R2/2 織り強い、粘性強い。礫・ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) を全体に多く、ローム塊 ( $\phi 10\sim 20\mu\text{m}$ ) を部分的に少量、礫 ( $\phi 10\sim 20\mu\text{m}$ ) を部分的に微量含む。
8. 黒褐色土 10R2/2 織り強い、粘性強い。炭化物 ( $\phi 10\sim 20\mu\text{m}$ ) ・ローム塊 ( $\phi 10\sim 20\mu\text{m}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) を全体に多量、礫を全体に少量含む。
- 9a. 黒褐色土 10R2/2 織りやや強い、粘性強い。炭化物 ( $\phi 10\sim 20\mu\text{m}$ ) ・ローム塊 ( $\phi 10\sim 50\mu\text{m}$ ) ・礫 ( $\phi 10\sim 200\mu\text{m}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) ・機土 ( $\phi 1\sim 5\mu\text{m}$ ) を部分的に少量、機土 ( $\phi 5\sim 10\mu\text{m}$ ) を部分的に微量含む。
- 9b. 黒褐色土 10R2/3 織り強い、粘性強い。礫を全体に少量、白色粒子 ( $\phi 1\sim 3\mu\text{m}$ ) を全体に多く、炭化物 ( $\phi 5\sim 10\mu\text{m}$ ) を全体に微量、ローム塊 ( $\phi 10\sim 30\mu\text{m}$ ) ・機土 ( $\phi 1\sim 5\mu\text{m}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) を全体に多量含む。
10. 黒褐色土 10R2/3 織り強い、粘性強い。ローム塊を部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) を全体に多量含む。
- 10a. 黒褐色土 10R2/2 織り強い、粘性強い。礫 ( $\phi 10\sim 20\mu\text{m}$ ) を部分的に少量、ローム塊を部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) を全体に多量含む。
- 10c. 黒褐色土 10R2/2 織り強い、粘性強い。炭化物 ( $\phi 5\sim 15\mu\text{m}$ ) を部分的に微量、ローム塊を部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) を全体に多量、礫 ( $\phi 10\sim 150\mu\text{m}$ ) を部分的に少量含む。
- 10d. 黒褐色土 10R2/2 織り強い、粘性強い。炭化物 ( $\phi 5\sim 10\mu\text{m}$ ) ・機土 ( $\phi 1\sim 5\mu\text{m}$ ) を部分的に微量、ローム塊 ( $\phi 10\sim 50\mu\text{m}$ ) を部分的に含む。ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) を全体に多量含む。
- 10e. 黒褐色土 10R2/2 織り強い、粘性強い。炭化物 ( $\phi 5\sim 15\mu\text{m}$ ) を全体に少量、ローム塊を全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) を全体に多量含む。
- 11a. 黒褐色土 10R2/2 織り強い、粘性強い。ローム塊を部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) を多量含む。
- 11b. 黄褐色土 10R3/6 織り強い、粘性強い。ローム塊を全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) を全体に多量含む。
- 11c. 黒褐色土 10R2/2 織り強い、粘性強い。白色粒子 ( $\phi 1\sim 3\mu\text{m}$ ) を部分的に多く、ローム塊を全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) を全体に多量含む。
- 11d. 褐色土 10R4/6 織り強い、粘性強い。白色粒子 ( $\phi 1\sim 3\mu\text{m}$ ) を部分的に多く、ローム塊を全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) を全体に多量含む。
- 11e. 黒褐色土 10R2/2 織り強い、粘性強い。ローム塊を部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) を全体に多量、炭化物 ( $\phi 5\sim 10\mu\text{m}$ ) ・礫 ( $\phi 10\sim 30\mu\text{m}$ ) を部分的に微量含む。
- 11f. 灰白色土 10R7/1 織り強い、粘性強い。ローム塊を部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) を全体に多量含む。
- 12a. 黄褐色土 10R3/6 織り強い、粘性強い。ローム塊・ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) を全体に多量含む。
- 12b. 黄褐色土 10R3/6 織り強い、粘性強い。ローム塊を全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) を全体に多量、軽石を部分的に多量含む。
- 13a. 暗褐色土 10R3/4 織り強い、粘性強い。ローム塊・ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) を全体に多量含む。
- 13b. 褐色土 10R4/4 織り強い、粘性強い。ローム塊・ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) を全体に多量含む。
14. 暗褐色土 10R4/4 織り強い、粘性強い。ローム塊・ローム粒子 ( $\phi 0.5\sim 10\mu\text{m}$ ) を全体に多量含む。
15. 黒褐色土 10R2/2 織り強い、粘性強い。シルトを全体に多量含む。

### 第179図 3号堀跡(2)

**遺物** 出土遺物は、上部の攪乱層では瓦質の内耳鍋、土師質土器の小皿、土師器壺、高坏、須恵器壺、ロクロ整形の高台付坏、片岩、片麻岩製の礫片などが出土している。瓦質の内耳鍋は、体部は直線的に立ち上がり、口縁部と体部の境目が屈曲して、やや内湾する。口縁端部は体部よりやや厚く、断面方形で作られ水平である。体部の成形は横ナデが施されている。この土器は15世紀後半に位置づけられる。底面の15層の床面付近で出土した内面黒色処理の高台付皿の底部破片は、ロクロ整形で底部切り離し後に高台を貼り付ける。内面は黒色処理が施され、ミガキが施されているが風化して判別困難である。この土器は9世紀第四四半期頃に位置づけられる。

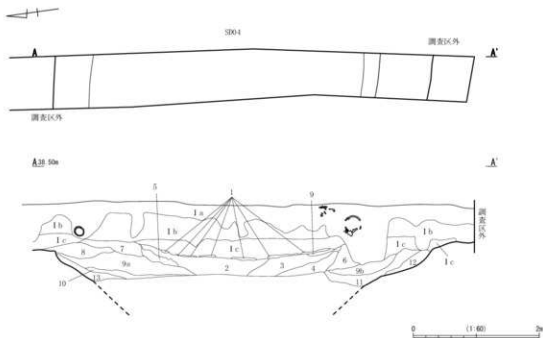
**時期** 底面の15層から出土した高台付皿の年代から、少なくともこの堀跡は9世紀後半以降に形成されたものと推定される。



第180図 3号堀跡出土遺物

第68表 3号堀跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 皿	口径：- 器高：〈1.0〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子	良好	5%未満	黄灰 (2.5Y6/1)	ロクロ整形。底部即転糸切り後、貼付高台。内面黒色処理。ミガキ方向は風化により不明。
2	土師器 内耳鍋	口径：〈25.6〉 器高：〈6.5〉 底径：-	白色粒子・橄欖岩・ 黒色雲母	良好	5%未満	外：灰褐色 (5YR5/2) 内：にぶい橙色 (7.5YR6/4)	輪轆みロクロ整形。横ナデ。



S04

1. 黒色土 10YR1.7/1 締り弱い、粘性弱い、炭化物 (0.5~10mm) を全体に多量含む。
2. 黒褐色土 10YR2/2 締り弱い、粘性強い、ローム粒子 (φ1~5mm) を部分的に少量含む。
3. 暗褐色土 10YR3/3 締り弱い、粘性強い、ローム粒子 (φ1~5mm) を全体に少量含む。
4. 暗褐色土 10YR3/4 締り弱い、粘性強い、ローム粒子 (φ1~7mm) を全体に多く含む。
5. 黒褐色土 10YR3/2 締り弱い、粘性強い、ローム粒子 (φ1~5mm) を部分的に多く含む。
6. 黒褐色土 10YR2/3 締り弱い、粘性強い、ローム粒子 (φ1~3mm) を全体に微量含む。
7. 暗褐色土 10YR3/3 締り弱い、粘性強い、ローム粒子 (φ1~5mm) を全体に少量含む。
8. 暗褐色土 10YR3/3 締り弱い、粘性強い、ローム粒子 (φ1~5mm) を全体に微量含む。
- 9a. 黒褐色土 10YR2/3 締り弱い、粘性強い、ローム粒子 (φ1~3mm) を部分的に微量含む。
- 9b. 黒褐色土 10YR2/3 締り弱い、粘性強い、ローム粒子 (φ1~5mm) を全体に微量含む。
10. 黒褐色土 10YR3/2 締り弱い、粘性強い、ローム粒子 (φ1~5mm) を全体に微量含む。
11. 暗褐色土 10YR3/3 締り弱い、粘性強い、ローム地を部分的に微量、ローム粒子 (φ1~5mm) を全体に少量含む。
12. 暗褐色土 10YR3/3 締り弱い、粘性強い、ローム地を微量、ローム粒子 (φ1~5mm) を多く含む。
13. にぶい灰褐色土 10YR4/3 締り弱い、粘性強い、ローム粒子 (φ1~5mm) を全体に少量含む。

第181図 4号堀跡

#### 4号堀跡 (第181図)

平面位置 Q・R-36

重複関係 57号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 堀跡は調査範囲の制約のため、検出面から深さ0.5mまでの掘削にとどめたが、幅6.0m、深さ0.6mで、西側の3号堀跡より幅が広い。遺構の形態は不明であるが、3号堀跡と接続するならば、薬研堀であろう。検出面からの壁の傾斜も3号溝に類似して緩やかである。覆土は中央部の1c層直下の炭化物層の薄層1層が幅2.7mの範囲で検出されているが、埋め戻された層位上で火を焚いた痕跡の様である。

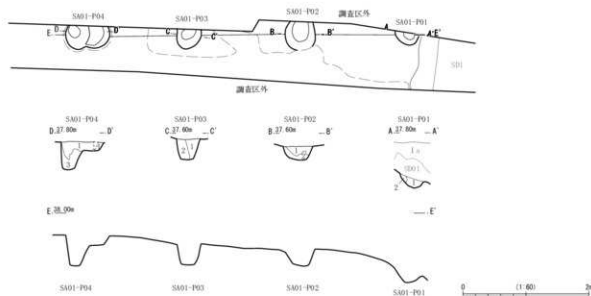
遺物 出土遺物は、土師器甕（ハケ目調整）、甌、陶器の擂鉢破片、泥岩製の支脚、砂岩製の礎、礫片などである。

時期 部分的な深さまでの調査にとどまったため、遺構の構築年代は不明であるが、3号堀跡との接続を考慮すると、9世紀後半以降には構築されたものと推定される。

### (3) 柵列

#### 1号柵列 (第182図)

1号溝の東端の南側壁面から南側の検出面において、柵列を検出した。



##### SA01-P01

1. 黒褐色土 10YR2/3 締りあり、粘性なし。ロームブロックを部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 1 \sim 5 \text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。
2. 褐色土 10YR4/4 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 1 \sim 5 \text{mm}$ ) を全体に多量に含む。

##### SA01-P02

1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 20 \text{mm}$  程度) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に微量に含む。
2. に少し黄褐色土 10YR5/4 締り強い、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20 \text{mm}$ ) を全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に多く含む。

##### SA01-P03

1. 黒褐色土 10YR2/3 締りあり、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 15 \text{mm}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に少量含む。
2. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20 \text{mm}$ ) を全体に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に少量含む。

##### SA01-P04

1. に少し黄褐色土 10YR4/3 締りあり、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 15 \sim 30 \text{mm}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に少量含む。
2. に少し黄褐色土 10YR5/4 締り強い、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 20 \sim 100 \text{mm}$ ) を部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ ) を全体に少量含む。

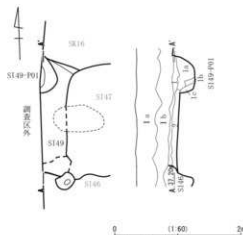
第182図 1号柵列





遺物 出土遺物は、常陸型の土師器甕破片、砂岩製の礫などである。

時期 不明



第184図 49号竪穴建物跡

- SI49
1. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。白色粒子（ $\phi 1\sim 3\text{mm}$ ）を部分的に少量、ロームブロック（ $\phi 10\sim 50\text{mm}$ ）を部分的に、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を部分的に少量含む。
  2. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性あり。白色粒子（ $\phi 1\sim 3\text{mm}$ ）を部分的に少量、ロームブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）を部分的に、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に少量、焼土（ $\phi 1\sim 10\text{mm}$ ）を部分的に少量含む。
- SI49-P01
- 1a. 黒褐色土 10YR2/3 締りあり、粘性あり。白色粒子（ $\phi 1\sim 3\text{mm}$ ）を部分的に少量、ロームブロック（ $\phi 10\sim 50\text{mm}$ ）を部分的に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に含む。
  - 1b. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性あり。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。
  - 1c. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性あり。焼土（ $\phi 3\sim 15\text{mm}$ ）を部分的に少量、ロームブロック（ $\phi 10\sim 30\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim 10\text{mm}$ ）を全体に多く含む。

#### 55号竪穴建物跡（第185・186図・第69表）

平面位置 U-36

重複関係 54・56号竪穴建物より古い。

遺構形態 遺構は、床面の一部が検出され、長軸1.97m以上、短軸0.75m以上、深さ0.35mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがある。竈は検出されていない。ピットは3基検出されているが支柱穴はない。覆土は黒褐色土とにぶい黄褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器甕（常陸型）、須恵器甕破片、ロクロ成形内面黒色処理、底部穿孔の皿などである。

時期 不明

#### 56号竪穴建物跡（第185図）

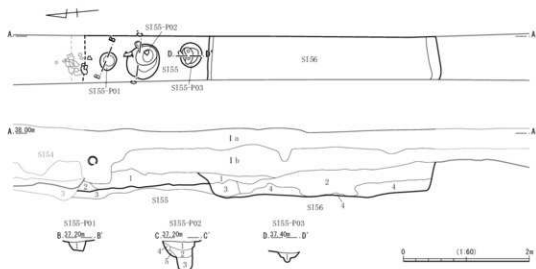
平面位置 T-36

重複関係 55号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は、床面の一部、北壁と南壁の一部が検出され、長軸3.72m以上、短軸0.68m以上、深さ0.57mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は緩やかに立ちあがる。竈は検出されていない。ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土と暗褐色土の自然堆積層である。

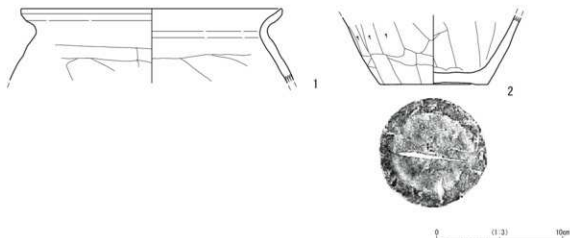
遺物 出土遺物は、土師器甕、須恵器坏蓋模倣の坏などである。

時期 不明



- S155
- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 締りなし、粘性なし、ローム粒子 (φ 1~5mm) を部分的に微量に含む。
- 1b. 黒褐色土 10YR3/2 締りあり、粘性なし、ロームブロック (φ 10~20mm) を部分的に微量、ローム粒子 (φ 1~5mm) を部分的に少量含む。
1. 黒褐色土 10YR3/2 締りあり、粘性なし、炭化物 (φ 5~20mm) を全体に少量、ロームブロックを部分的に微量、ローム粒子 (φ 1~3mm) を全体に微量に含む。
2. にいり黄褐色土 10YR4/3 締り強い、粘性なし、ロームブロックを全体に多く、ローム粒子 (φ 1~5mm) を全体に多く含む。
3. にいり黄褐色土 10YR4/3 締り強い、粘性なし、ロームブロックを全体に多く、ローム粒子 (φ 1~5mm) を全体に多く含む。
- S155-P01
1. 暗褐色土 10YR3/3 締りあり、粘性なし、ロームブロック (φ 5~10mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ 1~5mm) を全体に微量に含む。
- S155-P02
1. 黒褐色土 10YR3/2 締りあり、粘性なし、炭化物 (φ 3~10mm) を全体に少量、ローム粒子 (φ 1~5mm) を部分的に微量、機土 (φ 5~10mm) を部分的に微量に含む。
2. 暗褐色土 10YR3/3 締りあり、粘性なし、ロームブロック (φ 5~10mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ 1~5mm) を全体に微量に含む。
3. 褐色土 10YR4/4 締りあり、粘性なし、ロームブロック (φ 10~50mm) を部分的に多く、ローム粒子 (φ 1~5mm) を全体に少量含む。
4. 黒褐色土 10YR2/3 締りあり、粘性なし、ローム粒子 (φ 1~3mm) を部分的に微量に含む。
5. 褐色土 10YR4/6 締り強い、粘性なし、ロームブロック (φ 1~5mm) を全体に少量、ローム粒子 (φ 1~5mm) を全体に多量に含む。
- S155-P03
1. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性なし、ロームブロック (φ 5~10mm) を部分的に微量、ローム粒子 (φ 1~5mm) を部分的に微量に含む。
- S156
- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 締りなし、粘性なし、ローム粒子 (φ 1~5mm) を部分的に微量に含む。
- 1b. 黒褐色土 10YR3/2 締りあり、粘性なし、ロームブロック (φ 10~20mm) を部分的に微量、ローム粒子 (φ 1~5mm) を部分的に少量含む。
- 1c. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性なし、炭化物 (φ 5~10mm) を部分的に微量、ローム粒子 (φ 1~5mm) を全体に微量、機土 (φ 10mm) を部分的に微量に含む。
2. 黒褐色土 10YR3/2 締りあり、粘性あり、ロームブロックを部分的に微量、ローム粒子 (φ 1~5mm) を全体に微量に含む。
3. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし、ロームブロックを部分的に微量、ローム粒子 (φ 1~5mm) を全体に微量に含む。
4. 灰黄褐色土 10YR4/2 締り強い、粘性あり、ロームブロックを多く、ローム粒子 (φ 1~5mm) を全体に多く含む。

第 185 図 55・56 号堅穴建物跡



第 186 図 55 号堅穴建物跡出土遺物

第69表 55号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径：(20.6) 器高：(5.9) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・石英・ 礫	良好	10%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面上位横位 ヘラケズリ・下位縦位ヘラケズリ、内 面ヘラナデ・ナデ
2	土師器 甕	口径：- 器高：(5.5) 底径：8.4	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・石英・ 礫	良好	10%	にぶい褐 (7.5YR5/3)	外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ ナデ、底部周囲指押え

65号竪穴建物跡 (第187図)

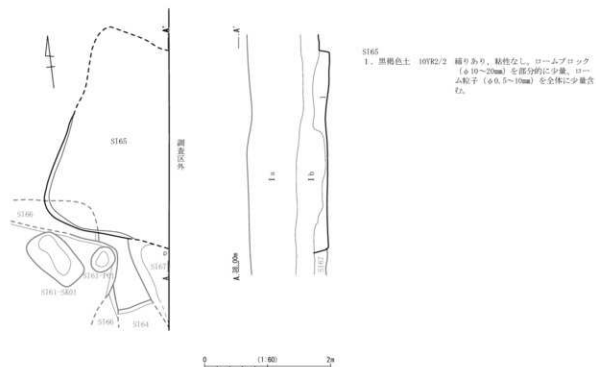
平面位置 Q・R-3

重複関係 66・67号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は、床面の一部、西壁と南壁の一部が検出され、長軸3.23以上m、短軸2.13m以上、深さ0.24mを測る。床は平坦で踏み締まりがあり、掘方は浅いが壁は急角度で立ち上がる。竈、ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、土師器は甕(ハケ目調整)、内面黒色処理の鉢、弥生時代後期の十王台式の土器片、砂岩製の礫片などである。

時期 不明



第187図 65号竪穴建物跡

### 69号竪穴建物跡 (第188図)

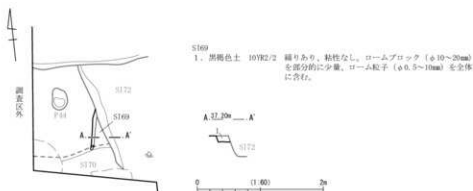
平面位置 N-2

重複関係 68・70・72号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は、僅かに床面の一部と西壁が検出され、長軸0.61m以上、短軸0.29m以上、深さ0.09mを測る。床はほぼ平坦で、掘方は浅いが壁は急角度で立ち上がる。竈、ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物なし。

時期 不明



第188図 69号竪穴建物跡

### (3) 井戸

#### 1号井戸 (第189・191図・第70表)

平面位置 AG-36・37

重複関係 1号堀跡より古い。

遺構形態 長軸2.20m、短軸1.39m、深さ0.92m以上で、西側の3号堀跡より幅が広い。遺構の形態は楕円形である。覆土は黒褐色土を主体とし、黒色土・明褐色土・褐色土を含むシルト質土である。

遺物 出土遺物は、縄文時代前期の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、土師器甕（常陸型、ハケ目調整）、土師質土器の小皿、近世の陶磁器破片、砂岩、片岩、石英製礫片である。

時期 不明

#### 2号井戸 (第189図)

平面位置 AH-21

重複関係 33号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は西壁が部分的に検出され、長軸1.41m以上、短軸0.53m以上、深さ1.16m以上である。遺構の形態は不明である。覆土は黒褐色土を主体とし、暗褐色土と黒色土を含むシルト質土である。

遺物 出土遺物はない。

時期 不明

### 3号井戸 (第190図)

平面位置 Q-3

重複関係 66号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構の形態は円形で長軸1.02m、短軸0.96m、深さ0.72mである。遺構の形態は不定形である。覆土は黒褐色土を主体とし、にぶい黄橙色土を含むシルト質土である。

遺物 出土遺物は、土師器甕(常陸型、ハケ目調整)、坏、埴、須恵器甕、ロクロ成形坏、内面黒色処理の鉢、土師質土器の小皿、白磁の小皿などである。

時期 不明

### 4号井戸 (第190・192図・第71表)

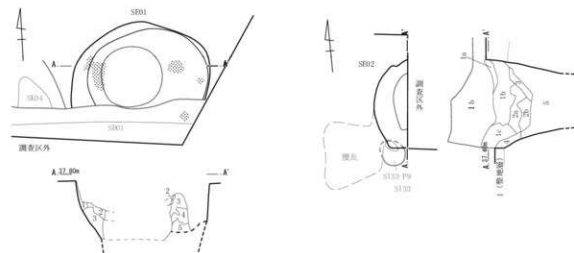
平面位置 L-2

重複関係 20号土坑より古く、71号竪穴建物跡より新しい。

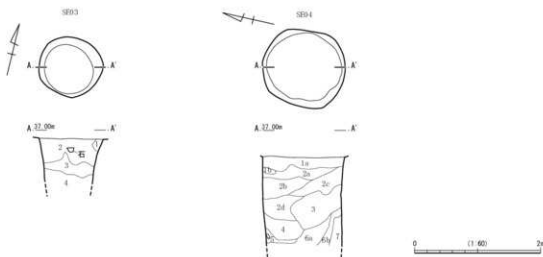
遺構形態 遺構の形態は円形で、長軸1.31m、短軸1.26m、深さ1.39m以上で、西側の3号堀跡より幅が広い。遺構の形態は不定形である。覆土は黒褐色土を主体とし、黄褐色土、褐色土を含むシルト質土である。

遺物 出土遺物は、弥生時代後期の十王台式の土器片、土師器甕(ハケ目調整)、高坏(ハケ目調整、ミガキ)、埴(内面黒色処理あり)、須恵器(壺、坏)、土師質土器の小皿、砂岩製の台石、片岩製の礫片などである。

時期 不明



第189図 1・2号井戸



SE0

1. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
2. 明褐色土 7.5YR5/6 締り強い、粘性あり。粘土を全体に多量に含む。
3. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性あり。粘土を部分的に多く、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。
4. 黒色土 10YR2/1 締り強い、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
5. 褐色土 10YR4/6 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。

SE02

- 1a. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性なし。炭化物 ( $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く、粘土 ( $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。
- 1b. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし。炭化物 ( $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く、粘土 ( $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。
- 1c. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
- 2a. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 30\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
- 2b. 黒褐色土 10YR2/2 締りなし、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
3. 黒色土 10YR2/1 締り強い、粘性あり。炭化物 ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
4. 黒色土 10YR2/1 締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に多量に含む。
5. 暗褐色土 10YR3/3 締りなし、粘性強い。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。

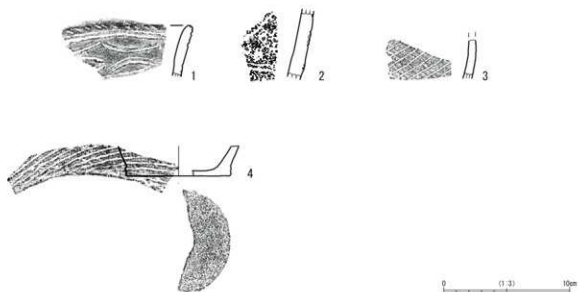
SE03

1. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性あり。シルトを全体に多く、炭化物 ( $\phi 3 \sim 5\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に含む。粘土を含む。
2. 濃い黄褐色土 10YR4/4 締り強い、粘性あり。砂粒を全体に多量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。
3. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
4. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。

SE04

1. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を全体に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量、炭化物 ( $\phi 3 \sim 5\text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。
- 1b. 黄褐色土 10YR3/6 締りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
- 2a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。粘土 ( $\phi 3 \sim 5\text{mm}$ ) を部分的に微量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。
- 2b. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。粘土 ( $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ) を、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
- 2c. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 15\text{mm}$ ) を部分的に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
- 2d. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 30\text{mm}$ ) を全体に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に、粘土 ( $\phi 3 \sim 5\text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。
3. 黄褐色土 10YR3/6 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
4. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 30\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に含む。
5. 褐色土 10YR4/6 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
- 6a. 褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。
- 6b. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。
7. 褐色土 10YR4/4 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。

第190図 3・4号井戸



第191図 1号井戸出土遺物

第70表 1号井戸出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR6/4)	半截竹管状工具による木炭文を描く
2	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	明赤褐 (5YR5/8)	磨糸L施文後、半截竹管状工具で三角形文を描き、竹管状工具による円形刺突を描く
3	弥生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5%未満	褐灰 (7.5YR4/1)	附加条2種
4	弥生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・雲母	良好	5%未満	にぶい橙 (5YR7/4)	附加条2種 砂底



第192図 4号井戸出土遺物

第71表 4号井戸出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師質土器 かわらけ	口径:6.4 器高:2.4 底径:2.8	黒色粒子・赤色粒子・雲・針	良好	100%	にぶい橙 (7.5YR7/3)	内外面ナシ、底部静止系切り、口縁部油煙痕

#### (4) 溝跡

##### 5号溝跡 (第193図)

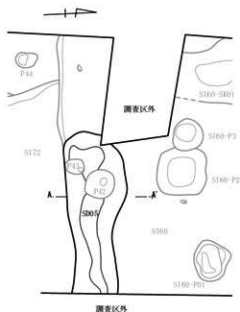
平面位置 O—3

重複関係 42・43号ピットより古く、60・72号堅穴建物跡より新しい。

遺構形態 長軸2.66m、短軸0.96m、深さ0.62m以上で、西側の3号堀跡より幅が広い。

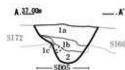
遺物 出土遺物は、土師器甕、須恵器坏蓋模倣の坏などである。

時期 不明



S105

- 1a. 黒褐色土 10TR2/2 縞りあり、粘性なし。炭化物(φ3~5mm)を部分的に微量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量、焼土(φ2~3mm)を部分的に少量含む。
- 1b. 黒褐色土 10TR2/2 縞りあり、粘性なし。炭化物(φ3~10mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、焼土(φ2~5mm)を部分的に微量に含む。
- 1c. 黒褐色土 10TR2/2 縞りあり、粘性なし。ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
2. 黄褐色土 10TR5/6 縞りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。

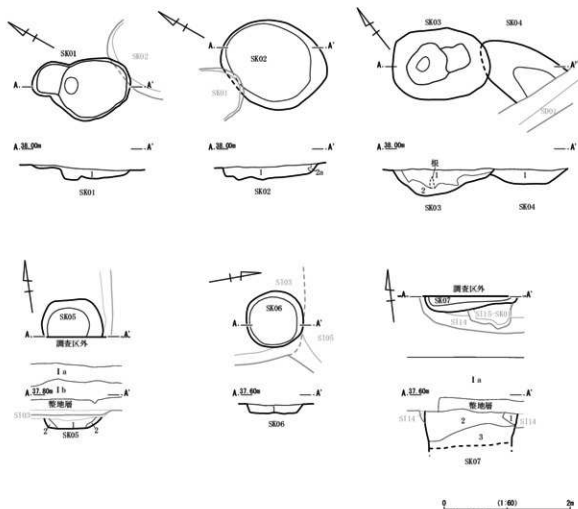


第193図 5号溝跡



## (5) 土坑

土坑は22基検出されている(第194～202図・第72～76表)。



SK01

1. 黒褐色土 10TR3/2 締り強い、粘性あり。白色粒子( $\phi 0.5 \sim 1 \text{mm}$ )を全体に多く、ロームブロック( $\phi 10 \sim 50 \text{mm}$ )を全体に、ローム粒子( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ )を全体に少量、炭化物( $\phi 1 \sim 10 \text{mm}$ )を部分的に微量、焼土( $\phi 1 \sim 5 \text{mm}$ )を部分的に微量に含む。

SK02

1. 黒褐色土 10TR2/2 締り強い、粘性強い。ロームブロック( $\phi 10 \sim 100 \text{mm}$ )を部分的に多く、ローム粒子( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ )を全体に含む。
- 2a. 褐色土 10TR4/6 締り強い、粘性強い。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ )を全体に多量に含む。

SK03

1. 黒褐色土 10TR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロック( $\phi 10 \sim 50 \text{mm}$ )を部分的に少量、ローム粒子( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ )を全体に少量、焼土( $\phi 0.5 \sim 1 \text{mm}$ )を部分的に微量に含む。
2. 暗褐色土 10TR3/3 締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ )を全体に多く含む。

SK04

1. 黒褐色土 10TR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ )を全体に含む。

SK05

1. 黒褐色土 10TR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロック( $\phi 10 \sim 50 \text{mm}$ )を部分的に少量、ローム粒子( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ )を全体に含む。
2. 黒褐色土 10TR3/2 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ )を全体に多量に含む。

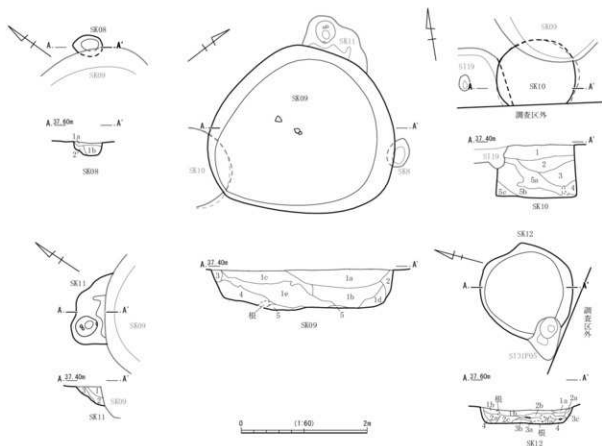
SK06

1. 黒褐色土 10TR3/2 締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ )を全体に含む。

SK07

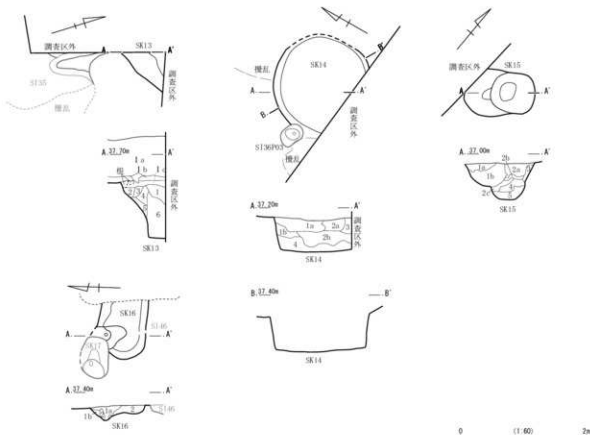
1. 黒褐色土 10TR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック( $\phi 10 \sim 20 \text{mm}$ )を部分的に多く、ローム粒子( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ )を全体に多量に含む。
2. 黒褐色土 10TR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック( $\phi 10 \sim 20 \text{mm}$ )を部分的に多く、ローム粒子( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ )を全体に多く、焼土( $\phi 1 \sim 15 \text{mm}$ )を部分的に含む。
3. 黒褐色土 10TR2/2 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子( $\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$ )を全体に多量に含む。

第194図 1～7号土坑



- SK08
- 1a. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性あり。ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に微量に含む。
  - 1b. 黒褐色土 10YR3/2 締りなし、粘性あり。ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に微量に含む。
- SK09
- 1a. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に微量、焼土 ( $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。
  - 1b. 黒褐色土 10YR3/2 締りあり、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。
  - 1c. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 5 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に微量に含む。
  - 1d. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 30\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
  - 1e. 黒褐色土 10YR3/1 締りあり、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 50\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に微量、焼土 ( $\phi 2 \sim 5\text{mm}$ ) を部分的に微量含む。
  2. 褐色土 10YR4/4 締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
  3. にぶい黄褐色土 10YR4/3 締り強い、粘性なし。ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
  4. 灰黄褐色土 10YR6/2 締りあり、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 30 \sim 100\text{mm}$ ) を部分的に多く、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に少量含む。
  5. 黒色土 10YR2/1 締りなし、粘性あり。ロームブロック ( $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量、ローム粒子 ( $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ) を全体に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。
- SK10
1. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に少量、ローム粒子 ( $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
  2. 黒褐色土 10YR2/2 締りなし、粘性強い。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 30\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に微量に含む。
  3. 黒色土 10YR2/1 締りなし、粘性強い。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に微量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に微量含む。
  4. にぶい黄褐色土 10YR6/4 締りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
- SK11
- 1 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし。ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
  - 2 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 50\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く、炭化物 ( $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。
  - 3 黄褐色土 10YR5/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。
- SK12
- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。白色粒子 ( $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ) を全体に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
  - 1b. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量、焼土 ( $\phi 2 \sim 5\text{mm}$ ) を部分的に微量、白色粒子 ( $\phi 1 \sim 10\text{mm}$ ) を部分的に微量、炭化物 ( $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ) を部分的に微量、籾 ( $\phi 0.20\text{mm}$ ) を部分的に微量に含む。
  - 2a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 100\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量、焼土 ( $\phi 1 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、白色粒子 ( $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
  - 2b. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。白色粒子 ( $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ ) を全体に少量、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
  - 2c. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 50\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。
  - 3a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に少量含む。
  - 3b. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 50\text{mm}$ ) を部分的に少量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。
  - 3c. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性なし。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を部分的に、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多く含む。
  - 4 褐色土 10YR4/6 締りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ( $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ) を全体に多量に含む。

第195図 8～12号土坑



## SK13

1. 黒褐色土 10YR2/3 締りあり、粘性なし。ロームブロック(φ5~7mm)を部分的に散見。ローム粒子(φ0.5~10mm)を部分的に散見を含む。
2. 灰黄褐色土 10YR4/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック(φ7~8mm)を部分的に散見。ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量。焼土(φ2~3mm)を部分的に散見含む。
3. 暗褐色土 10YR3/3 締りあり、粘性なし。ロームブロック(φ5~10mm)を部分的に少量含む。ローム粒子(φ0.5~10mm)を部分的に少量含む。
4. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性なし。ロームブロック(φ5~7mm)を部分的に少量含む。ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
5. 暗褐色土 10YR3/4 締りあり、粘性なし。ロームブロック(φ5~15mm)を全体に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
6. 黒褐色土 10YR2/2 締りあり、粘性なし。ロームブロック(φ5~10mm)を全体に少量。ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に散見を含む。

## SK14

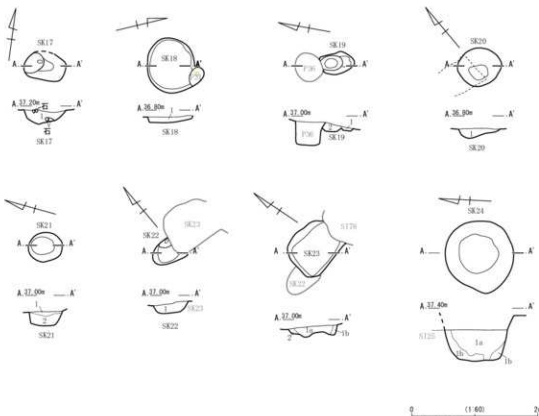
- 1a. 黒色土 10YR2/1 締り強い、粘性なし。白色粒子(φ1~3mm)を部分的に散見。炭化物(φ5~10mm)を部分的に多量。ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
- 1b. 黒色土 10YR2/1 締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量。ローム粒子(φ0.5~10mm)を部分的に多量を含む。
- 2a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~20mm)を全体に少量。ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
- 2b. 黒色土 10YR2/1 締りなし、粘性なし。ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量。ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量。焼土(φ1~10mm)を部分的に散見を含む。
3. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~30mm)を部分的に多く。ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
4. 黒色土 10YR2/1 締りあり、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量。ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。

## SK15

- 1a. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。白色粒子(φ1~3mm)を部分的に散見。炭化物(φ1~5mm)を部分的に散見。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に散見。ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
- 1b. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。白色粒子(φ1~3mm)を部分的に散見。炭化物(φ5~10mm)を部分的に散見。ロームブロック(φ5~10mm)を部分的に少量含む。ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。
- 2a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。白色粒子(φ1~3mm)を部分的に散見。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量。ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。焼土(φ1~5mm)を部分的に散見を含む。
- 2b. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。ロームブロック(φ5~10mm)を部分的に少量含む。
3. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く。ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
4. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に散見。ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
5. 褐色土 10YR4/6 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量。ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。

## SK16

- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性なし。白色粒子(φ1~3mm)を全体に少量。炭化物(φ5~10mm)を部分的に散見。ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に多く。ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
- 1b. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性なし。白色粒子(φ0.5~1mm)を部分的に散見。ロームブロックを部分的に多量。ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
2. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く。ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量。焼土(φ1~15mm)を部分的に。白色粒子(φ1~3mm)を全体に少量含む。



- SK17  
1. 埴間色土 101K3/3 縞りあり、粘性なし。ロームブロック (φ10~100 mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に、焼土 (φ3~5mm) を部分的に少量含む。
- SK18  
1. 黒褐色土 101K3/2 縞り強い、粘性なし。白色粒子 (φ1~5mm) を全体に、炭化物 (φ5~10mm) を全体に、ロームブロック (φ10~50mm) を部分的に多く、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く含む。
- SK19  
1. 黒褐色土 101K2/2 縞り強い、粘性なし。ロームブロック (φ10~20 mm) を部分的に多く、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く含む。  
2. 黒褐色土 101K3/2 縞り強い、粘性あり。ロームブロック (φ10~50 mm) を部分的に多く、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く含む。
- SK20  
1. 黒褐色土 101K2/2 縞りなし、粘性あり。炭化物 (φ3~10mm) を部分的に少量、ロームブロック (φ10~100mm) を部分的に多く、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量、焼土 (φ3~10mm) を部分的に少量含む。
- SK21  
1. 黒褐色土 101K2/2 縞り強い、粘性あり。ロームブロック (φ10~20 mm) を部分的に多く、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く含む。  
2. 黒褐色土 101K3/2 縞り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量に含む。

- SK22  
1. 褐色土 101K4/6 縞りあり、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量に含む。
- SK23  
1a. 黒褐色土 101K2/2 縞り強い、粘性あり。ロームブロック (φ10~30 mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く含む。  
1b. 黒褐色土 101K2/2 縞り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く含む。  
2. 黒褐色土 101K3/2 縞り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量に含む。
- SK24  
1a. 黒褐色土 101K2/2 縞り強い、粘性あり。ロームブロック (φ10~50 mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量、焼土 (φ10~50mm) を部分的に少量に含む。  
1b. 黒褐色土 101K2/2 縞り強い、粘性あり。ロームブロック (φ10~100 mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量に含む。

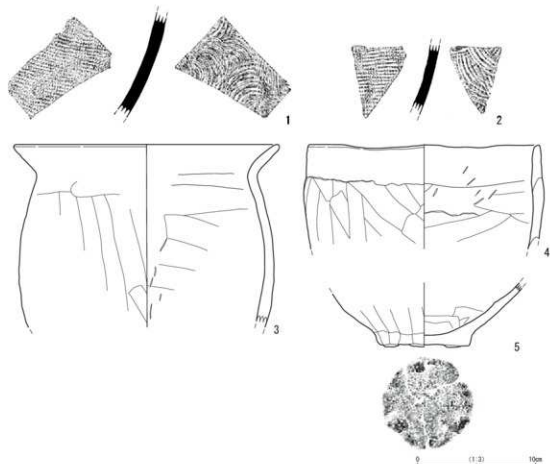
### 第197図 17~24号土坑



第198図 3号土坑出土遺物

第72表 3号土坑出土遺物観察表

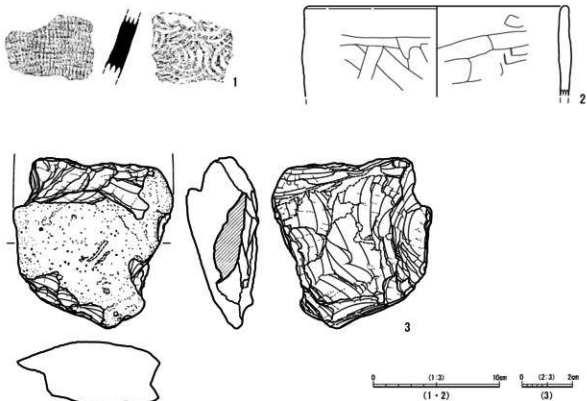
図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	織文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・針	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR6/4)	横位比線



第199図 9号土坑出土遺物

第73表 9号土坑出土遺物観察表

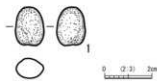
図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・礫	良好	5%未満	灰 (N5/0)	外面格子状叩き痕、内面同心円状当て 具痕
2	須恵器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・礫	良好	5%未満	灰 (N5/0)	外面格子状叩き痕、内面同心円状当て 具痕
3	土師器 甕	口径:(22.2) 器高:(15.5) 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 雲・針・チャ・ 石英・礫	良好	10%	明赤褐 (2.5YR5/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラ ケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
4	土師器 甕	口径:19.4 器高:(8.9) 底径:-	白色粒子・黒色粒 子・赤色粒子・雲・ 石英・礫	良好	10%	にぶい褐 (7.5YR5/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラ ケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
5	土師器 甕	口径:- 器高:(5.5) 底径:7.4	白色粒子・黒色粒子・ 雲・針・石英・ 礫	良好	10%	明赤褐 (5YR5/6)	外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ ナデ。底部凹状陥付け3箇所



第200図 10号土坑出土遺物

第74表 10号土坑出土遺物観察表

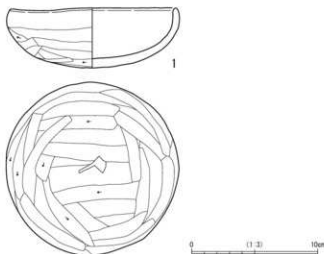
図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 罎	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・石英・燐	良好	5%未滿	灰(N5/O)	外面格子状甲き痕、内面同心円状当て具痕
2	土師器 罎	口径:(20.6) 器高:(7.2) 底径:-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英	良好	5%	褐(7.5YR4/4)	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
3	打製石斧	砂岩	<7.3>	6.6	2.7	117.2	上部を大きく欠損。刃部は細かく調整されている。摩耗し丸みを帯びる。



第201図 11号土坑出土遺物

第75表 11号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
1	磨石	チャート	1.7	1.3	0.8	2.4	楕円形で全体に平滑で光沢を帯びる。



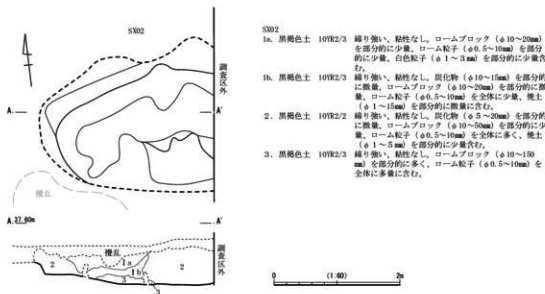
第202図 13号土坑出土土遺物

第76表 13号土坑出土土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 坏	口径：13.0 器高：4.7 底径 —	白色粒子・黒色粒子・ 雲・針・石英・ 礫	良好	95%	にぶい赤褐 (5YR4/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ

## (6) 性格不明遺構

性格不明遺構は1基検出されている（第203・204図・第77表）。



第203図 2号性格不明遺構



第204図 2号性格不明遺構出土遺物

第77表 2号性格不明遺構遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 坏	口径：(13.0) 器高：(3.7) 底径：-	白色粒子・赤色粒子・ 雲・針・石英・礫	良好	10%	にぶい赤褐 (5YR4/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズ リ、内面ナデ、口縁部外面～内面赤彩

## (7) ビット

ビットは53基検出されている(第78表)。

第78表 時期不明遺構計測表・ビット

番号	グリッド	平面形	サイズ (m)			壁面	床面	新旧関係	出土遺物	時期	備考
			最大長	最大幅	最大深						
PIT-01	AH・AG-35	不整形	0.49	0.41	0.32	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-03	AG-33	ほぼ円形	0.36	0.3以上	0.27	急角度で立ち上がる	弧状	3号壑穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-04	AG-33	方形	0.26以上	0.21以上	0.53	急角度で立ち上がる	弧状	3号壑穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-05	AG-33	不整形	0.6	0.44以上	0.26	急角度で立ち上がる	弧状	3号壑穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-06	AH-33	不明	0.29以上	0.11以上	0.34	急角度で立ち上がる	弧状	5号壑穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-07	AH-33	長方形	0.53	0.4	0.33	急角度で立ち上がる	弧状	5号壑穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-08	AH-30	不整形 長方形	0.43以上	0.29以上	不明	急角度で立ち上がる	弧状	4号壑穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-09	AH-30	楕円形	0.61以上	0.26以上	0.13	急角度で立ち上がる	ほぼ平坦	4・17号壑穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-10	AI・AH-28	不整形	0.86以上	0.84以上	0.3	急角度で立ち上がる	弧状	8号壑穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-11	S・3	楕円形	0.43	0.36	0.37	急角度で立ち上がる	弧状	3号堀跡と重複、新旧不明	なし	不明	
PIT-12	R・3	楕円形	0.28	0.22	0.22	急角度で立ち上がる	弧状	3号堀跡と重複、新旧不明	なし	不明	
PIT-13	AI-20	不整形	0.57	0.43	0.5	急角度で立ち上がる	弧状	14号ビットより新しい	なし	不明	
PIT-14	AI-20	楕円形	0.52	0.37	0.56	急角度で立ち上がる	弧状	13号ビットより古い	なし	不明	
PIT-15	AI-17	円形	0.38	0.38	0.38	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	



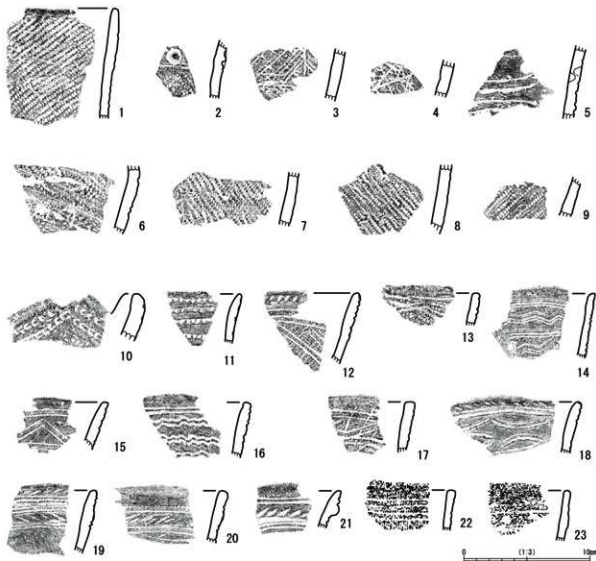
番号	グリッド	平面形	サイズ (m)			壁面	床面	新旧関係	出土遺物	時期	備考
			最大長	最大幅	最大深						
PIT-16	AI-17	隅丸長方形	0.49	0.41	0.33	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-17	AK- 8	不整形 楕円形	0.64	0.32	0.17	ゆるやかに立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-18	AK- 8	不整形 円形	0.3	0.23	0.26	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-19	AK- 7	不整形 円形	0.4	0.36	0.23	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-23	Z・Y37	円形	1.31	1.3	0.86	急角度で立ち上がる	弧状	59号竪穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-24	AA-37	不明	0.91以上	0.33以上	0.69	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-25	S-36	円形	0.32	0.32	0.19	急角度で立ち上がる	弧状	57号竪穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-26	S-36	不整形	0.36	0.33	0.22	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-27	S-36	楕円形	0.28	0.25	0.18	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-28	S-36	隅丸長方形	0.48	0.38	0.44	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-29	R-3	不整形 円形	0.28	0.27	0.24	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-30	R-3	不整形	0.72	0.7	0.26	急角度で立ち上がる	ほぼ平直	なし	なし	不明	
PIT-31	T- 3	楕円形	0.3	0.24	0.14	急角度で立ち上がる	弧状	18号土坑と重複、新旧不明	なし	不明	
PIT-32	T- 3	不整形	0.4	0.39	0.16	ゆるやかに立ち上がる	ほぼ平直	なし	なし	不明	
PIT-33	T-3	円形	0.24	0.22	0.27	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-34	T-3	不整形 円形	0.29	0.24	0.27	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-35	T-3	不整形	0.5	0.4	0.42	急角度で立ち上がる	弧状	37号ピットと重複、新旧不明	なし	不明	
PIT-36	T-3	楕円形	0.47	0.42	0.38	急角度で立ち上がる	ほぼ平直	19号土坑より新しい	なし	不明	
PIT-37	T-3	不整形	0.44	0.41	0.2	急角度で立ち上がる	ほぼ平直	35号ピットと重複、新旧不明	なし	不明	
PIT-38	T-3	不整形	0.49	0.4	0.27	急角度で立ち上がる	ほぼ平直	なし	なし	不明	
PIT-39	T-3	不整形	0.53	0.32	0.14	急角度で立ち上がる	ほぼ平直	40号ピットと重複、新旧不明	なし	不明	
PIT-40	T-3	楕円形	0.42	0.29	0.38	急角度で立ち上がる	弧状	39号ピットと重複、新旧不明	なし	不明	
PIT-41	Y- 3	不整形 円形	0.52	0.48	0.22	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	

番号	グリッド	平面形	サイズ (m)			断面	床面	新旧関係	出土遺物	時期	備考
			最大長	最大幅	最大深						
PIT-42	O-3	円形	0.5	0.46	0.36	急角度で立ち上がる	弧状	5号溝より新しい	なし	不明	
PIT-43	O-3	隅丸方形	0.32	0.25	0.4	急角度で立ち上がる	弧状	5号溝より新しい	なし	不明	
PIT-44	N-3	不整形	0.34	0.24	0.27	急角度で立ち上がる	ほぼ平坦	なし	なし	不明	
PIT-45	K・L-3	円形	0.56	0.37	0.25	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-46	K-2	楕円形	0.29	0.29	0.31	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-47	J-2	不整形円形	0.41	0.34	0.22	急角度で立ち上がる	ほぼ平坦	76号型穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-48	J・K-3	楕円形	0.35	0.25	0.18	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-49	J-3	楕円形	0.38	0.33	0.23	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-50	J-2	楕円形	0.34	0.26	0.61	急角度で立ち上がる	ほぼ平坦	なし	なし	不明	
PIT-51	J-2	楕円形	0.43	0.3	0.2	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-52	J-2	不整形	0.3	0.27	0.38	急角度で立ち上がる	弧状	86号型穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-53	J-2	方形	0.35	0.35	0.33	急角度で立ち上がる	弧状	86号型穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-54	F・G-3	円形	0.52	0.51	0.49	急角度で立ち上がる	弧状	90号型穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-55	A1-18	不整形	0.34	0.23	0.41	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-56	R-36	不明	0.29以上	0.18以上	0.3	急角度で立ち上がる	弧状	57号型穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-57	AH-30	不整形	0.29	0.25	0.61	急角度で立ち上がる	弧状	17号型穴建物跡より新しい	なし	不明	

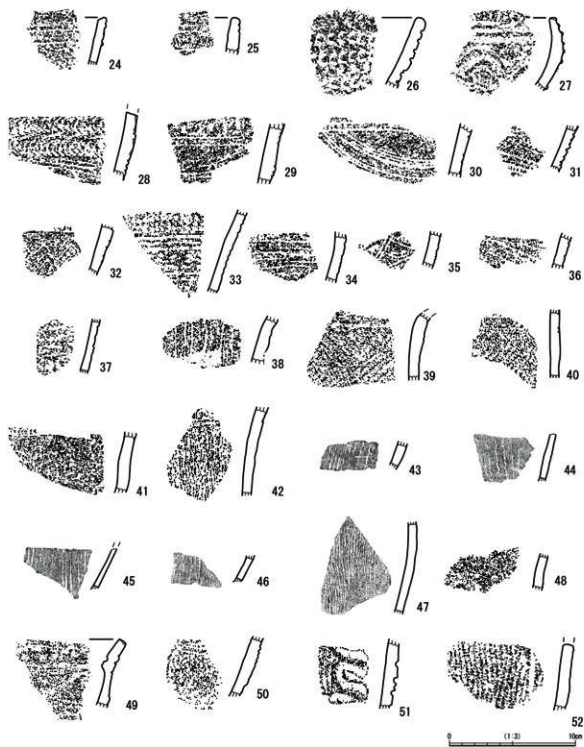
## 第8節 調査区内・遺構内出土遺物

### (1) 遺物の概要

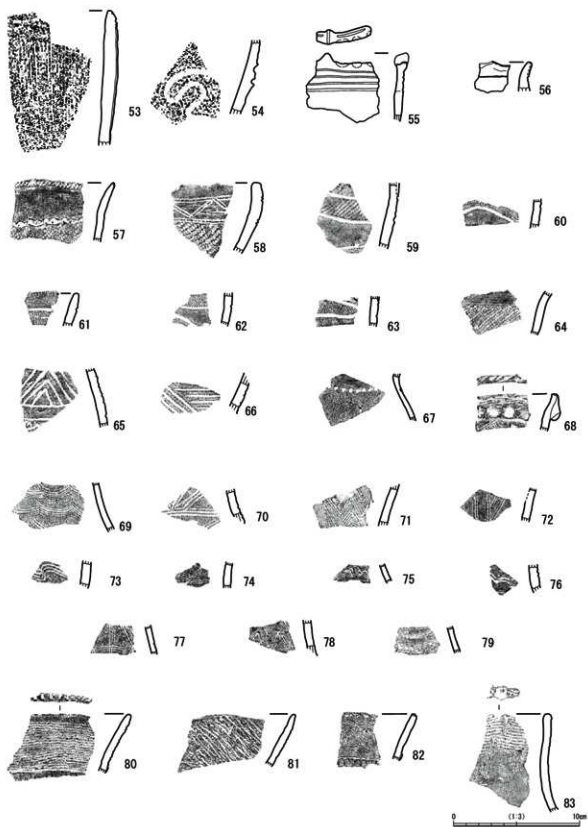
表土や攪乱から出土した遺物の他、遺構内からの出土ではあるが遺構の時期とは異なり混入品と考えられる遺物をここで報告する(第205～213図・第79表)。遺物の種類としては、縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器、銭貨、石器である。



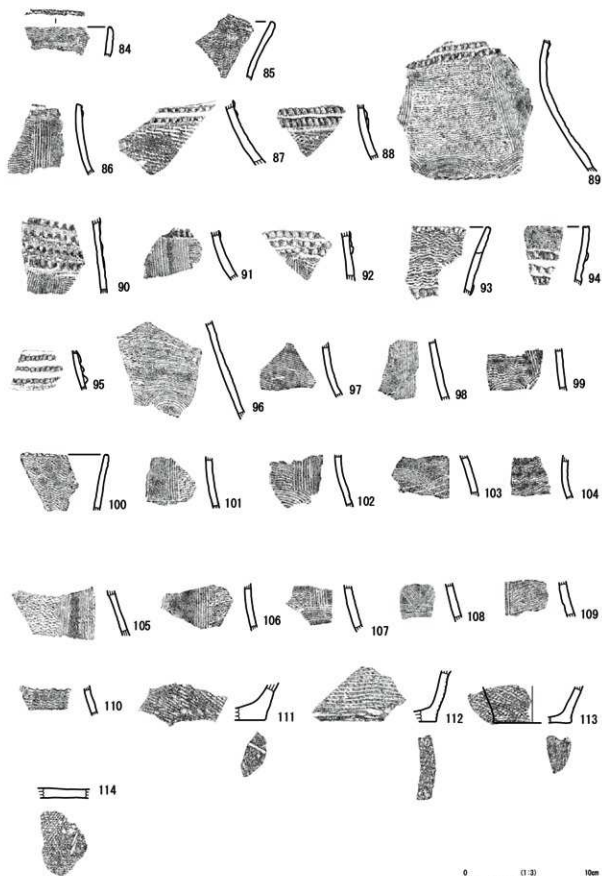
第205図 遺構外出土遺物(1)



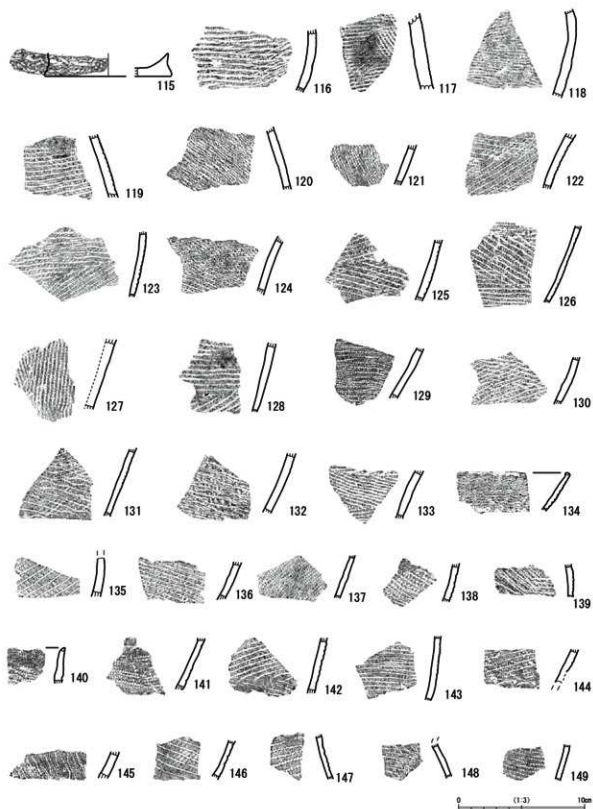
第206圖 遺構外出土遺物(2)



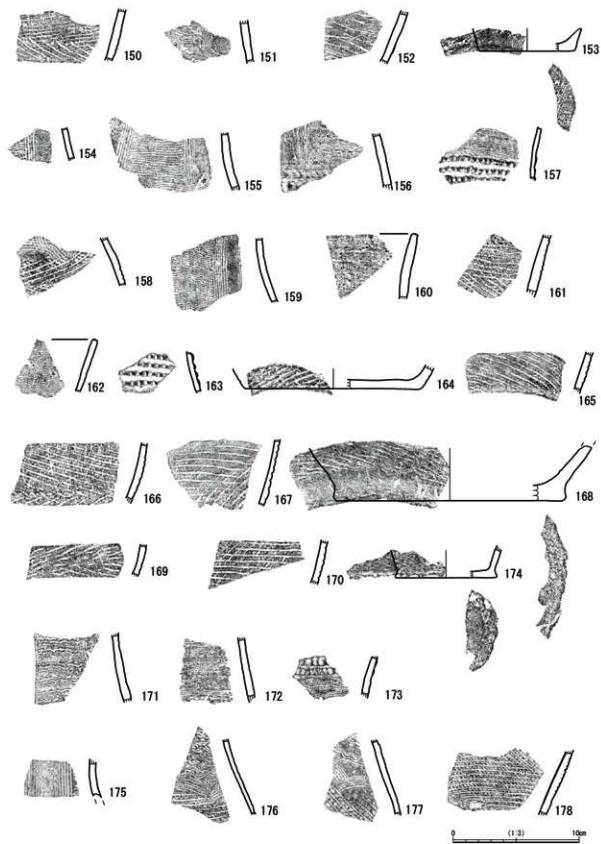
第 207 圖 遺構外出土遺物 (3)



第 208 图 遗構外出土遺物 (4)

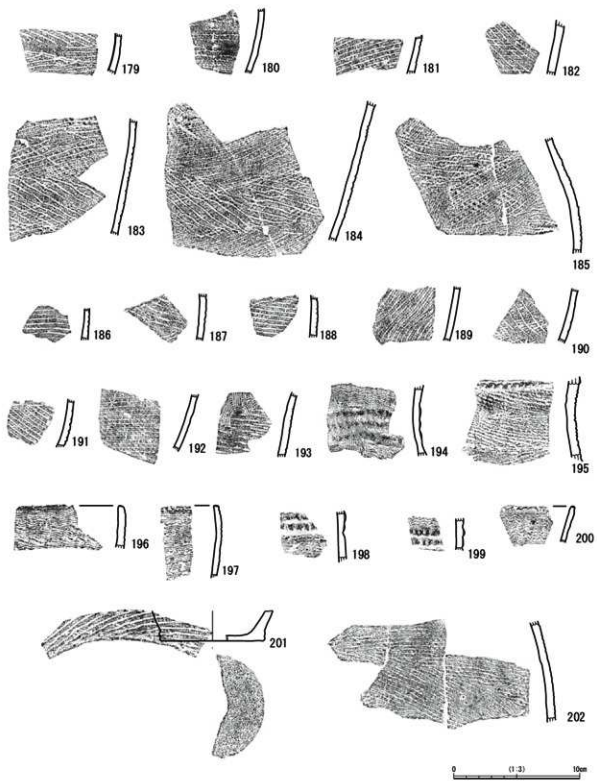


第209图 道槽外出土文物(5)

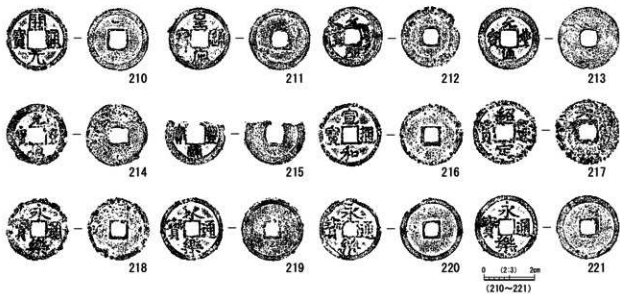
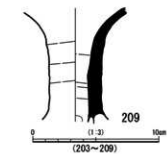
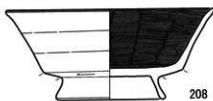
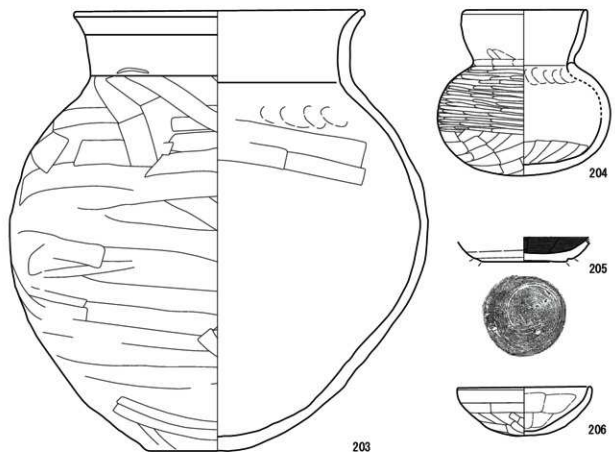


第210圖 遺構外出土遺物(6)





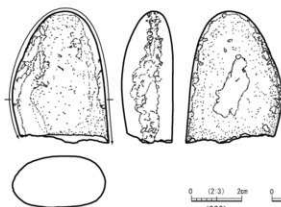
第 211 圖 遺構外出土遺物 (7)



第 212 圖 遺構外出土遺物 (8)



222



223

0 (2-3) 2cm (222) 0 (1-3) 10cm (223)

第 213 図 遺構外出土遺物 (9)

第 79 表 遺構外出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ チャート・石英	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR6/4)	LR 横位、縦線含む
2	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・チャート	良好	5%未満	暗赤褐 (2.5YR3/2)	RL 横位施文後円形文、縦線含む
3	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ チャート・石英	良好	5%未満	褐色 (10YR4/1)	RL 施文後、半截竹管状工具によるモチーフを描く、縦線含む
4	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・チャート	良好	5%未満	にぶい橙 (7.5YR7/4)	へら状工具によるモチーフを描く、縦線含む
5	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR6/4)	2 本同時施文工具による横位沈線を描く、縦線含む
6	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英石英	良好	5%未満	橙 (7.5YR7/6)	RL 縦横位に施文して羽状横位にする、縦線含む
7	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ チャート・石英	良好	5%未満	暗褐 (10YR3/3)	RL 縦横位に施文、縦線含む
8	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ チャート・石英	良好	5%未満	明褐 (7.5YR5/8)	RL 縦横位に施文、縦線含む
9	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英	良好	5%未満	橙 (7.5YR6/6)	RL + 1 横位に施文、縦線含む
10	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・チャート・ 雲母	良好	5%未満	橙 (7.5YR6/6)	波状口縁、口縁部に沿って半截竹管状による押引文、縦線含む
11	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英	良好	5%未満	橙 (7.5YR6/8)	口縁部に沿って半截竹管状工具による押引文、縦線含む
12	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ チャート	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/3)	LR 施文後半截竹管状工具で山型文を描く
13	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・チャート・ 石英	良好	5%未満	褐 (7.5YR4/4)	LR 縦、竹管状工具で山型文を描く
14	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	黄褐 (10YR5/6)	4 本を一単位とする工具による横線文と波状文を重ねさせる
15	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR5/3)	半截竹管状工具による上下に区画し、内側に連続山型文を配置する
16	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR6/3)	竹管状工具による横線文と波状文を描く

図版番号	種別・深鉢	法量 (mm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
17	縄文土器 深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR6/3)	摺り糸R施文後、半截竹管状工具によるモチーフを描く
18	縄文土器 深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR6/4)	半截竹管状工具による木葉文を描く
19	縄文土器 深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英	良好	5%未満	黒褐 (10YR3/1)	竹管状工具による有筋沈線と斜位のキザミを施す
20	縄文土器 深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子	良好	5%未満	褐 (7.5YR4/6)	竹管状工具による平行沈線と斜位のキザミを施す
21	縄文土器 深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子	良好	5%未満	褐 (7.5YR4/6)	竹管状工具による平行沈線と斜位のキザミを施す
22	縄文土器 深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・石英	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR5/4)	竹管状工具による横線と斜位沈線を描く
23	縄文土器 深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR6/4)	竹管状工具による有筋沈線と凹文を描く
24	縄文土器 深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	灰黄褐 (10YR4/2)	RL 横位施文後、竹管状工具による横位有筋沈線と斜位有筋沈線を描く
25	縄文土器 深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英	良好	5%未満	灰白 (10YR8/2)	摺り糸L施文後半截竹管状工具による有筋沈線
26	縄文土器 深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英	良好	5%未満	灰白 (10YR8/2)	半截竹管状工具による上押印文を重畳させる
27	縄文土器 深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	明褐 (7.5YR5/8)	キザミがある微隆起でモチーフを描く
28	縄文土器 深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	灰褐 (7.5YR5/2)	半截竹管状工具による横位区画後貝殻によるロッピング
29	縄文土器 深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	明黄褐 (10YR7/6)	摺り糸R施文後、半截竹管状工具による弧線文と刺突を描く
30	縄文土器 深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	橙 (7.5YR6/6)	摺り糸R施文後、半截竹管状工具による木葉文を描く
31	縄文土器 深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	橙 (7.5YR6/8)	LR 施文後半截竹管状工具による平行沈線文と爪型文を施す
32	縄文土器 深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・石英	良好	5%未満	明黄褐 (10YR7/6)	摺り糸R施文後、半截竹管状工具による爪型文で横位区画し同一工具で波状文を描く
33	縄文土器 深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR6/4)	刺突文と櫛歯状工具による横線を重畳させる
34	縄文土器 深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	明黄褐 (10YR6/6)	竹管状工具による平行沈線と爪型文を施す
35	縄文土器 深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	明黄褐 (10YR7/6)	摺り糸L施文後、半截竹管状工具によるモチーフを描く
36	縄文土器 深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英	良好	5%未満	灰黄褐 (10YR4/2)	LR 横位施文後、半截竹管状工具によるモチーフを描く
37	縄文土器 深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR4/3)	半截竹管状工具による押印文と変形爪型文を描く
38	縄文土器 深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英	良好	5%未満	灰黄褐 (10YR5/2)	半截竹管状工具による縦位平行線を描く

図版 番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
39	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	半截竹管状工具による押し付け、単節羽 状縄文を施文、縄帷含む
40	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	黒褐色 (10YR2/2)	LR 横位施文後、半截竹管状工具による 爪型文を施す、縄帷含む
41	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	黒褐色 (10YR2/2)	懸糸1施文後、半截竹管状工具による爪 型文を施す
42	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲	良好	5%未満	黒褐色 (10YR3/2)	付加糸 RL + L・L 施文後、半截竹管状 工具による平行線を描く
43	弥生土器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい橙 (7.5YR7/4)	懸糸 R
44	弥生土器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい橙 (7.5YR7/4)	RLR + R・R
45	弥生土器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい橙 (7.5YR6/4)	懸糸 R
46	弥生土器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英	良好	5%未満	褐灰 (10YR4/1)	懸糸 R
47	弥生土器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	浅黄橙 (10YR8/3)	軸縄不明 + L
48	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	明褐色 (7.5YR5/8)	結節文を施す
49	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	暗褐色 (7.5YR3/3)	隆帯に沿って有節沈線を施す
50	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子	良好	5%未満	橙 (7.5YR7/6)	RL 横位施文後、沈線による杓状に区画
51	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/4)	LR 施文後、継手文を描く
52	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/4)	LR 横位施文後、縦位に磨面す
53	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・石英	良好	5%未満	黄橙 (10YR7/8)	櫛歯状工具で縦位条線を描く
54	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石	良好	5%未満	明黄褐色 (7.5YR7/6)	LR 施文後、継手文を描く
55	縄文土器 深鉢	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・石英	良好	5%未満	明赤褐色 (5YR5/8)	口縁部突起とキザミ、口縁部に沿って 3条の沈線が寄り、頸部を無文帯とす
56	弥生土器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	褐色 (7.5YR4/3)	口縁部外縁部に輪積み痕を残す、口唇 部波状になる
57	弥生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石	良好	5%未満	褐灰色 (5YR4/1)	口唇部 LR 施文、無文帯はさみ、胴部は 上端に結節付 LR を横位施文する。
58	弥生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石	良好	5%未満	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	口縁部に半截竹管状工具で横位区画し た内部を同一工具で鋸歯文を描く。胴 部以下 LR を横位施文する。
59	弥生土器 筒型土器	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR6/3)	LR 施文後、沈線で区画する
60	弥生土器 筒型土器	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・白色針状物質	良好	5%未満	にぶい赤褐色 (5YR5/3)	LR 施文後、沈線で区画する

図版 番号	種別・器種	法量 (mm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
61	赤生土器 陶製土器	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい赤褐 (5YR5/4)	カナムグラ前期施文後、沈線の区画
62	赤生土器 陶製土器	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	灰黄褐 (10YR4/2)	LR 施文後、沈線で区画する
63	赤生土器 陶製土器	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	灰褐 (7.5YR5/2)	LR 施文後、沈線で区画する
64	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	褐灰 (7.5YR4/1)	LR + R・R
65	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子	良好	5%未満	浅黄橙 (10YR8/4)	胴部LR、沈線による横位区画後、重山 型文
66	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	にぶい褐 (7.5YR6/3)	沈線による斜位線で帯状のモチーフ を描くとも思われる
67	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	明黄褐 (10YR7/6)	胴部上端に円形刺突列
68	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい橙 (7.5YR7/4)	口唇部襷押し、折返し口縁部にLR 施文 下縁を押し、頸部5本同時施文具により 山型文を描く
69	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・石英	良好	5%未満	にぶい橙 (7.5YR6/4)	5本を一単位とする帯状工具による 下向きの連弧文を3段以上巡らす
70	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・石英	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR6/4)	3本同時施文具により横位区画し連続 山型文を施す
71	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・石英	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/4)	縦区画後、3本同時施文具により連続 山型文を施す
72	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子	良好	5%未満	にぶい橙 (5YR6/4)	縦区画後、3本同時施文具により連続 山型文を施す
73	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい橙 (7.5YR6/4)	縦区画後、本同時施文具によりより 連続山型文を施す
74	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 雲母	良好	5%未満	にぶい橙 (7.5YR7/4)	3本同時施文具による横位文と連続山 型文を施す
75	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子	良好	5%未満	灰黄褐 (10YR5/2)	3本同時施文具による波状文を施す
76	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子	良好	5%未満	橙 (5YR6/6)	2本同時施文具による波状文を2段以 上施す
77	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい褐 (7.5YR6/3)	2本同時施文具による波状文を施す
78	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい橙 (7.5YR7/4)	3本同時施文具によりモチーフを描く
79	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・石英・雲母	良好	5%未満	にぶい赤褐 (5YR5/4)	3本一単位の帯状工具による波状文
80	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/3)	口唇部襷押し、5本を一単位とする帯 状工具による波状文を4段施す、頸部 に上縁を押しする隆帯を施す
81	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい黄褐 (10YR5/3)	RL + L・L 刺突による施文
82	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 雲母	良好	5%未満	灰白 (2.5Y8/2)	口唇部襷押し、5本を一単位とする帯 状工具による波状文を4段、頸部に 上縁に押しする隆帯を施す

図版 番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
83	赤生土器 壺	口径: 器高: 底径:	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい橙 (7.5YR7/4)	口縁部にキザミ、口唇部及び口縁部軸 端不明+L
84	赤生土器 壺	口径: 器高: 底径:	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/4)	口唇部縄文押、5本を一単位とする櫛 歯状工具による波状文を施す
85	赤生土器 壺	口径: 器高: 底径:	白色粒子・黒色粒子・ 雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/2)	4本を一単位とする櫛歯状工具による 波状文を施す
86	赤生土器 壺	口径: 器高: 底径:	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/3)	頸部上半上端押圧のある隆帯を巡らす、 頸部下半8本を一単位とする櫛歯状工 具により縦区画後波状文
87	赤生土器 壺	口径: 器高: 底径:	白色粒子・黒色粒子・ 雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/3)	頸部に押圧のある隆帯を巡らし頸部軸 端不明+Rを施文
88	赤生土器 壺	口径: 器高: 底径:	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい橙 (7.5YR7/4)	口縁部L R + を施文、頸部押圧のある 隆帯を2段以上巡らす
89	赤生土器 壺	口径: 器高: 底径:	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	灰黄 (2.5Y6/2)	頸部上半上端キザミのある隆帯を巡ら す、頸部下半5本を一単位とする櫛歯 状工具による横位の弧線文を施文後縦 区画後、波状文
90	赤生土器 壺	口径: 器高: 底径:	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/3)	押圧のある隆帯を4条巡らす、7本を 一単位とする櫛歯状工具による縦区 画後波状文
91	赤生土器 壺	口径: 器高: 底径:	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/4)	押圧のある隆帯を1条以上巡らす、6 本を一単位とする櫛歯状工具による縦 区画後波状文
92	赤生土器 壺	口径: 器高: 底径:	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR6/3)	押圧のある隆帯を3条以上巡らす、4 本を一単位とする櫛歯状工具による縦 区画と波状文
93	赤生土器 壺	口径: 器高: 底径:	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/3)	口唇部縄文押圧、口縁部外面4本を一 単位とする櫛歯状工具による波状文
94	赤生土器 壺	口径: 器高: 底径:	白色粒子・黒色粒子・ 雲母	良好	5%未満	灰黄褐 (10YR6/2)	口唇部縄文押圧、押圧のある隆帯を3 条以上巡らす
95	赤生土器 壺	口径: 器高: 底径:	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	褐灰 (10YR4/1)	押圧のある隆帯を3条以上巡らす、櫛 歯状工具による波状文
96	赤生土器 壺	口径: 器高: 底径:	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・石英・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR6/3)	頸部外面6本を一単位とする櫛歯状工 具による連弧文後波状文
97	赤生土器 壺	口径: 器高: 底径:	白色粒子・黒色粒子・ 雲母	良好	5%未満	灰褐 (7.5YR5/2)	頸部外面5本を一単位とする櫛歯状工 具による横線文
98	赤生土器 壺	口径: 器高: 底径:	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/3)	頸部外面8本を一単位とする櫛歯状工 具による縦区画後波状文
99	赤生土器 壺	口径: 器高: 底径:	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	褐灰 (5YR4/1)	頸部外面5本を一単位とする櫛歯状工 具による連弧文後縦区画後波状文
100	赤生土器 壺	口径: 器高: 底径:	白色粒子・黒色粒子・ 雲母	良好	5%未満	にぶい橙 (7.5YR5/3)	口唇部縄文押圧、5本を一単位とする 櫛歯状工具による波状文
101	赤生土器 壺	口径: 器高: 底径:	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石	良好	5%未満	灰褐 (7.5YR5/2)	5本を一単位とする櫛歯状工具による 横位区画後縦区画後波状文
102	赤生土器 壺	口径: 器高: 底径:	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/3)	8本を一単位とする櫛歯状工具による 連弧文後縦区画後波状文
103	赤生土器 壺	口径: 器高: 底径:	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	褐灰 (10YR4/1)	胴部上半LR+L・L縄文後8本を一単 位とする櫛歯状工具による連弧文後縦 位区画後波状文
104	赤生土器 壺	口径: 器高: 底径:	白色粒子・黒色粒子・ 雲母	良好	5%未満	褐灰 (7.5YR4/1)	6本を一単位とする櫛歯状工具による 波状文

図版番号	種別・器種	法量 (mm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
105	赤生土器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	灰黄褐色 (10YR4/2)	7本を一単位とする聯壺状工具による 縦位区画後波状文
106	赤生土器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/2)	8本を一単位とする聯壺状工具による 連弧文後縦位区画後波状文
107	赤生土器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい橙 (7.5YR6/4)	7本を一単位とする聯壺状工具による 縦位区画山型文
108	赤生土器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・石英・雲母	良好	5%未満	灰黄褐色 (10YR5/2)	5本を一単位とする聯壺状工具による 縦位区画後波状文
109	赤生土器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/3)	4本を一単位とする聯壺状工具による 縦位区画後波状文
110	赤生土器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR6/3)	付加条1種 RL+L・L
111	赤生土器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲母	良好	5%未満	にぶい橙 (7.5YR7/4)	付加条2種 砂底
112	赤生土器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR6/3)	付加条2種
113	赤生土器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・石英・雲母	良好	5%未満	にぶい褐 (7.5YR6/3)	底部布目
114	赤生土器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英・雲 母	良好	5%未満	にぶい赤褐 (5YR5/4)	付加条2種 砂底
115	赤生土器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/3)	頸部外面4本を一単位とする聯壺状工 具による縦位区画後波状文
116	赤生土器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい橙 (7.5YR7/4)	付加条1種 LR+R・R
117	赤生土器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい橙 (7.5YR6/4)	付加条2種羽状縄文
118	赤生土器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR6/3)	軸縄不明+L
119	赤生土器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・石英	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/2)	軸縄不明+L
120	赤生土器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい褐 (7.5YR6/3)	直前段多条のR L
121	赤生土器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・雲母	良好	5%未満	にぶい褐 (7.5YR5/3)	RL+R・R
122	赤生土器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/3)	付加条2種羽状縄文
123	赤生土器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 雲母	良好	5%未満	灰白 (10YR8/2)	付加条2種羽状縄文
124	赤生土器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/3)	付加条2種羽状縄文
125	赤生土器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/3)	付加条2種羽状縄文
126	赤生土器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/2)	付加条2種羽状縄文



図版 番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
127	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 器径:-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・角閃石・ 石英	良好	5%未満	にぶい褐 (7.5YR6/4)	付加条1種羽状織文
128	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 器径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	黒褐(10YR2/2)	付加条2種羽状織文
129	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 器径:-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英	良好	5%未満	褐灰(7.5YR4/1)	直前段多条のLR
130	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 器径:-	白色粒子・黒色粒子・ 雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/3)	付加条2種羽状織文
131	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 器径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい褐 (7.5YR6/4)	付加条2種羽状織文
132	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 器径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい褐 (7.5YR6/3)	付加条2種
133	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 器径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい褐 (7.5YR6/3)	付加条1種羽状織文
134	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 器径:-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・角閃石・ 雲母	良好	5%未満	にぶい橙 (7.5YR7/4)	口唇部・ナギミ、口縁部外面に4本一単位の櫛歯状工具による波状文
135	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 器径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	褐灰(7.5YR4/1)	付加条2種
136	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 器径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR6/3)	付加条2種
137	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 器径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	灰黄褐 (10YR6/2)	直前段多条のLR
138	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 器径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR6/3)	RLR+R・R
139	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 器径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/2)	直前段多条のRL
140	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 器径:-	白色粒子・黒色粒子	良好	5%未満	灰褐(7.5YR5/2)	LR+R・R
141	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 器径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい褐 (7.5YR5/4)	直前段多条のRL
142	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 器径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/3)	付加条2種羽状織文
143	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 器径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	灰褐(7.5YR5/2)	付加条1種LR+R・R
144	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 器径:-	白色粒子・黒色粒子	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR6/3)	付加条2種
145	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 器径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい褐 (7.5YR6/3)	断片R
146	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 器径:-	白色粒子・黒色粒子・ 雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/4)	付加条2種
147	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 器径:-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲母	良好	5%未満	灰黄褐 (10YR5/2)	軸溝不明+R
148	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 器径:-	白色粒子・黒色粒子・ 雲母	良好	5%未満	灰黄褐 (10YR6/2)	RL+R・R

図版番号	種別・器種	法量 (mm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
149	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	にぶい赤褐 (5YR5/4)	軸線不明+L
150	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 雲母	良好	5%未満	灰白(10YR8/2)	付加条羽状縄文
151	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/3)	6本を一単位とする櫛歯状工具による 連弧文後、縦位区画線後、波状文
152	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	褐灰(7.5YR4/1)	軸線不明+R
153	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR6/3)	底部網代痕
154	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい橙 (7.5YR7/4)	4本を一単位とする櫛歯状工具による 波状文後、縦位区画
155	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英・雲 母	良好	5%未満	浅黄橙 (10YR8/4)	5本を一単位とする櫛歯状工具による 連弧文後、縦位区画後波状文
156	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 雲母	良好	5%未満	浅黄橙 (10YR8/4)	胴部下半上端を押し出した隆帯を運らす。 7本を一単位とする櫛歯状工具による 横位波状文区画後縦位区画後波状文
157	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	にぶい橙 (7.5YR6/4)	押しある隆帯を3条運らす。6本を一 単位とする櫛歯状工具による波状文
158	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/2)	RL+r付加調2種。5本を一単位とす る櫛歯状工具による弧線文後縦位区画
159	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英・雲 母	良好	5%未満	灰黄褐 (10YR5/2)	7本を一単位とする櫛歯状工具による 縦位区画後波状文
160	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/3)	口唇部縄文押し、口縁部6本を一単位 とする櫛歯状工具による波状文
161	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	浅黄橙 (10YR8/4)	付加調2種羽状縄文
162	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	灰黄褐 (10YR5/2)	口唇部縄文押し、口縁部4本を一単位 とする櫛歯状工具による波状文
163	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 雲母	良好	5%未満	灰黄褐 (10YR4/2)	胴部に押し隆帯4条、以下6本一単位 の櫛歯状工具で縦位区画線、波状文を描 く
164	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英・雲 母	良好	5%未満	灰黄褐 (10YR5/2)	軸線不明+R
165	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	橙(5YR6/6)	軸線不明+L
166	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	灰黄褐 (10YR6/2)	軸線不明+L
167	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	にぶい橙 (5YR6/4)	付加条2種羽状縄文
168	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい橙 (7.5YR7/4)	付加条2種羽状縄文
169	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・石英・雲母	良好	5%未満	にぶい橙 (5YR7/4)	付加条2種羽状縄文
170	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	褐灰(7.5YR4/1)	軸線不明+L

図版 番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
171	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	灰白(10YR8/2)	3本一単位の柳葉状工具による縦区画線後、波状文
172	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/2)	5本一単位の柳葉状工具による波状文
173	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	灰黄褐 (10YR5/2)	押圧線帯2条、以下7本一単位の柳葉状工具による波状文
174	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/2)	軸襷不明+L
175	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	灰黄褐 (10YR6/2)	5本一単位の柳葉状工具による縦区画線後、波状文
176	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	にぶい褐 (7.5YR6/3)	5本一単位の柳葉状工具による弧線文後、縦区画線後、波状文、地文は付加条2種
177	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/3)	6本一単位の柳葉状工具による弧線文後、縦区画線後、波状文、地文は付加条2種
178	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	褐灰(10YR5/1)	付加条2種羽状縄文
179	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	黄灰(2.5Y4/1)	付加条2種羽状縄文
180	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/2)	軸襷不明+L
181	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/3)	付加条2種
182	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	褐灰(10YR5/1)	付加条2種羽状縄文
183	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/3)	付加条2種羽状縄文
184	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR6/3)	付加条2種羽状縄文
185	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR6/3)	付加条2種羽状縄文
186	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	にぶい褐 (7.5YR5/3)	付加条2種
187	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/3)	付加条2種羽状縄文
188	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	灰黄褐 (10YR6/2)	付加条1種RL+L・L
189	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・角閃石・ 石英	良好	5%未満	にぶい褐 (7.5YR6/3)	直前段多条のLR
190	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	灰褐(7.5YR6/2)	付加条2種羽状縄文
191	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・石英・雲母	良好	5%未満	褐灰(7.5YR5/1)	付加条1種RL+L・L
192	赤生土器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5%未満	明褐灰 (7.5YR7/2)	付加条2種羽状縄文

図版番号	種別・器種	法量 (mm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
193	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい褐 (7.5YR6/3)	6本一単位の櫛歯状工具による弧線文 後、縦区画線後、波状文、地文は付加 条2種
194	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい赤褐 (5YR5/4)	胴部に押圧隆帯3条、それより上に6 本一単位の櫛歯状工具による波状文、 隆帯より下に弧線文後、縦区画線後、 波状文
195	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙 (10YR7/3)	押圧隆帯以下に付加条2種羽状横文
196	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙 (10YR6/3)	5本一単位の櫛歯状工具による波状文、 口唇部キザミ
197	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい橙 (7.5YR7/4)	5本一単位?の櫛歯状工具による波状 文、口唇部キザミ
198	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙 (10YR7/2)	押圧隆帯2条以上帯指波状文
199	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい橙 (7.5YR7/3)	押圧隆帯2条以上帯指波状文
200	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	5% 未満	黒褐 (7.5YR3/1)	5本一単位の櫛歯状工具による波状文、 口唇部キザミ
201	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英・雲 母	良好	5% 未満	にぶい橙 (5YR7/4)	沈痛による斜位線で器蓋状のモチーフ を描くかと思われる
202	赤生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 角閃石・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい橙 (7.5YR7/3)	付加条2種 砂底
203	土師器 甕	口径：22.8 器高：35.5 底径：8.5	白色粒子・赤色粒子・ 針・石英・礫	良好	70%	褐 (7.5YR6/4)	3本一単位の櫛歯状工具による波状文
204	土師器 埴	口径：10.0 器高：12.9 底径：-	雲・針・石英・礫	良好	80%	明赤褐 (5YR5/6)	付加条2種羽状横文
205	土師器 坏	口径：- 器高：(1.7) 底径：6.8	白色粒子・赤色粒子・ 黒色粒子・石英	良好	30%	褐 (7.5YR7/4)	内外面ロクロ整形、体部下端回転ヘラ ケズリ、底部外面回転車切り後回転ヘ ラケズリ、内面削処理・細かなミガキ
206	土師器 坏	口径：10.7 器高：3.8 底径：-	黒色粒子・針・石英	良好	完形	褐 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ナデ、底 部ヘラナデ
207	土師器 椀	口径：13.7 器高：5.6 底径：7.3	白色粒子・黒色粒子・ 角	良好	80%	明褐 (7.5YR8/4)	ロクロ整形、底部外面回転ヘラケズリ 後高台貼り付け、内面黒色処理・細か なミガキ、体部外面「破(?)上」墨 書あり
208	土師器 椀	口径：16.4 器高：7.1 底径：8.5	白色粒子・角・赤色 粒子・石英	良好	90%	明褐 (7.5YR8/4)	ロクロ整形、底部外面回転ヘラケズリ 後高台貼り付け、内面黒色処理・細か なミガキ
209	須恵器 瓶	口径：- 器高：(9.5) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 石英	良好	10%	灰 (N 7/0)	ロクロ整形
210	銅製品 銭	全長：2.46 孔径：0.74 厚み：0.12 重量：2.6g	-	-	-	-	開元通寶の録書。唐 621年初鋳。背 上に「月」文あり。
211	銅製品 銭	全長：2.46 孔径：0.56 厚み：0.12 重量：2.9g	-	-	-	-	皇宋通寶の篆書。北宋 1038年初鋳。
212	銅製品 銭	全長：2.38 孔径：0.57 厚み：0.11 重量：2.5g	-	-	-	-	元豐通寶の行書。北宋 1078年初鋳。

図版 番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
213	銅製品 銭	全長：2.43 孔径：0.69 厚み：0.10 重量：2.6g	—	—	—	—	元豐通寶の行書。北宋 1078年初鋳。
214	銅製品 銭	全長：2.43 孔径：0.61 厚み：0.15 重量：2.3g	—	—	—	—	元豐通寶の行書。北宋 1078年初鋳。
215	銅製品 銭	全長：2.39 孔径：0.71 厚み：0.10 重量：1.5g	—	—	—	—	元豐通寶の篆書。北宋 1078年初鋳。
216	銅製品 銭	全長：2.54 孔径：0.58 厚み：0.13 重量：2.8g	—	—	—	—	宣和通寶の隸書。北宋 1119年初鋳。
217	銅製品 銭	全長：2.53 孔径：0.72 厚み：0.18 重量：3.0g	—	—	—	—	紹定通寶。南宋 1228年初鋳。背上に「六」文あり。
218	銅製品 銭	全長：2.45 孔径：0.52 厚み：0.13 重量：2.9g	—	—	—	—	永樂通寶。明 1408年初鋳。
219	銅製品 銭	全長：2.47 孔径：0.54 厚み：0.15 重量：3.1g	—	—	—	—	永樂通寶。明 1408年初鋳。
220	銅製品 銭	全長：2.49 孔径：0.52 厚み：0.15 重量：2.8g	—	—	—	—	永樂通寶。明 1408年初鋳。
221	銅製品 銭	全長：2.5 孔径：0.59 厚み：0.16 重量：4.1g	—	—	—	—	永樂通寶。明 1408年初鋳。
222	銅製品 銭	全長：2.4 孔径：0.55 厚み：0.14 重量：4.4g	—	—	—	—	永樂通寶。明 1408年初鋳。
図版 番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
223	磨石・砥石	砂岩	10.5	7.4	4.1	469.3	下部欠損。裏面中央部に平背面。側縁部はまばらであるが全体的に砥打痕がみられる。



## 第5章 火山灰分析

### 第1節 はじめに

北関東地方東部に位置する茨城県域には、赤城、榛名、浅間、男体など北関東地方とその周辺に分布する火山のほか、箱根や富士など南関東地方、さらには中部地方、中国地方、九州地方など遠方に位置する火山から噴出したテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が多く降灰している。

とくに、後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代、さらに岩石記載の特徴などがテフラ・カタログ（町田・新井 2011）などに収録されており、考古遺跡でテフラに関する調査分析を行い、年代や層位が明らかな指標テフラを検出することで、考古遺物包含層や遺構の層位や年代に関する情報が得られるようになっている（古環境研究所 2007、早田 2020 など）。

常陸太田市太田城跡における発掘調査でも、層位や具体的な年代が不明な遺構や土層が認められたことから、野外調査を実施して土層やテフラ層の層序記載を行うとともに、高純度分析試料の採取、そして実験室内でのテフラ分析（テフラ検出分析・屈折率測定）を実施して、指標テフラの検出同定を行うことになった。土層調査の対象地点は、SD01 覆土断面、SD02 覆土断面、SD03 壁面、SI09 覆土断面、SD03 覆土断面の5地点である。

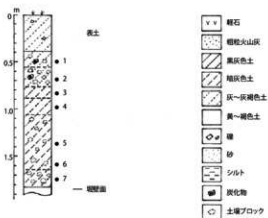
### 第2節 調査地点の土層層序

#### (1) SD01 覆土断面

SD01の覆土は、下位より黄褐色土ブロックに富むやや灰色がかった暗褐色土（層厚18cm）、黄褐色土ブロックを多く含むやや灰色がかった褐色土（層厚58cm）、やや灰色がかった暗褐色土（層厚17cm）、やや灰色がかった暗褐色土（層厚12cm）、炭化物混じりで黄褐色土ブロックに富む灰褐色土（層厚21cm）、炭化物混じりで黄褐色土ブロックを少し含む灰褐色土（層厚16cm）、瓦や角礫混じりでやや暗い灰褐色土（層厚39cm、礫の最大径78mm）からなる（第214図）。

#### (2) SD02 覆土断面

SD02の覆土は、下位より暗灰色土（層厚23cm）、黄灰色砂層（層厚32cm）、灰褐色土（層厚42cm）暗灰褐色土（層厚27cm）、黄褐色土粒子混じり暗灰褐色土（層厚28cm）、亜角礫混じり暗灰褐色泥質土（層厚35cm）、基底に砂岩（宝居印塔）を含む炭化物混じり暗灰褐色土（層厚88cm）、暗灰褐色土（層厚18cm）、白色細粒軽石混じり暗灰褐色土（粗厚22cm、軽石の最大径3mm）からなる（第215図）。



●:テフラ分析試料の層位、数字:テフラ分析の試料番号。

第214図 SD01 覆土（一部）の土層柱状図

さらにその上位には、黄褐色土ブロックを多く含むやや暗い灰褐色土（層厚 12cm）、黄褐色土粒子に富むやや暗い灰褐色土（層厚 16cm）、黄褐色土粒子に富む灰褐色土（層厚 23cm）、黄褐色土粒子を多く含む暗灰褐色土（層厚 19cm）、炭化物混じりで黄褐色土粒子を多く含む暗灰褐色土（層厚 23cm）、暗灰褐色土（層厚 6cm）、黄褐色土ブロック混じり暗灰褐色土（層厚 8cm）、炭化物や黄褐色土粒子を含む暗灰褐色土（層厚 8cm）、黄褐色土粒子を多く含む暗灰褐色土（層厚 34cm）、炭化物混じり暗灰褐色土（層厚 52cm）、炭化物や礫を含む暗灰褐色土（層厚 35cm、礫の最大径 28mm）、黄褐色土ブロックを多く含む灰褐色土（層厚 59cm）、瓦混じり灰褐色表土（層厚 34cm）が認められる。

### (3) SD03 壁面

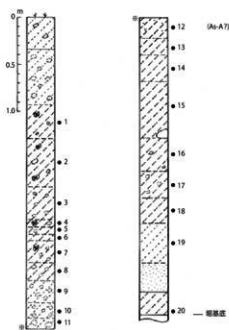
SD3 壁面では、砂礫層（層厚 200cm 以上、礫の最大径 180mm）の上位に、下位より灰色シルト層（層厚 31cm）、褐色土（層厚 39cm）、黄色粗粒火山灰層（ブロック状、最大層厚 5cm）、褐色土（層厚 34cm）、やや暗い褐色土（層厚 34cm）、黄色細粒軽石層（層厚 18cm、軽石の最大径 7mm）、褐色土（層厚 40cm 以上）が認められる（第 216 図）。このほかに、明確な層位関係は不明なもの、黄色粗粒火山灰層付近で、黄橙色細粒火山灰のブロックが認められた（試料 3）。

### (4) SI09 覆土断面

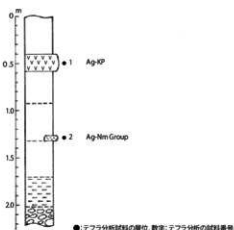
奈良・平安時代の住居址と推定されている SI09 では、下位より黄褐色土ブロックに富む暗灰褐色土（層厚 22cm）と白色粗粒火山灰混じり暗灰褐色砂質土（層厚 16cm）が認められる（第 217 図）。このうち、下位の土層の上面が床面で、上位の土層は住居址の覆土に相当する。

### (5) SD03 覆土断面

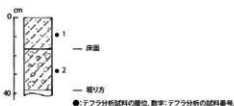
SD03 の覆土は、下位より褐色土（層厚 6cm）、層理が発達したやや灰色がかった褐色土（層厚 21cm）、褐色土（層厚 6cm）、褐色土ブロック層（層厚 21cm）、黄色粗粒火山灰層ブロックを含む



●：テラフラ分析試料の層位、数字：テラフラ分析の試料番号  
第 215 図 SD02 覆土の土層柱状図



●：テラフラ分析試料の層位、数字：テラフラ分析の試料番号  
第 216 図 SD03 壁面（一部）の土層柱状図

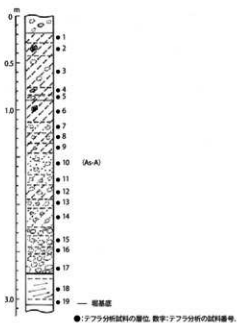


●：テラフラ分析試料の層位、数字：テラフラ分析の試料番号  
第 217 図 SI09 覆土の土層柱状図



褐色土ブロック層（層厚 6 cm）、黄褐色土粒子に富む灰褐色土（層厚 11cm）、黄褐色土および黒灰褐色土ブロック層（層厚 8 cm）、黄褐色土粒子に富む灰褐色土（層厚 19cm）、黄褐色土粒子に富む灰褐色土（層厚 10cm）、黄色土粒子を多く含む暗灰褐色土（層厚 14cm）、黄色土粒子に富む灰褐色土（層厚 9 cm）、黄褐色土粒子を多く含む灰褐色土（層厚 23cm）、黄色土粒子混じり暗灰褐色土（層厚 10cm）、黄褐色土粒子を多く含む褐色土（層厚 12cm）、黄褐色土粒子に富む灰褐色土（層厚 12cm）、炭化物混じり暗灰褐色土（層厚 22cm）からなる（第 218 図）。

その上位には、さらに黄褐色土ブロック混じりで砂を多く含む暗灰褐色土（層厚 5 cm）、亜角礫混じりで木灰ブロックを多く含む暗灰褐色土（層厚 9 cm、礫の最大径 37mm）、褐色土ブロックを多く含む暗灰褐色土（層厚 34cm）、炭化物混じり暗灰褐色土（層厚 13cm）、暗灰褐色土（層厚 10cm）、亜円礫混じりでやや灰色がかかった褐色土（層厚 18cm 以上、礫の最大径 106mm）が認められる。



第 218 図 SD03 覆土の土層柱状図

### 第 3 節 テフラ検出分析

#### (1) 分析試料と分析方法

調査対象となった 5 地点において、基本的に厚さ 5 cm おきに採取された試料のうちの 41 点を対象として、テフラ粒子の量や特徴を定性的に把握するテフラ検出分析を行って、指標テフラの検出・同定を実施した。分析の手順は次のとおりである。

- 1) 電子天秤を用いて試料 7 g を秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 恒温乾燥器により 80℃ で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で観察。

#### (2) 分析結果

テフラ検出分析によって、次の 5 種類の特徴的な軽石や火山ガラスを検出できた（第 80 表）。

タイプ a : とくに細かく発泡した白色の軽石やスポンジ状軽石型ガラス。

タイプ b : 無色透明のバブル型ガラス。

タイプ c : 淡灰色、淡褐色、無色透明の分厚い中間型ガラス。

タイプ d : スポンジ状に良く発泡した灰白色のスポンジ状軽石型ガラス。

タイプ e : 白色のスポンジ状軽石型ガラス。

第80表 テフラ分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス			鉱物
		量	色調	最大径	量	形態	色調	
SD01覆土断面	1				(*)	md	cl	opx, cpx, (am)
	3				(*)	pm(sp)	p-br, p-gr	opx, cpx, (am)
	5				*	pm(sp)	p-br, wh	opx, cpx, (am)
	7				(*)	pm(sp)	wh, p-gr	opx, cpx, (am)
SD02覆土断面	1				(*)	pm(sp, fb)	wh, cl	opx, cpx, (am)
	2				(*)	pm(sp)	wh	opx, cpx, (am)
	3							opx, cpx, (am)
	4				(*)	md, pm(sp)	cl, p-gr	opx, cpx, (am)
	5				(*)	pm(sp)	p-br	opx, cpx, (am)
	6							opx, cpx, (am)
	7				(*)	pm(sp)	p-br	opx, cpx, am
	9				(*)	pm(sp)	p-br	opx, cpx, am, (bi)
	11							opx, cpx, am, (bi)
	12				(*)	pm(sp), md	gr-wh, cl	opx, cpx, am
	13				(*)	pm(fb)	cl	opx, cpx, am
	14							opx, cpx, am
	15				(*)	pm(sp)	p-br	opx, cpx, (am, bi)
	16							opx, cpx, am
	17				*	pm(sp)	gr-wh, wh, p-gr	opx, cpx, am
	18				(*)	pm(sp)	p-gr, p-br	opx, cpx, am
19							opx, cpx, am	
20							opx, cpx, am	

\*\*\*\*: とくに多い, \*\*\*: 多い, \*\*: 中程度, \*: 少ない, (\*): 非常に少ない, bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型, sp: スポンジ状, fb: 繊維束状, wh: 白色, y-wh: 黄白色, p-br: 淡褐色, p-gr: 淡灰色, gr-wh: 灰白色, cl: 無色透明, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石, bi: 黒雲母, 鉱物: 不透明鉱物以外, 鉱物の(): 量が少ないことを示す。

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス			鉱物
		量	色調	最大径	量	形態	色調	
SD02壁面	1							am, opx
	2							opx, am, (bi)
	3							opx, am, (bi)
SD09覆土断面	1				(*)	pm(sp)	gr-wh	opx, cpx, am
	2				(*)	pm(sp)	gr-wh	opx, cpx, (am)
SD03覆土断面	1				(*)	md	cl	opx, cpx, am, (bi)
	2							opx, cpx, am, (bi)
	3				*	pm(sp)	wh, p-gr	opx, cpx, am
	4				*	pm(sp)	wh, p-gr	opx, cpx, am
	5							opx, am, cpx
	6				*	pm(sp)	wh, gr-wh, p-gr	opx, cpx, am
	8				*	pm(sp)	wh, gr-wh, p-br	opx, cpx, am, (bi)
	10				*	pm(sp), md	p-gr, p-br	opx, cpx, am
	12				*	pm(sp)	p-gr, p-br	opx, cpx, am
	14				(*)	pm(sp)	p-gr	opx, cpx, am, (bi)
	15				(*)	md, pm(sp)	p-gr, p-br	opx, cpx, am
16	(*)	wh	2.0mm	**	pm(sp)	y-wh, wh	opx, am, cpx	
17				*	pm(sp) > bw	wh, cl	opx, cpx, am, bi	
19				(*)	bw	cl	opx, cpx, am	

\*\*\*\*: とくに多い, \*\*\*: 多い, \*\*: 中程度, \*: 少ない, (\*): 非常に少ない, bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型, sp: スポンジ状, fb: 繊維束状, wh: 白色, y-wh: 黄白色, p-br: 淡褐色, p-gr: 淡灰色, gr-wh: 灰白色, cl: 無色透明, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石, bi: 黒雲母, 鉱物: 不透明鉱物以外, 鉱物の(): 量が少ないことを示す。

タイプ f：淡灰色や淡褐色のスポンジ状軽石型ガラス。

タイプ g：わずかに灰色がかった白色のスポンジ状や繊維束状の軽石型ガラスで、光沢をもつものも認められる。なお、第 80 表では色調を白色と示す。

なお、磁鉄鉱など不透明鉱物をのぞく重鉱物（以降、重鉱物）としては、ほとんどの試料で、斜方輝石、単斜輝角閃石が認められ、試料によっては雲母が認められる。次に分析地点ごとにテフラの検出状況を記載する。

#### 1) SD01 覆土断面

SD01 では、タイプ c、e、f、g の火山ガラスが認められた。とくに、最下位の試料では、タイプ e、f、g の 3 タイプが検出された。

#### 2) SD02 覆土断面

SD02 では、タイプ a、c、d、e、f、g の火山ガラスが認められた。試料 12 ではタイプ d、試料 2 および試料 1 ではタイプ g の火山ガラスがやや目立つ。

#### 3) SD03 壁面

SD03 の壁面の試料で火山ガラスは認められなかったもの。試料 3 には扁平で薄めの特徴的な形態をもつ斜方輝石が多く含まれている。試料 2 には角閃石や斜方輝石、試料 1 には角閃石や斜方輝石が多く含まれている。

#### 4) SI09 覆土断面

相伴する遺物から奈良平安時代の住居址と推定されている SI09 では、試料 2 および試料 1 からタイプ d の火山ガラスが検出された。

#### 5) SD03 覆土断面

SD03 ではタイプ a～g のいずれもが認められた。とくに試料 16 では、タイプ a の軽石（最大径 20mm）が検出された。ほかに、試料 8～6 でタイプ d、f、g、試料 4～3 でタイプ f が目立つ傾向にある。

## 第 4 節 屈折率測定

### (1) 測定試料と測定方法

テフラ検出分析では、細粒のテフラの確認が難しいため、同定精度を向上させるために、相対的にみて火山ガラスの含有度が高い SD03 覆土断面を対象に高精度の屈折率測定を行った。測定試料は、試料 10 と試料 4 の 2 試料である。また、測定方法は温度変化型屈折率測定法（壇原, 1993）で、

第81表 屈折率測定結果

表2 屈折率測定結果

地点・テフラ	火山ガラス		文献
	屈折率(n)	測定数	
太田城跡・SD03・試料4	1.513-1.522	31	本報告
	(1.513-1.518)	(26)	
	(1.520-1.522)	(5)	
太田城跡・SD03・試料10	1.512-1.526	33	本報告
	(1.512-1.513)	(2)	
	(1.518-1.520)	(24)	
	(1.523-1.526)	(7)	
北関東地方東部の代表的な後期更新世後半以降の指標テフラ(太字: 広域テフラ)			
浅間A(As-A, 1783年)	1.507-1.512	1)	
浅間粕川(As-Kk, 1108年)	未詳	2)	
浅間B(As-B, 1108年)	1.524-1.532	1)	
榛名二ツ岳伊香保(Hr-FP, 6世紀中葉)	1.501-1.504	1)	
榛名二ツ岳渋川(Hr-FA, 6世紀初頭)	1.500-1.502	1)	
	1.498-1.505	3)	
浅間C(As-C, 3世紀後半)	1.514-1.520	1)	
鬼界アカホヤ(K-Ah, 約7,300年前)	1.506-1.513	1)	
浅間総社(As-Sj, 約1.2万年前)	1.501-1.518	4)	
男体七本桜(Nt-S, 約1.4~1.5万年前)	1.500-1.503	1)	
男体今市(Nt-I, 約1.4~1.5万年前)	未詳	1)	
浅間板鼻黄色(As-YP, 約1.5~1.65万年前)	1.501-1.505	1)	
浅間大窪沢1(As-Ok1, 約2万年前)	1.500-1.502	1)	
浅間白糸(As-Sr)	1.506-1.510	1)	
男体片岡・小川(群)(Nt-Kt/Og)	未詳	1)	
浅間板鼻褐色(群) (As-BP Group, 約2.4~2.9万年前)	上部:	1.515-1.520	1)
	中部:	1.508-1.511	1)
	(MP):	1.498-1.527	5)
	下部:	1.505-1.515	1)
蛤良Tn(AT, 約3万年前)	1.499-1.500	1)	
赤城鹿沼(Ag-KP, 約4.5万年前以前)	1.504-1.508	1)	
榛名八崎(Hr-HP, 約5万年前)	1.505-1.508	1)	
大山倉吉(DKP, 約3万年前*)	1.508-1.514	1)	

1) 町田・新井(2011), 2) 早田(1996), 3) 早田(2014), 4) 早田(未公表), 5) 早田ほか(2016).  
 本報告・3)・4)・5) 温度変化型屈折率法(壇原, 1993), 1)・2) 温度一定型屈折率測定法(新井,  
 1972, 1993). \*: 放射性炭素(<sup>14</sup>C)年代.

分析節による篩別で得た 1/8-1/16mm 粒子のうちの火山ガラスを対象とした。

## (2) 測定結果

屈折率の測定結果を指標テフラの屈折率特性と合わせて第 81 表に、また測定値の内訳を第 82 表に示した。SD03 覆土断面の試料 10 に含まれる火山ガラス (33 粒子) の屈折率 (n) は、1.512-1.526 である。この値は trimodal 組成で、n : 1.512-1.513 (2 粒子)、n : 1.518-1.520 (24 粒子)、n : 1.523-1.526 (7 粒子) からなる。このほかに、n : > 1.527 の粒子もわずかに認められる。

また、SD03 覆土断面の試料 4 に含まれる火山ガラス (31 粒子) の屈折率 (n) は、1.513-1.522 である。この値は bimodal 組成で、n : 1.513-1.518 (26 粒子) と n : 1.520-1.522 (5 粒子) からなる。このほかに、n : > 1.527 の粒子もわずかに認められる。

第 82 表 SD03 屈折率測定値

試料 4	
火山ガラスの屈折率 (n)	粒子数
1.4960~1.4969	0
1.4970~1.4979	0
1.4980~1.4989	0
1.4990~1.4999	0
1.5000~1.5009	0
1.5010~1.5019	0
1.5020~1.5029	0
1.5030~1.5039	0
1.5040~1.5049	0
1.5050~1.5059	0
1.5060~1.5069	0
1.5070~1.5079	0
1.5080~1.5089	0
1.5090~1.5099	0
1.5100~1.5109	0
1.5110~1.5119	0
1.5120~1.5129	0
1.5130~1.5139	2
1.5140~1.5149	8
1.5150~1.5159	5
1.5160~1.5169	1
1.5170~1.5179	8
1.5180~1.5189	2
1.5190~1.5199	0
1.5200~1.5209	1
1.5210~1.5219	4
1.5220~1.5229	0
1.5230~1.5239	0
1.5240~1.5249	0
1.5250~1.5259	0
1.5260~1.5269	0
測定粒子の合計	31

測定：温度変化型屈折率測定法(増原, 1993)

試料 10	
火山ガラスの屈折率 (n)	粒子数
1.4960~1.4969	0
1.4970~1.4979	0
1.4980~1.4989	0
1.4990~1.4999	0
1.5000~1.5009	0
1.5010~1.5019	0
1.5020~1.5029	0
1.5030~1.5039	0
1.5040~1.5049	0
1.5050~1.5059	0
1.5060~1.5069	0
1.5070~1.5079	0
1.5080~1.5089	0
1.5090~1.5099	0
1.5100~1.5109	0
1.5110~1.5119	0
1.5120~1.5129	2
1.5130~1.5139	0
1.5140~1.5149	0
1.5150~1.5159	0
1.5160~1.5169	0
1.5170~1.5179	0
1.5180~1.5189	9
1.5190~1.5199	13
1.5200~1.5209	2
1.5210~1.5219	0
1.5220~1.5229	0
1.5230~1.5239	4
1.5240~1.5249	0
1.5250~1.5259	3
1.5260~1.5269	0
測定粒子の合計	33

測定：温度変化型屈折率測定法(増原, 1993)

## 第 5 節 考察

### (1) テフラ粒子の由来について

テフラ検出分析により検出されたテフラ粒子のうち、タイプ a の火山ガラスは、岩相から約 4.5 万年前以前に赤城火山から噴出した赤城鹿沼テフラ (Ag-KP, 新井, 1962, 荒牧, 1968, 町田・新井, 2011 など) に由来すると考えられる。この Ag-KP は、SD03 壁面において一次堆積層を認めることができた (試料 1)。層位関係やテフラの分布状況から、試料 2 が採取されたテフラ層は、赤城行川テフラ群 (Ag-Nm2・Ag-Nm1, 鈴木, 1990) の可能性が高い。また、試料 3 の細粒テフラ層は、層相や岩相から、約 5.5 万年前以前に中国地方の大山火山から噴出した広域テフラの大山倉吉軽石 (DKP, 町田・新井, 1979, 2011) と考えられる。

このような結果から、常陸太田市市街地中心部が広がる台地の形成は、DKP 降灰期を少し遡る時期である可能性が高いことがわかる。

タイプ b の火山ガラスは、岩相から約 2.8 ~ 3 万年前に南九州の始良カルデラから噴出した始良 Tn 火山灰 (AT, 町田・新井, 1976, 2011) と考えられる。また、タイプ c の火山ガラスは、岩相から、約 1.5 ~ 1.65 万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石 (As-YP, 新井, 1962, 町田・新井,

1992, 2003) で代表される浅間火山軽石流期のテフラに由来すると考えられる。

タイプdの火山ガラスは、岩相や屈折率特性から、3世紀後半に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 坂口, 2010)と考えられる。屈折率が測定できた火山ガラスの多くは、屈折率特性からAs-Cと考えられる。

タイプeの軽石や火山ガラスは、その岩相や重鉱物の組み合わせから、6世紀初頭の榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 2011など)、あるいは6世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 新井, 1962, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 2011など)に由来すると考えられる。さらに、タイプfの火山ガラスは、高い屈折率特性をもつものに対応する可能性が高く、岩相も合わせると、1108(天仁元)年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(As-B, 荒牧, 1968, 新井, 1979)と考えられる。

そして、最上位にあるタイプgの火山ガラスは、検出層位、岩相、屈折率特性などから、1783(天明3)年に浅間火山から噴出した浅間A軽石(As-A, 荒牧, 1968, 新井, 1979)と考えられる。

## (2) テフラの産状から推定される遺構の層位や年代

SD01 覆土断面では、分析対象とした覆土最下位の試料から、岩相上でAs-Aの可能性のある火山ガラスが検出された。したがって、この遺構の埋没はAs-A降灰後と考えられる。

SD02 覆土断面では、試料2や試料3で岩相上でAs-Aと考えられる火山ガラスが検出された。ただし、タイプaの火山ガラスはテフラ検出で認められなかったものの、後述するようにSD03覆土の中部にAs-Aの降灰層のある可能性があつて、SD02覆土断面でもAs-Aに似たタイプdの火山ガラスが認められる。そこで、ここでは、白色の軽石が検出された試料12付近にAs-Aの降灰層があると考えたい。なお、覆土最下部付近にあつてローム層ブロックの混入が少ない試料18や試料17からは、As-Bの火山ガラスが少量検出された。

奈良平安時代と推定されているSI09の覆土から検出されたタイプdの火山ガラスは、遺構の推定年代からも、As-Aではなく、As-Cであることを示唆している。

SD03 覆土断面では、試料10付近にAs-Aの降灰層があると推定される。また、最下部付近から採取された試料15からは、As-Bの火山ガラスがごく少量検出された。以上のことから、大規模な堀の遺構であるSD02とSD03がAs-B降灰後に造られたことや、これらの堀の覆土の中位付近にAs-Aの降灰層がありそうなのが判明した。重要な年代指標となるAs-Aの検出量が推定降灰層で少ないことや、As-Aによく似たAs-Cが土層中に多く含まれていることなどから、今後さらに高精度のテフラ分析を実施して、より明確な層位把握が実施されることを期待する。また、考古学的な研究成果を合わせたより詳細な検討も望まれる。

## 第6節 まとめ

太田城跡におけるテフラの調査分析の結果、下位より、大山倉吉テフラ(DKP, 約5.5万年前以前)、赤城行川テフラ群(Ag-Nm Group)、赤城鹿沼軽石(Ag-KP, 約4.5万年前以前)、始良Tn火山灰(AT,

約28～3万年前)、浅間板鼻黄色軽石 (As-YP, 約1.5～1.65万年前) など浅間火山軽石流期のテフラのような後期旧石器時代以前のテフラやテフラ層のほかに、北関東地方の古墳時代以降の考古学的編年研究に有効利用されている浅間C軽石 (As-C, 3世紀後半)、榛名ニツ岳渋川テフラ (Hr-FA, 6世紀初頭)、榛名ニツ岳伊香保テフラ (Hr-FP, 6世紀中葉)、浅間Bテフラ (As-B, 1108年)、そして浅間A軽石 (As-A, 1783年) などに由来するテフラ粒子を検出できた。

#### 引用・参考文献

- 新井房夫 1962「関東盆地北西部地域の第四紀編年」『群馬大学紀要自然科学編』10, p.1-79.  
 新井房夫 1972「斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフロクロロジーの基礎的研究」『第四紀研究』11, p.254-269.  
 新井房夫 1979「関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層」『考古学ジャーナル』no.53, p.41-52.  
 新井房夫 1993「温度一定型屈折率測定法」日本第四紀学会編『第四紀研究試料分析法2』p.136-149.  
 荒牧重雄 1968「浅間火山の地質」『地質研專報』no.14, p.1-45.  
 壇原 徹 1993「温度変化型屈折率測定法」日本第四紀学会編『第四紀試料分析法2—研究対象別分析』p.149-158.  
 古環境研究所 2007「栗島遺跡の土層とテフラ」国土交通省日立河川国道事務所(財)茨城県教育財団編『栗島遺跡』p.273-278.  
 町田 洋・新井房夫 1976「広域に分布する火山灰—始良 Tn 火山灰の発見とその意義—」『科学』46, p.339-347.  
 町田 洋・新井房夫 1979「大山倉吉軽石層—分布の広域性と第四紀編年上の意義」『地学雑誌』88-5, p.313-320.  
 町田 洋・新井房夫 2011「新編火山灰アトラス—日本列島とその周辺 (第2編)」東京大学出版会, p.336。  
 坂口 一 1986「榛名ニツ岳起源 FA・FP 層下の土師器と須恵器」群馬県教育委員会編『荒砥北原遺跡・今井 神社古墳群・荒砥青柳遺跡』, p.103-119.  
 坂口 一 2010「高崎市・中居町一丁目遺跡周辺集落の動向—中居町一丁目遺跡 H22 の水田耕作地と周辺集落 との関係—」群馬県埋蔵文化財調査事業団編『中居町一丁目遺跡3』p.17-22.  
 早田 勉 1989「6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害」『第四紀研究』27, p.297-312.  
 早田 勉 1996「関東地方—東北地方南部の示標テフラの諸特徴—とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて—」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書 7』, p.256-267.  
 早田 勉 2020「結城市城の内遺跡火山灰分析について」結城市教育委員会(有)毛野考古学研究所編『城の内遺跡Ⅱ』p.41-50.  
 鈴木敏彦 1990「テフロクロロジーからみた赤城火山最近20万年間の噴火史」『地学雑誌』99-2, p.60-75.



写真1 SD02 覆土断面・試料2 (落射光)  
わずかに灰色をおびた白色のスポンジ状  
軽石型ガラスがごく少量含まれている。  
背後は1mmメッシュ。

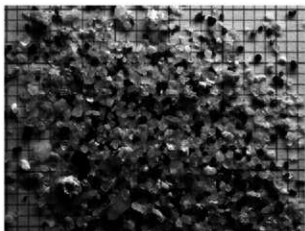


写真2 SD03 覆土断面・試料3 (落射光)  
わずかに灰色をおびた白色や灰白色のス  
ポンジ状軽石型ガラスが少量含まれてい  
る。背後は1mmメッシュ。

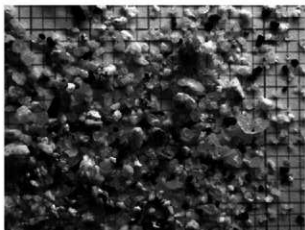


写真3 SD03 覆土断面・試料8 (落射光)  
わずかに灰色をおびた白色、灰白色、淡  
褐色のスポンジ状軽石型ガラスが少量含  
まれている。背後は1mmメッシュ。



## 第6章 総括

### 第1節 地形・地質・立地・火山灰分析

#### (1) 地形・地質・立地

太田城跡の立地する地形は、久慈川支流の源氏川と谷津川にはさまれた中位砂礫段丘群の台地上平坦面に位置する。調査区内の地形は、ほぼ平坦であるが近世の土地利用により大きく地形は改変されており旧地形の様相として捉えることはできない。しかし、調査区で確認された基本層序の堆積状況では、東から西へ緩い下り勾配がある。

遺跡の地形は、標高約38mの台地平坦面の西よりであるが、縄文時代から奈良平安時代まで、特に古墳時代後期から飛鳥時代頃の堅穴建物跡と遺物が多く出土しており、古墳時代以降に太田城跡の所在する台地上に継続的に多く人々が移住し、土地利用が開始されたことが今回の調査で確認された。この点は、周辺の古墳時代の遺跡分布の傾向とも一致している。しかし、本来、生活に不可欠な水を得るには太田城跡の地形は高位であり、井戸を掘っても水位が恒常的に高く安定している、あるいは帯水層が上位にあると考えることはできない。他の生活上の理由から、例えば、経済的な土地利用の拡大、古墳造営、勢力基盤の拡大などにより、太田城跡の台地上に占地した可能性があろう。

太田城の機能した当時の生活面に関しては、近代の日本たばこ産業の操業時代に著しい土地利用と改変により変更を受けており、厳密に今回の検出された遺構確認面を生活面として評価することは慎重に成らざるを得ない。この点は、今後の調査において検討される必要があろう。

#### (2) 火山灰分析

今回の調査で検出された、考古学的編年研究で有効な指標となる広域火山灰と地域火山灰は、古期から大山倉吉火山灰（DKP、約55万年前以前降灰）、赤城行川火山灰群（Ag-Nm Group）、赤城鹿沼軽石（Ag-KP、約45万年前以前降灰）、始良Tn火山灰（AT、約28～3万年前降灰）、浅間板鼻黄色軽石（As-YP、約1.5～1.65万年前降灰）など、後期旧石器時代までの火山灰、さらに歴史時代以降の浅間C火山灰（As-C、3世紀後半降灰）、榛名ニッ岳渋川火山灰（Hr-FA、6世紀初頭）、榛名ニッ岳伊香保火山灰（HA-FP、6世紀中葉）、浅間B火山灰（As-B、1,108年降灰）、浅間A軽石（As-A、1,783年降灰）などである。

先に実施された常陸太田市の長者屋敷遺跡（諸星・宅間・山口2018）において初めて市域の火山灰分析が実施されたが、その結果と比較すると、大山倉吉火山灰、赤城行川火山灰群、浅間C軽石、浅間A軽石などの火山灰がローム層中から、あるいは遺構覆土中から新たに確認された。以上の成果から、当該地域において確認可能な指標火山灰が増加したことになり、遺跡、遺構、遺物の相対的編年研究のスケールの精度が向上し、より細かい遺跡、遺構、遺物の相対的な年代関係の検討が可能となった点は、本調査の大きな成果の一つである。

## 第2節 各時代の概要

### (1) 後期旧石器時代

常陸太田市では、現在明確に後期旧石器時代の遺跡が層位的に確認されていないが、堅穴建物跡の覆土内から、頁岩製の剥片（SI46・89）が2点、流紋岩製の剥片（SI10）が1点確認されている。これらは、使用石材、風化の度合いと石器の形態から後期旧石器時代に属する可能性があることを指摘しておきたい。

### (2) 縄文時代

縄文時代は、堅穴建物跡1軒検出されたが、後世の土地利用により攪乱を受けており、良好な状態では検出されていない。堅穴建物跡は前期に属すると思われる。縄文土器は前期の繊維土器、興津式土器などが遺構の包含層から検出されている。

石器は、石鏃、斧形石器、微細剥離された剥片、剥片、両極剥離石器、石核、台石、凹石、敲石などが検出されている。

### (3) 弥生時代

弥生時代は、堅穴建物跡2軒が検出され、いずれも後期の十王台式土器が検出されている。18号堅穴建物跡からは、地床炉を伴い、多くの土器片、土製紡錘車や礫製石器などが検出された。過少ではあるが、弥生時代にも太田城の土地利用の痕跡が確認された。

### (4) 古墳時代

古墳時代は、67軒の堅穴建物跡が検出され中期から後期に継続的に占地されている。帰属時期が確実な住居の構成は、前期が6軒、中期が9軒、後期が39軒であり、後期に継続的な土地利用の体制が整ったものと推定される。前期の堅穴建物跡では、SI73は単口縁のハケ目調整の甕、壺、埴などが埴跡範囲から集中して出土している。中期の堅穴建物跡では、SI28から有段口縁平底の甕、単口縁の甕が出土し、SI29から赤彩された埴が出土し、SI87から赤彩の壺、単口縁の甕、台付甕、高坏などが出土している。後期の堅穴建物跡では、SI15で坏身模倣坏が纏まって出土し、SI88で単口縁、常陸型の甕、坏蓋模倣坏、鉢、甌の把手などが出土している。

### (5) 奈良・平安時代

奈良時代は、8号堅穴建物跡1軒が検出され過少である。平安時代は、堅穴建物跡8軒と炭化した穀物が検出された焼土遺構1基などが検出されているが、古墳時代より著しく土地利用の痕跡が減少している。また、太田城が構築されたとされる12世紀末頃の遺構が確認されていない点は、後世の土地改良によるものか、あるいは土地利用の度合いが低かったのか、今回の調査では判断することはできないので、今後の調査において検討される必要がある。

## (6) 中世以降

太田城が機能した時代の遺構は、堀跡4条であるが、これらは東西を横断する同一の堀跡の可能性があるので、2条の堀跡が調査区北側と中央で確認された可能性がある。調査地点は、城の縄張りでは搦手に位置すると推定され、2号堀跡は第一次試掘調査において北側の北郭と南側の三郭を区画するための堀であると推定されている(菊池・西野 2010)。今回の調査において、2号堀跡は、東側の1号堀跡に接続する可能性があり、やはり城の空間を区画するための機能を持っていた可能性がある。1号堀跡と2号堀跡は、接続に際して平面形状が直線系なのか、屈曲するのかわかりませんが不明であり、今後の調査でその配置と形状を確認する必要がある。

3号堀跡は、第一次試掘調査の結果と一致しており、南側の本郭を区画する堀であると推定されている(菊池・西野 2010)。しかし、東側において4号堀跡が検出されたことから、調査区中央で3号堀跡が南に屈曲するのみでなく、東に横走する可能性も考えられる。現状において、3号堀跡と4号堀跡は絵図においてその存在が確認されないため、北側の堀跡とは時期を違えて機能し、何らかの理由により埋め戻され機能が停止した可能性も考えられる。いずれにしても、今後の調査でその配置と形状を確認する必要がある。

底面が検出された2・3号堀跡の規模と形状を比較すると、双方ともに築堀跡であるが、規模は2号堀跡の方が大きく、深い。また、底面は2号堀跡の方が狭い。これら二つの堀跡の形成年代が同一のものかどうかを、今後検討する必要がある。

各堀跡と火山灰分析の結果を対照すると、1号堀跡の最下層の1b層の試料から浅間A軽石(As-A)が検出されたことから、堀跡の埋没は18世紀末以降と推定される。

2号堀跡は、4から6b層の試料から浅間A軽石(As-A)が検出されたことから、この層が浅間A軽石(As-A)の降灰の時期であると推定されている。また、最下層の試料からは、浅間B火山灰(As-B)が検出されているが、一次堆積層ではないことから堀跡が12世紀以降に形成された可能性がある。

3号堀跡は、10a層付近で浅間A軽石(As-A)の降灰層が推定され、最下層の13b層付近で浅間B火山灰(As-B)が検出されたことから、この遺構が1108年以降に構築された可能性が指摘されている。

これらの火山灰分析の結果と堆積層、文献による史実を対照させると、若干の点が指摘できる。2号堀跡の1a層～6a層までの堆積層には炭化物や焼土が含まれている。6b層付近が1783年の浅間A軽石(As-A)の降灰層であると推定されている。さらに、3号堀跡の2～10d層において炭化物が含有されており、10a層付近が浅間A軽石(As-A)の降灰層と推定されている。こうした堆積層の含有物は何に由来するであろうか。浅間A軽石(As-A)の降灰以降の太田城の出来事として、1804年(文化元年)に火災により屋敷が消失したとされている。また、火山灰分析は実施しなかったが、4号堀跡の1層からは炭化物を多量に含むことが確認されている。

以上の各堀跡覆土の火山灰分析の結果と堆積層の検討から、太田城では浅間A軽石(As-A)の降灰以降に火災が生じていた可能性が推定される。この点を考慮すると、2・3号堀跡の覆土が、自然堆積層よりも火災後の人為的な埋め戻しによるものが主体である蓋然性が高いことが推定される。

### 第3節 遺物の概要

#### (1) 古銭

検出面で検出された古銭は全て渡来銭であるが、古い順に開元通寶（初鑄621年・唐）1枚、皇宋通寶（篆書・初鑄1038年・北宋）1枚、元豐通寶（篆書・行書・初鑄1078年・北宋）4枚、宣和通寶（隸書・初鑄1119年・北宋）1枚、紹定通寶（初鑄1228年・南宋）1枚、永樂通寶（初鑄1408年・明）4枚である。また、遺構出土の古銭として、2号堀跡から正和通寶（初鑄1111年・北宋）が検出されている。これらの古銭は、佐竹氏が太田城に居城した時代に使用されていたものと推定される。

#### (2) 石製品

2号堀跡の6d層から砂岩製の宝篋印塔傘部が検出された。この宝篋印塔は現時点で類例が確認されていないが、関東の宝篋印塔の型式において、加工が退化していること、砂岩を使用するなどの特徴から、年代的に室町時代中期（14～15世紀）ごろに比定される可能性がある（齋木1986）。この宝篋印塔は、2号堀跡出土の政和通寶出土の9c層よりも相対的に出土層位が新しく、推定年代に矛盾がない可能性がある。また、火山灰分析の結果を考慮すると、この遺物は浅間A軽石(As-A)の降灰層準より下位の覆土から出土しており、相対的な年代とも矛盾がない。

#### (3) 土器

太田城に直接関連する遺物は、かわらけと内耳鍋であるが、これらの製作年代は2号堀跡出土の6c層出土のかわらけが16世紀中頃～17世紀前半の年代であるが、6b層付近の浅間A軽石(As-A)の降灰層準を考慮すると、相対的な編年関係に矛盾がない。

3号堀跡出土の内耳鍋は15世紀後半の時期である。最下層の15層出土の高台付皿の破片は9世紀第四四半期頃に位置づけられるが、13b層の浅間B火山灰(As-B)が検出されているが相対的な年代関係は矛盾がない。これらの遺物に関して、佐竹氏にまつわる出来事としては、当主佐竹義盛の死後の相続問題に端を発した家臣山入氏との抗争である「山入一揆」による太田城を舞台とした戦闘、1590年の水戸城への転居、秋田への国替えの時期などであり、佐竹氏の権力の縮小、太田城の機能が衰退する時期に帰属する遺物である。

また、堀跡の形状と出土遺物を考慮すると、上記のとおり堀跡の形成年代が異なる可能性も考慮されよう。

今回の発掘調査により、縄文時代から平安時代までの連続と続く集落跡が多くの遺物や遺構と共に確認されたこと、太田城に関わる堀跡と遺物が検出された点は、常陸太田市の地域史を解明するうえで非常に重要な発見であると考えられる。

## Summary

Ota-jo castle is located in the western part of downtown Hitachiota city, N36° 32' 48" , E140° 31' 16" . It is situated on the middle sandy gravel terraces, at the left side of the Genji-gawa river in Hitachiota city, Ibaraki Prefecture. The extent of remains covers large area of Baba-cho, Sakae-cho, Nakajo-cho, Uchibori-cho about 0.4 kilometers long in east-west orientation and 1.0 kilometers long in south-north orientation.

It is said that Ota-jo castle is built by Michinobu FUJIWARA of FUJIWARA no Hidesato line, at the end of the Heian period in 1109. In 1131, the third-generation successor of the Satake family, Takayoshi SATAKE moved to this castle from the Masaka-jo castle and it became the castle of the SATAKE family. After that, the SATAKE family yielded the castle to the enemy something temporarily, in 1180 and 1407 and so on. In 1590, the twentieth-generation successor of the Satake family, Yoshinobu SATAKE moved to Mito from this castle. After that it became the castle of his father and called "Kita-jiro" .

At this castle, there were two times prospecting survey concerned about the project business in the area of buried cultural properties. First prospecting excavation and second Prospecting excavation was conducted by Hitachiota city board of education in 2007 and 2017.

At first prospecting excavation, the surveyors said that two moats were found from the northern part and the central part to the southern part in the investigation area and those were moats inside Ota-jo castle. The surveyors presume that the northern part of it is a moat for dividing between two areas, the northern section and the third section, of this castle.

At second prospecting excavation, the surveyors said that at the northwest part of the investigation area, two moats were found and one of which coincides with the moat which found at the northern part of the investigation area first prospecting excavation.

And many remains which belong Kofun period to Heian period were found in the investigation area.

This first excavation was conducted by a contractor or surveyor: a private company, Tokyo air and survey in Saitama prefecture and Hitachiota city board of education performed appreciate direction, coaching, and supervision to them in June to September 2019.

In this excavation, we were found each of settlement remains, 90 house pits, 4 moats, a ditch, 3 wells, 23 pits, a hearth on the pit, a pit line, two remains having unclear functions, 54 pillar holes which were placed during Jomon period, Yayoi period, and Nara period to Heian period and Medieval period.

In medieval period, 4 moats were found in the northern part and in the central part of the excavation area.

In the northern part, a pair of moats was found which runs from the east to the west. It becomes the part of a moat which found first prospecting excavation, which divides between

two areas, the northern section and the third section, of this castle. Unearthed relics were Haji potteries: Kawarakes from the early-17th century, a Hokyoin-to pagoda and a coin: Seiwa Tsuho from the year 1111 A.D. to 1117 A.D.

In the southern part, a pair of moats was found which runs from the east to the west. It becomes the part of a moat which found first prospecting excavation, and divides between two areas, the third section and the castle. Unearthed relics were Haji potteries: a Najji doki from the latter half of the 15th century, a flat plate with high stand from the 4th quarter of 9th century.

Up to now, 13 coins were found in the investigation area from 7th to 15th century.

Based on this excavation, we suggested that two of moats is concerned with Ota-jo castle in the medieval period. Most of unearthed relics were from 12th to the early 17th century. It was the time from its time of foundation of the castle to after the moving to Mito by Yoshinobu SATAKE.

From the above, it can be pointed out that this excavation area was as a part of Ota-jo castle and might be possible that the tradition of its time of foundation of the castle by Michinobu FUJIWARA in 1109 is correct.

Translated by Ryoichi MOROHOSHI: Tokyo Air and Survey Co., Ltd. Department of Cultural Properties

## 引用・参考文献

- 茨城県農地局農地計画課 1995 『土地分類基本調査 日立』
- 茨城県城郭研究会 2006 『図説 茨城の城郭』 国書刊行会
- 梅原 郁 2011 『中世渡来銭の謎』 『古文化研究』 10, 1～76 頁
- 奥沢哲也 2016 『瑞龍古墳群』 茨城県教育財団文化財調査報告第 415 集、公益財団法人茨城県教育財団
- 川村満博 2003a 『茨城県内出土の非ロクロ成形かわらけ編年案』 『領域の考古学』、阿久津久先生還暦記念事業実行委員会、347～358 頁
- 川村満博 2003b 『茨城県南部を中心に見た 12 世紀後半～15 世紀のロクロ成形かわらけについて』 『研究ノート』 12 号、財団法人茨城県教育財団埋蔵文化財部、85～96 頁
- 川村満博 2007 『中世初期から中期の常陸の国かわらけについて』 『菟玖波』、川井・齋藤・佐藤先生還暦記念事業実行委員会、229～238 頁
- 菊池社一・西野保 2010 『常陸太田市内遺跡調査報告書 第 2 集』、常陸太田市教育委員会
- 熊河和彦・新井 聡 1992 『常陸那珂港関係埋蔵文化財調査報告書 2』 茨城県教育財団文化財調査報告第 77 集、財団法人茨城県教育財団
- 越田真太郎 2007 『県内の在土土器』 『茨城中世考古学の最新観』 第 1 分冊、茨城県考古学協会、44～56 頁
- 齋木 勝 1986 『関東型寶篋印塔の研究』 『千葉県文化財センター研究紀要』 10、財団法人千葉県文化財センター、355～404 頁
- 櫻木晋一 2016 『貨幣考古学の世界』 ニューサイエンス社
- 鈴木公雄 1992 『出土備蓄銭と中世後期の銭貨流通』 『史学』 Vol.61, No.3/4, 1～56 頁
- 鈴木康司・大森昌衛 1953 『阿武隈山地の西南縁に分布する新生界の地史学的研究 その 2』 『地質学雑誌』 第 59 巻第 689 号、35～46 頁
- 田口勝子 2007 『県央・県北のかわらけ』 『茨城中世考古学の最新観』 第 1 分冊、茨城県考古学協会、13～22 頁
- 田村雅樹 2017 『茨城県北部における土師瓦皿』 『研究ノート』 第 14 号、公益財団法人茨城県教育財団、115～122 頁
- 千葉隆司 2008 『鏡子石の石塔文化』 『筑波学院大学紀要』 3, 159～168 頁
- 富山章一 2015 『奥七郡から出発』 茨城新聞社
- 中根節男 1989 『常陸那珂港関係埋蔵文化財調査報告書 1』 茨城県教育財団文化財調査報告第 52 集、財団法人茨城県教育財団
- 芳賀友博・寺内久永 2005 『村松白根遺跡 1』 茨城県教育財団文化財調査報告第 250 集、財団法人茨城県教育財団
- 蜂須紀夫編 1977 『茨城県 地学のガイド』 コロナ社
- 常陸太田市 1999 『常陸太田市の歴史散歩』 再販
- 常陸太田市史編さん委員会 1984 『常陸太田市史 通史編 上』
- 諸星良一・宅間清公・山口恵一 2018 『長者屋敷遺跡 第 8 次』、常陸太田市教育委員会





# 写 真 图 版





調査区全景（上空から）



調査区（南上空から）

図版 2



SI01-02 完掘（北東より）



SI01 遺物出土状況（北東より）



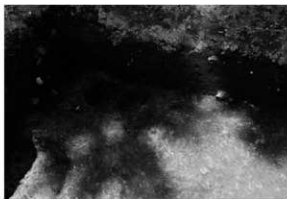
SI01 完掘（北東より）



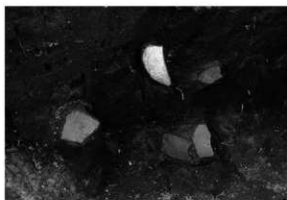
SI02 完掘（南西より）



SI03-05 遺物出土状況（東より）



SI03 遺物出土状況（東より）



SI03 遺物出土状況（東より）



SI04 完掘（南より）



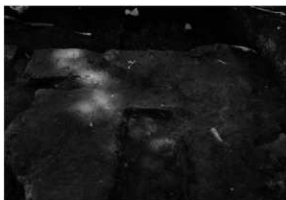
SI05 遺物出土状況（南より）



SI06 遺物出土状況（南より）



SI06 遺物出土状況（南より）



SI07 完掘（南より）



SI08 断面・P9 断面（南より）



SI09 377 遺物出土状況（南より）



SI09 377 遺物出土状況（南より）

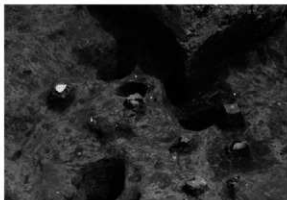


SI09 遺物出土状況（南より）

図版 4



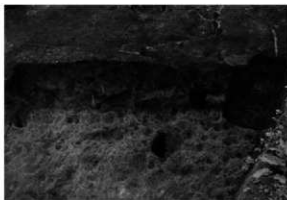
SI10 竪穴 完掘 (南南東より)



SI11 遺物出土状況 (南西より)



SI11 遺物出土状況 (南西より)



SI12 遺物出土状況 (北東より)



SI14・SK07 断面 (南より)



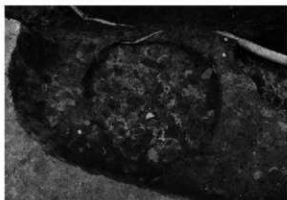
SI15・PIT01 遺物出土状況 (東より)



SI15 遺物出土状況 (北東より)



SI16 完掘 (南東より)



SI17-SK01 完掘（南より）



SI18 遺物出土状況（南東より）



SI18 遺物出土状況（南南東より）



SI18 遺物出土状況（北西より）



SI19 カマド竪方完掘（南より）



SI20 完掘（南より）



SI21 遺物出土状況（北東より）



SI22 遺物出土状況（南より）

図版 6



SI23 遺物出土状況 (南より)



SI24・25 断面A (東より)



SI24 遺物出土状況 (南南東より)



SI26 完掘 (南より)



SI27・遺物出土状況 (南より)



SI28 遺物出土状況 (西より)



SI29 完掘 (南より)



SI30 遺物出土状況 (西より)





SI31 完掘（南より）



SI32 断面A(西より)



SI33 遺物出土状況（南より）



SI35 完掘（南より）



SI36 カマド遺物出土状況（南より）



SI37 完掘（南より）

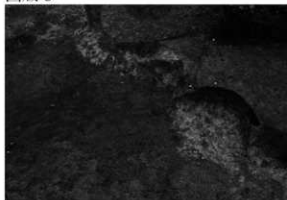


SI38 断面A(西より)



SI39・43 断面A(東より)

図版 8



SI40 遺構検出（南より）



SI41 遺物出土状況（北より）



SI42 完掘（東より）



SI44 焼土検出状況（東より）



SI45 完掘（南より）



SI46 遺物出土状況（西より）



SI47 完掘（東より）



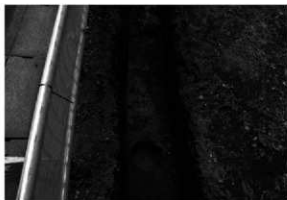
SI48 完掘（西より）



SI49 完掘（東より）



SI50 遺物出土状況（北より）



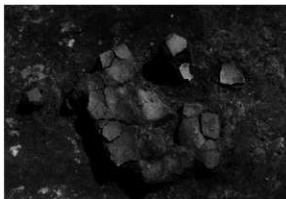
SI51 完掘（北より）



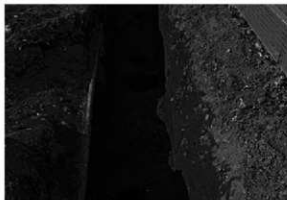
SI52 完掘（北より）



SI53 完掘（北より）



SI54 遺物出土状況(2)（南より）



SI54 完掘（南より）



SI55 完掘（南より）

図版 10



SI56 完堀（南より）



SI57 完堀（南より）



SI58 完堀（北より）



SI59 完堀（東より）



SI60 遺物出土状況（東より）



SI61・62・63 断面（東より）



SI64 完掘（西より）



SI65 完掘（西より）



SI66 断面 A(北より)



SI67 断面(西より)



SI69 断面 B(北より)



SI70 遺物出土状況(南より)



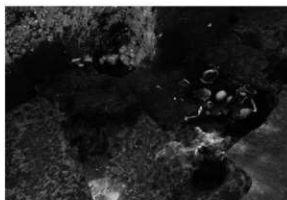
SI70 完掘(東より)



SI71 遺物出土状況・SE04 完掘(西より)



SI72 完掘(北東より)



SI73-SL01 遺物出土状況(南東より)

図版 12



SI73 遺物出土状況（南東より）



SI74 完掘（東より）



SI75・84 完掘（西より）



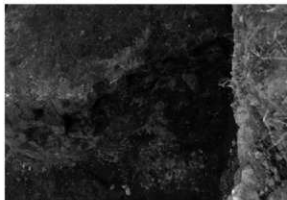
SI76 完掘（南より）



SI77 完掘（西より）



SI78 完掘（南より）



SI79 完掘（南より）



SI80 遺物出土状況（南より）



SI81 検出 (西より)



SI85 完掘 (東より)



SI86 完掘 (東より)



SI87 断面 A (西より)



SI88 検出 (南より)



SI89 検出 (南より)



SI90 検出 (南より)



SD02 遺構検出 (東より)

図版 14



SD02 遺物検出状況（東より）



SD03 断面（東より）



SD03 断面（東より）



SD04 完掘（各方位より）



SD05 完掘（南西より）



SE02 完掘（西より）



SK09 遺物検出（南西より）



SK10 遺物検出（南より）





1

SI01



2

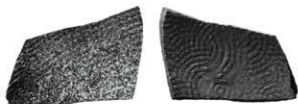


3



1

SI02



1



2



3

SI03



1

SI04



2



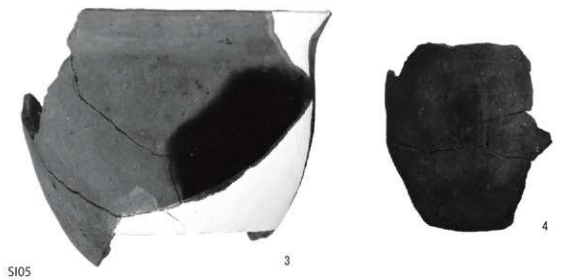
1

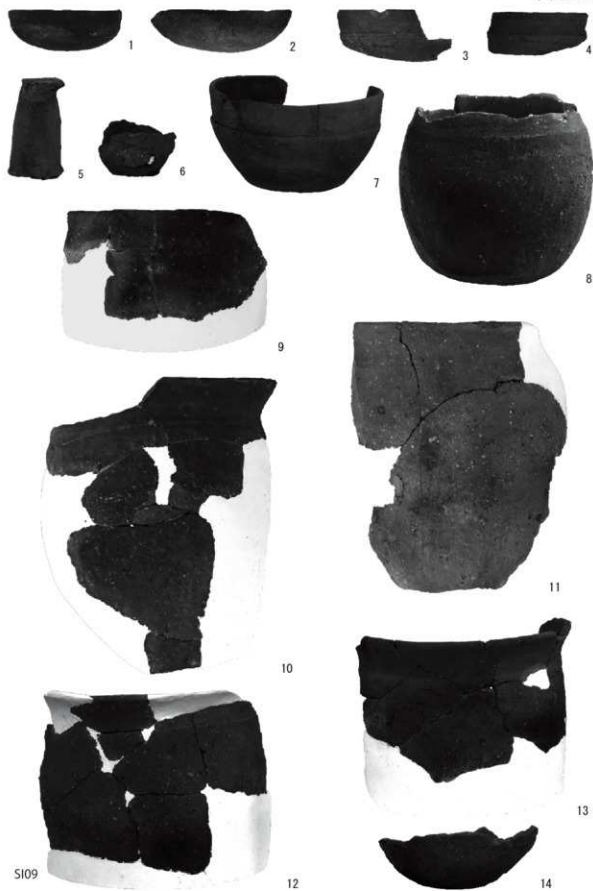
SI05

遺物図版(1)



2





SI09

图版 18



S110



S111

遺物図版(4)

SI12



1



2

SI14



1



2



1



2



3



4



5



6



7

SI15



1



2



3



4

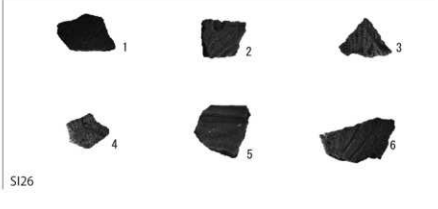
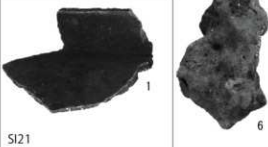
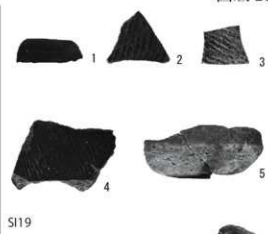
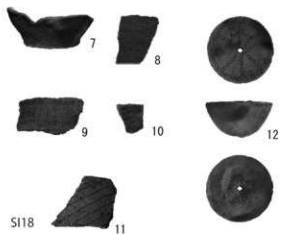
SI16

遺物図版 (5)



S118

遺物図版(6)









SI29



SI31

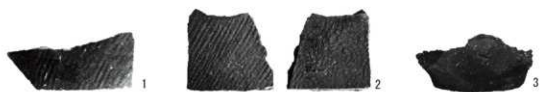


SI33



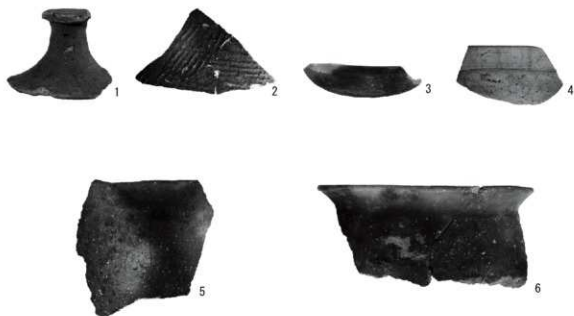
SI36  
遺物図版(9)

図版 24



SI38

---



SI39

---

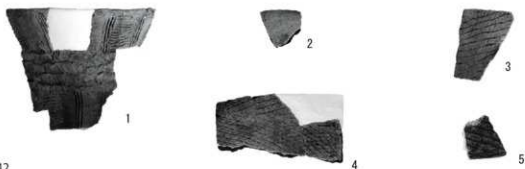


SI41

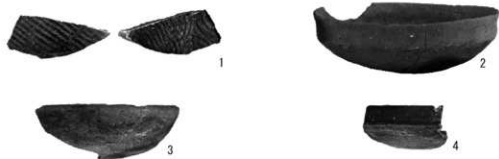
遺物図版 (10)



図版 26



SI42



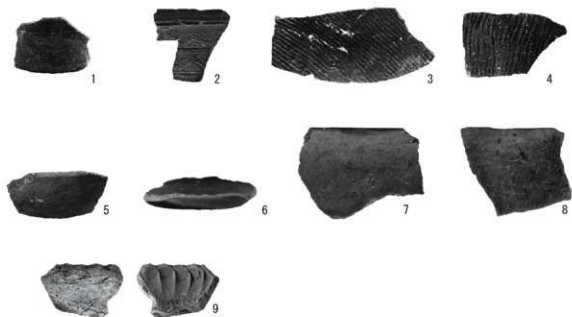
SI43



SI44



SI45



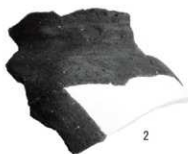
SI46

遺物図版 (12)



S147

---



S148

---



S150  
遺物図版 (13)

図版 28



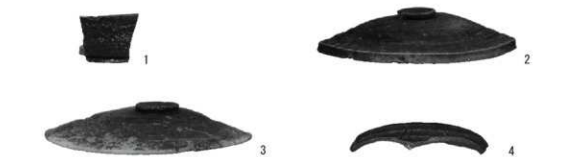
SI52



SI53

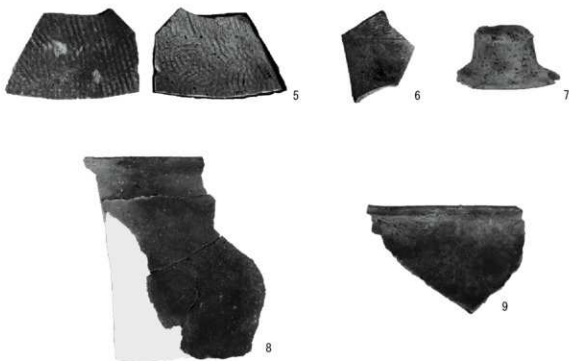


SI54  
遺物図版 (14)



SI60  
 遺物図版 (15)

図版 30



SI60



SI61



SI64



SI67

遺物図版 (16)





SI68



SI70



SI71  
遺物図版 (17)



SI72

図版 32



S173

遺物図版 (18)



SI73



SI76



2



SI77



SI78



1



2



3



4

SI80



1

SI81



2



1

SI84



1



2



3



4



5

SI87

遗物图版 (19)

图版 34

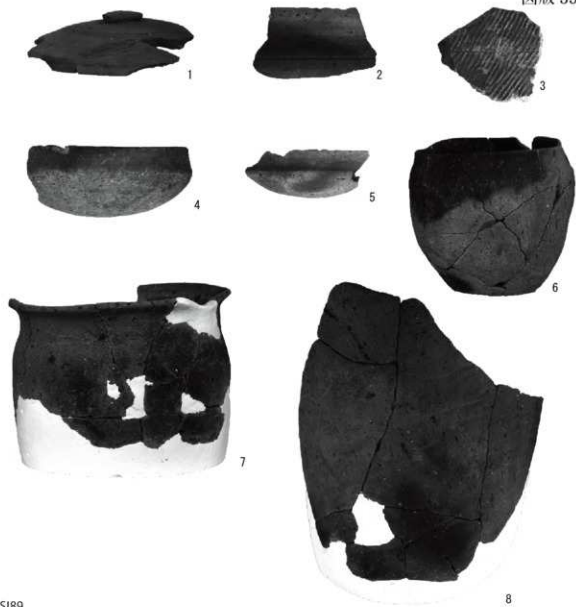


S187

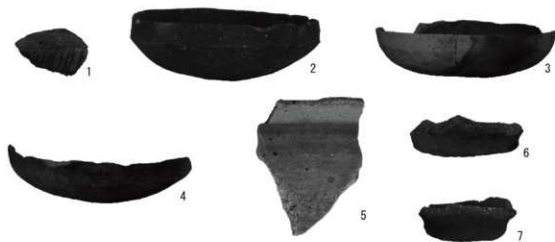


S188

遺物図版 (20)

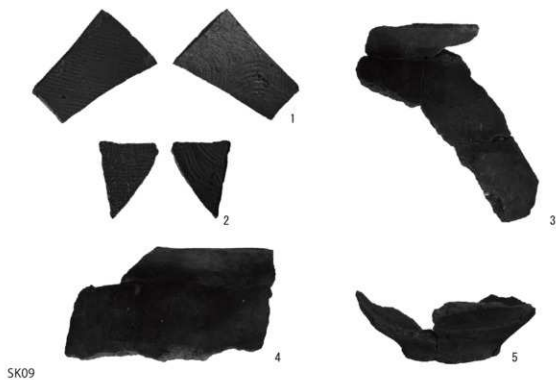
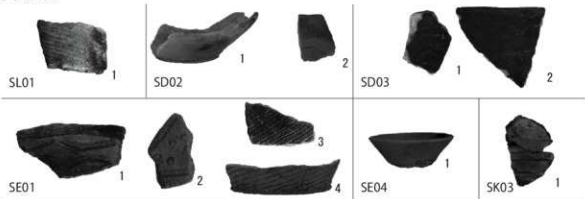


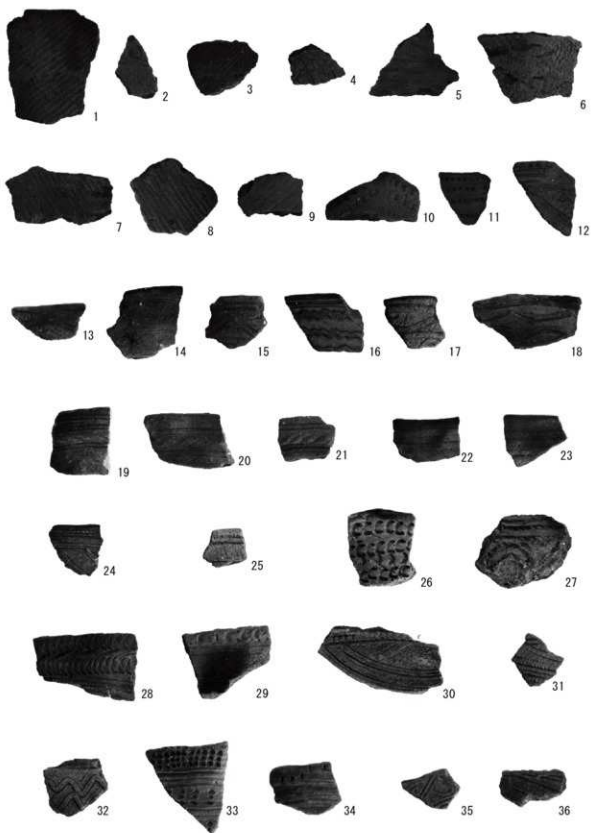
S189



S190  
遺物図版(21)

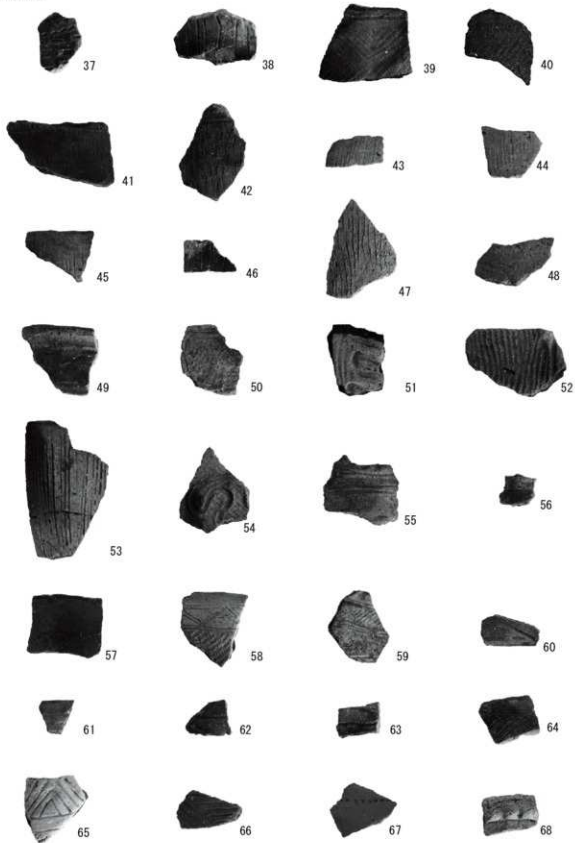
図版 36





遺構外  
遺物図版 (23)

図版 38







69



70



71



72



73



74



75



76



77



78



79



80



81



82



83



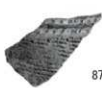
84



85



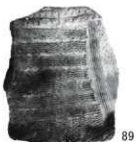
86



87



88



89



90



91



92



93



94



95



96



97



98



99



100



101



102



103

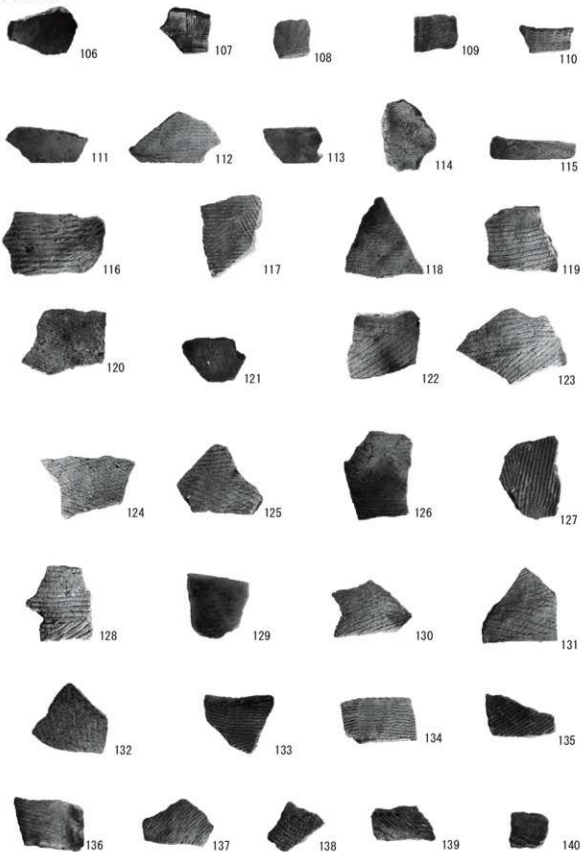


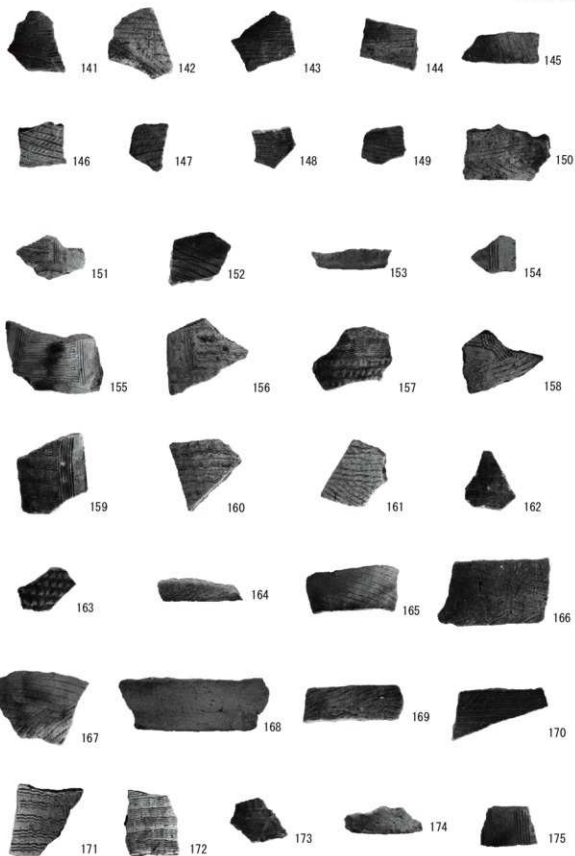
104



105

図版 40

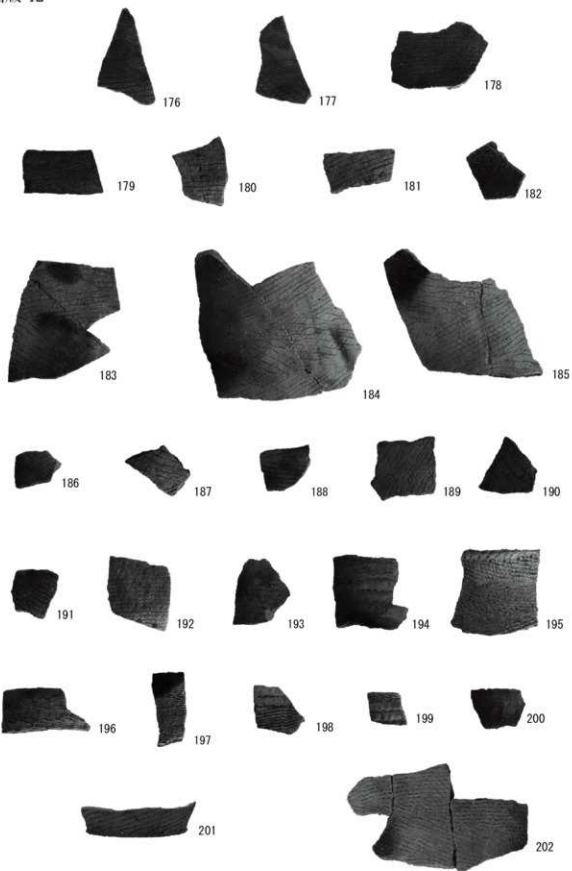




遺構外

遺物図版 (27)

図版 42





図版 44



SI03



3



4



5

SI04



6



7

SI10



8



9



10

SI11  
遺物図版 (30)

S115



8



6



5



7



8

S116



13



15



14



16

S118



4



5

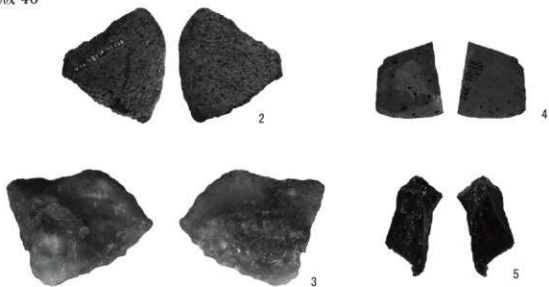


6

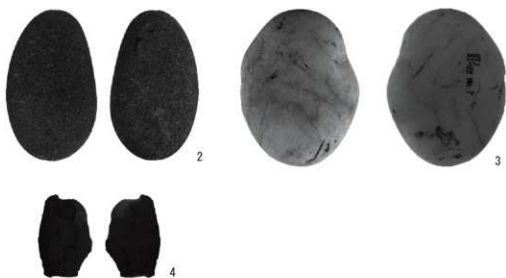
S120

遺物図版 (31)

図版 46



SI21



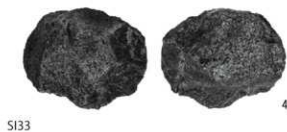
SI22



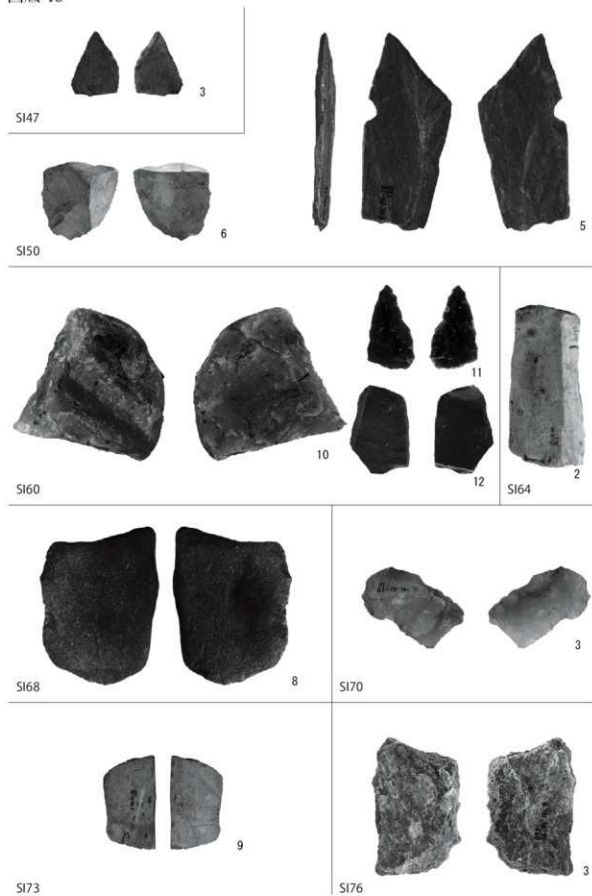
SI24

遺物図版 (32)





図版 48





2

S178

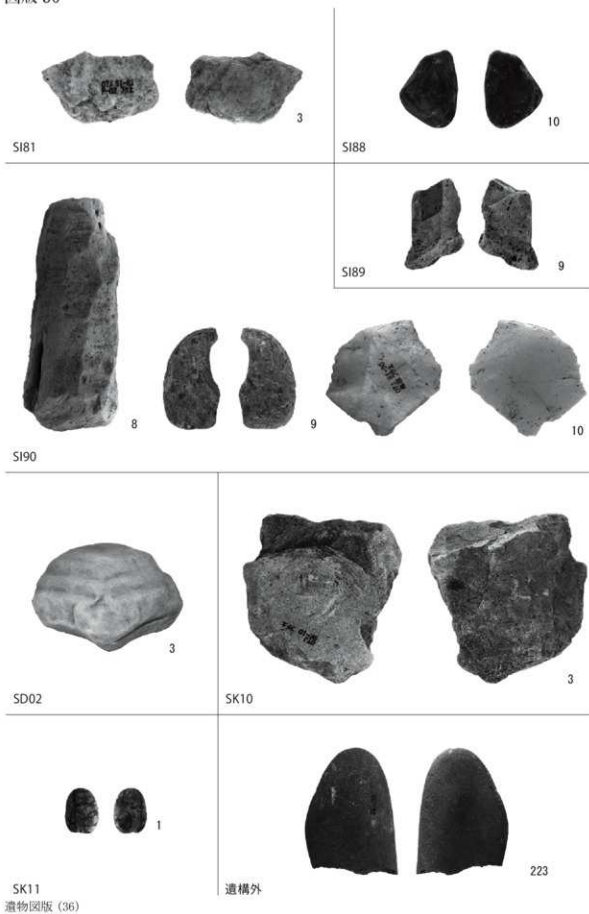
---



5

S180  
遺物図版 (35)

図版 50





SD02

4



210



211



212



213



214



215



216



217



218



219



220



221



222

遺構外

報告書抄録

ふりがな	おおたじょうあと		
書名	太田城跡		
副書名	市道3175・3181・3182・3184号線（JT跡地外周）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書		
巻次			
シリーズ名	常陸太田市内埋蔵文化財調査報告書		
シリーズ番号	第15集		
編著者名	山口 憲一・諸星 良一		
編集機関	株式会社 東京航業研究所		
所在地	〒350-0855 埼玉県川越市大字伊佐沼28番1 TEL049-229-5771		
発行機関	常陸太田市教育委員会		
所在地	〒313-0055 茨城県常陸太田市西二町2200 TEL0294-72-3201		
発行年月日	西暦2021年（令和3年）3月23日		

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'"	東経 °'"	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおたじょうあと 太田城跡	ひたちのおおたし 常陸太田市栄町 102番地1	212	129	36° 32' 47"	140° 31' 17"	20190610 ～ 20190930	1539.59㎡	道路改良 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
太田城跡	集落跡	・弥生 ・古墳 ・古代 ・中世	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竪穴建物跡 85</li> <li>・堀跡 4</li> <li>・溝跡 1</li> <li>・井戸 4</li> <li>・櫓列 1</li> <li>・焼土遺構 1</li> <li>・土坑 24</li> <li>・性格不明遺構 1</li> <li>・ピット 53</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>縄文土器、石器、</li> <li>弥生土器、土師器、</li> <li>須恵器、土師質土</li> <li>器、陶磁器、鉄製</li> <li>品、銭貨、土製品、</li> <li>石製品、礫、礫片</li> </ul>	・縄文時代から奈良、 平安時代の集落を調 査した。竪穴建物跡 の帰属時期は、古墳 時代前期～後期を主 体とし、他は縄文・ 弥生・奈良・平安時 代に帰属する。

要約	<p>・太田城跡は、久慈川支流の源氏川と谷津川にはさまれた台地上平坦面に位置する中世の遺跡である。今回の調査では縄文時代から平安時代までの連続と続く集落跡が多く、多くの遺物や遺構と共に確認された。また、太田城に関わる堀跡と遺物が検出された。</p>
----	--

常陸太田市内遺跡調査報告書

## 太田城跡

市道3175・3181・3182・3184号線（JT跡地外周）

道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第15集

発行年月日 2021（令和3）年3月23日

編集 株式会社東京航業研究所

〒350-0855 埼玉県川越市大字伊佐沼28番1

TEL 049-229-5771

発行 常陸太田市教育委員会

〒313-0055 茨城県常陸太田市西二町2200

TEL 0297-72-3201

印刷 関東図書株式会社

〒336-0021 埼玉県さいたま市南区別所3-1-10

TEL 048-862-2901